

中野市男女共同参画推進に関する市民意識調査結果

調査の目的

令和4年度に策定する「第4次中野市男女共同参画計画」の資料とするため、住民意識調査を行う。

調査概要

市が毎年実施する「市民満足度調査」に含み実施

- (1) 調査対象 2020年7月1日現在、市内在住の18歳以上の市民から2,000人を無作為に抽出
- (2) 調査方法 郵送による配布、郵送もしくはインターネットによる回収
- (3) 調査期間 令和2年7月13日～7月31日
- (4) 配布票数 2,000票
- (5) 回収票数 734票（うちインターネット82票）
- (6) 回収率 36.7%

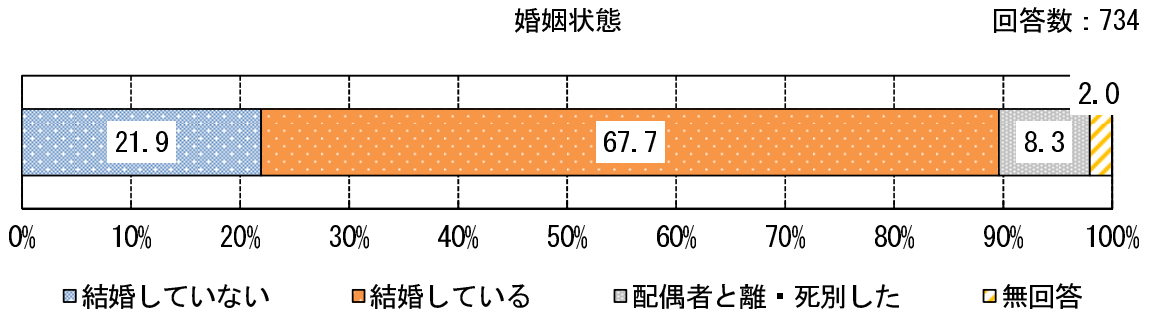
※前回、平成27年度に男女共同参画推進に関するアンケートを単独で実施
回収率 44.5%（890/2,000票）

集計について

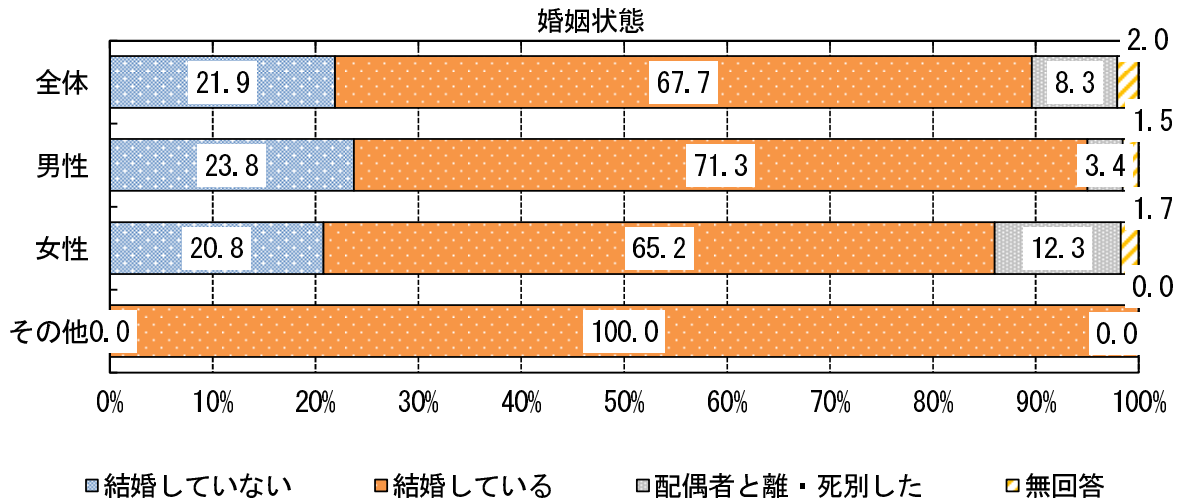
- (1) 回答率は、小数点第2位を四捨五入して、小数点第1位までを表記した。このため、合計が100にならない場合がある。また、同様の理由で回答率の合計値に誤差が出る場合がある。
- (2) 複数回答の設問における回答率は「回答者数」に対する「それぞれの回答数」の割合で示す。
- (3) 単位は、回答数が「件」、回答率が「%」である。
- (4) クロス集計は、主要な単回答設問について実施した。なお、それぞれの設問の「無回答」は集計していない。したがって、回答者数はクロス集計ごとに異なる。
- (5) 記述式回答は「主な内容」「記述内容（一覧）」を記載した。記述内容のカッコ書きは、回答者の属性（性別／年齢／職業／地区）であり、その属性順に並んでいる。また、記述内容は回答の通りの記載を原則とし、不明瞭な文字については●にて代用している。
- (6) 過去のデータは過去データを使用しているため、一部、回答率の合計に誤差がある場合がある。

男女共同参画推進に関する市民意識調査

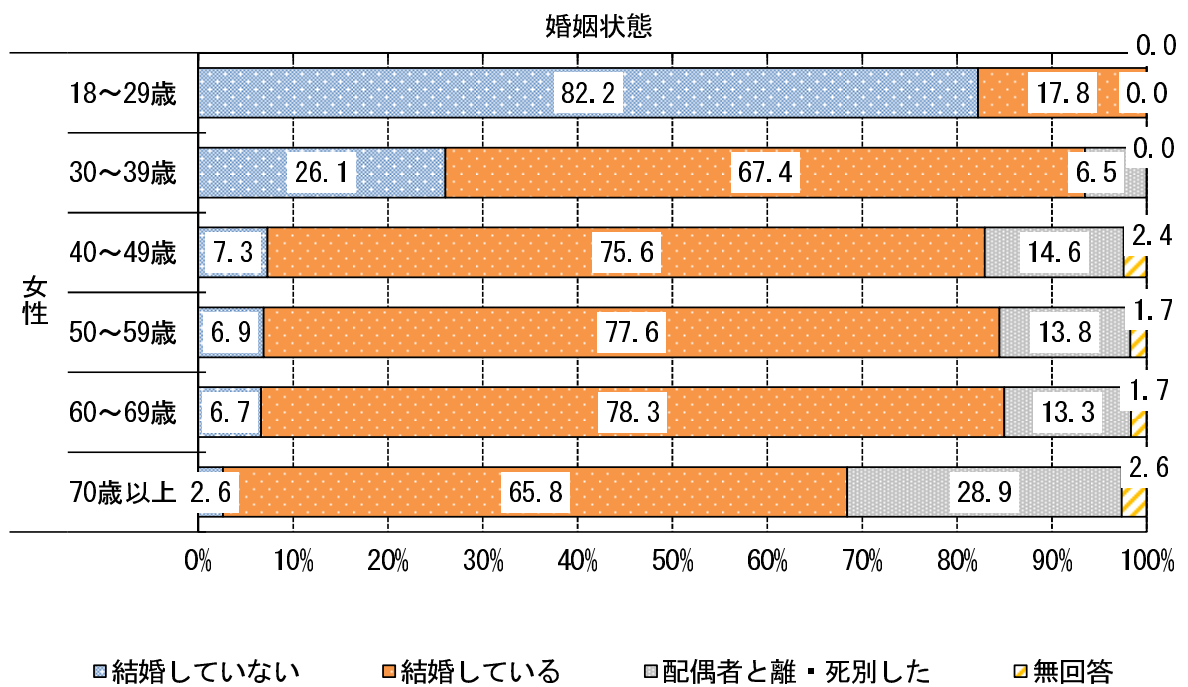
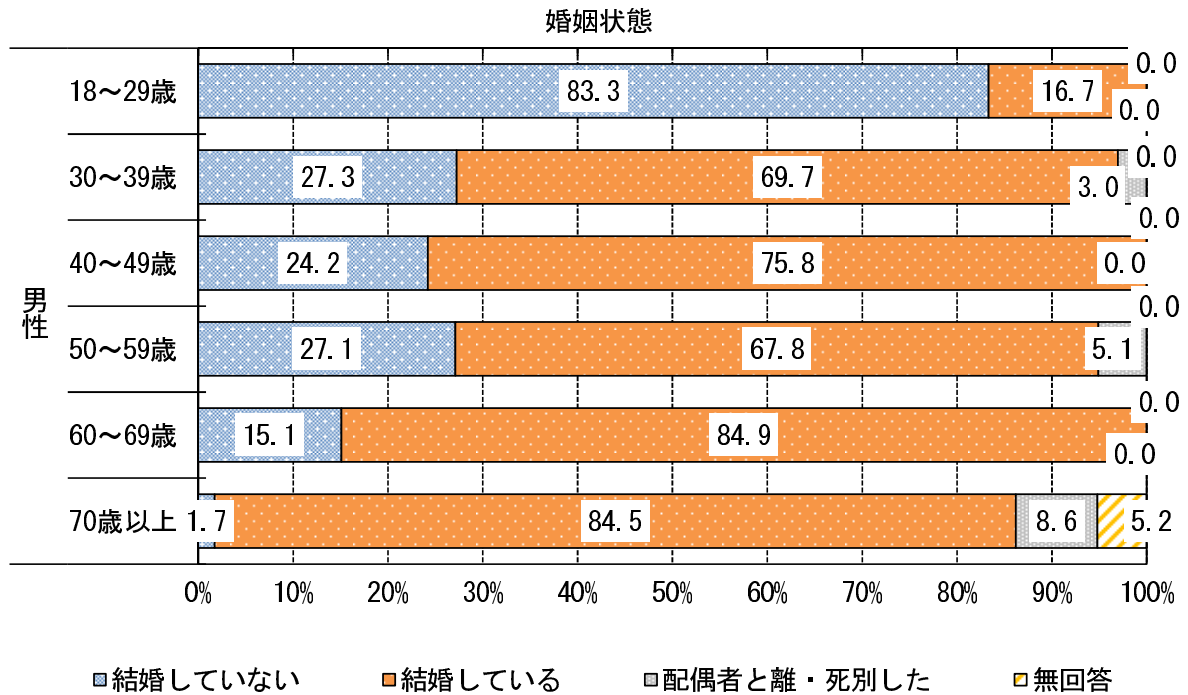
問1 あなたは、次のうちどれにあてはまりますか。(1つだけ選び、○をしてください)



「結婚していない」は21.9%、「結婚している」は67.7%、「配偶者と離・死別した」は8.3%となる。



性別では、「結婚している」が男性は71.3%、女性は65.2%となっている。これは、女性のほうが、平均寿命が長く、配偶者と死別した人が男性より多いためと考えられる。

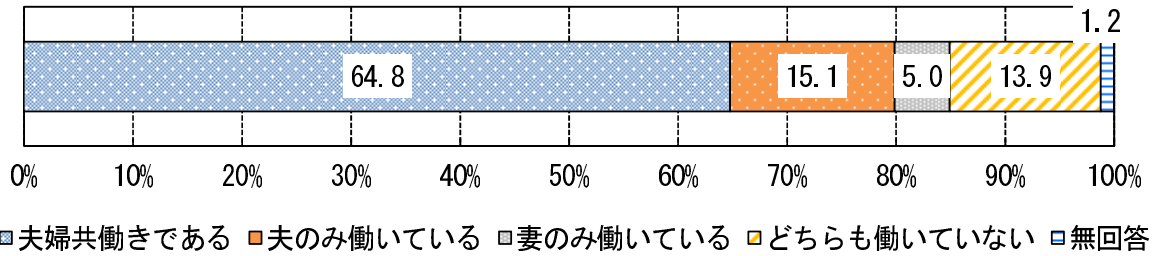


性別、年齢別では、30歳以上で「結婚している」の割合が高くなる。また、女性の40歳以上は「配偶者と離・死別した」の割合が高くなり、女性の70歳以上では28.9%となる。70歳以上は主に、死別と考えられる。

問2 問1で、2を選んだ方に伺います。ご夫婦ともに働いていますか。(1つだけ選び、○をしてください)

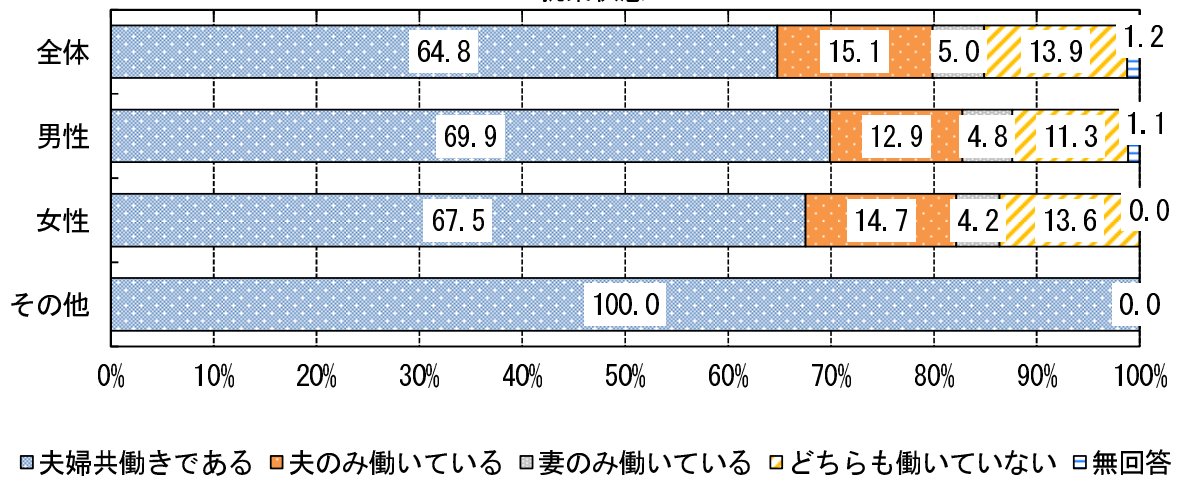
就業状態

回答数：497

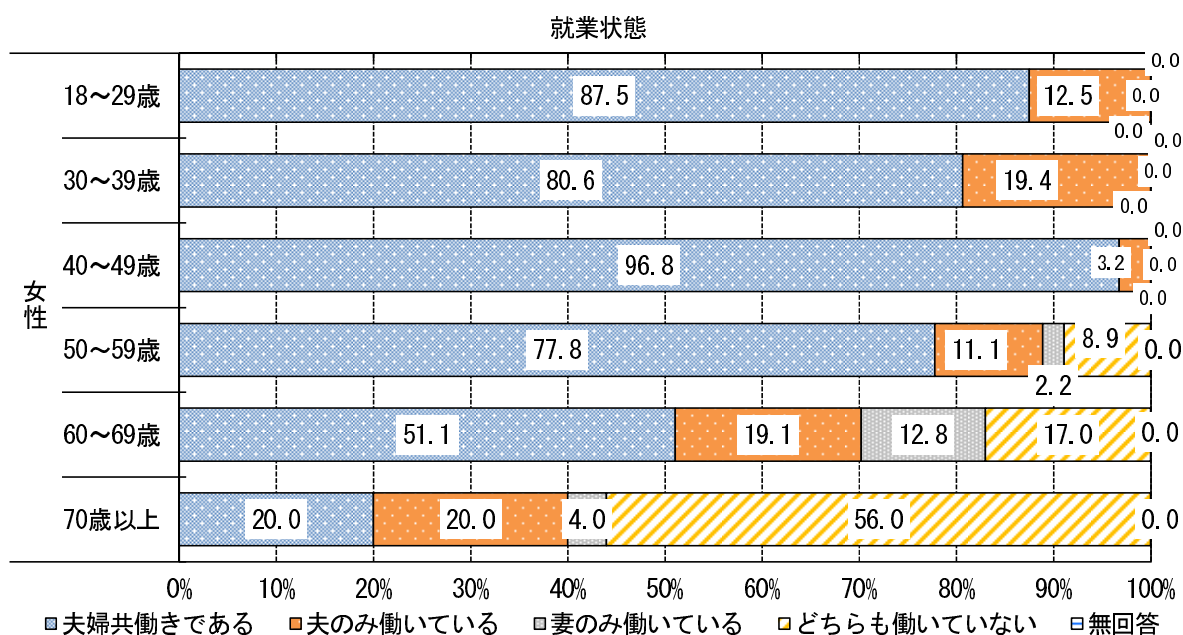
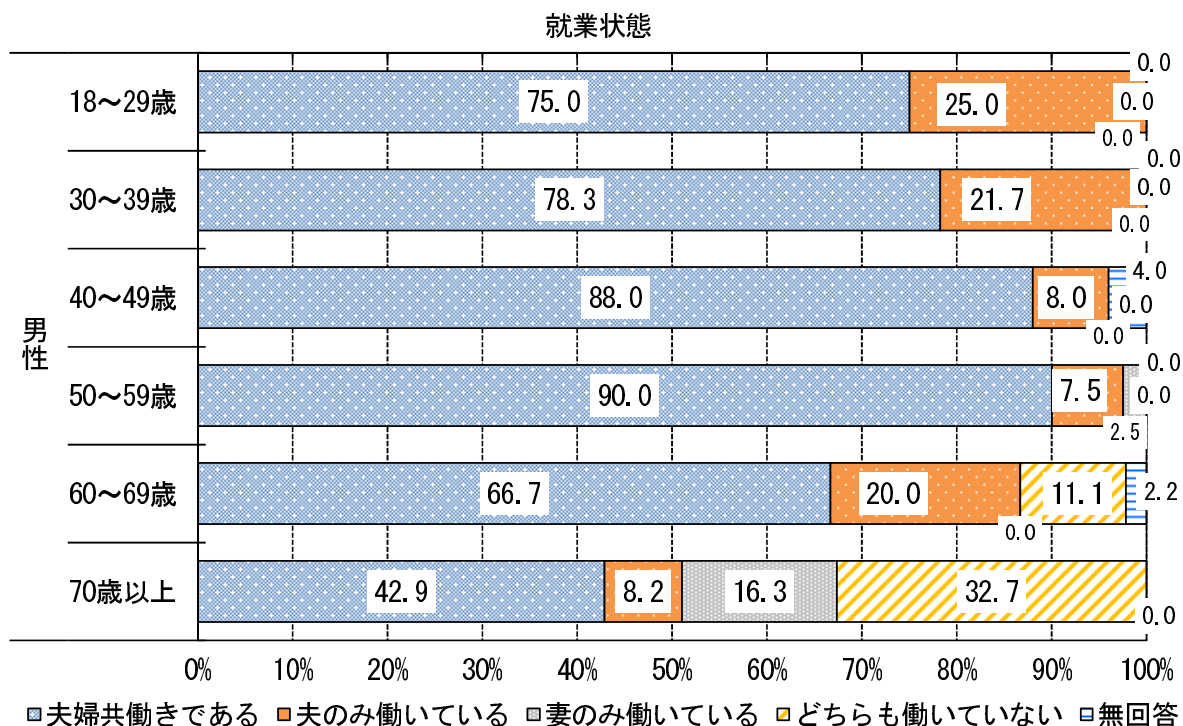


「夫婦共働きである」が64.8%、「夫のみ働いている」が15.1%、「妻のみ働いている」が5.0%となる。

就業状態



性別では、「夫婦共働きである」が、男性は69.9%、女性は67.5%と同程度となる。

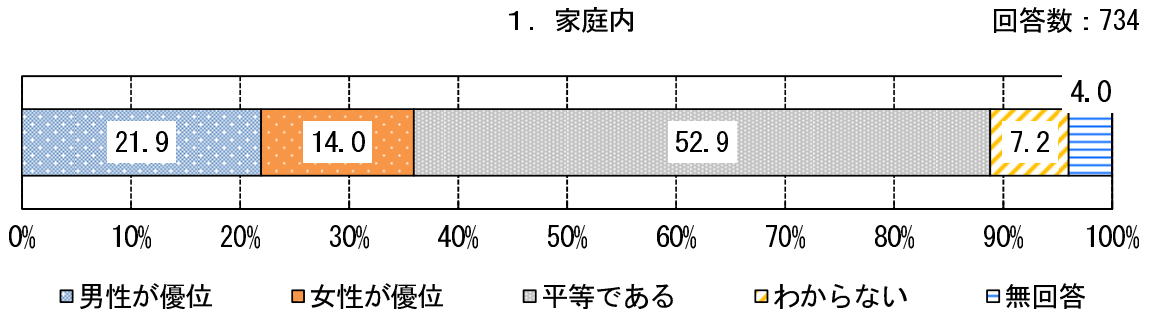


性別、年齢別では、男性の18~59歳では「夫婦共働き」が高くなる傾向があり、勤労者層では共働きが一般的であると考えられる。女性の30~39歳の「夫のみ働いている」が19.4%と他の年齢に比べて高いが、これは出産や子育てが原因であると考えられる。40~49歳では「夫婦共働きである」が96.8%と高くなり、子育てが一段落した後、仕事を再開しているためと考えられる。

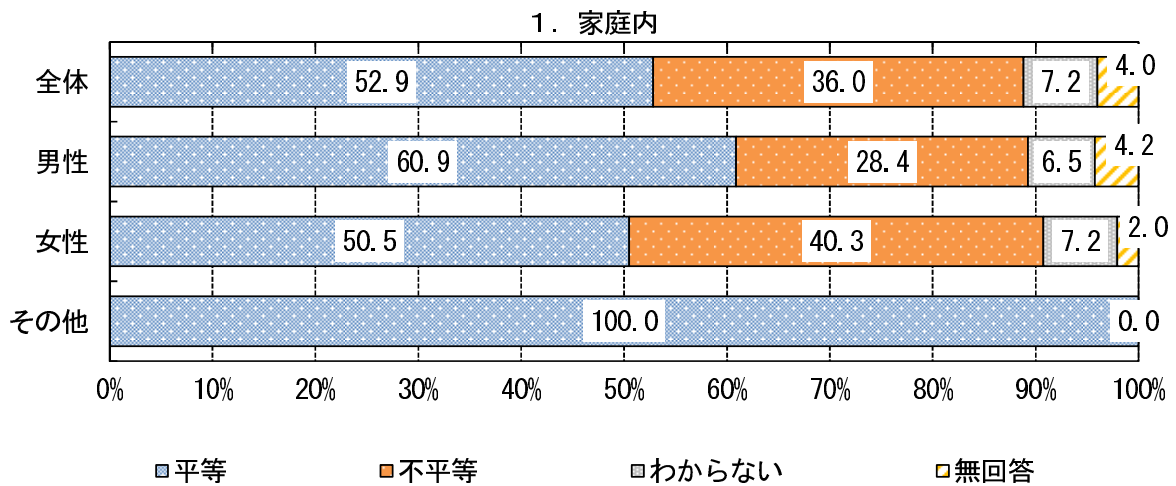
男女の平等感について

問3 次のような面で男女の地位が平等になっていると思いますか。(各項目、1つだけ選び、○をしてください)

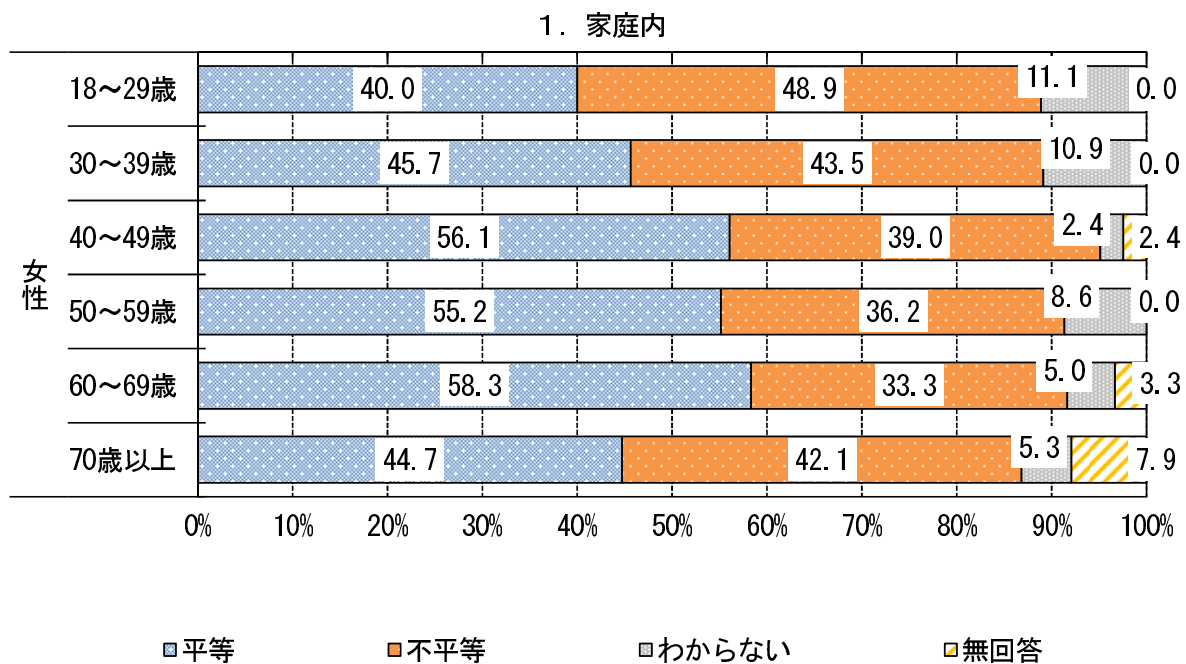
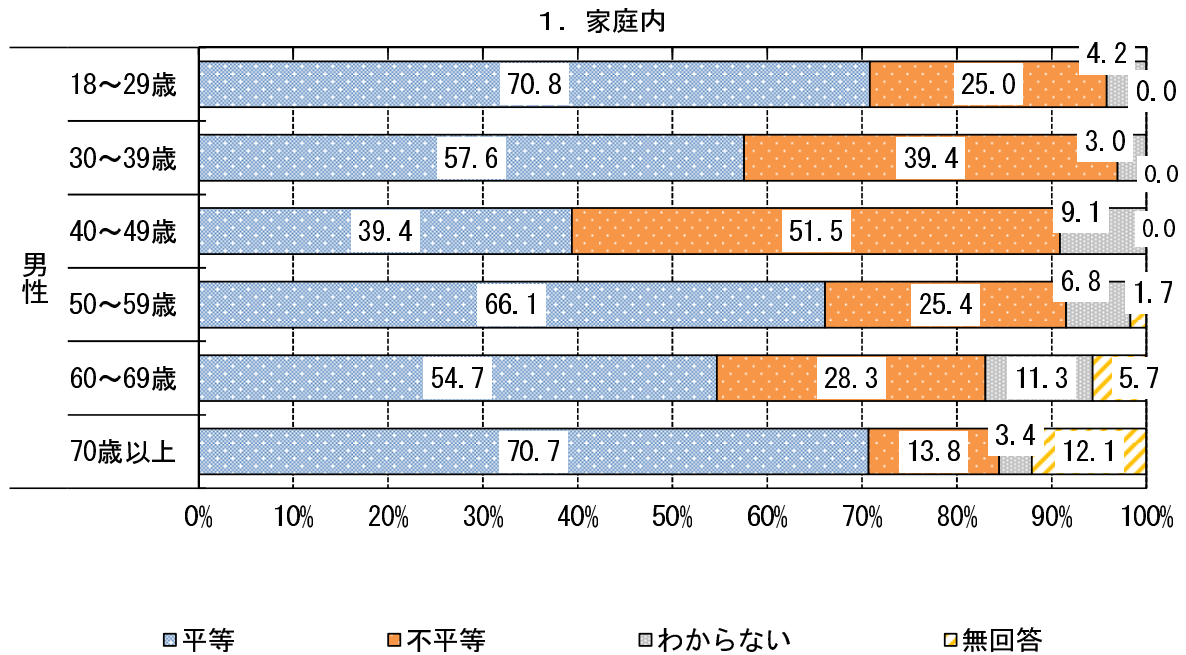
問3のクロス集計における「不平等」は「男性が優位」と「女性が優位」の合計値である。



「男性が優位」が21.9%、「女性が優位」が14.0%、「平等である」が52.9%となり、家庭内では約半数が平等とされているが、男性優位が高い。



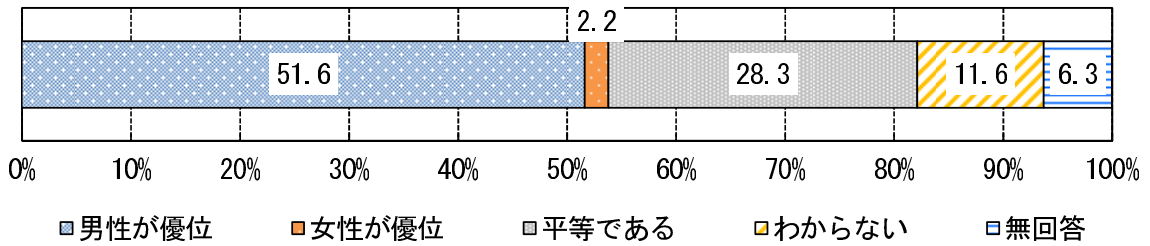
性別では、「不平等」が、男性は28.4%、女性が40.3%となる。家庭では、女性のほうが男性より不平等と思う割合が高い。



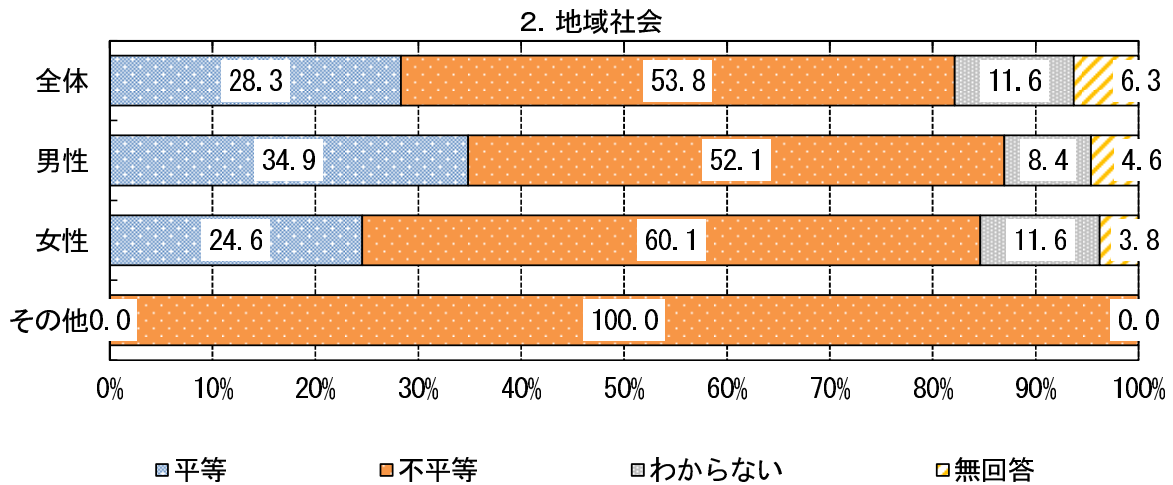
性別、年齢別では、40～49歳を除いた年齢で、女性が「不平等」と思う割合が高くなっている。特に18～29歳、70歳以上では男性の不平等と思う割合と女性の不平等と感じる割合の差が20%を超えて大きく、性別による意識の差が大きいと考えられる。

2. 地域社会

回答数：734

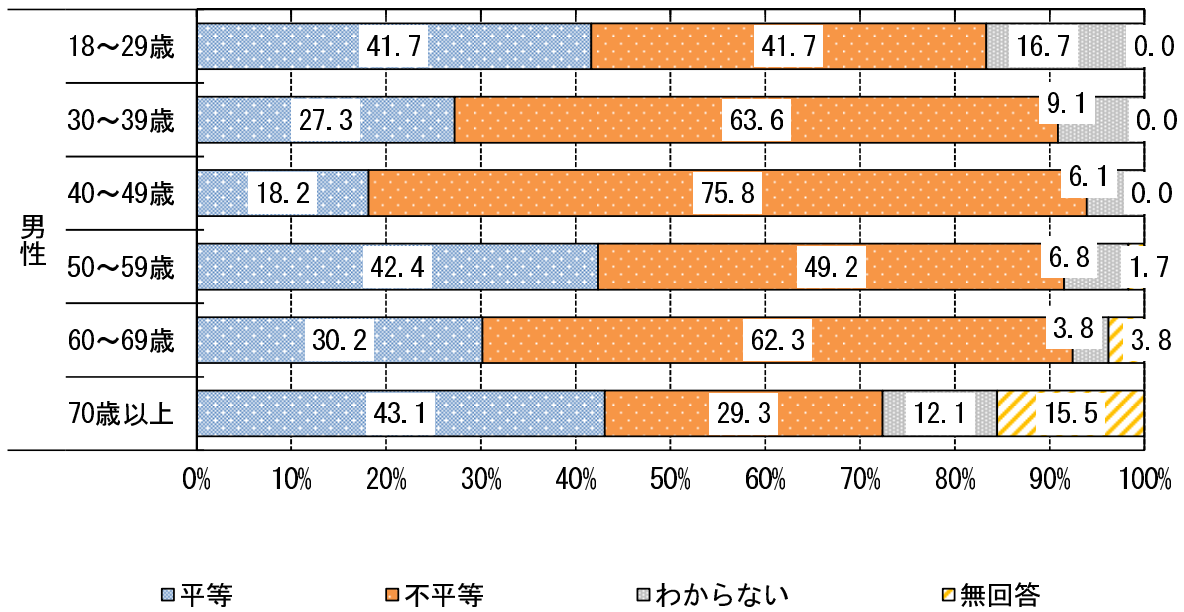


「男性が優位」が51.6%、「女性が優位」が2.2%、「平等である」が28.3%となる。地域社会においては男性が優位と思う割合が半数を超える。

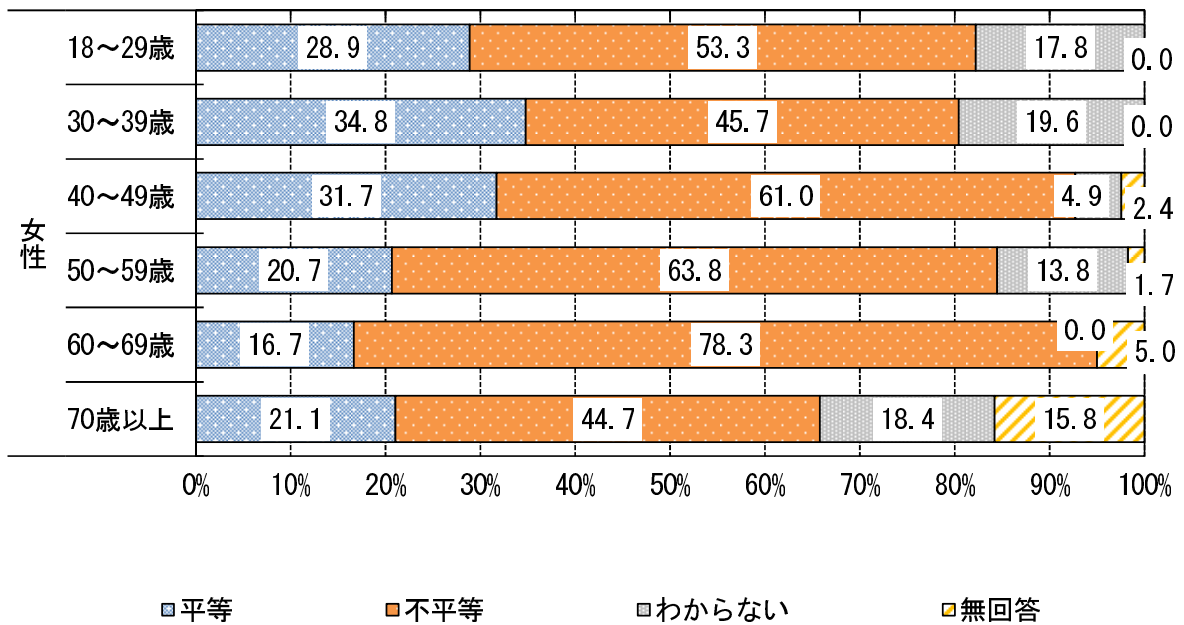


性別では、「不平等」が、男性は52.1%、女性が60.1%となる。地域社会では、男女ともに不平等と思う割合が半数を超え、女性のほうが男性より不平等と思う割合が高い。

2. 地域社会



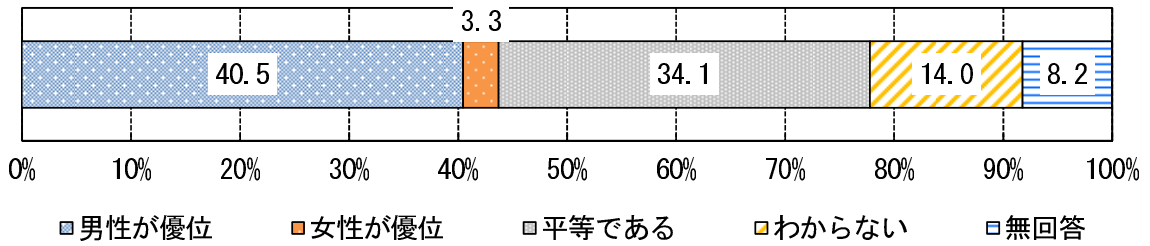
2. 地域社会



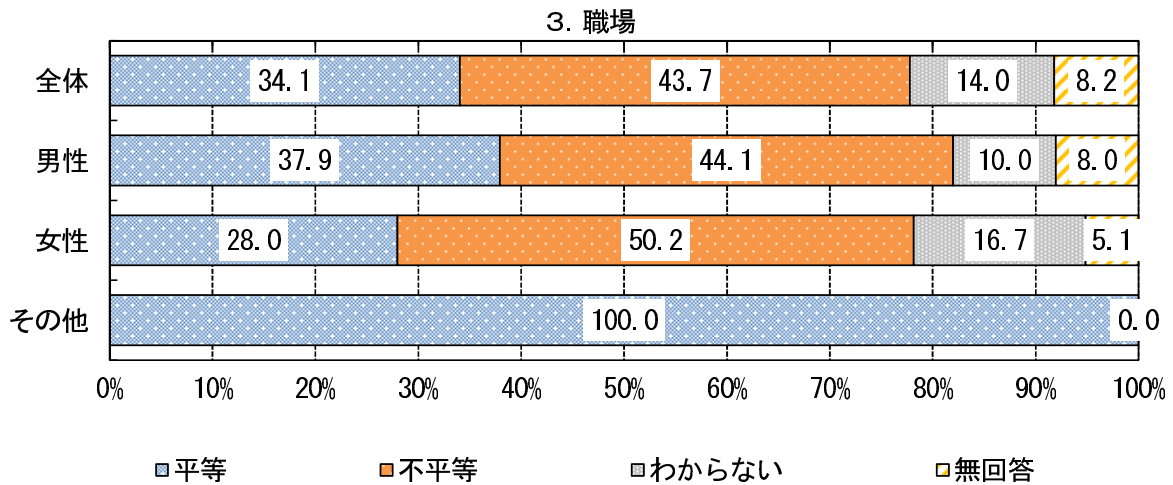
性別、年齢別では、「不平等」が、男性は40～49歳が75.8%と最も高く、女性は60～69歳が78.3%と最も高い。男性は地域社会活動が増える年齢で不平等と思う機会が多くなり、女性は、配偶者が退職した年齢で不平等と思う機会が増加すると考えられる。

3. 職場

回答数：734

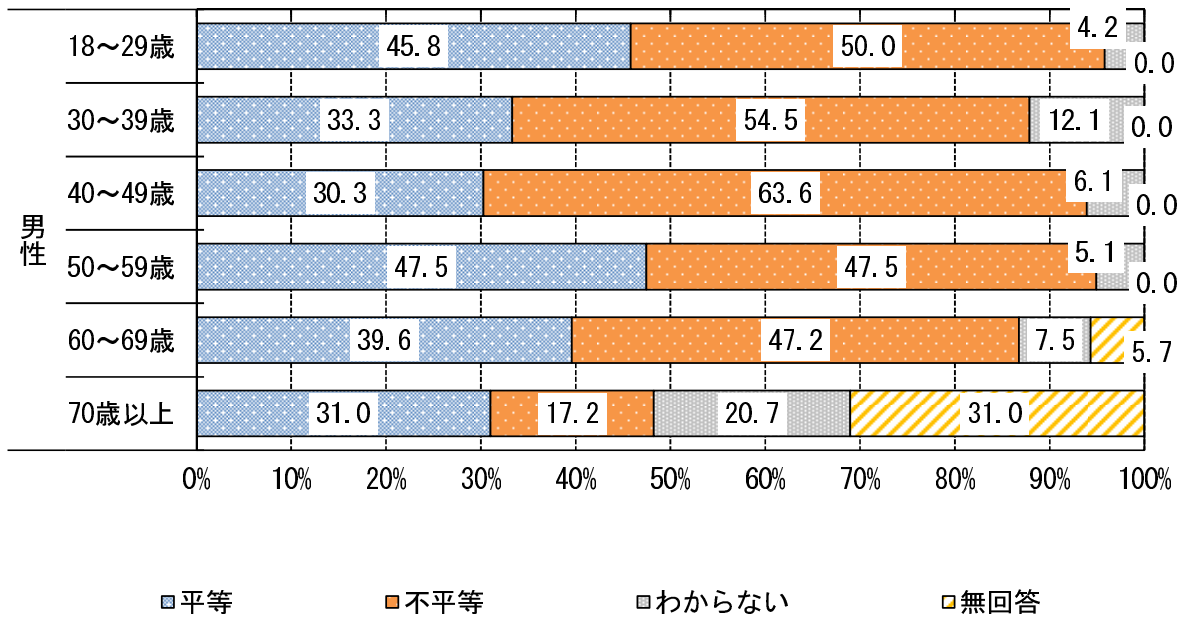


「男性が優位」が40.5%、「女性が優位」が3.3%、「平等である」が34.1%となる。職場においては、男性優位と思う割合が高く、平等と思う割合はその割合より低い。

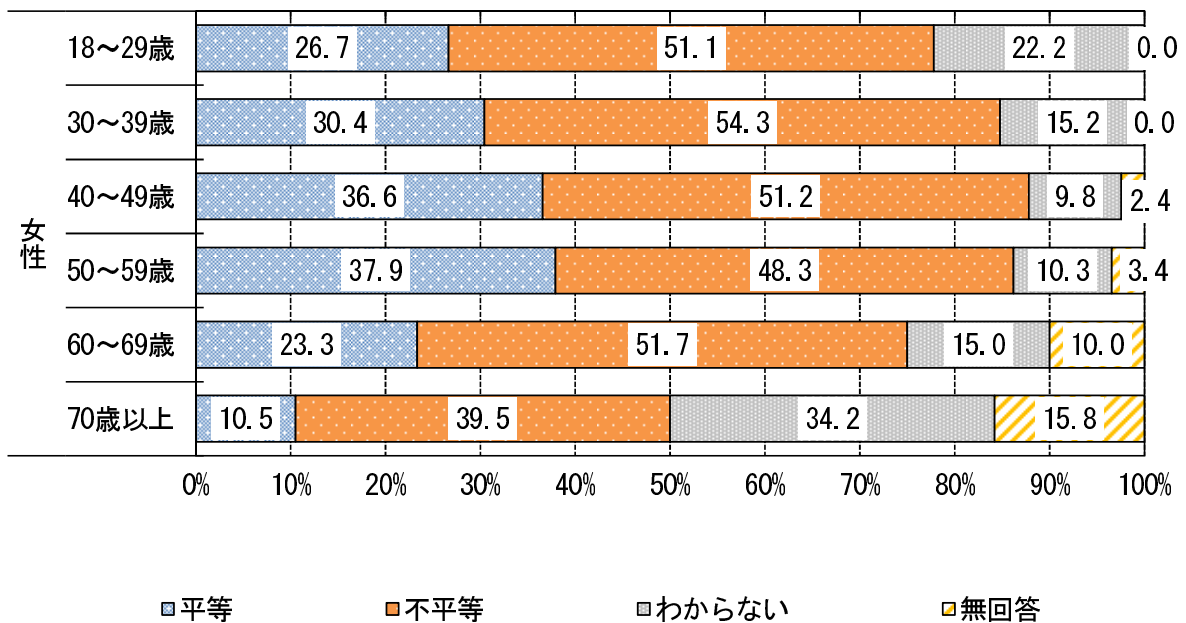


性別では、「不平等」が、男性は44.1%、女性が50.2%となる。職場では、男女ともに不平等と思う割合が40%を超え、女性のほうが男性より不平等と思う割合が高い。

3. 職場



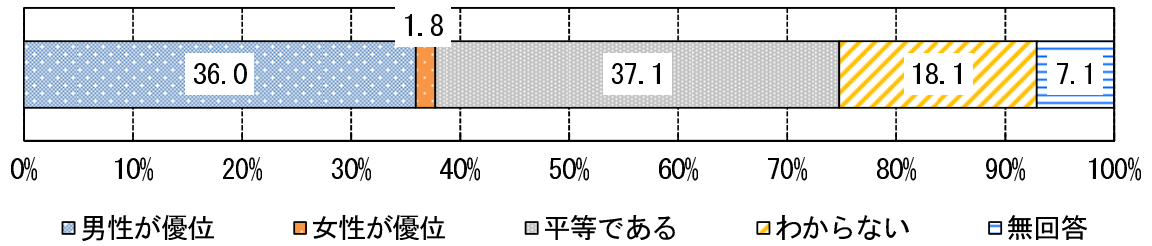
3. 職場



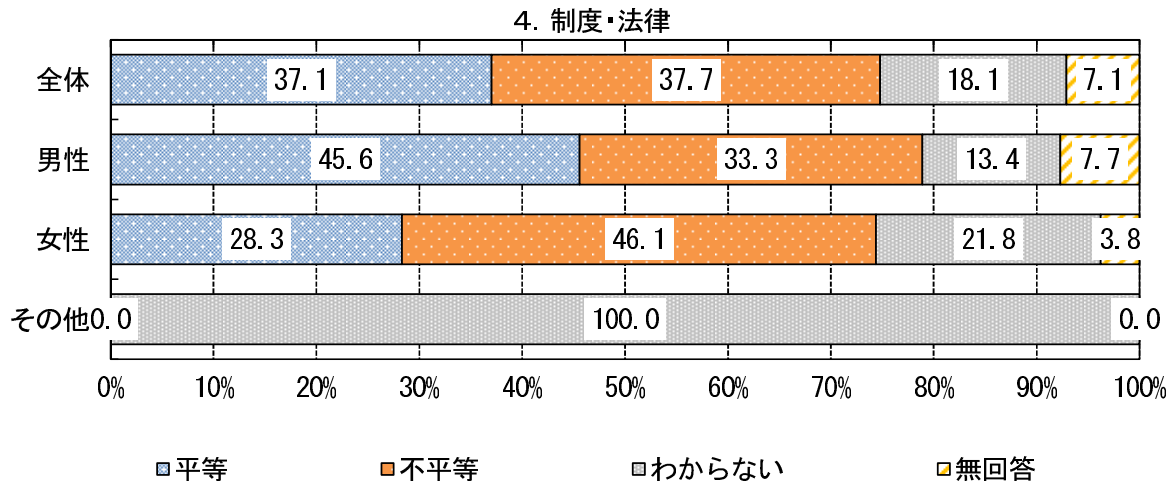
性別、年齢別では、「不平等」が、男性は40~49歳が63.6%と最も高く、女性は30~39歳が54.3%と最も高い。男性は管理職に就くころ、職場の制度等で不平等と思う機会が多くなり、女性は、出産、子育ての時期に不平等と思う機会が増加すると考えられる。

4. 制度・法律

回答数：734

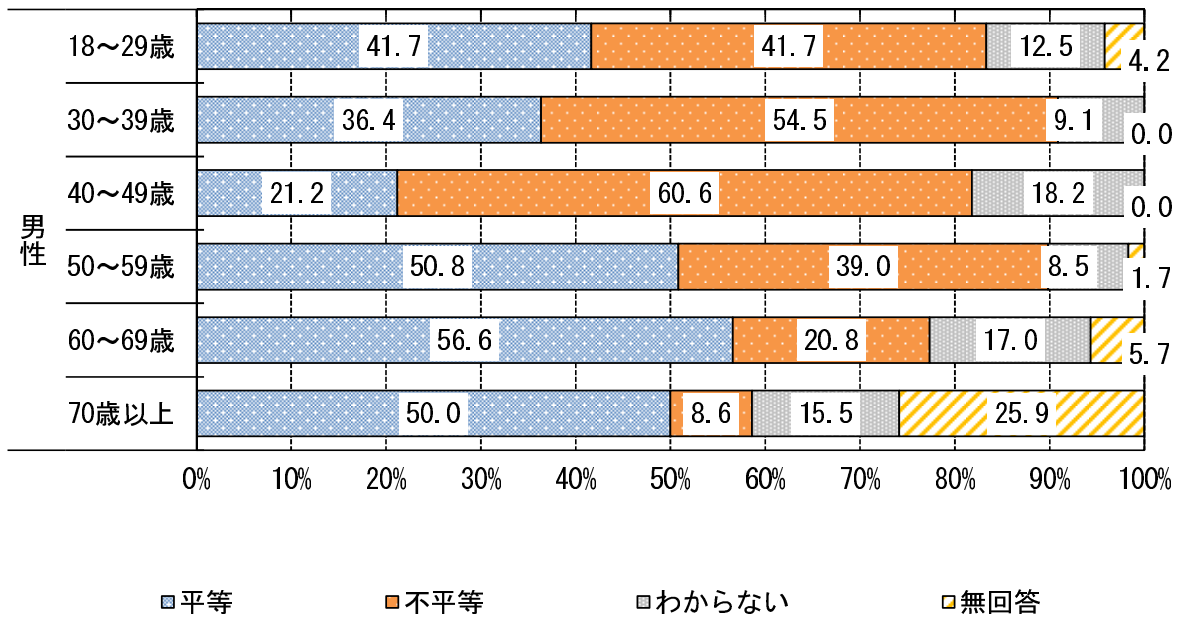


「男性が優位」が36.0%、「女性が優位」が1.8%、「平等である」が37.1%、「わからない」が18.1%となる。他の項目に比べて「わからない」の割合が高いが、これは、制度や法律に対する認知度が原因であると考えられる。制度・法律においては、男性優位と思う割合が高い。

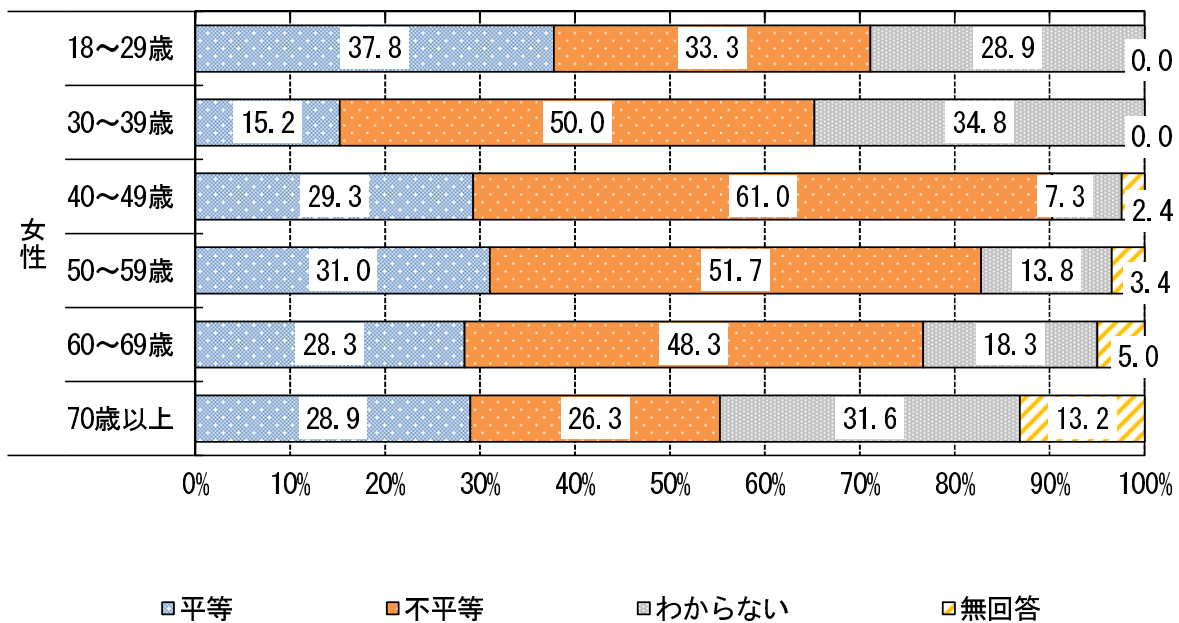


性別では、「不平等」が、男性は33.3%、女性が46.1%となる。制度・法律では、女性の半数近くが不平等と思っている。

4. 制度・法律



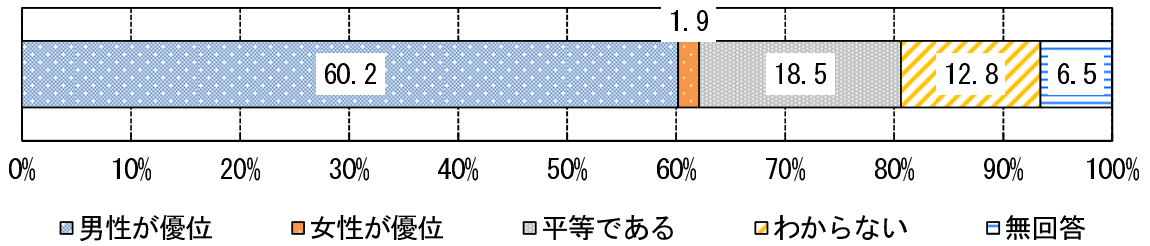
4. 制度・法律



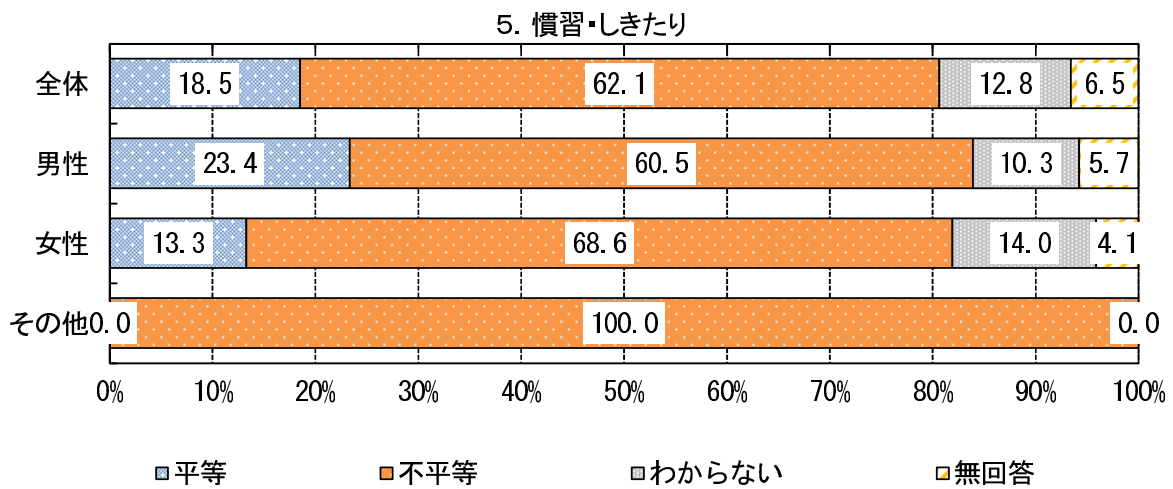
性別、年齢別では、「不平等」が、男性は40~49歳が60.6%と最も高く、女性は40~49歳が61.0%と最も高い。男女ともに同年齢の時に不平等と思う割合が高く、法律や制度に触れる際に不平等と思う機会があると考えられる。

5. 慣習・しきたり

回答数：734

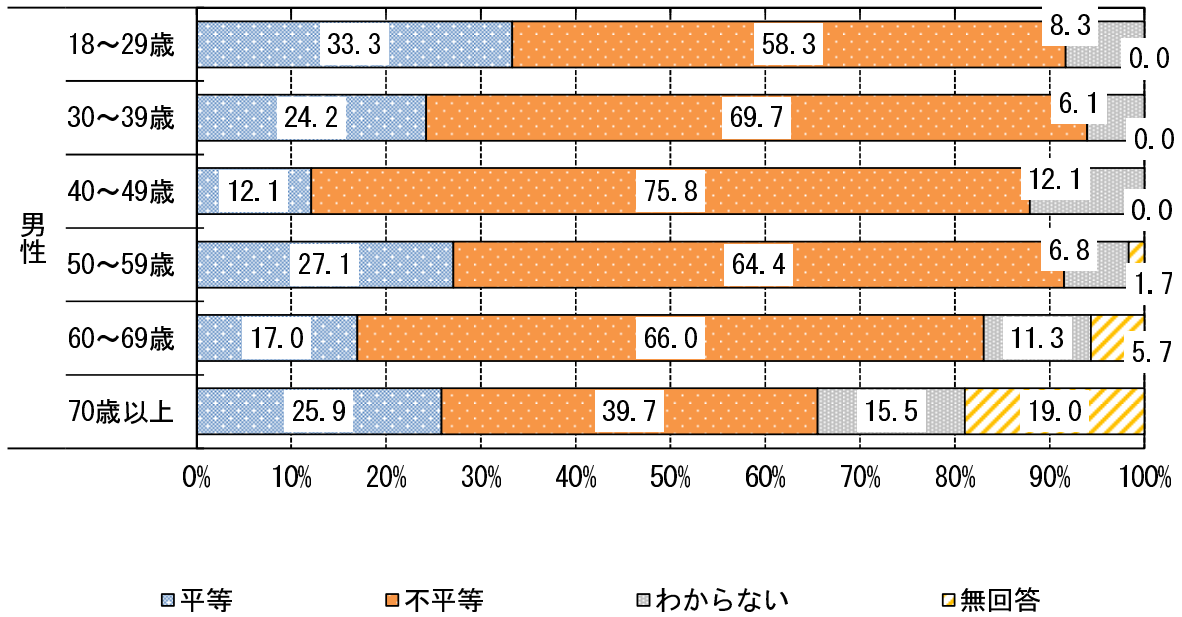


「男性が優位」が60.2%、「女性が優位」が1.9%、「平等である」が18.5%、「わからない」が12.8%となる。他の項目に比べて「男性優位」の割合が高く、慣習やしきたりは男性が優位な機会が多いことが分かる。

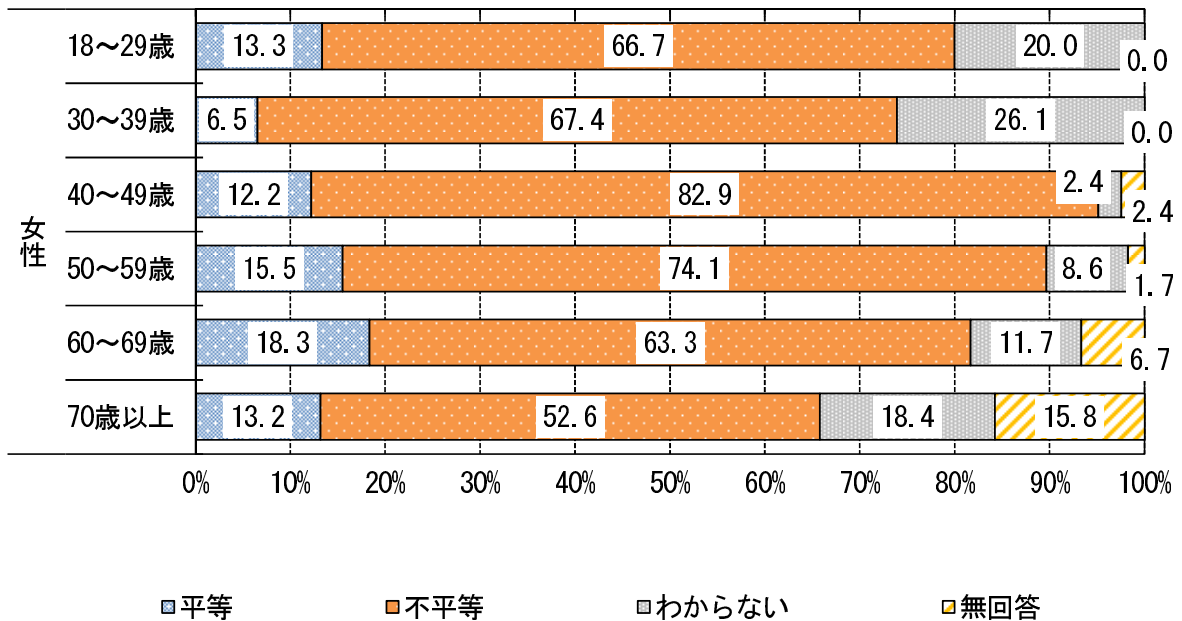


性別では、「不平等」が、男性は60.5%、女性が68.6%となる。慣習やしきたりでは、男女ともに不平等と思う割合が60%を超え、女性のほうが男性より不平等と思う割合が高い。

5. 慣習・しきたり



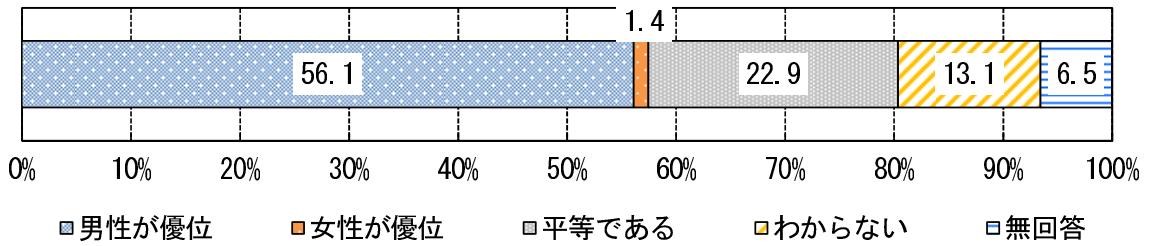
5. 慣習・しきたり



性別、年齢別では、「不平等」が、男性は40~49歳が75.8%と最も高く、女性は40~49歳が82.9%と最も高い。男女ともに70歳以上を除き、「不平等」が60~80%程度と高くなっている。この年代では、不平等と感じる機会が多いと考えられる。また、70歳以上では、男女の「不平等」と思う割合の差が大きく、認識に差がある。

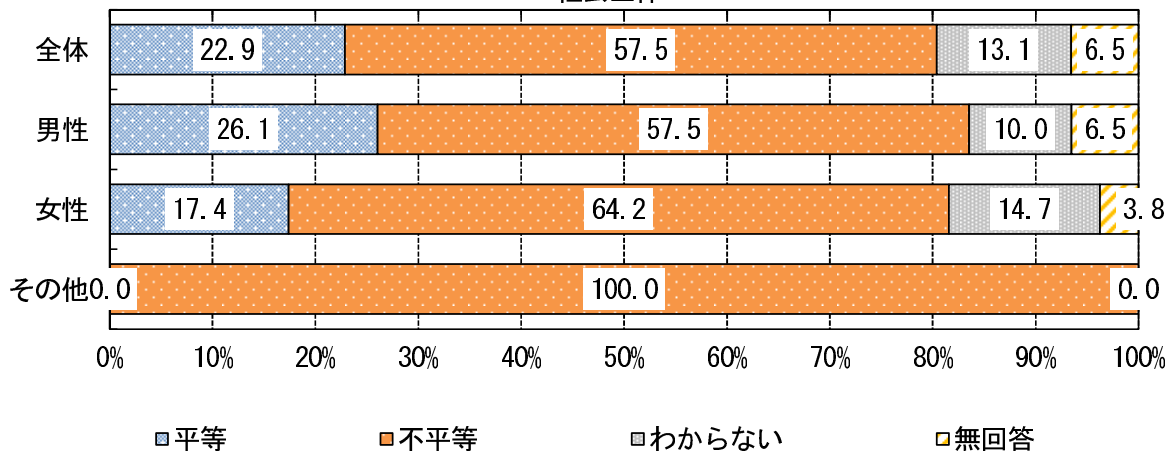
6. 社会全体

回答数：734

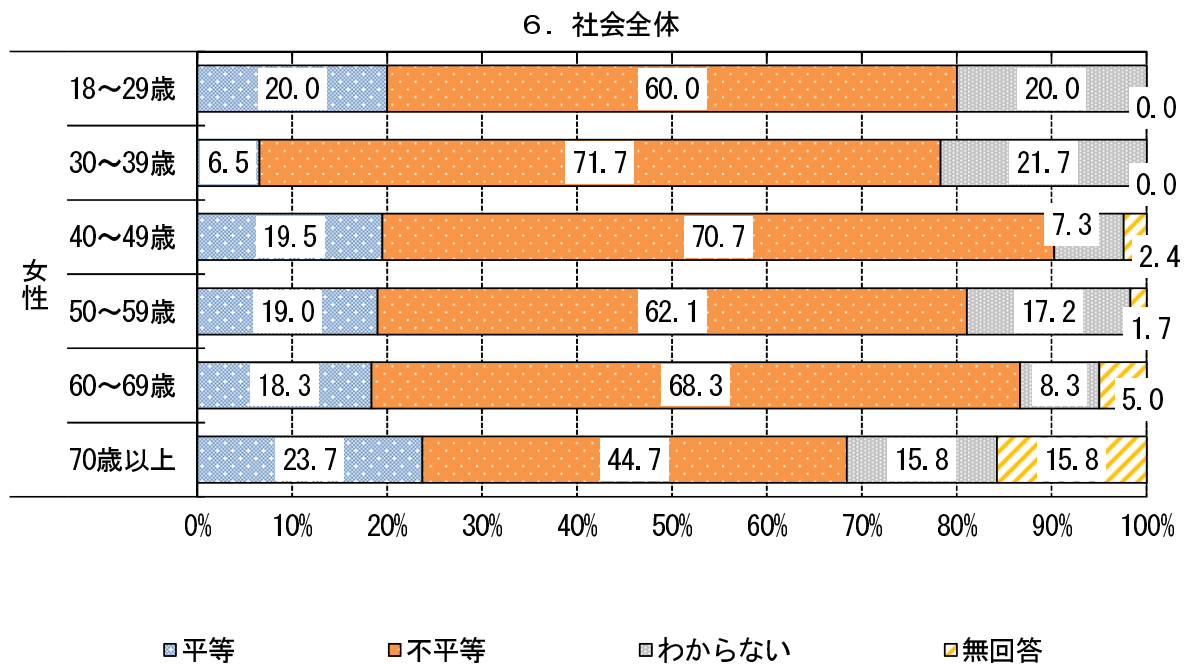
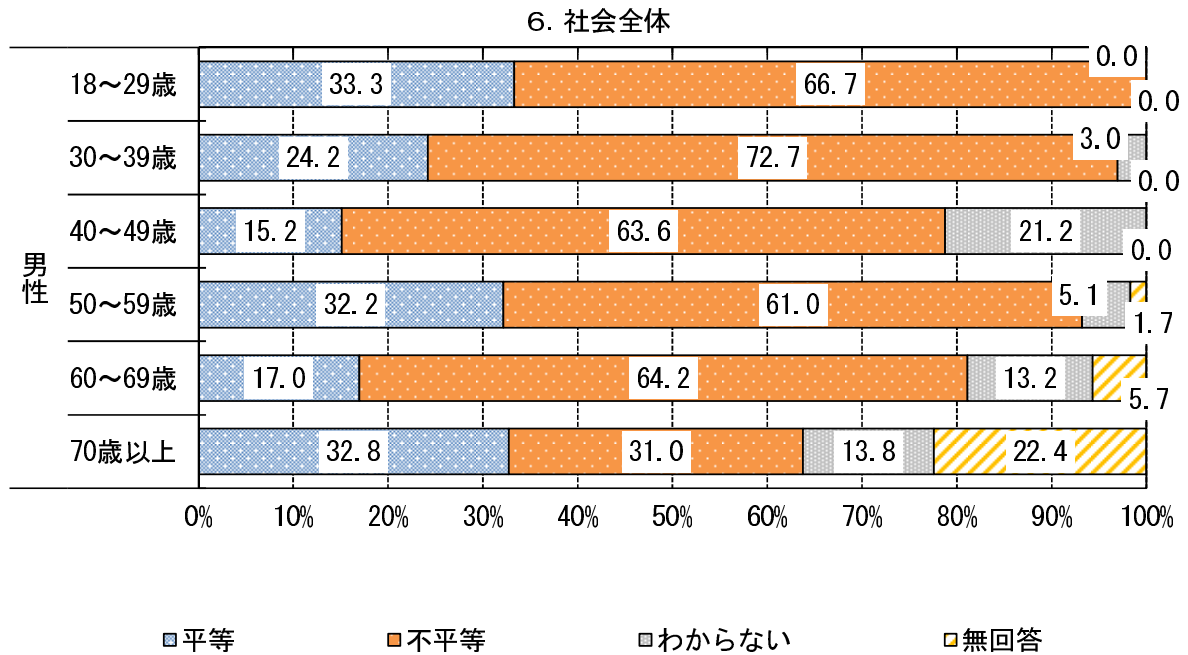


「男性が優位」が56.1%、「女性が優位」が1.4%、「平等である」が22.9%となる。社会全体では、男性優位と思う割合が高く、半数を超える。

6. 社会全体



性別では、「不平等」が、男性は57.5%、女性が64.2%となる。社会全体では、男女ともに不平等と思う割合が50%を超え、女性のほうが男性より不平等と思う割合が高い。

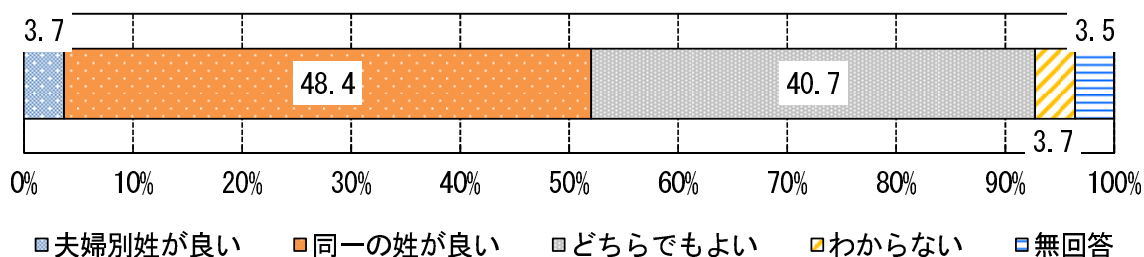


性別、年齢別では、「不平等」が、男性は30～39歳が72.7%と最も高く、女性は30～39歳が71.7%と最も高い。男性の70歳以上では「平等」が32.8%、「不平等」が31.0%となり、平等と思う割合のほうが高いが、女性の70歳以上では「平等」が23.7%、「不平等」が44.7%となり不平等と思う割合のほうが高いため、認識に差がある。

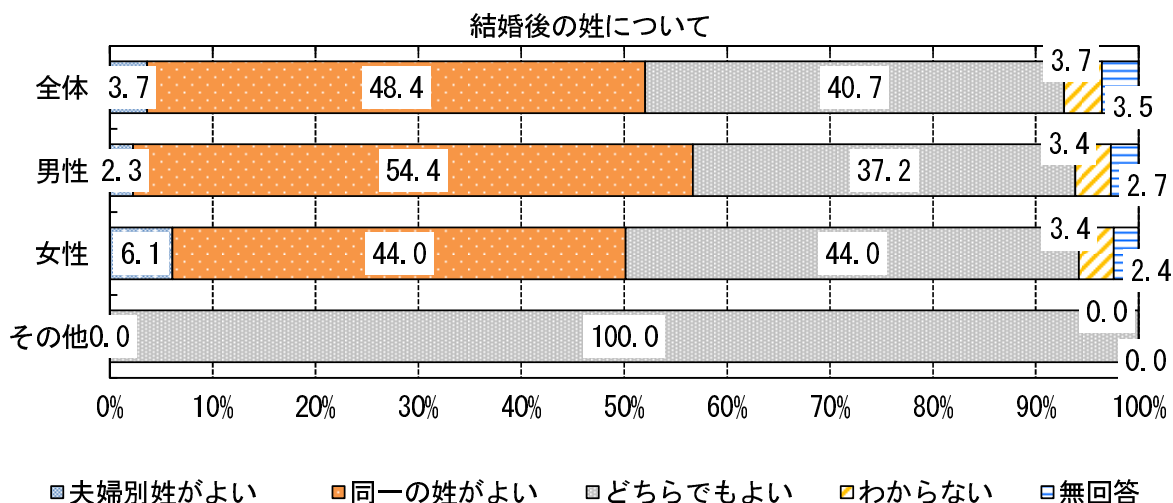
問4 結婚後の姓についてどう思いますか。(1つだけ選び、○をしてください)

結婚後の姓について

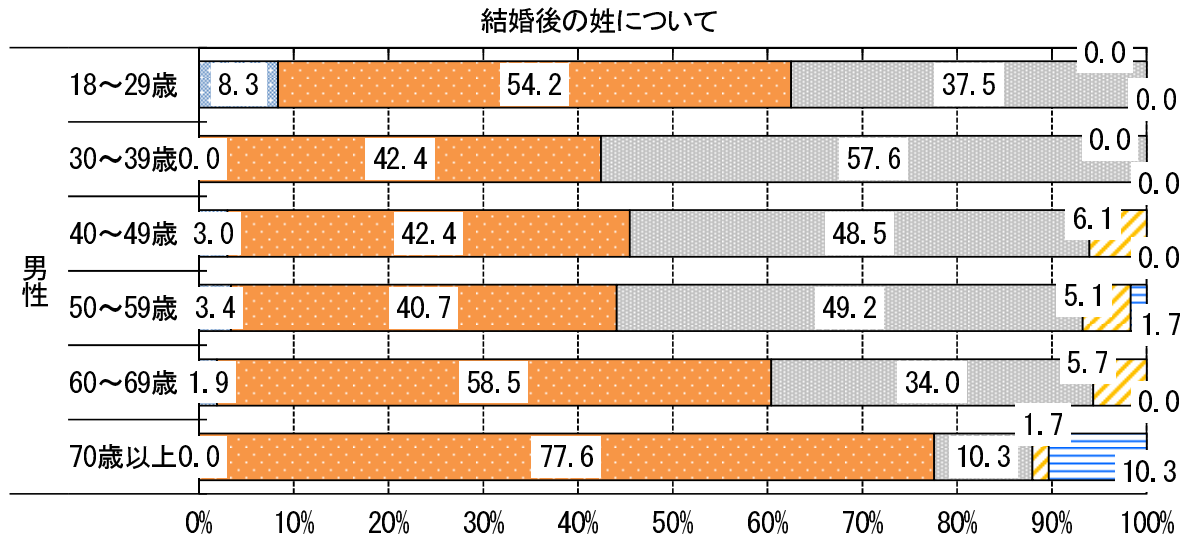
回答数：734



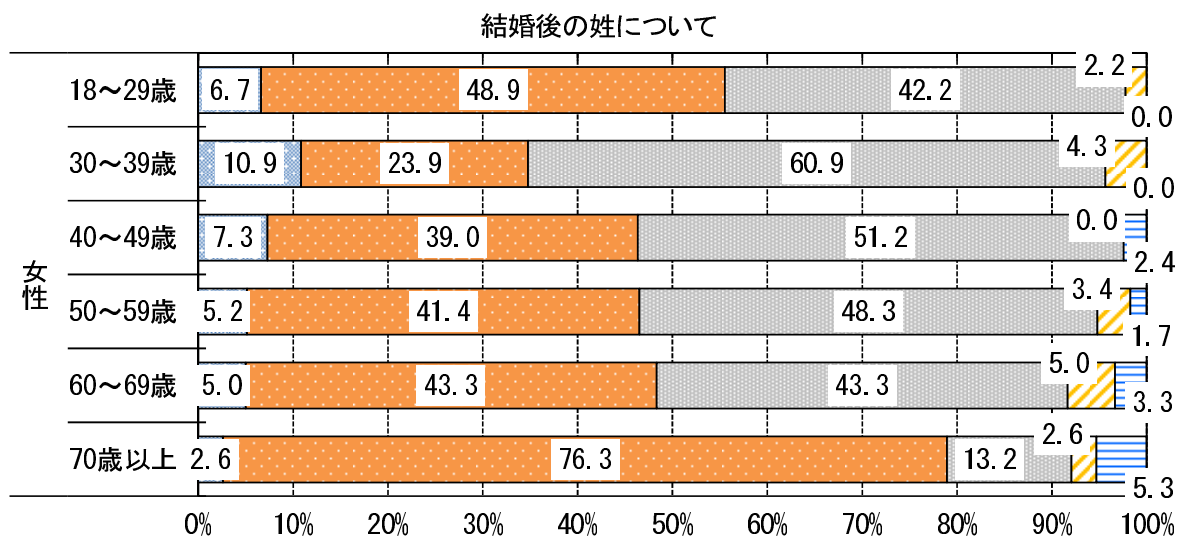
「夫婦別姓が良い」が3.7%、「同一の姓が良い」が48.4%、「どちらでもよい」が40.7%となる。別姓が良いと思う割合は低く、同一の姓が良いと思う割合が半数程度となる。また、別姓、同一の姓のどちらでもよいと思う割合は40%となり、同一の姓が良いと思う割合に次ぐ。



性別では、「夫婦別姓が良い」は、男性が2.3%、女性が6.1%となり、女性のほうが高い。「同一の姓が良い」は、男性が54.4%、女性が44.0%と男性のほうが高い。「どちらでもよい」は、男性が37.2%、女性が44.0%と女性のほうが高い。これは、結婚後、女性が姓を変える機会が多いことが原因であると考えられる。



■ 夫婦別姓がよい
 ■ 同一の姓がよい
 ■ どちらでもよい
 ■ わからない
 ■ 無回答



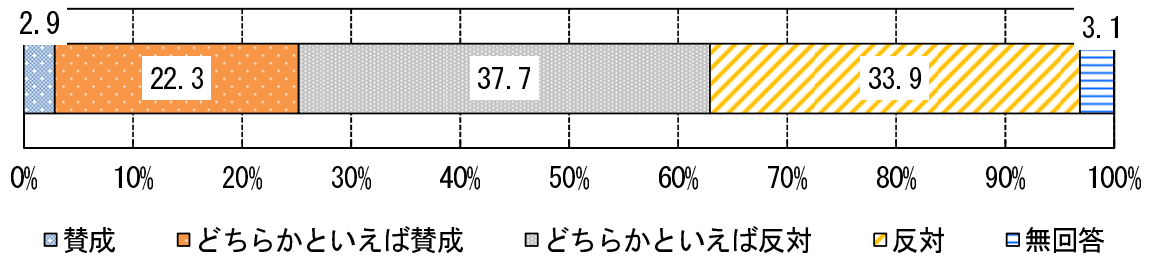
■ 夫婦別姓がよい
 ■ 同一の姓がよい
 ■ どちらでもよい
 ■ わからない
 ■ 無回答

性別、年齢別では、「夫婦別姓が良い」が男性は18～29歳で8.3%、女性は30～39歳で10.9%と高い。男性は、18～29歳以外では割合が低い。女性は、結婚後と考えられる年齢で割合が高く、実際に姓を変えた上で別姓が良いと思う人がいると考えられる。「同一の姓が良い」は男女ともに、18～29歳、70歳以上で割合が高い。

問5 「男は仕事、女は家庭」という性別によって役割を固定する考え方についてどう思いますか。(1つだけ選び、○をしてください)

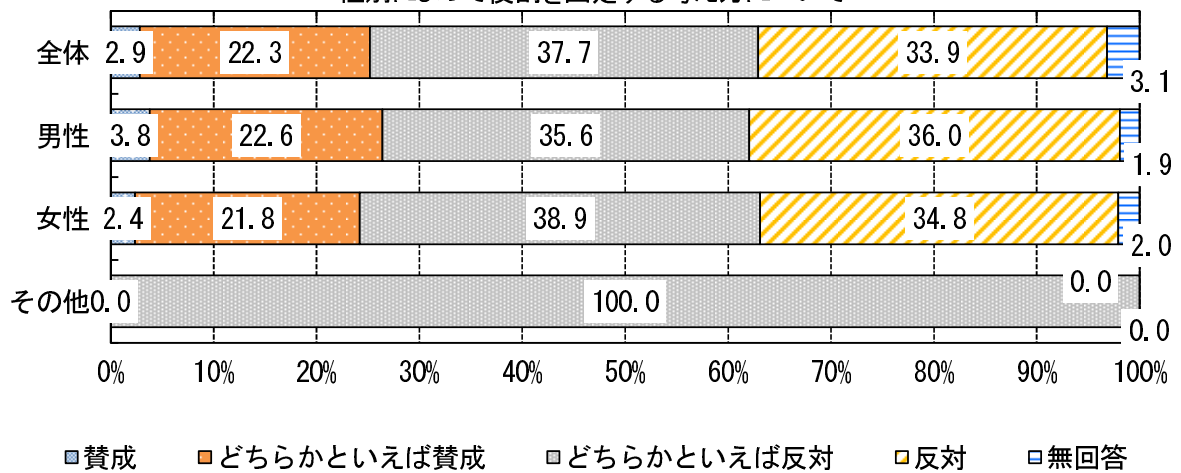
性別によって役割を固定する考え方について

回答数：734



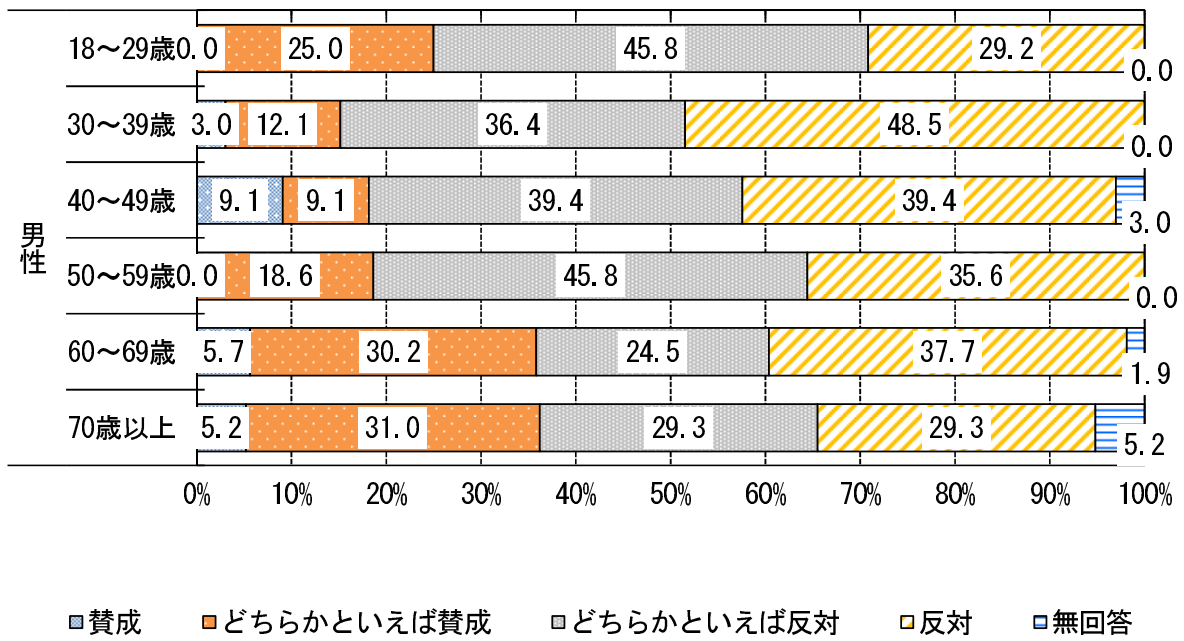
「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせると、25.2%となり、「どちらかといえば反対」「反対」を合わせると、71.6%となり、性別によって役割を固定する考え方に反対と思う割合が高い。

性別によって役割を固定する考え方について

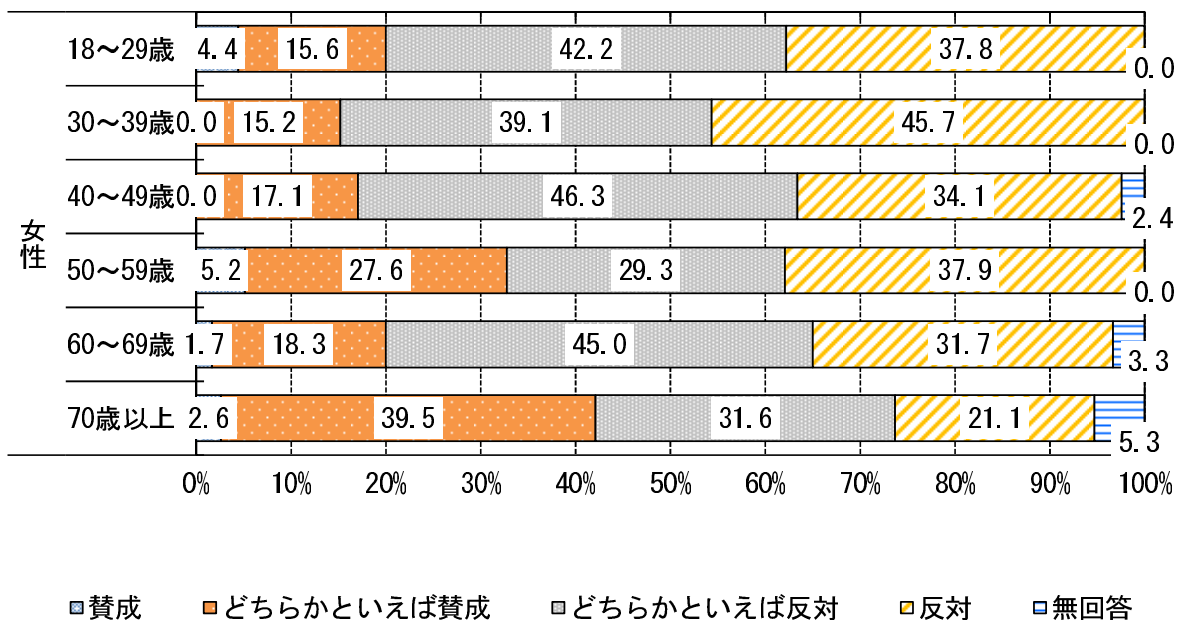


性別では、男女ともに「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせると、25%程度であり、「どちらかといえば反対」「反対」を合わせると、70%を超える。性別に関係なく、性別によって役割を固定する考え方に反対と思う割合が高い。

性別によって役割を固定する考え方について



性別によって役割を固定する考え方について

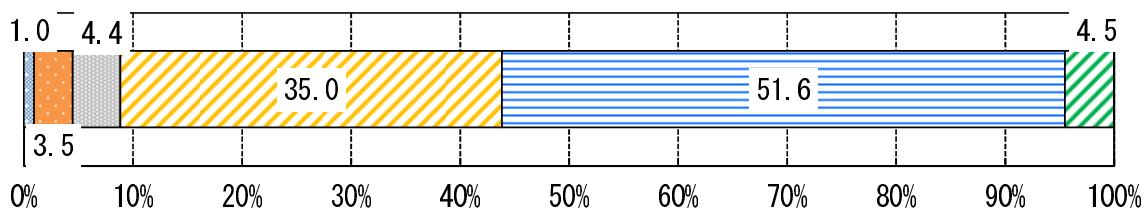


性別、年齢別では、「どちらかといえば反対」「反対」を合わせると、男性の30～59歳で80%程度となり、女性は18～49歳で80%となり、勤労者層では反対と思う割合が高くなっている。一方、男性の60歳以上、女性の70歳以上では、「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせると、40%程度となり、他の年齢と認識に差がある。

問6 女性が職業を持つことについてどう思いますか。(1つだけ選び、○をしてください)

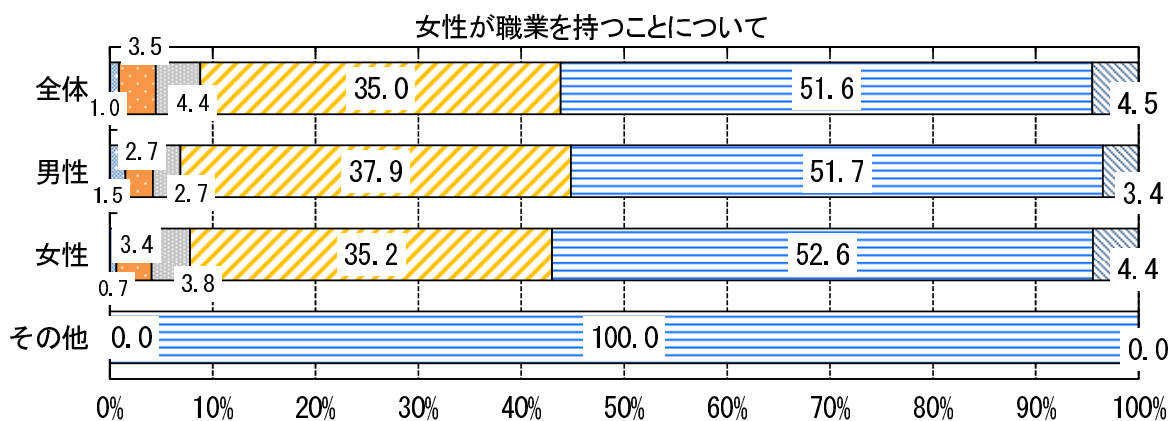
女性が職業を持つことについて

回答数：734



- 職業を持たなくて良い
- 結婚するまでは、職業を持つ方がよい
- 子どもができるまでは、職業を持つ方がよい
- 子どもができたらずっと職業を持ち続ける方がよい
- 無回答

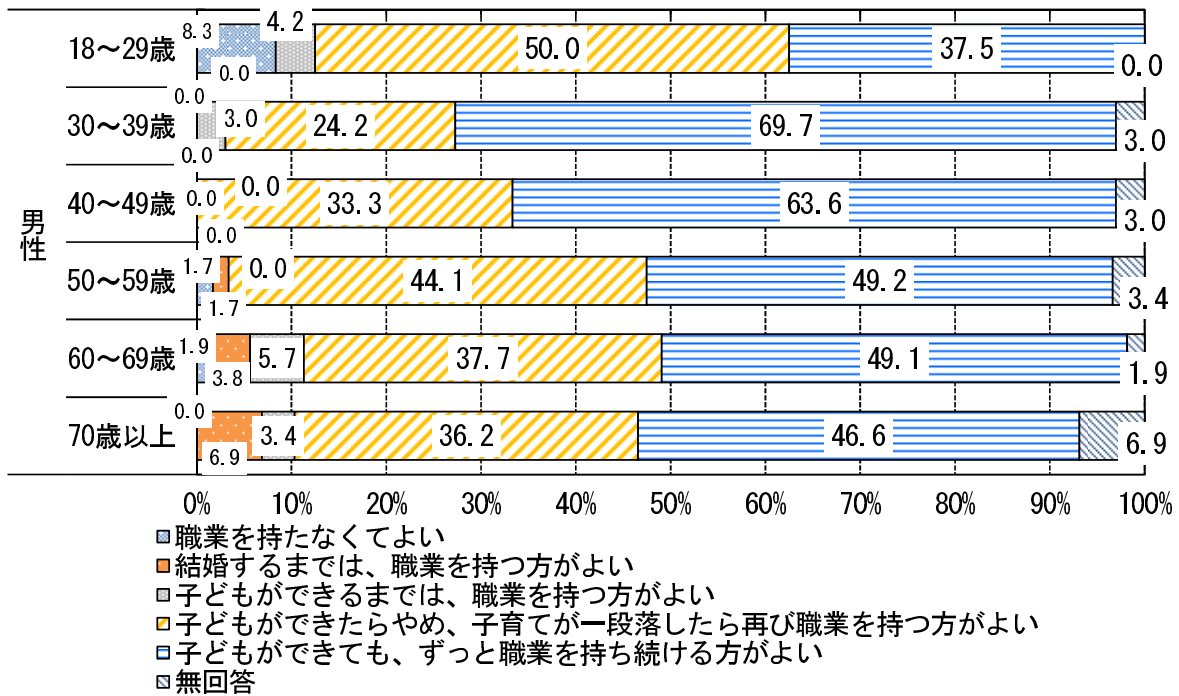
「子どもができたらずっと職業を持ち続ける方がよい」が51.6%、「子どもができたらずっと職業を持ち続ける方がよい」が35.0%となり、合わせると、86.6%となり、女性が可能な限り仕事を持つことを前向きに思う割合が高い。



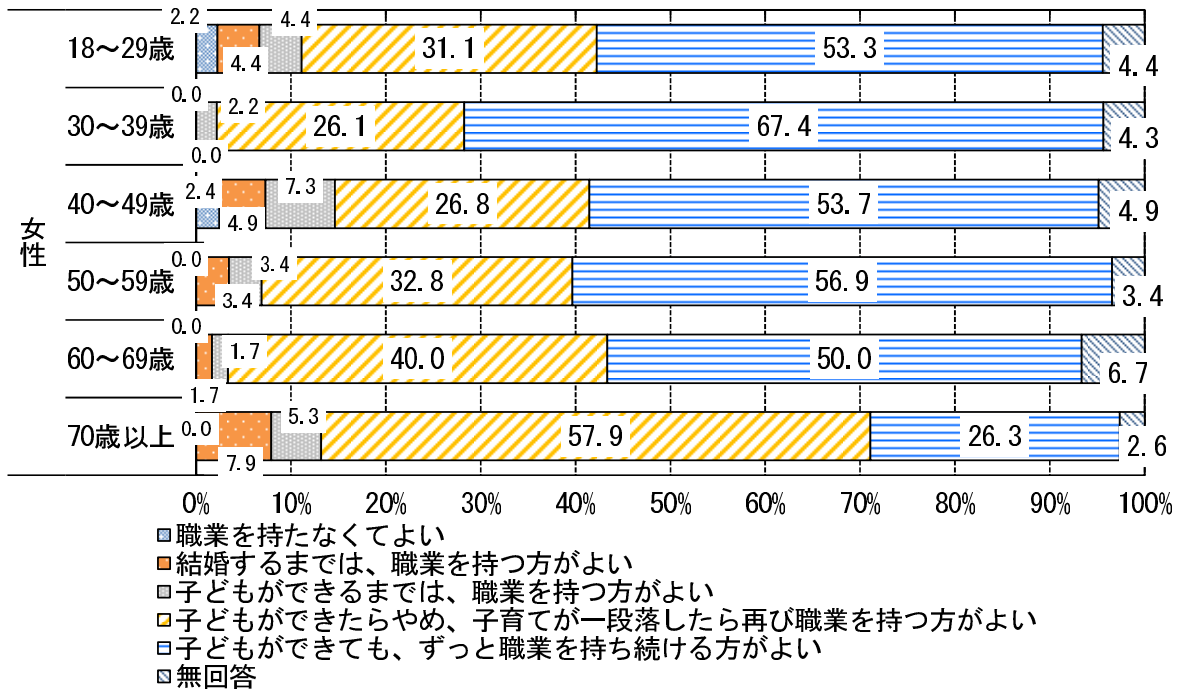
- 職業を持たなくてよい
- 結婚するまでは、職業を持つ方がよい
- 子どもができるまでは、職業を持つ方がよい
- 子どもができたらずっと職業を持ち続ける方がよい
- 無回答

性別では、男女ともに「子どもができたらずっと職業を持ち続ける方がよい」と「子どもができたらずっと職業を持ち続ける方がよい」を合わせると90%近くになり、性別に関係なく、女性が可能な限り仕事を持つことを前向きに思う割合が高い。

女性が職業を持つことについて



女性が職業を持つことについて

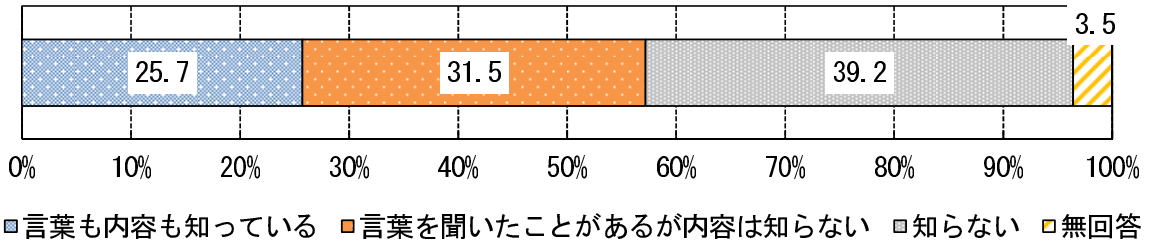


性別、年齢別では、男性の18～29歳、女性の70歳以上で「子どもができたならやめ、子育てが一段落したら再び持つほうがよい」が半数を超え高くなっている。全体を通じて、「子どもができたならやめ、子育てが一段落したら再び持つほうがよい」と「子どもができて、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」を合わせた、女性が可能な限り仕事も持つことを前向きに思う割合が高い。

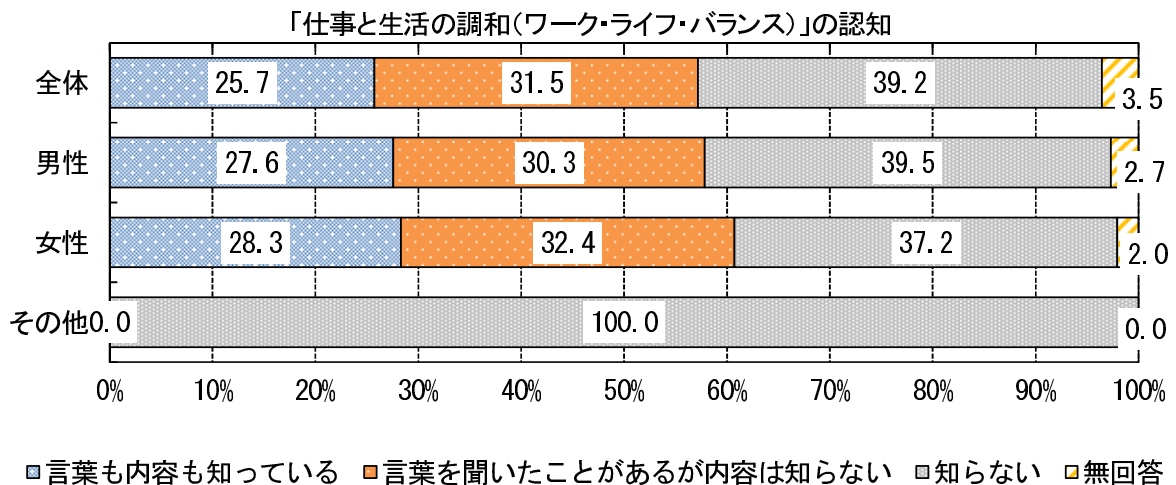
仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

問7 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉をご存知ですか。
（1つだけ選び、○をしてください）

「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の認知 回答数：734

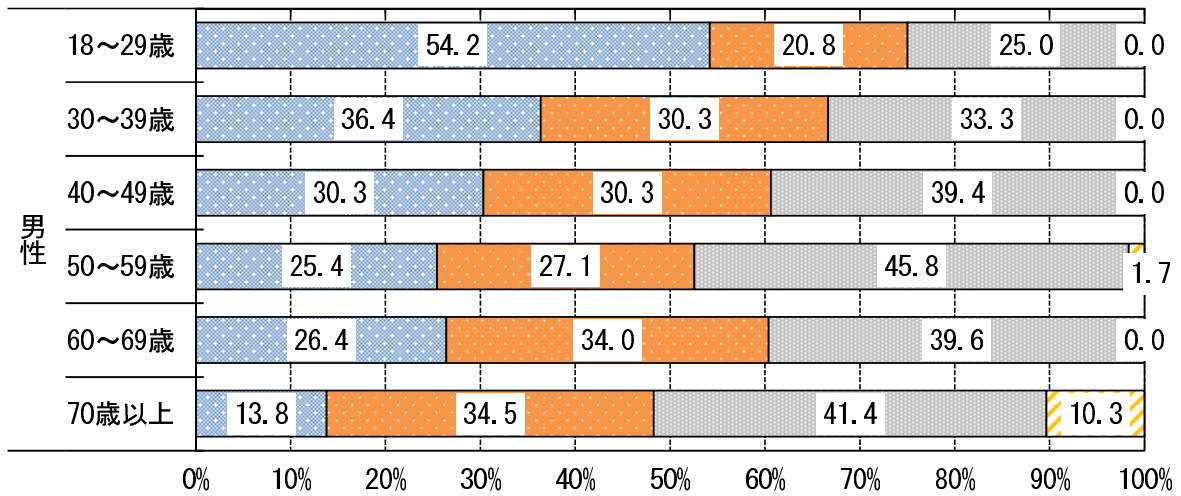


「言葉も内容も知っている」「言葉を聞いたことがあるが内容は知らない」を合わせると、57.2%となり、60%程度の認知度がある。



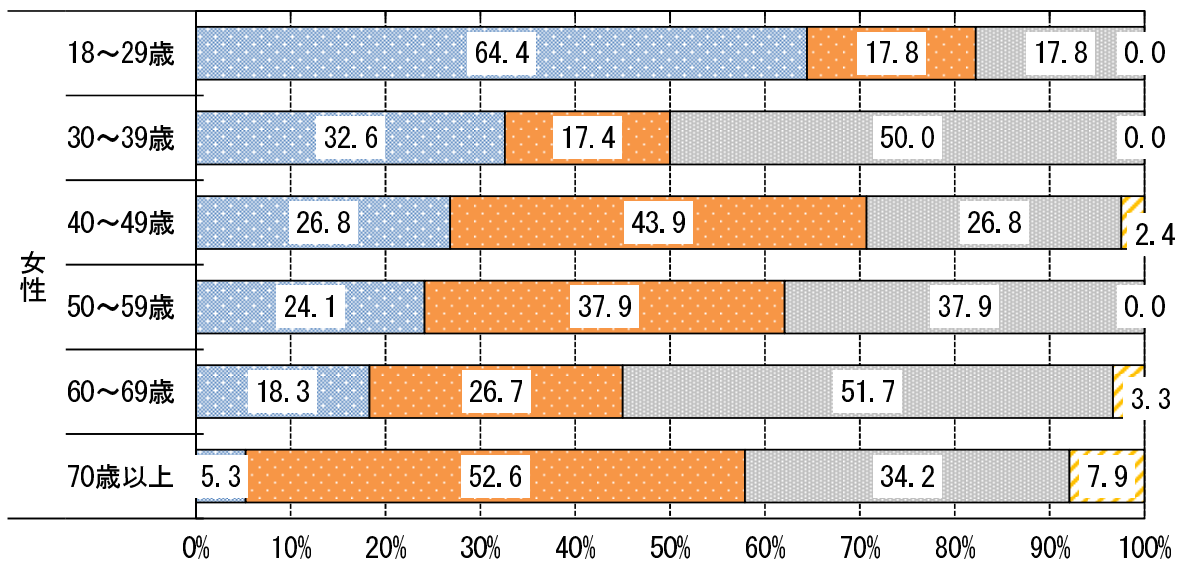
性別では、男女ともに「言葉も内容も知っている」「言葉を聞いたことがあるが内容は知らない」を合わせた認知度が、60%程度となる。

「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」の認知



■言葉も内容も知っている ■言葉を聞いたことがあるが内容は知らない □知らない □無回答

「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」の認知



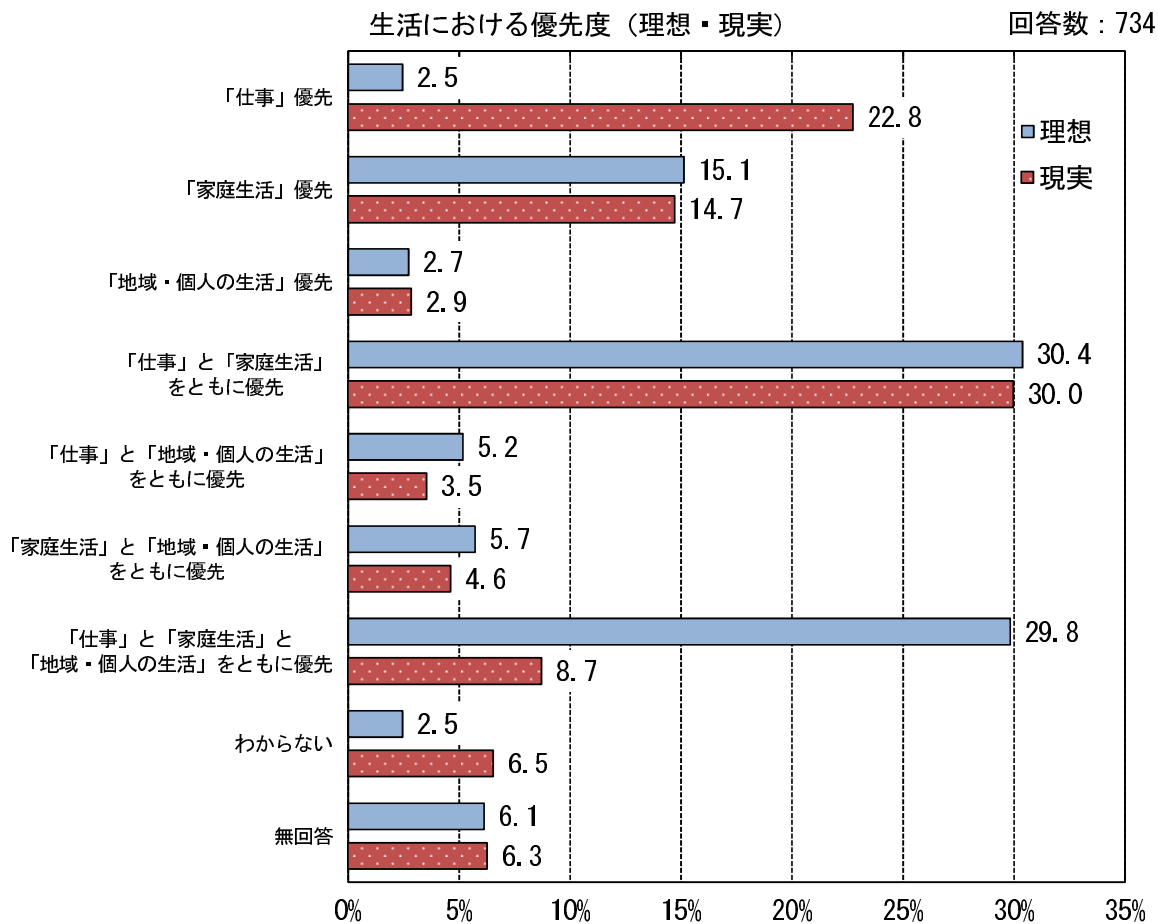
■言葉も内容も知っている ■言葉を聞いたことがあるが内容は知らない □知らない □無回答

性別、年齢別では、男女ともに、18~29歳の認知度が他の年齢と比べて高い。男性は60~69歳を除き、年齢が高いほど認知度が低くなる。女性は、60~69歳の認知度が最も低い。

問8 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度について、お尋ねします。下表【選択肢】より、最も近いものの番号を記入してください。（各項目、番号を記入してください）

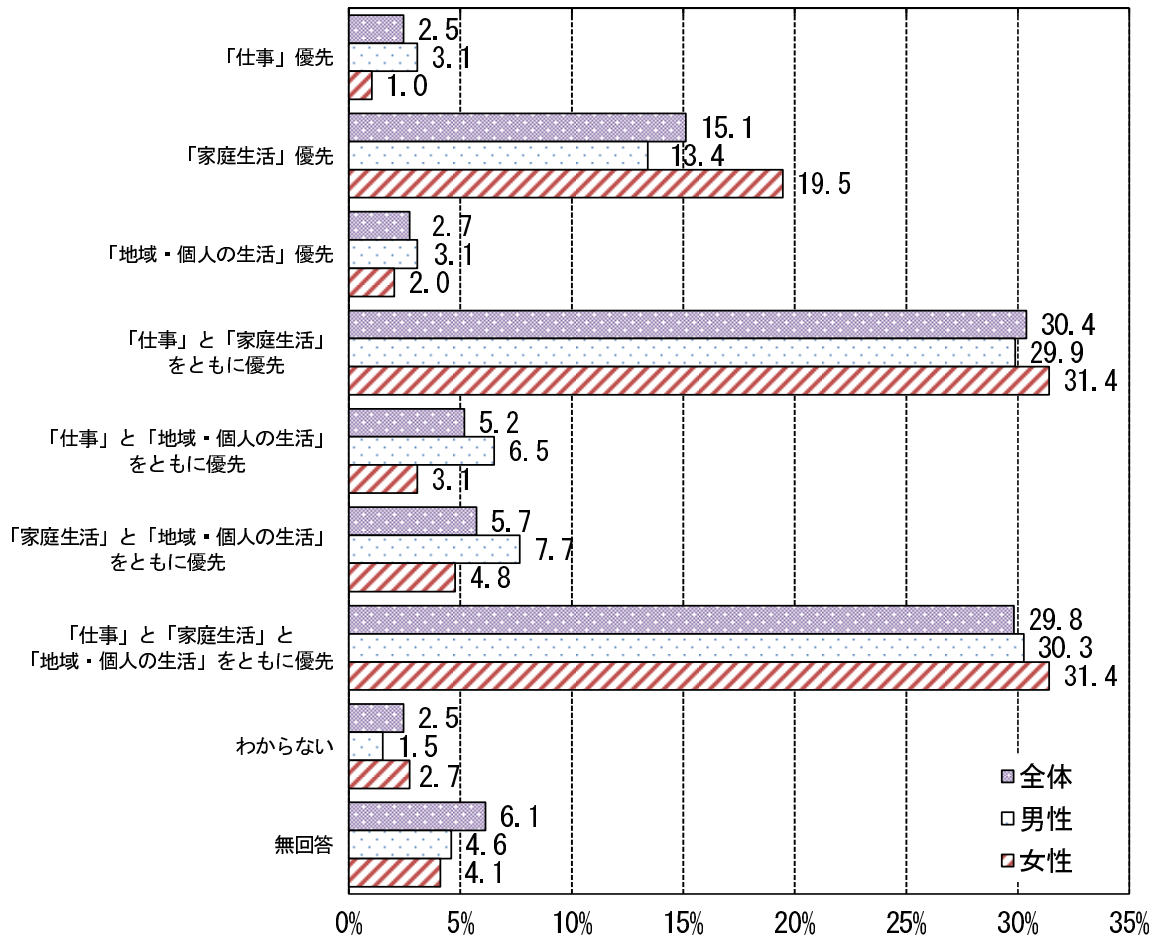
【選択肢】

1. 「仕事」優先
2. 「家庭生活」優先
3. 「地域・個人の生活」優先
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
8. わからない



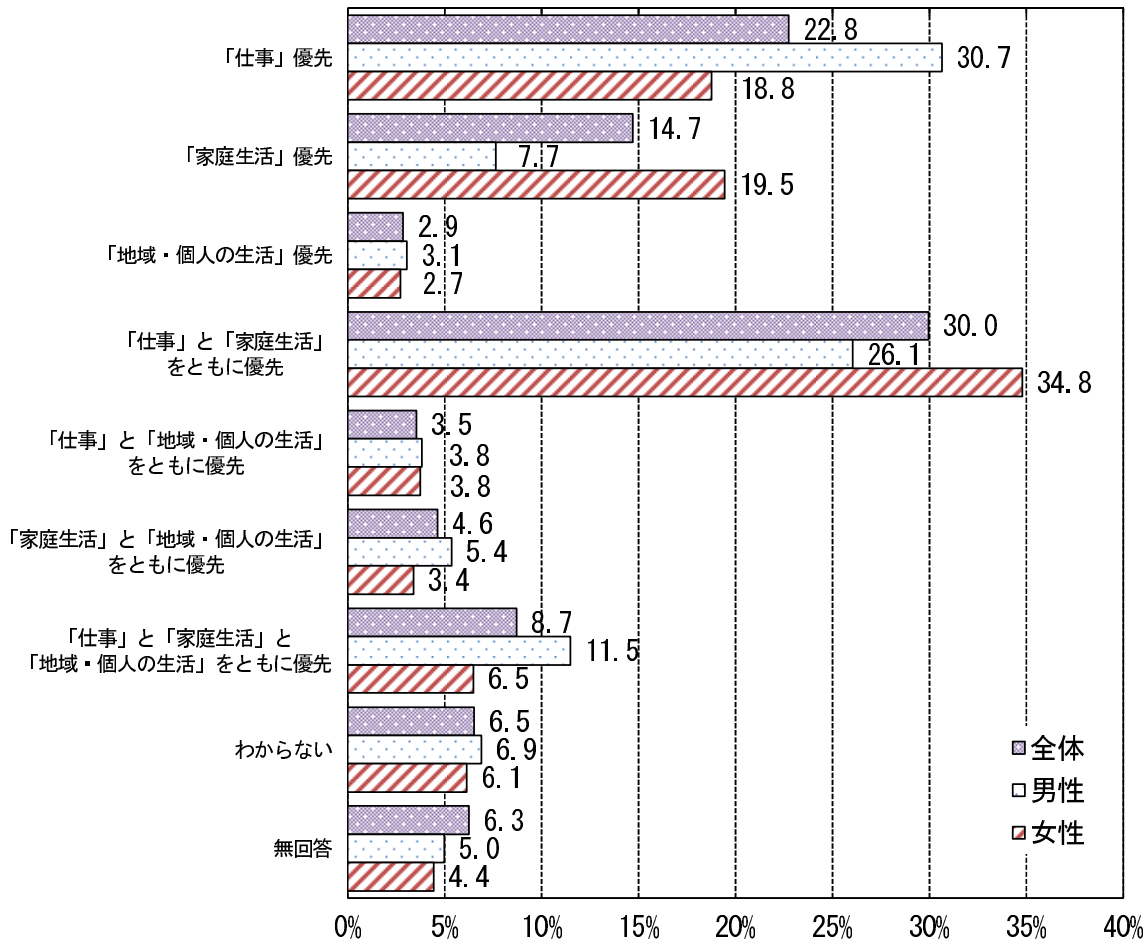
理想と現実ともに、「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が30%程度と最も高くなっている。一方、理想と現実の差が大きい項目として、「仕事」優先」は現実が高く、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先」は理想が高く、現実では、仕事により、家庭生活や地域・個人の生活の優先順位が低くなっていると考えられる。

理想とする生活



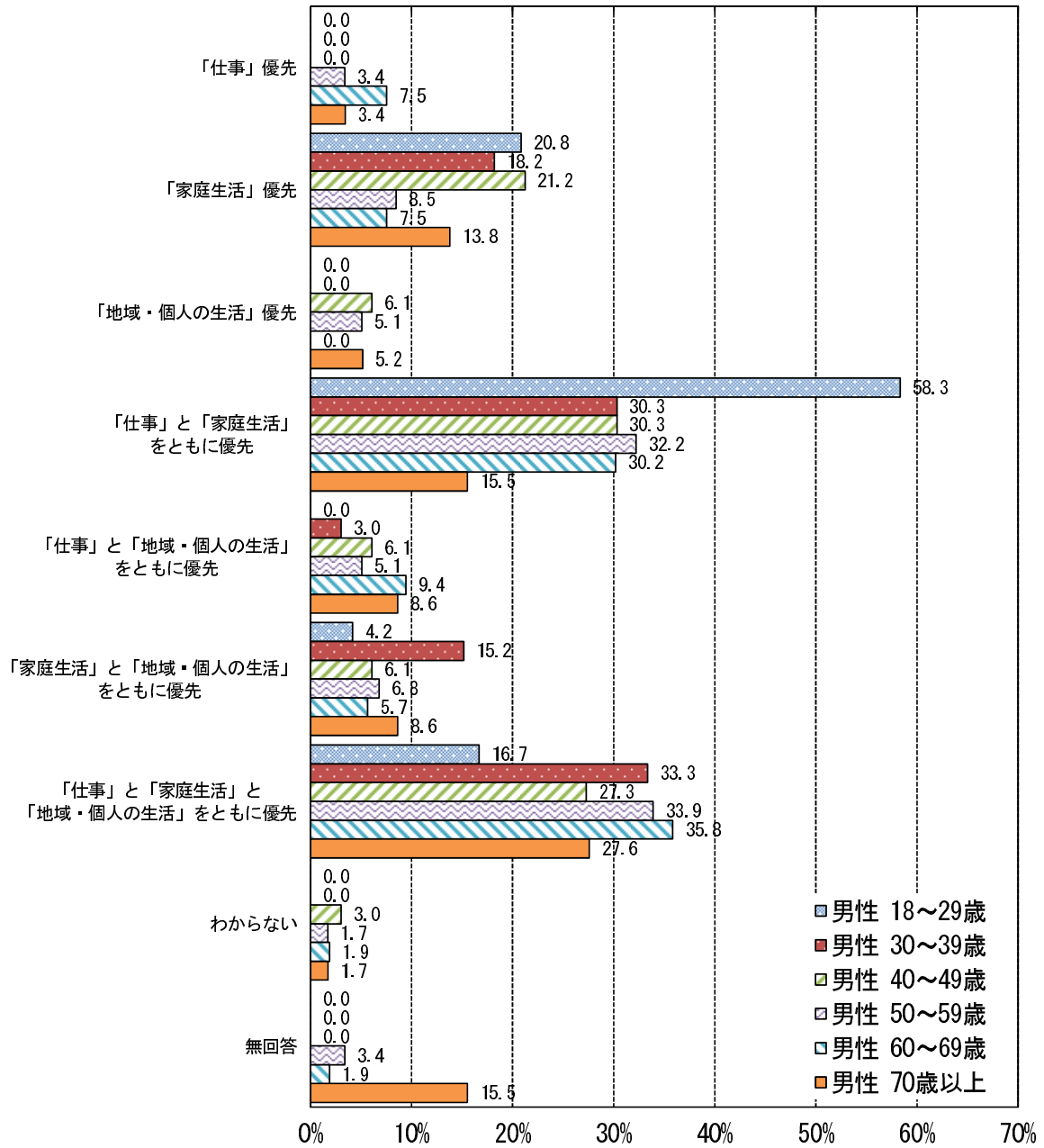
性別では、理想とする生活は、男女ともに「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」と「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先」が高い。次いで、「「家庭生活」優先」が高い。全体を通じて、「家庭生活」を優先する生活が含まれる生活が理想と思う割合が多い。

現実の生活



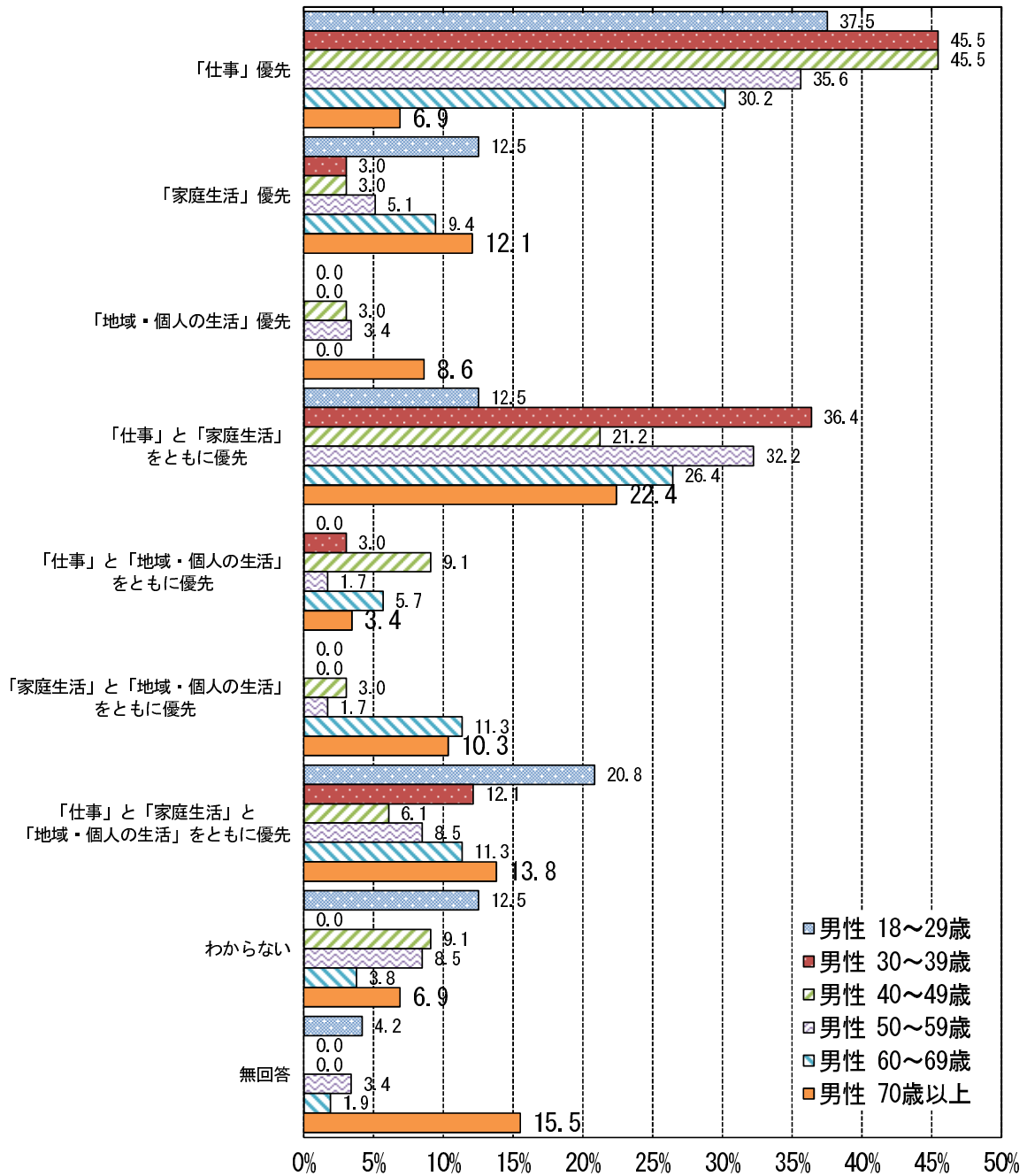
性別では、現実の生活は、男女ともに「仕事」と「家庭生活」をともに優先と「仕事」優先が高い。理想の生活で高い「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先が低くなり、仕事に優先順位を取られていると考えられる。

理想とする生活



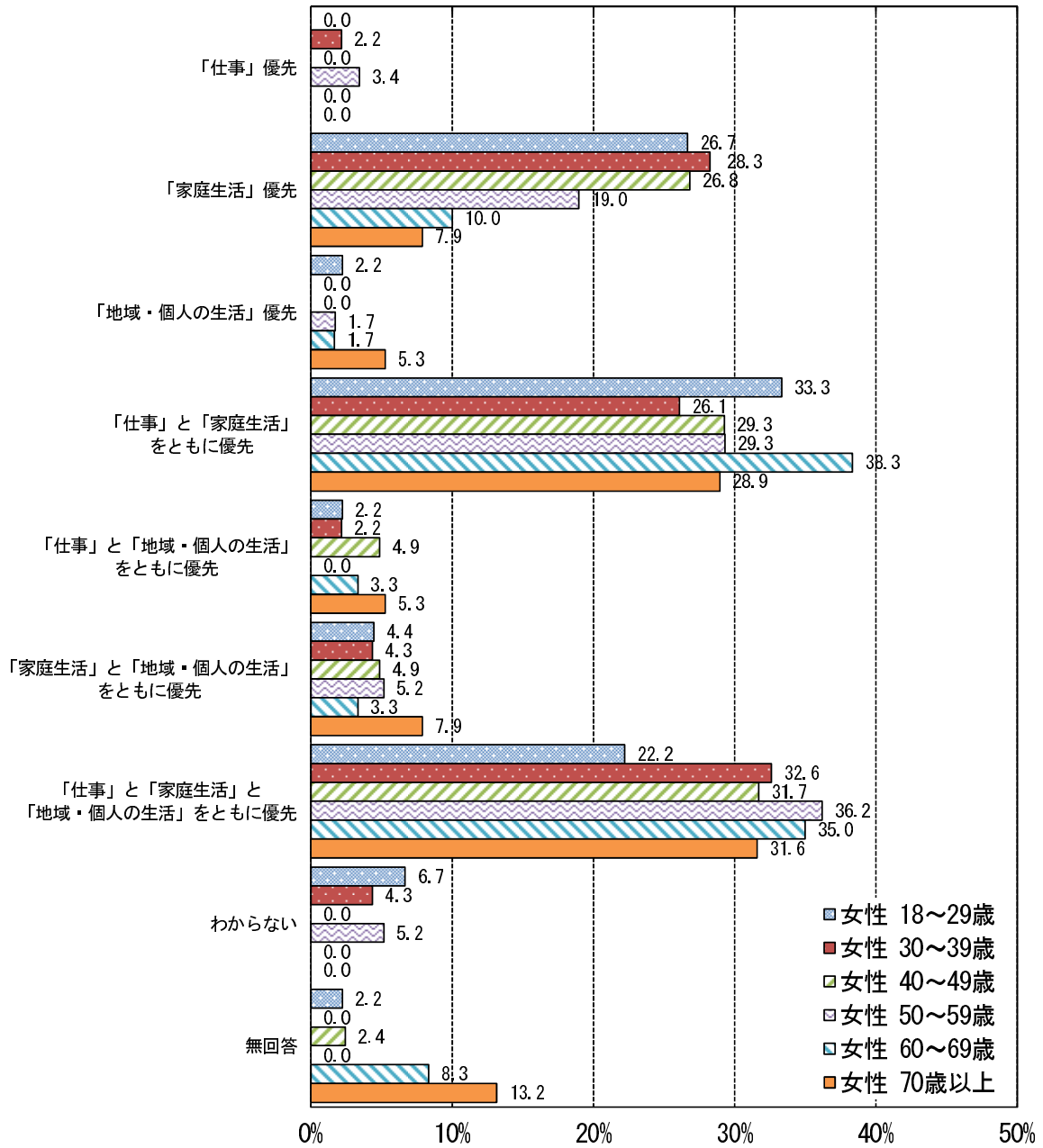
性別、年代別では、男性の理想とする生活で18~29歳は「仕事」と「家庭生活」をともに優先が58.3%と他の年齢に比べて高い。18~29歳を除くと、「仕事」と「家庭生活」をともに優先「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先がともに30%程度と高い。

現実の生活



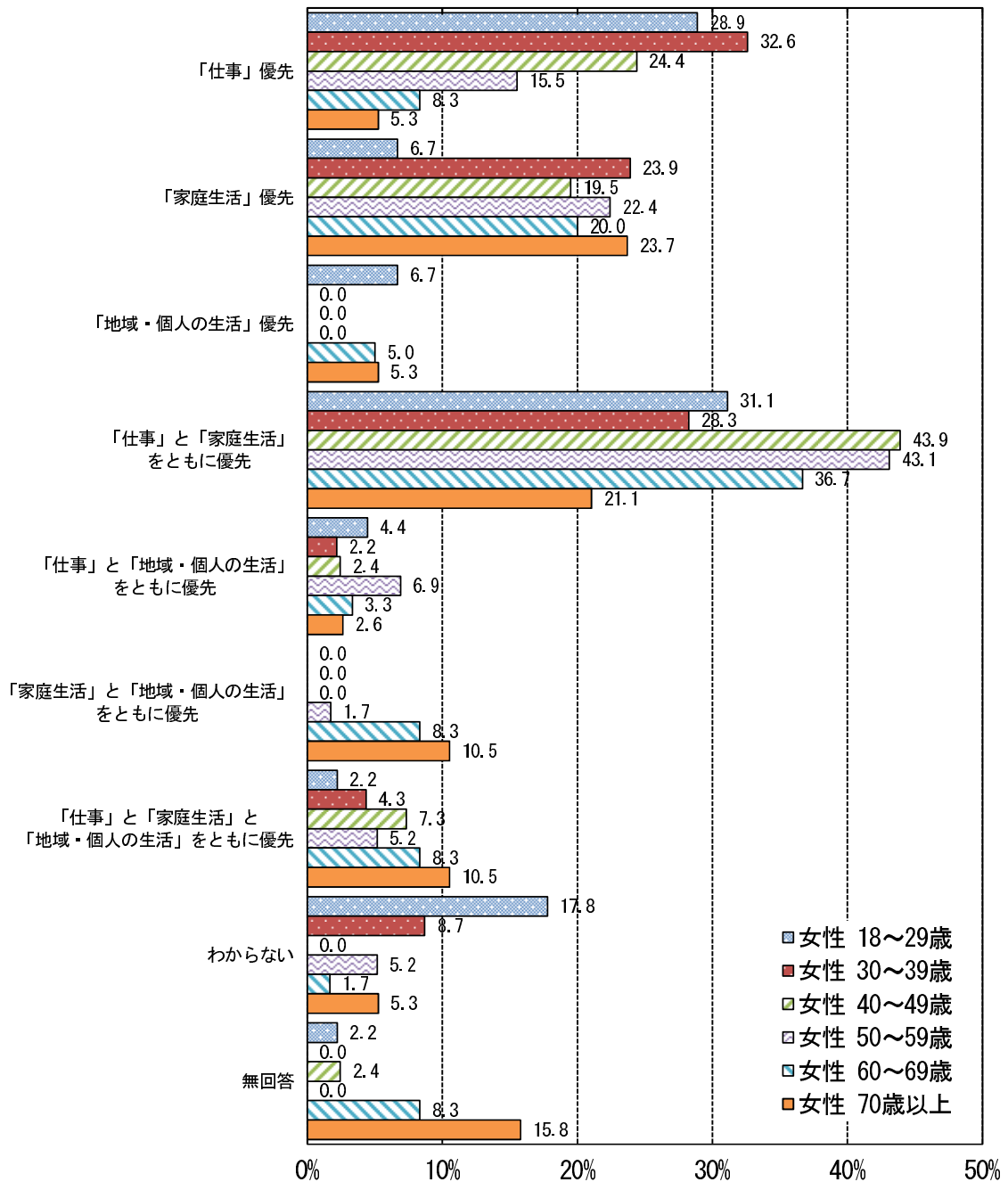
性別、年代別では、男性の現実の生活は、すべての年齢で「「仕事」優先」が最も高い。理想とする生活では、低い項目であったため、理想と現実の差が大きく出ている。一方、理想とする生活で高い項目である「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」と「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先」を合わせると30%を超え、特に30~39歳では半数近くとなり、理想とする生活をする割合も高いと考えられる。

理想とする生活



性別、年代別では、女性の理想とする生活は、「家庭生活」優先「仕事」と「家庭生活」をともに優先「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先が高い。

現実の生活

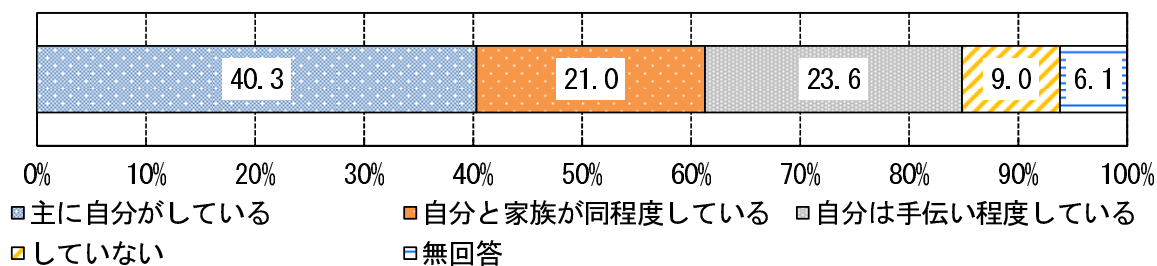


性別、年代別では、女性の現実の生活は、39歳以下で「仕事」優先が理想とする生活に比べて高い。有職者は仕事に優先順位を取られている。一方、理想とする生活で高い「仕事」と「家庭生活」をともに優先が現実の生活でも高い。理想とする生活ができている割合も高いと考えられる。

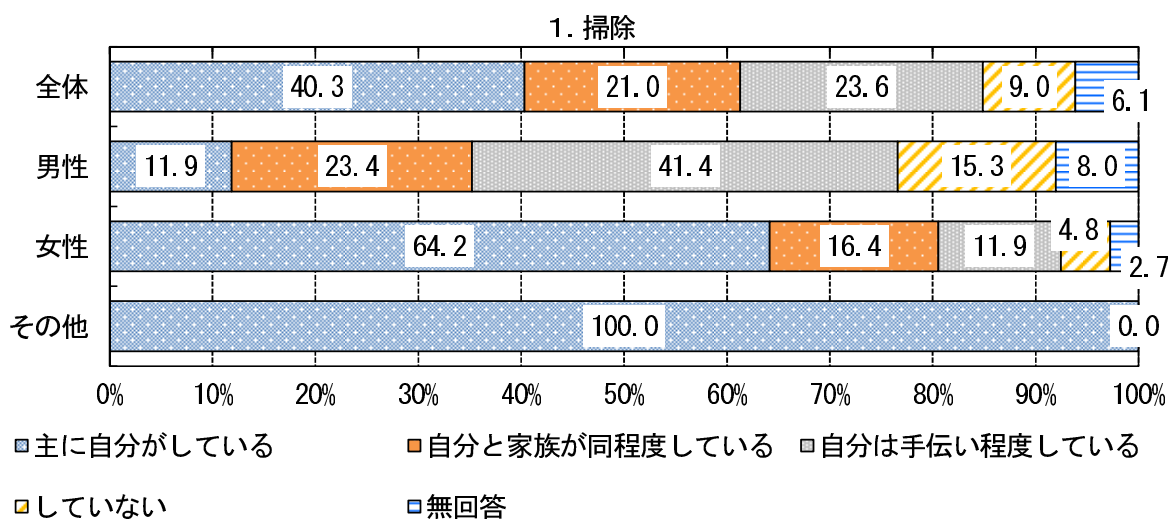
問9 あなたは、次にあげる家事をしていますか。(各項目、1つだけ選び、○をしてください)

1. 掃除

回答数：734

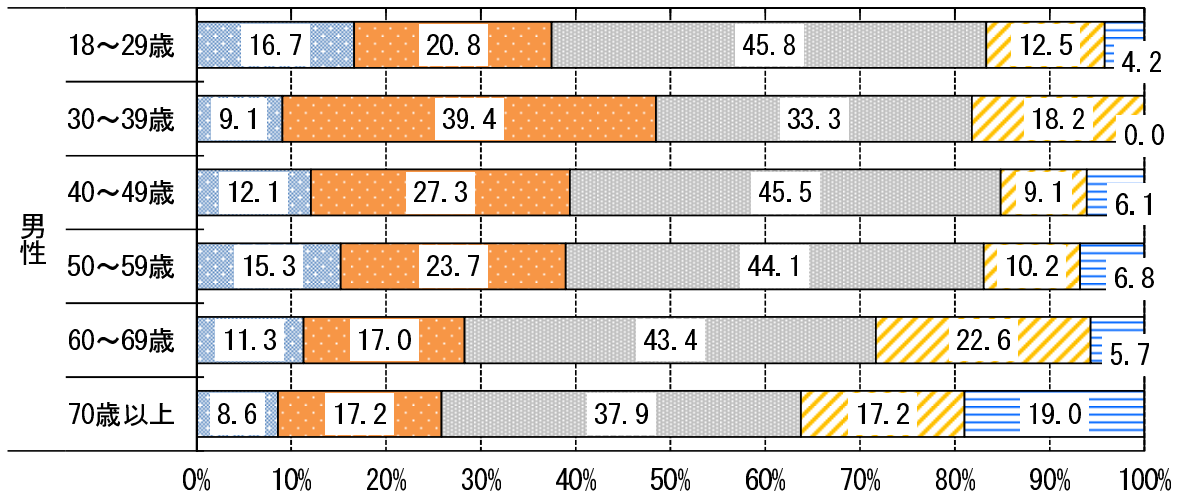


「主に自分がしている」が40.3%、「自分と家族が同程度している」が21.0%と、家族内で同程度以上掃除をしている割合は61.3%となる。



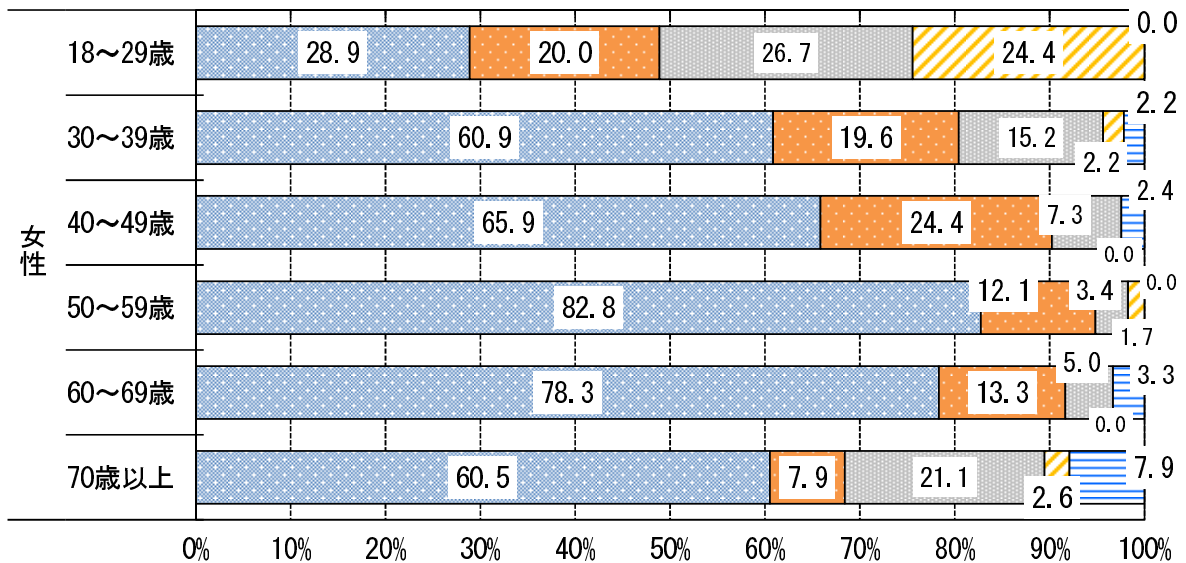
性別では、男性は「主に自分がしている」が11.9%、「自分と家族が同程度している」が23.4%と全体に比べて低い。一方、女性は「主に自分がしている」が64.2%、「自分と家族が同程度している」が16.4%と全体に比べて高い。掃除は女性が主にしている。

1. 掃除



主に自分がしている 自分と家族が同程度している 自分は手伝い程度している
 していない 無回答

1. 掃除

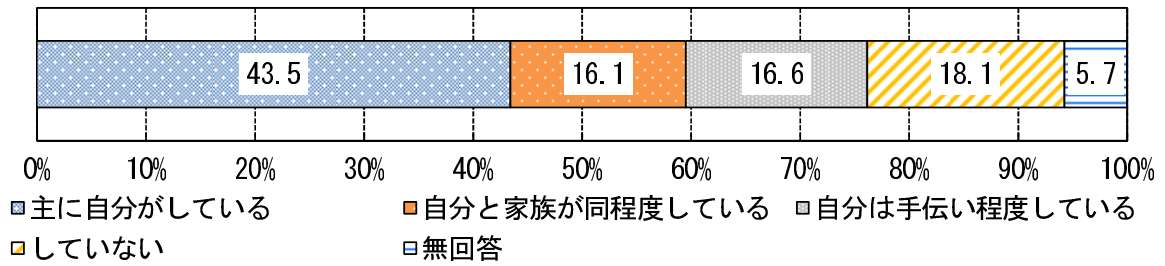


主に自分がしている 自分と家族が同程度している 自分は手伝い程度している
 していない 無回答

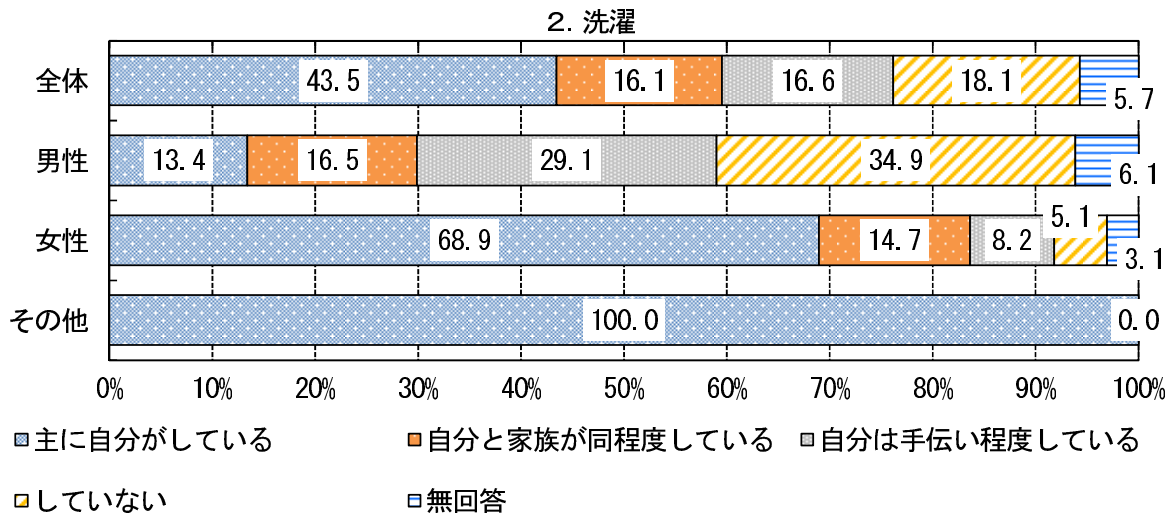
性別、年齢別では、「主に自分がしている」と「自分と家族が同程度している」を合わせると、男性は30～39歳が最も高く、年齢が上がるにつれて低くなる一方、女性は、年齢が上がるにつれて高くなり、50～59歳で最も高くなる。全体を通じて、男性より女性のほうが「主に自分がしている」と「自分と家族が同程度している」を合わせた割合が高く、掃除は女性が主にしている。

2. 洗濯

回答数：734

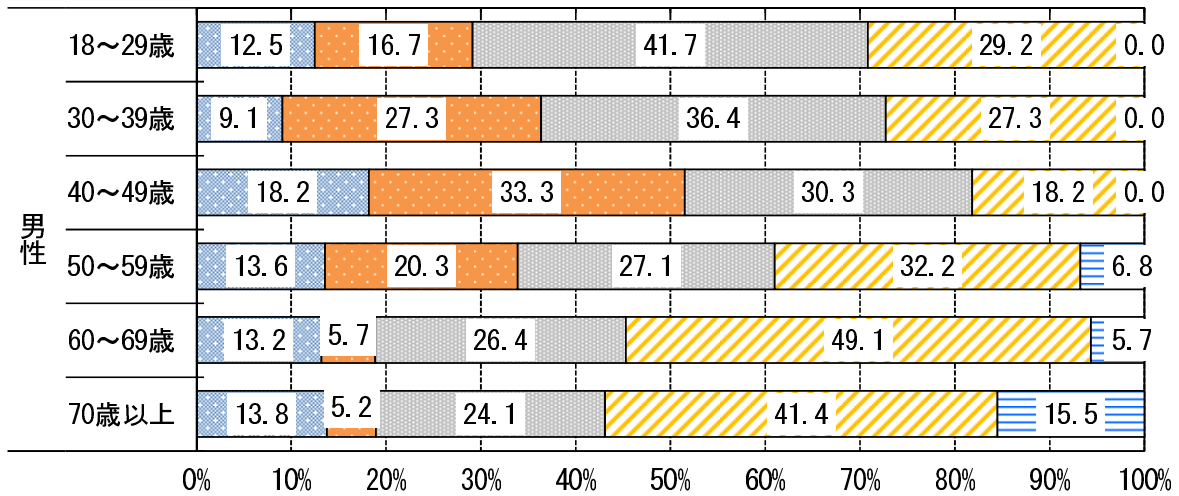


「主に自分がしている」が43.5%、「自分と家族が同程度している」が16.1%と、家族内で同程度以上洗濯をしている割合は59.6%となる。



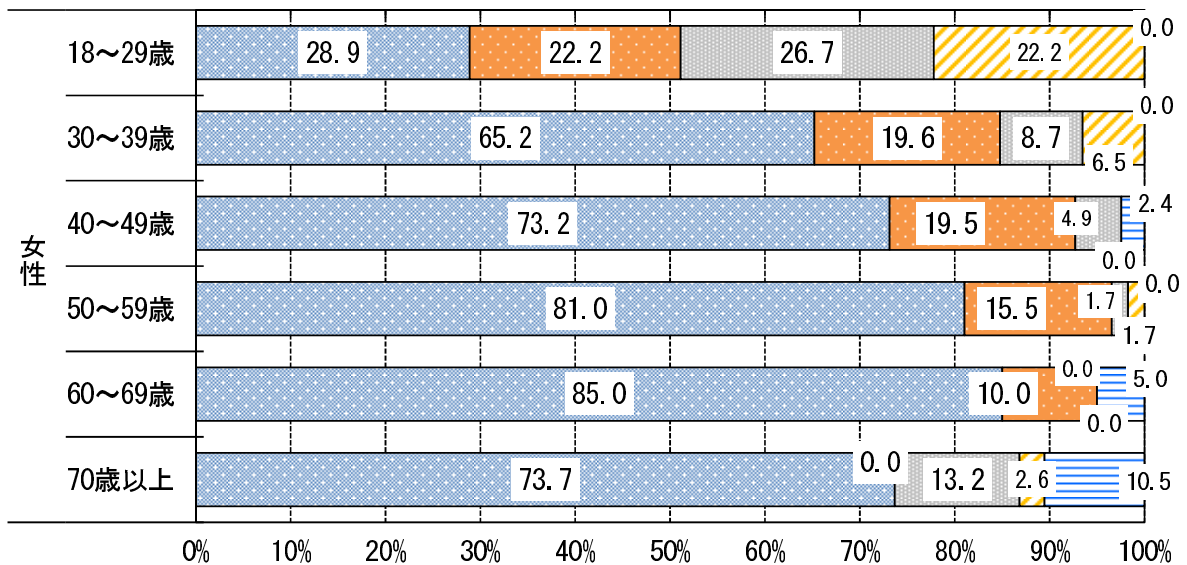
性別では、男性は「主に自分がしている」が13.4%、「自分と家族が同程度している」が16.5%と全体に比べて低い。一方、女性は「主に自分がしている」が68.9%、「自分と家族が同程度している」が14.7%と全体に比べて高い。洗濯は女性が主にしている。

2. 洗濯



- 主に自分がしている
- 自分と家族が同程度している
- 自分は手伝い程度している
- していない
- 無回答

2. 洗濯

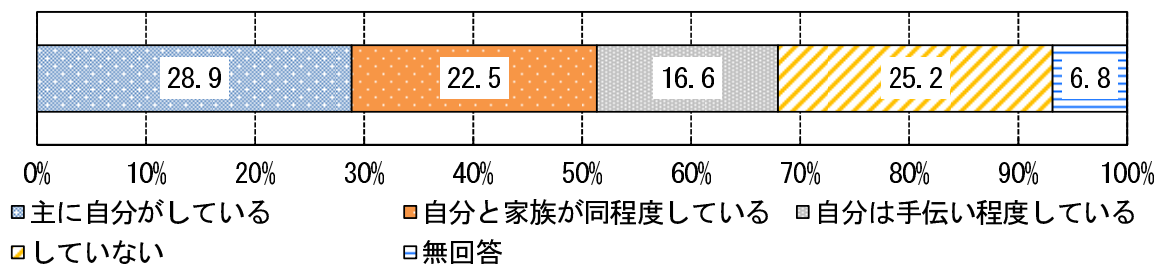


- 主に自分がしている
- 自分と家族が同程度している
- 自分は手伝い程度している
- していない
- 無回答

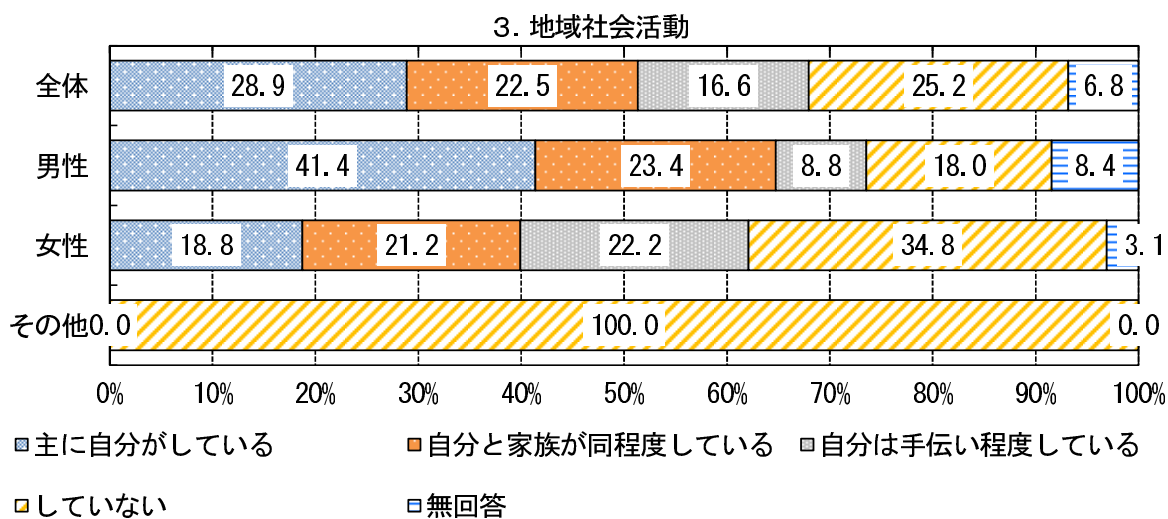
性別、年齢別では、「主に自分がしている」と「自分と家族が同程度している」を合わせると、男性は40～49歳が最も高い。女性は、年齢が上がるにつれて高くなり、50～59歳で最も高くなる。全体を通じて、男性より女性のほうが「主に自分がしている」と「自分と家族が同程度している」を合わせた割合が高く、洗濯は女性が主にしている。

3. 地域社会活動

回答数：734

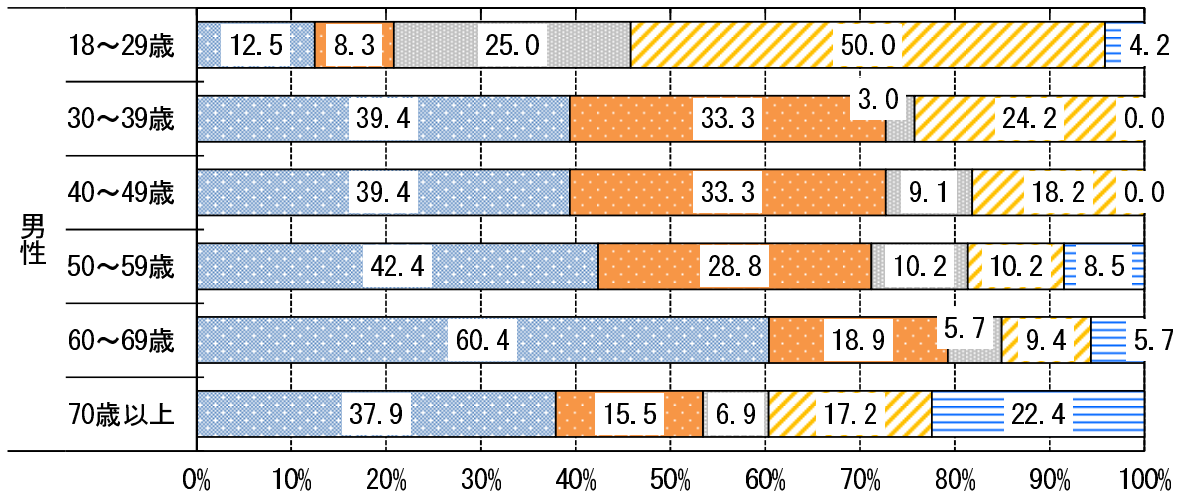


「主に自分がしている」が28.9%、「自分と家族が同程度している」が22.5%と、家族内で同程度以上地域社会活動をしている割合は51.4%となる。



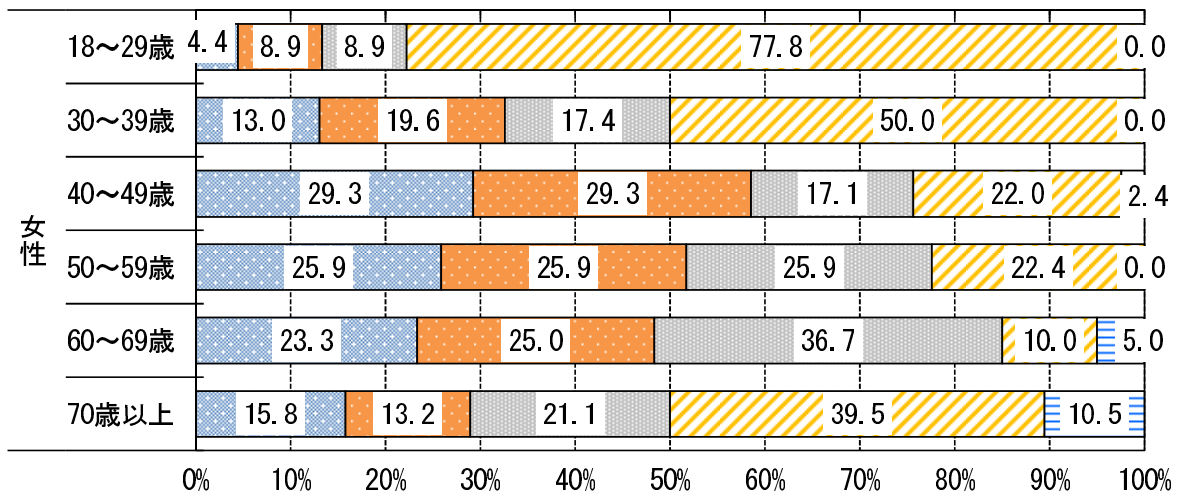
性別では、男性は「主に自分がしている」が41.4%、「自分と家族が同程度している」が23.4%と全体に比べて高い。一方、女性は「主に自分がしている」が18.8%、「自分と家族が同程度している」が21.2%と全体に比べて高い。地域社会活動は男性が主にしている。

3. 地域社会活動



- 主に自分がしている
- 自分と家族が同程度している
- 自分は手伝い程度している
- していない
- 無回答

3. 地域社会活動

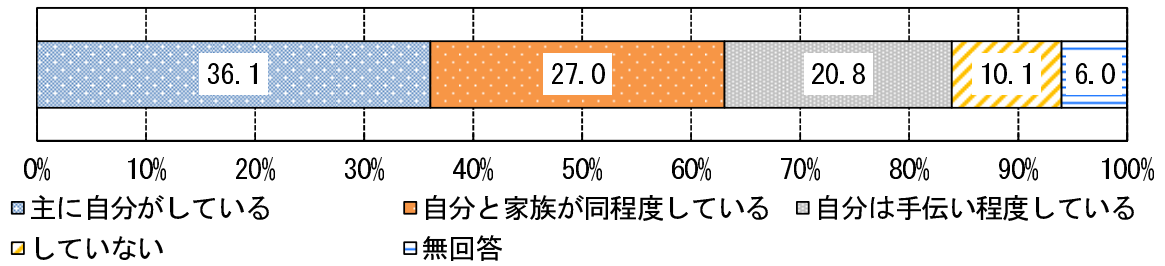


- 主に自分がしている
- 自分と家族が同程度している
- 自分は手伝い程度している
- していない
- 無回答

性別、年齢別では、「主に自分がしている」と「自分と家族が同程度している」を合わせると、男性は30~69歳が高い傾向がある。女性は、40~69歳が高い傾向がある。全体を通じて、女性より男性のほうが「主に自分がしている」と「自分と家族が同程度している」を合わせた割合が高く、地域社会活動は男性が主にしている。また、男女ともに、18~29歳で「主に自分がしている」と「自分と家族が同程度している」を合わせた割合が低い。

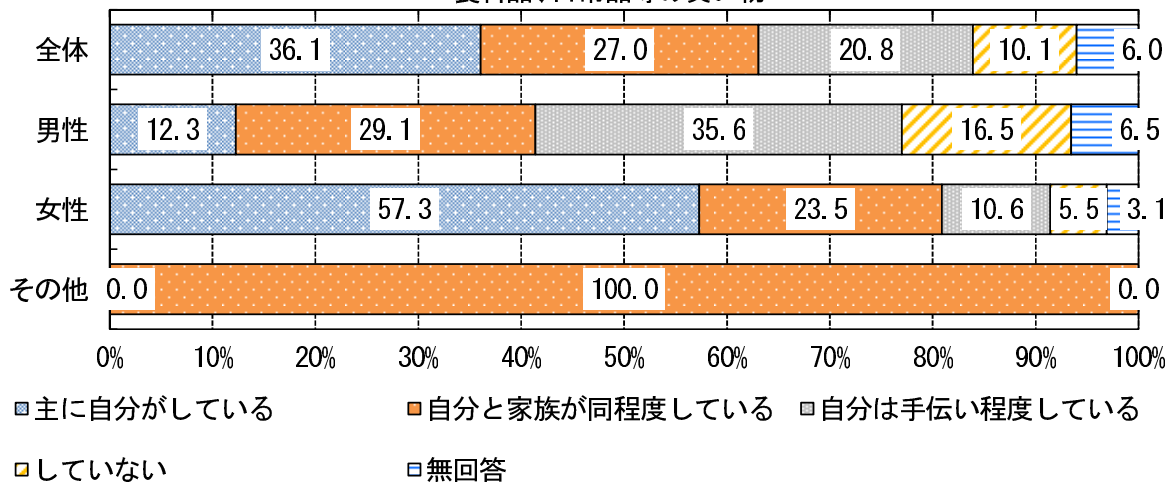
4. 食料品、日用品等の買い物

回答数：734



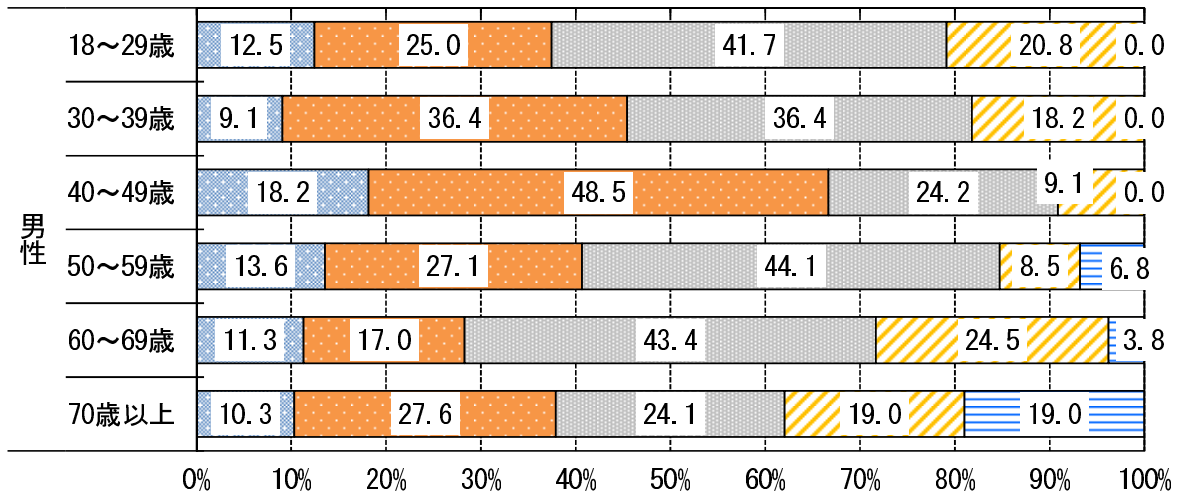
「主に自分がしている」が36.1%、「自分と家族が同程度している」が27.0%と、家族内で同程度以上食料品、日用品等の買い物をしている割合は63.1%となる。

4. 食料品、日用品等の買い物



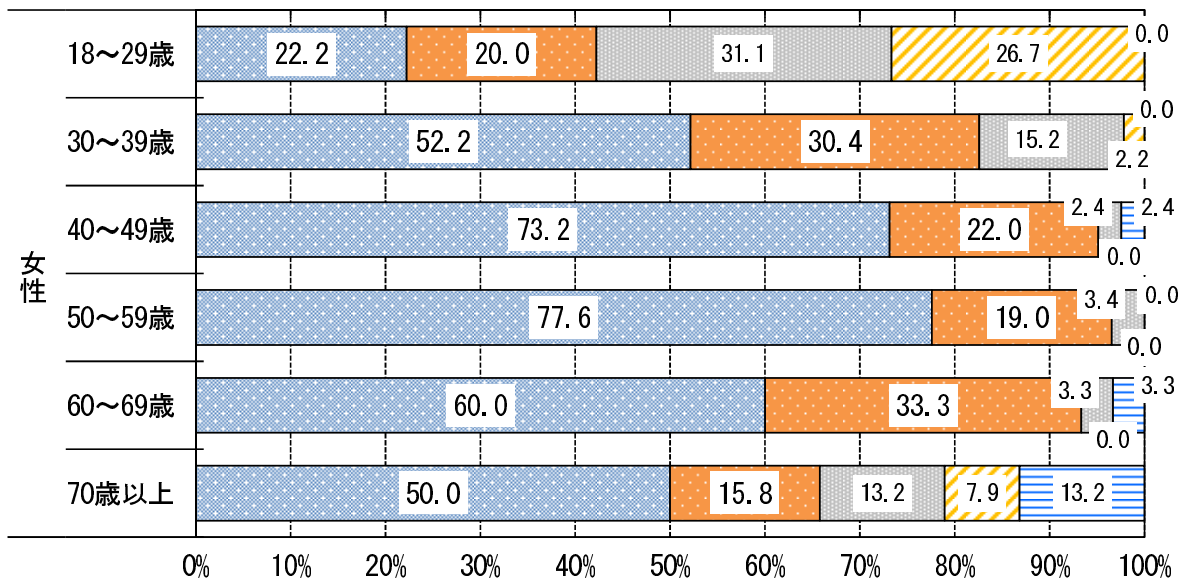
性別では、男性は「主に自分がしている」が12.3%、「自分と家族が同程度している」が29.1%と全体に比べて低い。一方、女性は「主に自分がしている」が57.3%、「自分と家族が同程度している」が23.5%と全体に比べて高い。食料品、日用品等の買い物は女性が主にしている。

4. 食料品、日用品等の買い物



- 主に自分がしている
- 自分と家族が同程度している
- 自分を手伝い程度している
- していない
- 無回答

4. 食料品、日用品等の買い物

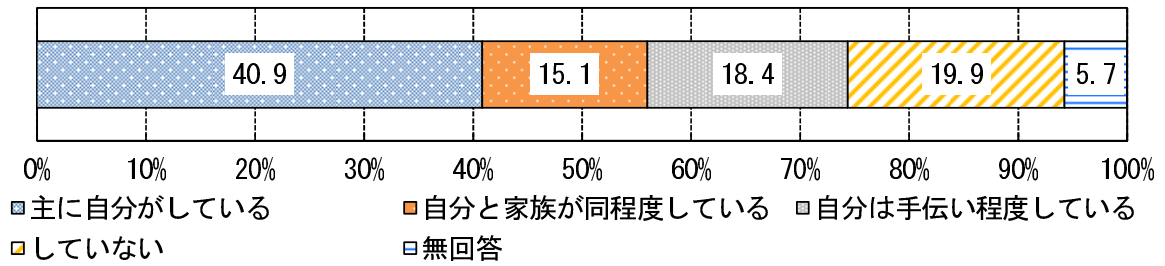


- 主に自分がしている
- 自分と家族が同程度している
- 自分を手伝い程度している
- していない
- 無回答

性別、年齢別では、「主に自分がしている」と「自分と家族が同程度している」を合わせると、男性は40～49歳が最も高いが、他の年齢は40%程度以下となっている。女性は、年齢が上がるにつれて高くなり、50～59歳で最も高くなる。全体を通じて、男性より女性のほうが「主に自分がしている」と「自分と家族が同程度している」を合わせた割合が高く、食料品、日用品等の買い物は女性が主にしている。

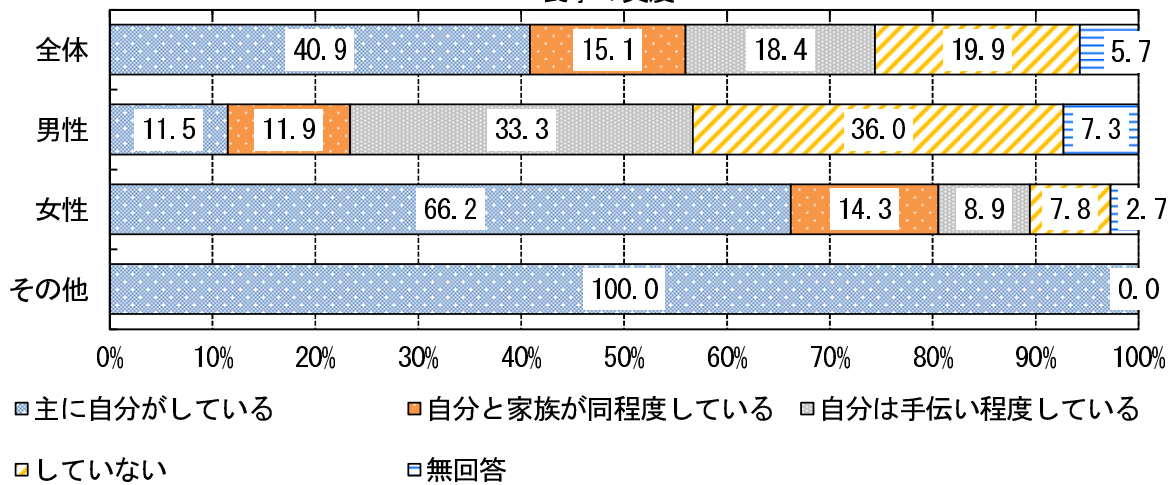
5. 食事の支度

回答数：734



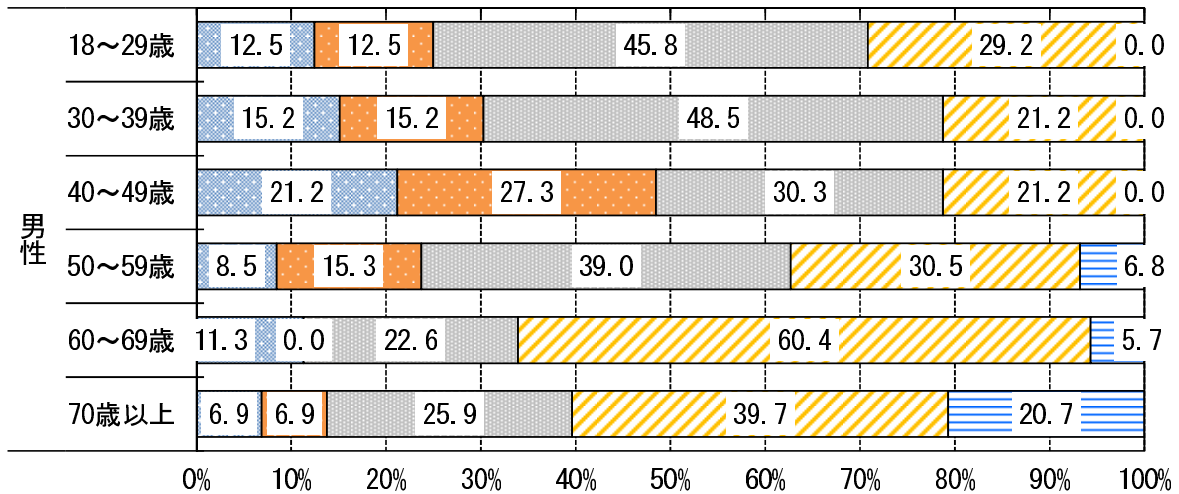
「主に自分がしている」が40.9%、「自分と家族が同程度している」が15.1%と、家族内で同程度以上食事の支度をしている割合は56.0%となる。

5. 食事の支度



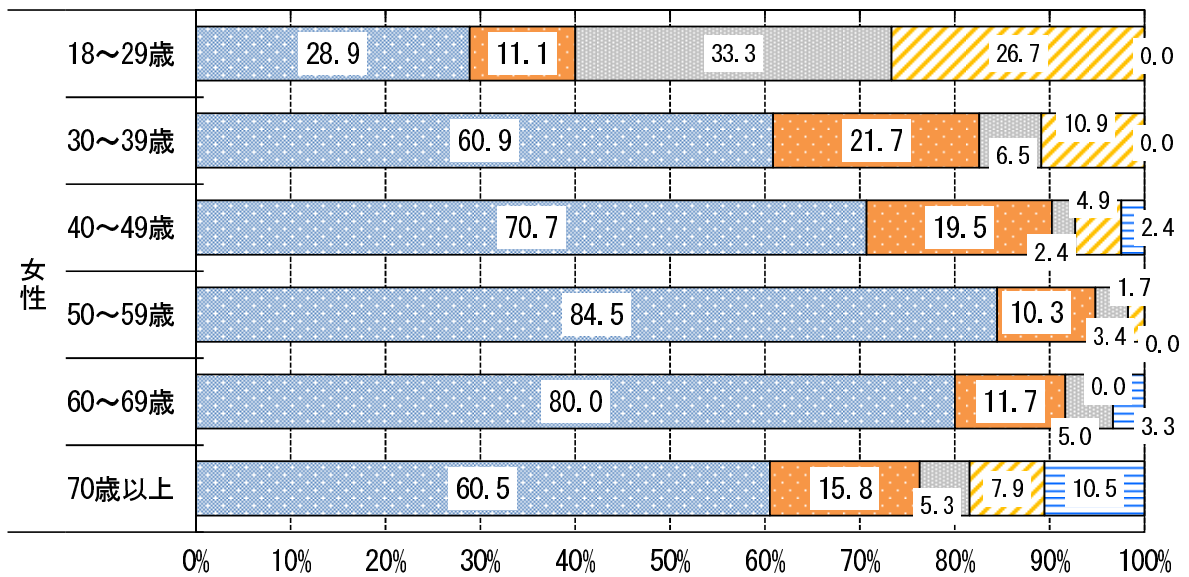
性別では、男性は「主に自分がしている」が11.5%、「自分と家族が同程度している」が11.9%と全体に比べて低い。一方、女性は「主に自分がしている」が66.2%、「自分と家族が同程度している」が14.3%と全体に比べて高く、男性の割合との差は大きい。食事の支度は女性が主にしている。

5. 食事の支度



- 主に自分がしている ■ 自分と家族が同程度している ■ 自分は手伝い程度している
- していない ■ 無回答

5. 食事の支度

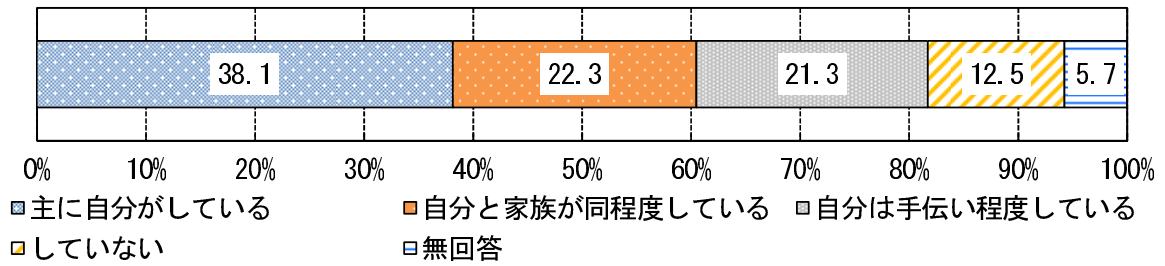


- 主に自分がしている ■ 自分と家族が同程度している ■ 自分は手伝い程度している
- していない ■ 無回答

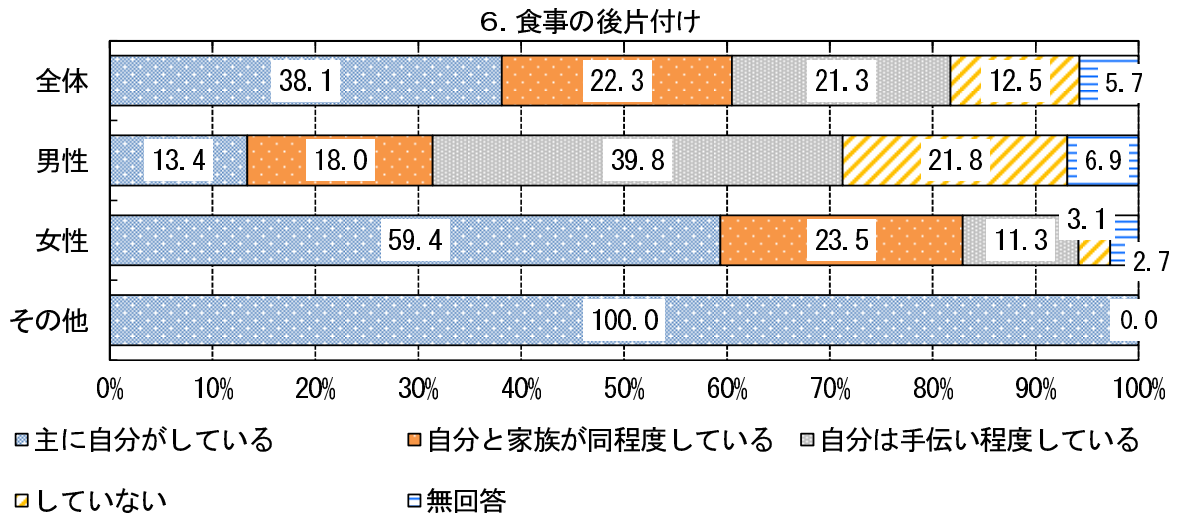
性別、年齢別では、「主に自分がしている」と「自分と家族が同程度している」を合わせると、男性は40～49歳が最も高く、48.5%となる。特に、60歳以上では割合が低い。女性は、年齢が上がるにつれて高くなり、50～59歳で最も高くなる。30歳以上では、男性より女性のほうが「主に自分がしている」と「自分と家族が同程度している」を合わせた割合が高く、その差は大きい。食事の支度は女性が主にしている。

6. 食事の後片付け

回答数：734



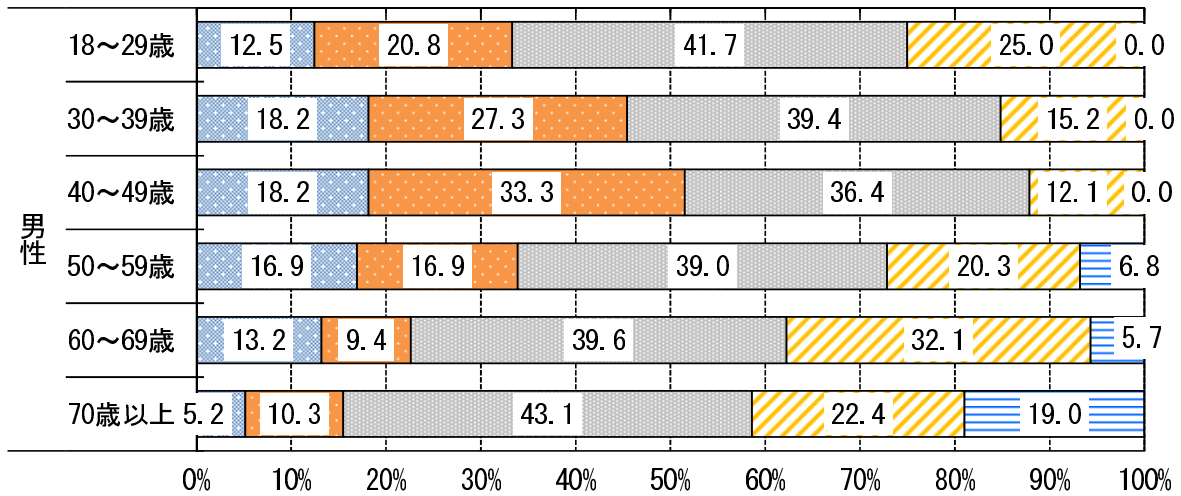
「主に自分がしている」が38.1%、「自分と家族が同程度している」が22.3%と、家族内で同程度以上食事の後片付けをしている割合は60.4%となる。



性別では、男性は「主に自分がしている」が13.4%、「自分と家族が同程度している」が18.0%と全体に比べて低い。一方、女性は「主に自分がしている」が59.4%、「自分と家族が同程度している」が23.5%と全体に比べて高く、男性の割合との差は大きい。食事の後片付けは女性が主にしている。

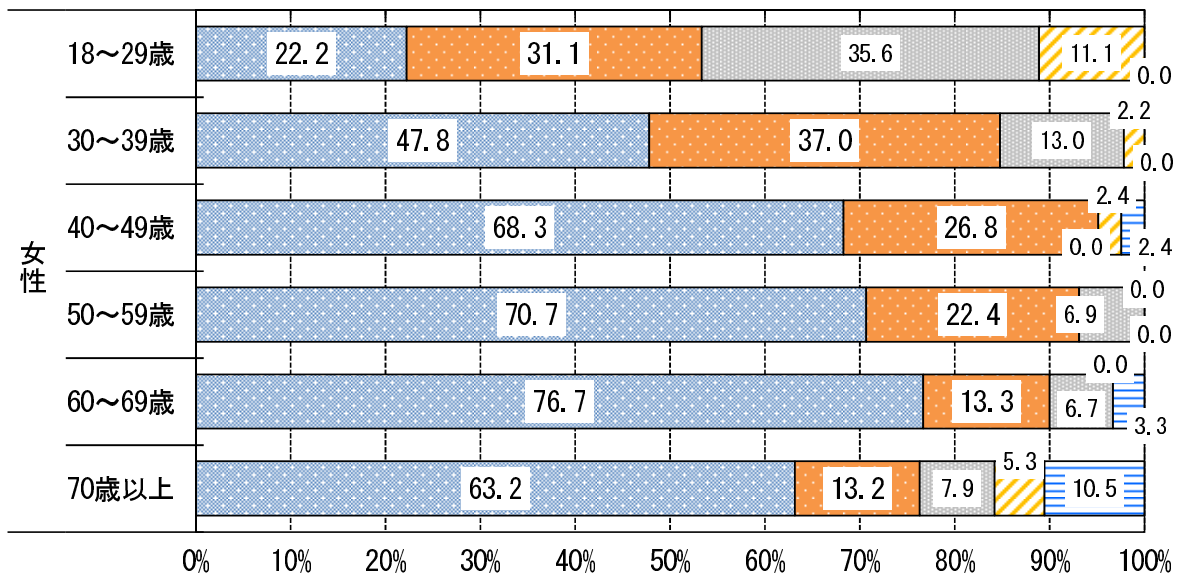
食事の支度と同様の傾向が見られることから、食事に関する家事は女性が主にいき、男性が行う割合との差が大きい。

6. 食事の後片付け



- 主に自分がしている
- 自分と家族が同程度している
- 自分は手伝い程度している
- していない
- 無回答

6. 食事の後片付け

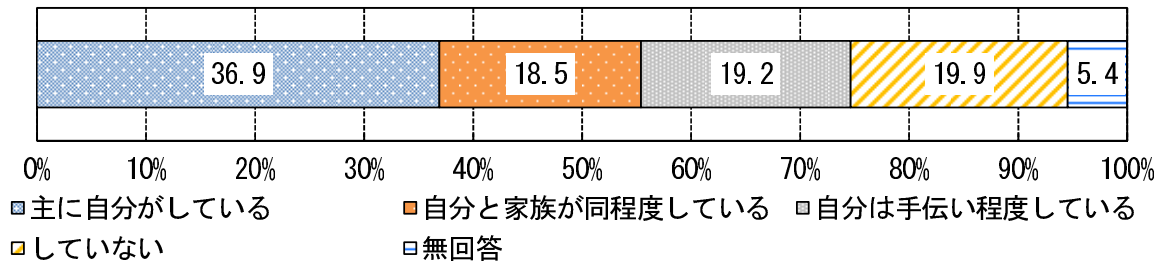


- 主に自分がしている
- 自分と家族が同程度している
- 自分は手伝い程度している
- していない
- 無回答

性別、年齢別では、「主に自分がしている」と「自分と家族が同程度している」を合わせると、男性は40～49歳が最も高く、51.5%となる。特に、60歳以上では割合が低い。女性は、40～49歳で最も高くなる。全体を通じて、男性より女性のほうが「主に自分がしている」と「自分と家族が同程度している」を合わせた割合が高く、その差は大きい。食事の後片付けは女性が主にしている。

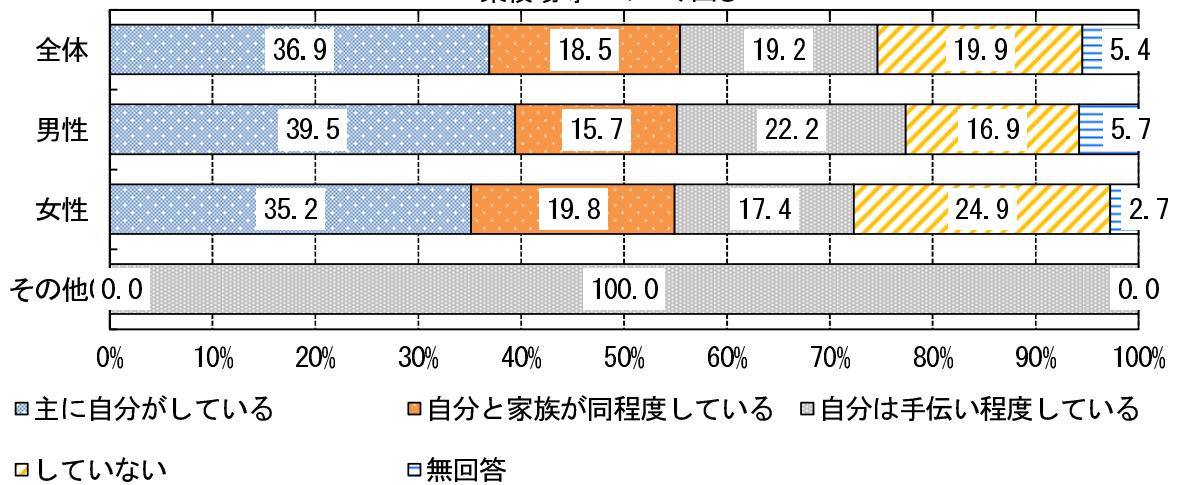
7. 集積場等へのごみ出し

回答数：734



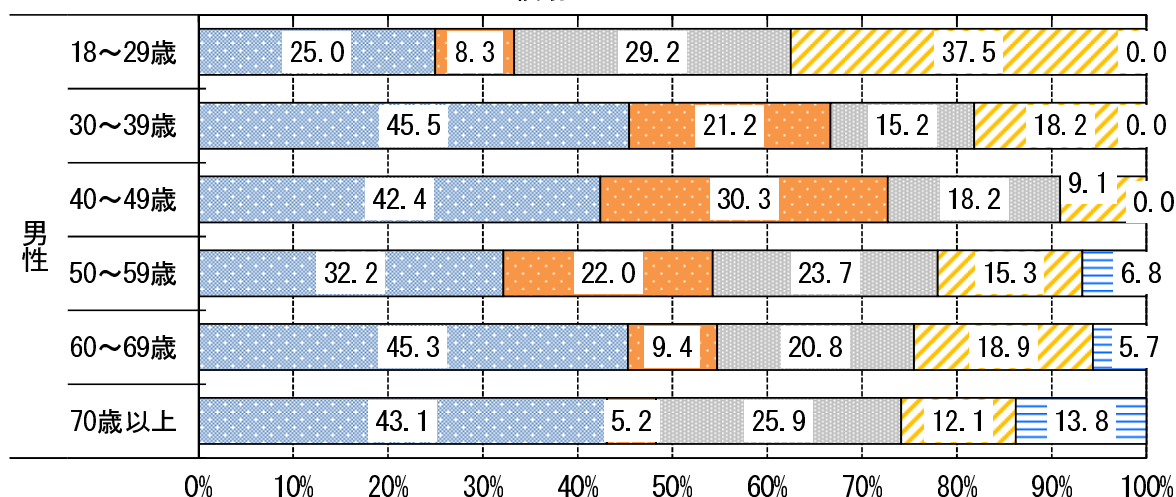
「主に自分がしている」が36.9%、「自分と家族が同程度している」が18.5%と、家族内で同程度以上掃除をしている割合は55.4%となる。

7. 集積場等へのごみ出し



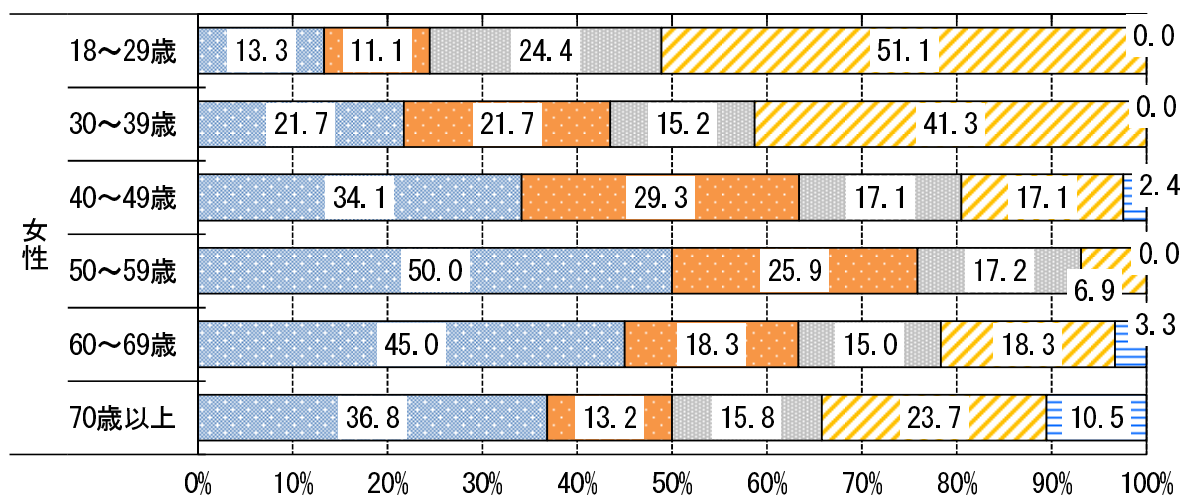
性別では、男性は「主に自分がしている」が39.5%、「自分と家族が同程度している」が15.7%と全体と同程度となる。女性は「主に自分がしている」が35.2%、「自分と家族が同程度している」が19.8%と全体と同程度となる。集積場等へのごみ出しは性別では差が小さい。

7. 集積場等へのごみ出し



- 主に自分がしている ■ 自分と家族が同程度している ■ 自分を手伝い程度している
- していない ■ 無回答

7. 集積場等へのごみ出し



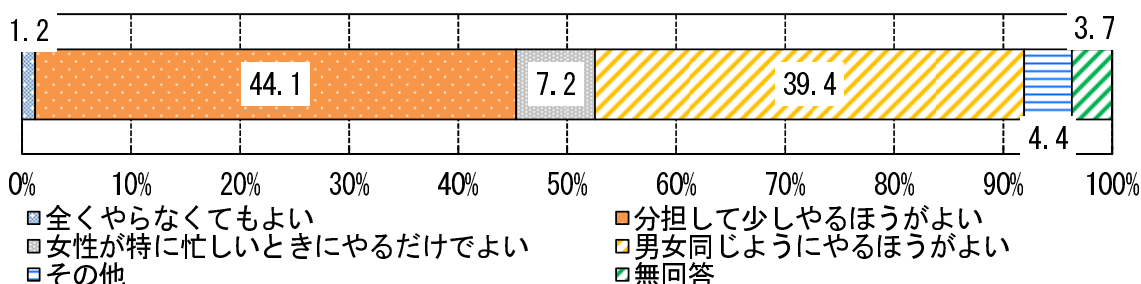
- 主に自分がしている ■ 自分と家族が同程度している ■ 自分を手伝い程度している
- していない ■ 無回答

性別、年齢別では、「主に自分がしている」と「自分と家族が同程度している」を合わせると、男性は40~49歳が最も高く、女性は、50~59歳で最も高い。男女を比べると、49歳以下は男性が高く、50歳以上は女性が高くなる。

問10 家事（主に炊事・掃除・洗濯・買い物など）や育児を男性（夫や父、男の子ども）がやることについて、どう思いますか。（1つだけ選び、○をしてください）

家事育児を男性がやることについて

回答数：734



「全くやらなくてもよい」が1.2%と低い。「分担して少しやるほうがよい」が44.1%、「男女同じようにやるほうがよい」が39.4%と高く、家事育児を男性がやることについては、前向きに取り組むほうがよいと思う割合は高い。

【家事や育児を男性がやることについて「その他」の主な内容】

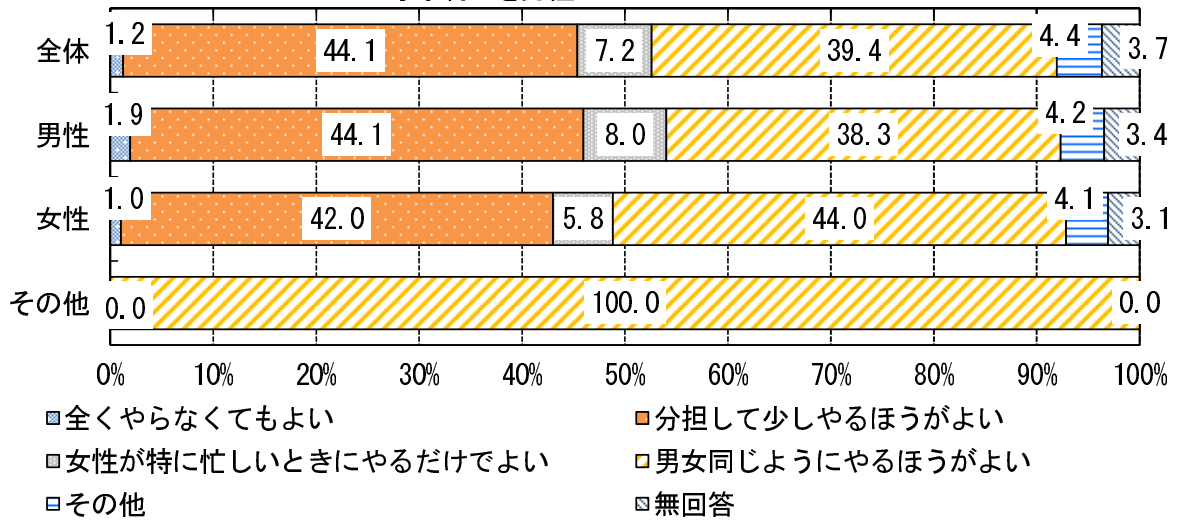
- その都度できる者がやれば良い
- その家庭に合うようやれば良い

【家事や育児を男性がやることについて「その他」の記述内容（一覧）】

- 男女関係なく必要ならやる(女性/18~29歳/会社員/高丘)
- その都度できるほうがやればよい(女性/30~39歳/パート・アルバイト/永田)
- その時にできる方がやればよい(女性/30~39歳/会社員/中野)
- 各人の得意不得意で分担すればよい(女性/30~39歳/公務員/中野)
- その家庭の事情によってかわってくるともおもうからどれとも言えない(女性/30~39歳/公務員/中野)
- その家庭に合うようやればよい(女性/30~39歳/農林業/平野)
- 家族みんなで楽しみながら家事をする方がよい(女性/40~49歳/パート・アルバイト/中野)
- 理想は4ですが、現実には2で満足しています。(女性/40~49歳/会社員/日野)
- 時と場合による(女性/50~59歳/公務員/平岡)
- 同時に仕事をどれだけするという量の分担ではなく、家事も育児もできることや必要は異なるので、生活の必要を満たしあうように関わるのが大切。(女性/60~69歳/家事専業/中野)
- その時出来る人がすればよい(女性/70歳以上/無職/中野)
- お互いのパートナーの期待値に応えるようにやるのがよい(男性/30~39歳/会社員/中野)
- 時間がある人間が男女問わずにやればよい(男性/40~49歳/会社員/中野)
- 炊事以外も含め分担すべき(男性/40~49歳/会社員/中野)
- それぞれの家庭の色でよいと思う(男性/40~49歳/公務員/平岡)
- できる方ができる時にやればよい(男性/50~59歳/会社員/高丘)

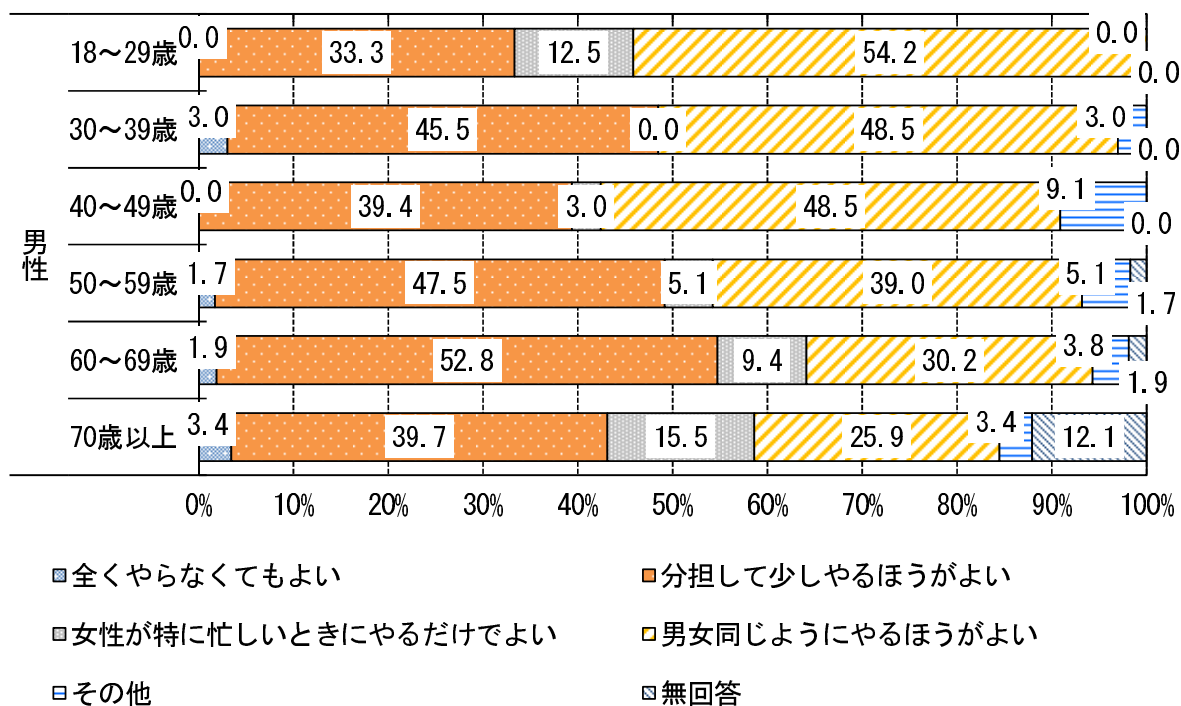
- 生活に無い状況なので答えられない。(男性／50～59 歳／会社員／平岡)
- できることはやる(男性／50～59 歳／無職／平岡)
- お互いなっとくずくでやる(男性／60～69 歳／パート・アルバイト／平野)
- その家族で決めてやれば良い。(男性／60～69 歳／自営業／中野)
- 妻死別(男性／70 歳以上／無職／延徳)
- 特に役割分担しなくて良い(男性／70 歳以上／無職／平野)
- やるべき事をやれば良い(無回答／30～39 歳／会社員／中野)
- お互いにとくなところをやる(無回答／30～39 歳／公務員／中野)
- どうも思わない。depends on a family(無回答／30～39 歳／農林業／高丘)
- 男女が働いていれば同じように、女性が働いてなければ女性が中心にやれば良いと思います。(無回答／40～49 歳／家事専業／豊井)
- 気づいた時やる。その時の状況(無回答／40～49 歳／会社員／豊井)
- 各家庭の状況による(無回答／40～49 歳／自営業／平岡)
- 共働なら家事、育児も同等にやり、専業なら女性がやるべき(無回答／50～59 歳／自営業／平野)
- お互いの話し合いの中で行えれば良いと思う(無回答／60～69 歳／農林業／倭)

家事育児を男性がやることについて

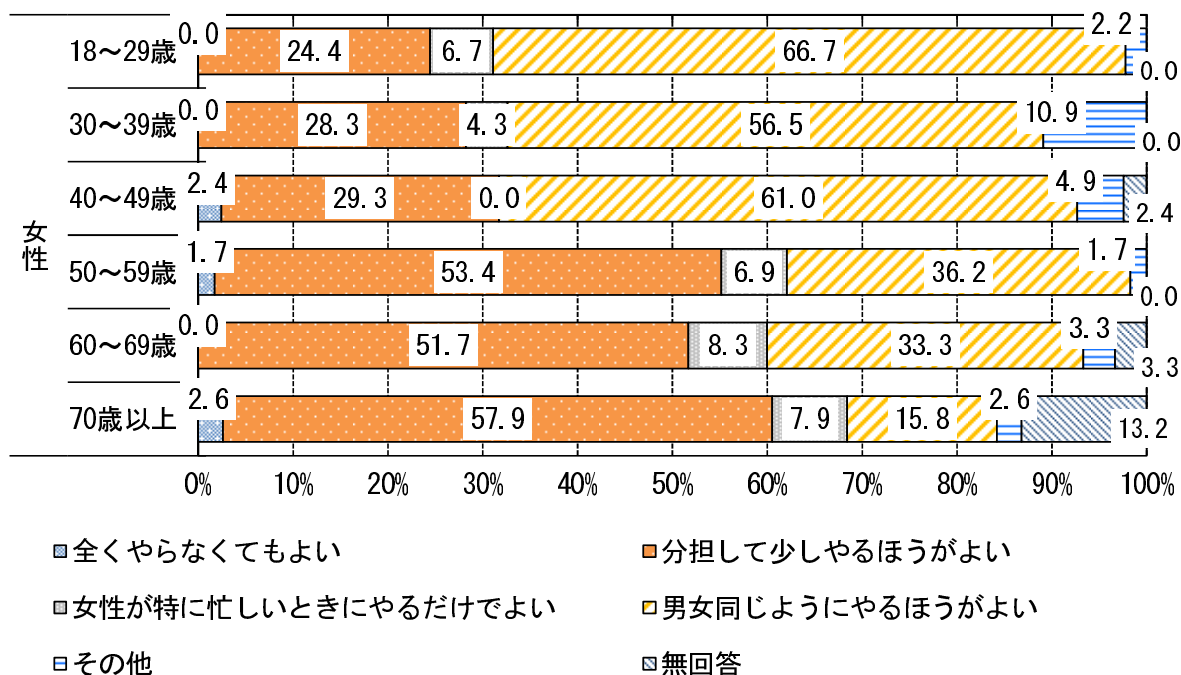


性別では、男女ともに、「分担して少しやるほうがよい」と「男女同じようにやるほうがよい」が40%程度となり、家事育児を男性がやることについては、前向きに取り組むほうがよいと思う割合高い。

家事育児を男性がやることについて



家事育児を男性がやることについて



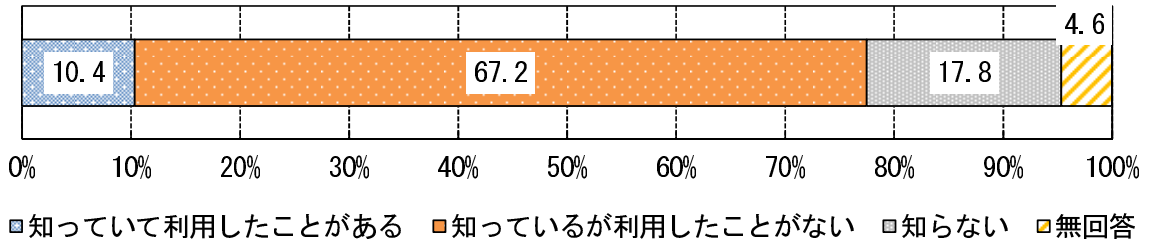
性別、年齢別では、男女ともに年齢が高くなるほど「男女同じようにやるほうがよい」が低くなる傾向がある。女性は年齢が高くなるほど、「分担して少しやるほうがよい」が高くなる傾向がある。年齢が高いほど、男性の家事育児に対しては手伝い程度が良いと思う傾向があると考えられる。

育児・介護休業制度について

問11-1 あなたは、育児・介護休業制度をご存知ですか。また利用したことがありますか。(1つだけ選び、○をしてください)

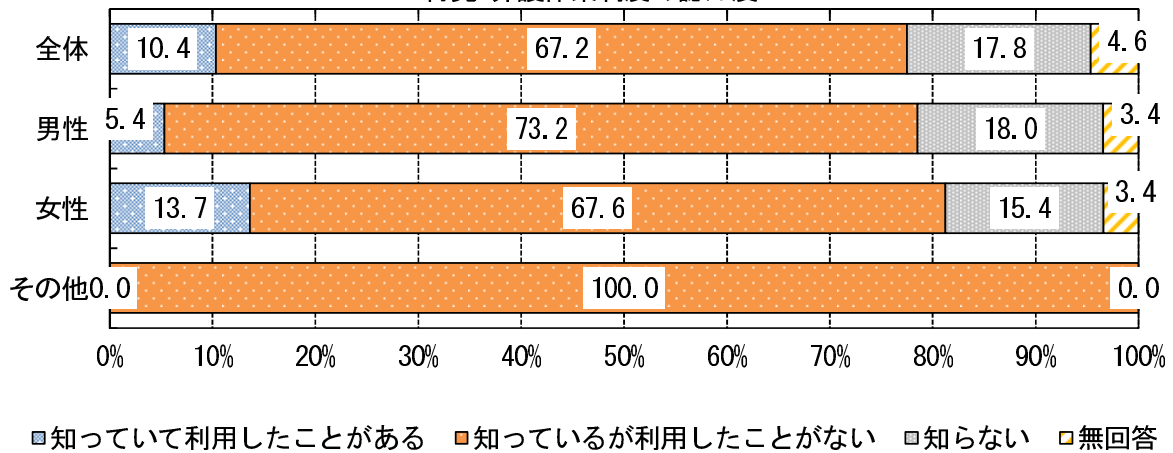
育児・介護休業制度の認知度

回答数：734



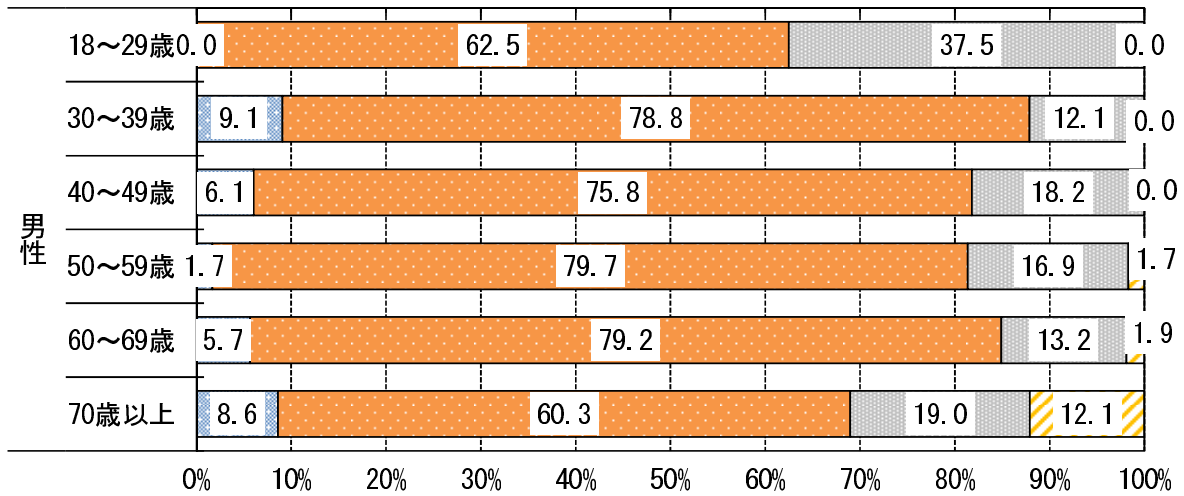
「知っている利用したことがある」と「知っているが利用したことがない」を合わせると、77.6%となり認知度は高い。一方、「知っている利用したことがある」が10.4%と認知度は高いが実際に利用したことがある割合は低い。

育児・介護休業制度の認知度



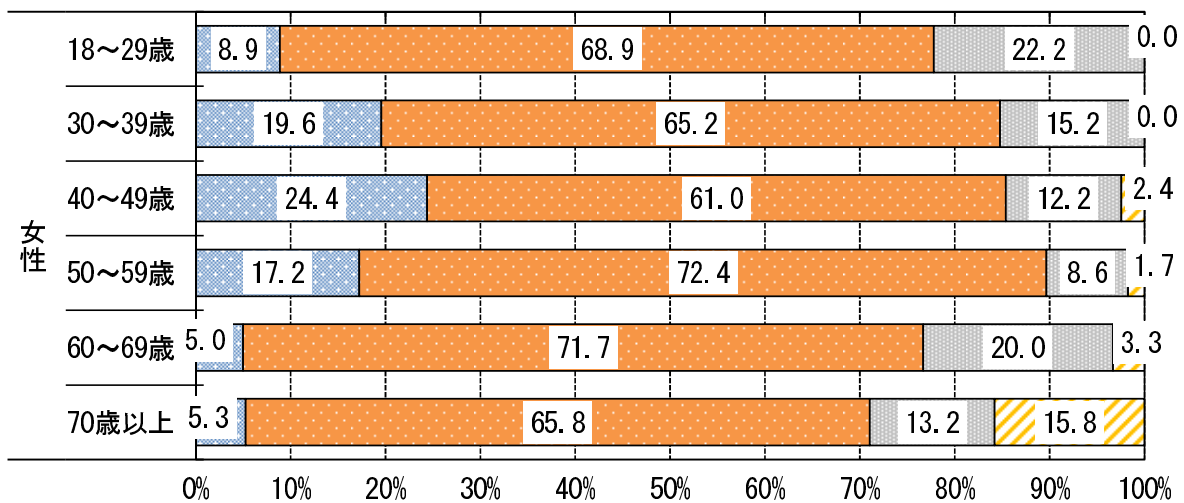
性別では、男女ともに認知度は80%となるが、「知っている利用したことがある」は、男性が5.4%、女性が13.7%と低く、特に男性で低い。

育児・介護休業制度の認知度



■知っているが利用したことがある ■知っているが利用したことがない ■知らない □無回答

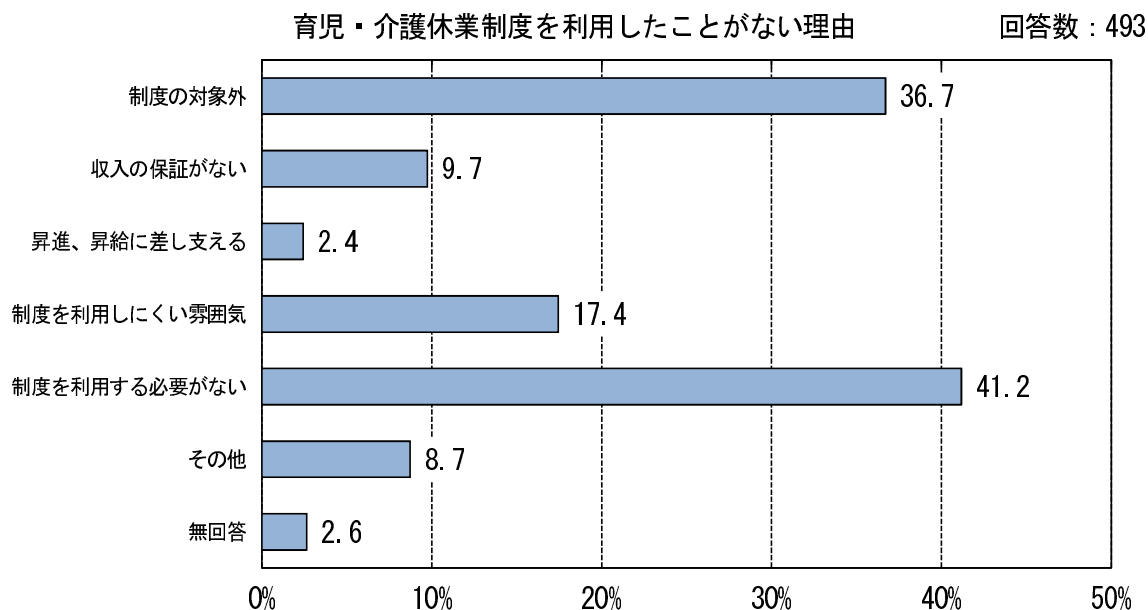
育児・介護休業制度の認知度



■知っているが利用したことがある ■知っているが利用したことがない ■知らない □無回答

性別、年齢別では、男性の18~29歳と70歳以上、女性の70歳以上で認知度が70%程度以下と全体と比べて低い。「知っているが利用したことがある」は、女性の59歳以下が高い傾向がある。70歳以上を除いて、男性のほうが女性より利用した割合が低い。

問11-2 問11-1で、2を選んだ方に伺います。利用したことがない理由は何ですか。(3つまで選び、○をしてください)



「制度を利用する必要がない」が41.2%と最も高く、次いで、「制度の対象外」が36.7%、「制度を利用しにくい雰囲気」が17.4%となる。

【育児・介護休業を利用したことがない理由「その他」の主な内容】

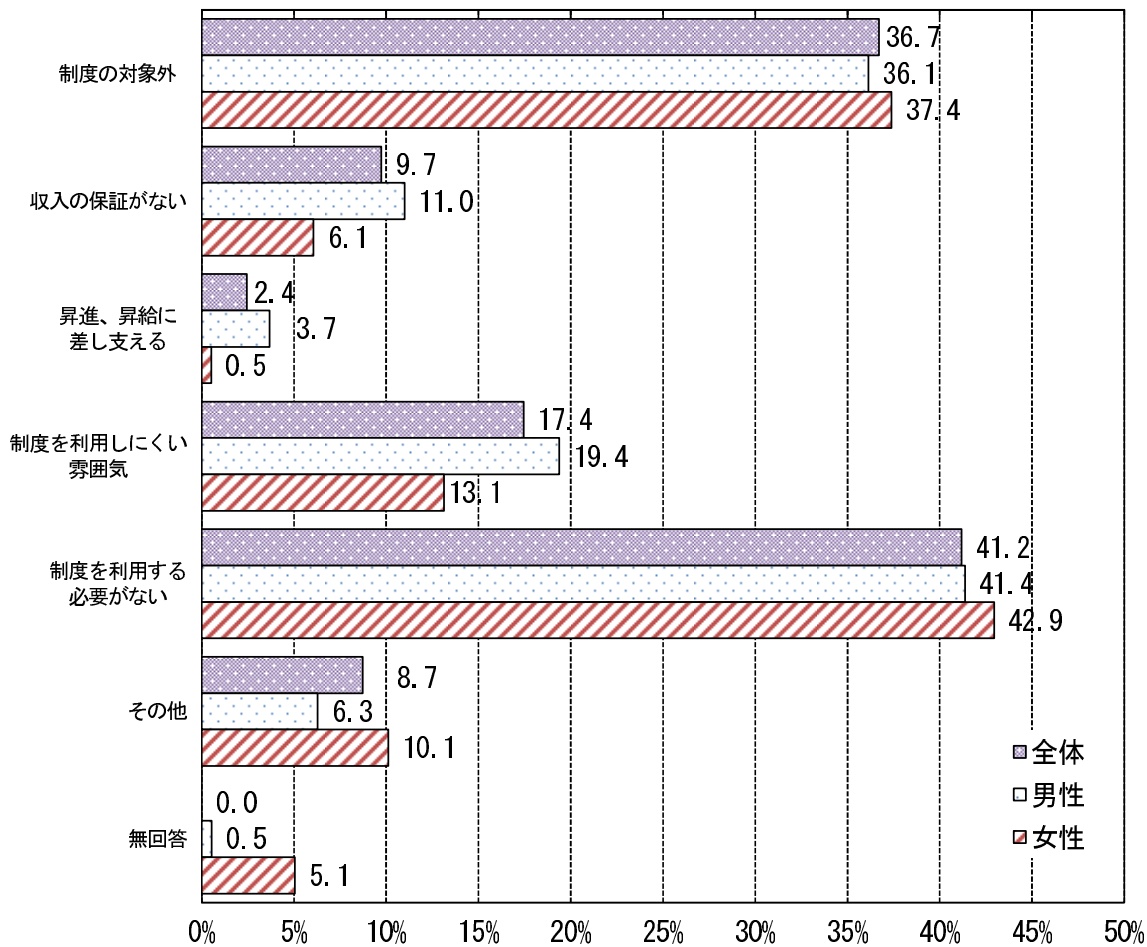
- 対象者がいても制度がなかった
- 自営業は、制度自体がない
- 勤務先の規定や状況により取得できなかった

【育児・介護休業を利用したことがない理由「その他」の記述内容（一覧）】

- 会社とその制度がない(女性/18~29歳/パート・アルバイト/平岡)
- まだ18歳(女性/18~29歳/学生/永田)
- 対象となる人がいない(女性/18~29歳/学生/中野)
- 産休は、もらえたが、育休は、もらえなかったため。就職して1年未満のため。(女性/18~29歳/無職/中野)
- ギリギリの人数しかいないので自分が制度を利用すると残った人の負担が大きすぎるので、退職した。(女性/30~39歳/パート・アルバイト/科野)
- 前職、産後、復帰しても通勤できないため退職した。(女性/30~39歳/パート・アルバイト/中野)
- 実家だから(女性/30~39歳/農林業/平野)
- 育児は終わり現在介護する方がいない(女性/50~59歳/家事専業/中野)
- 職場で取得したが、取得したら意地悪された。(女性/50~59歳/会社員/中野)

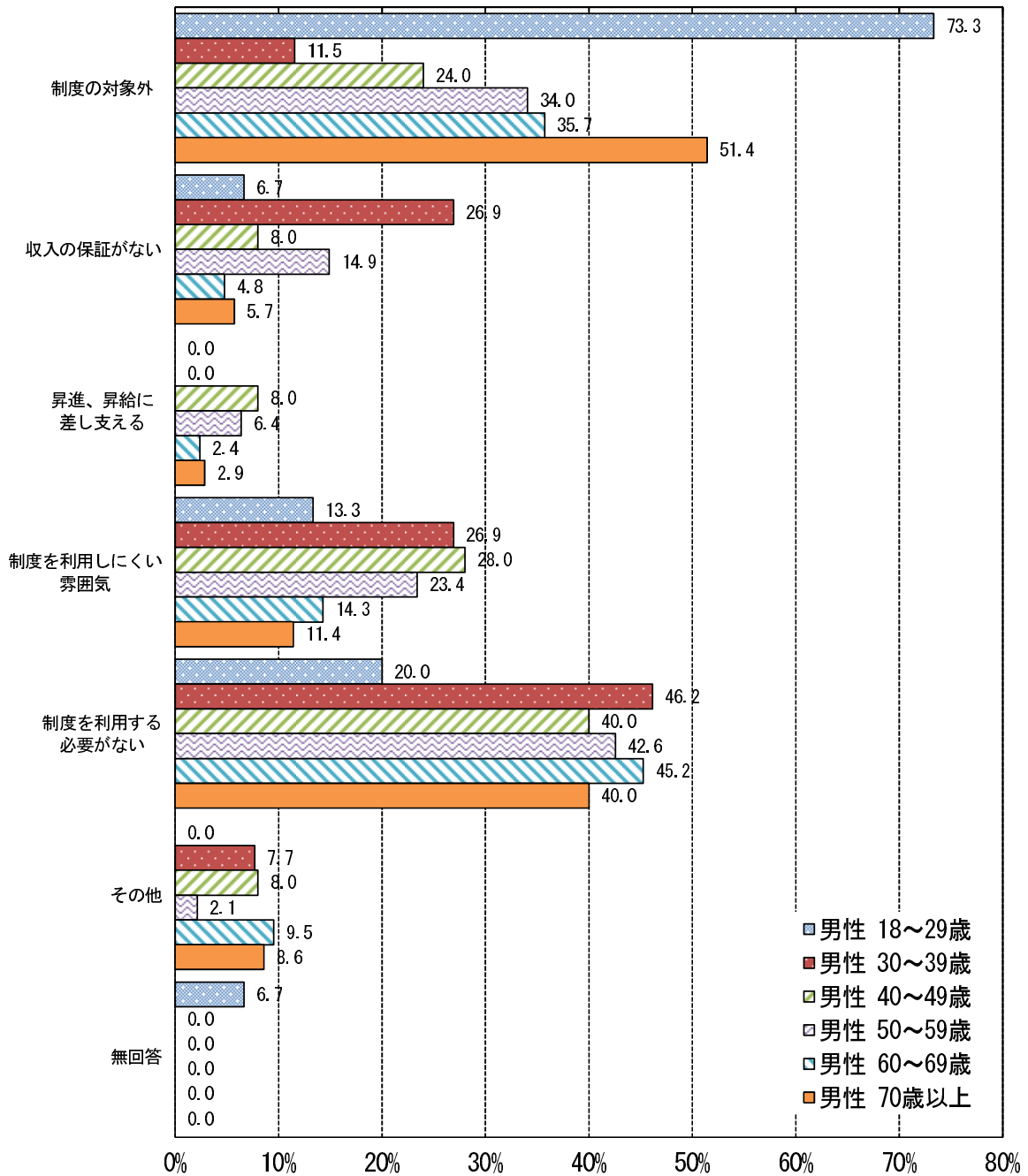
- 親と同居していないと使えない規約だったため実家の母の介護の時は使えなかった（介護休業制度）。育休制度は自分が出産した頃はまだなかったため産前6週産後8週の産休しかとれなかった。（女性／50～59歳／会社員／中野）
- 必要がなかったから（女性／50～59歳／公務員／平野）
- 今は利用しないで生活できている（女性／60～69歳／パート・アルバイト／平野）
- 制度が出きる前の時代（女性／60～69歳／家事専業／中野）
- 昔はそのような制度はなかったように思います。（女性／60～69歳／家事専業／中野）
- 私は結婚するまで仕事をして、専業主婦になり子供が生まれてから主人がとりました（女性／60～69歳／家事専業／平野）
- 一人暮らしなので（女性／60～69歳／自営業／中野）
- 利用する必要がない（女性／60～69歳／無回答／中野）
- 家族が多いため（女性／70歳以上／家事専業／平岡）
- 妊娠中は専業主婦だった（その他／30～39歳／パート・アルバイト／平岡）
- 収入がへるので使えない（男性／30～39歳／会社員／中野）
- 農家はどうすれば良いのか？無理にきまっている。（男性／30～39歳／農林業／長丘）
- 結婚していない為（男性／40～49歳／会社員／平岡）
- 自分には子供がいらないから（男性／40～49歳／公務員／中野）
- 子供がいらない為（男性／50～59歳／会社員／延徳）
- 育児休業⇒子どもなし 介護⇒夫婦分担しながら行なった（男性／60～69歳／自営業／平野）
- 制度を利用する機会がなかった（男性／60～69歳／農林業／長丘）
- 農業の為共同で子そだてしてきた。（男性／60～69歳／農林業／日野）
- 必要とする時期には、十分な制度が整っていなかった。（男性／60～69歳／無職／中野）
- 前にはなかった（男性／70歳以上／農林業／中野）
- 育児・親の介護をした当時には制度の利用がしにくかった様に思う。父親の介護を母と6年間自宅でした。丁度転勤の内示があり、拒否したのでその後の昇進は無く定年まで働いた。（男性／70歳以上／無職／平野）
- 未だこの制度が無い時代。（男性／70歳以上／無職／豊井）
- 業務都合による（無回答／30～39歳／会社員／平野）
- 今のところその機会がないから（無回答／40～49歳／会社員／中野）
- 自営業なので（無回答／60～69歳／自営業／日野）
- 自分が子育てをしている頃は皆産休だけ取って復帰していました。（無回答／60～69歳／無回答／中野）
- 転勤、出向での単身赴任が長く利用できなかった（無回答／60～69歳／無職／中野）
- 介護者がいる時は、家にいたので今の会社は、制度有（無回答／70歳以上／パート・アルバイト／中野）
- 自分が働いていた頃はこういう制度がなかった（無回答／70歳以上／家事専業／中野）
- 昔はなかったが今後は利用したい（無回答／70歳以上／自営業／平岡）
- 制度がなかったから（無回答／70歳以上／無職／平野）

育児・介護休業制度を利用したことがない理由



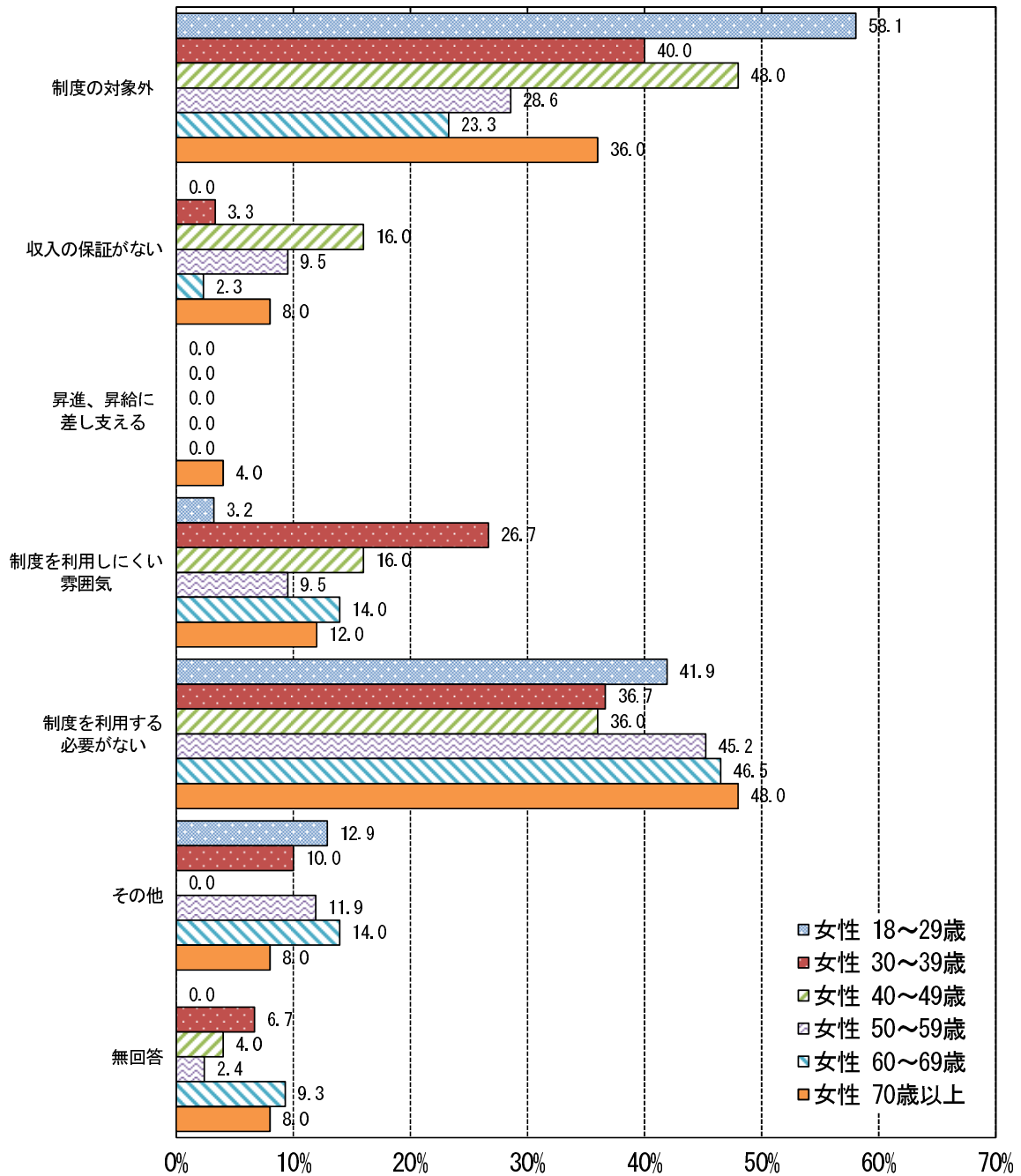
性別では、割合の高い「制度を利用する必要がない」と「制度の対象外」では、性別での回答の差は小さい。「制度を利用しにくい雰囲気」「収入の保証がない」は男性のほうが女性と比べて高い。男性のほうが、仕事を懸念し、利用していないと考えられる。

育児・介護休業制度を利用したことがない理由



性別、年齢別では、男性の18~29歳で「制度の対象外」が73.3%と最も高い。30~69歳では「制度を利用する必要がない」が最も高く、次いで、「制度を利用しにくい雰囲気」が高い。30~39歳では、「収入の保証がない」が他の年齢に比べて高い。男性は仕事を懸念して利用しないケースがあると考えられる。

育児・介護休業制度を利用したことがない理由

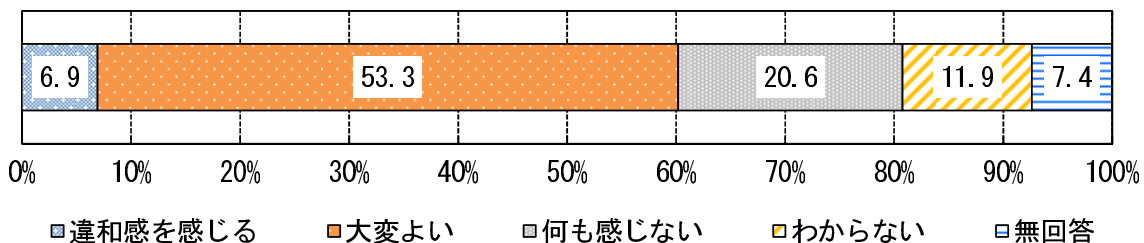


性別、年齢別では、女性は、49歳以下で「制度の対象外」が高く、50歳以上で「制度を利用する必要がない」が高い。育児休暇が必要となると考えられる30～39歳で、「制度を利用しにくい雰囲気」が他の年齢に比べて高い。

問12 育児休業を取って育児をしている男性についてどう思いますか。(1つだけ選び、○をしてください)

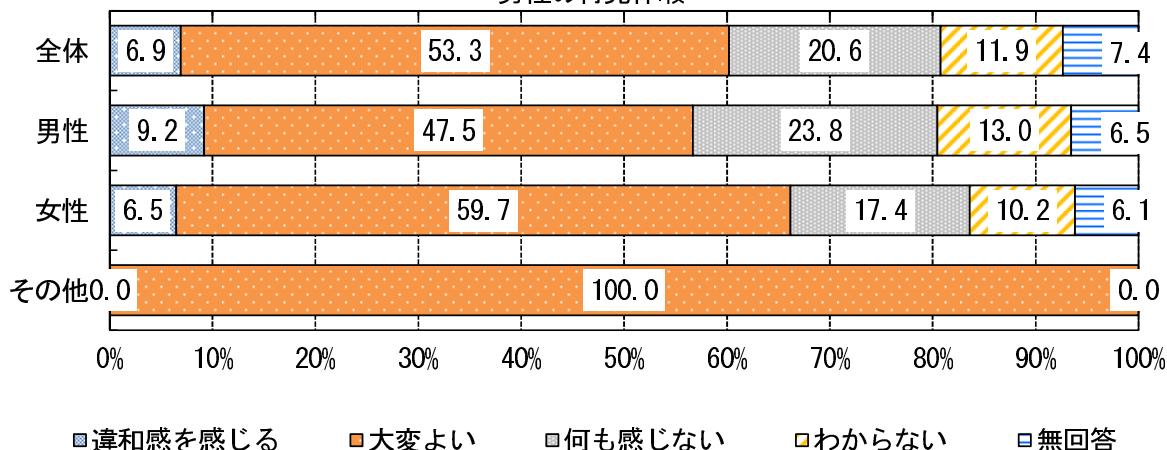
男性の育児休暇

回答数：734



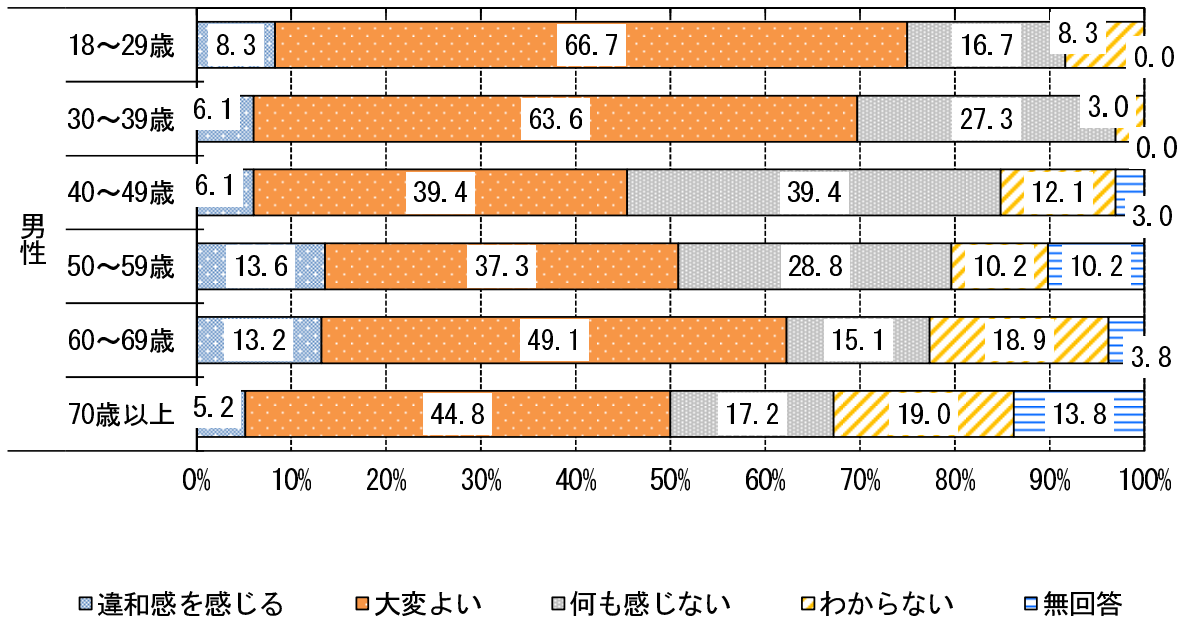
「違和感を感じる」が6.9%と低く、「大変よい」が53.3%と半数を超える。「わからない」は20.6%となる。

男性の育児休暇

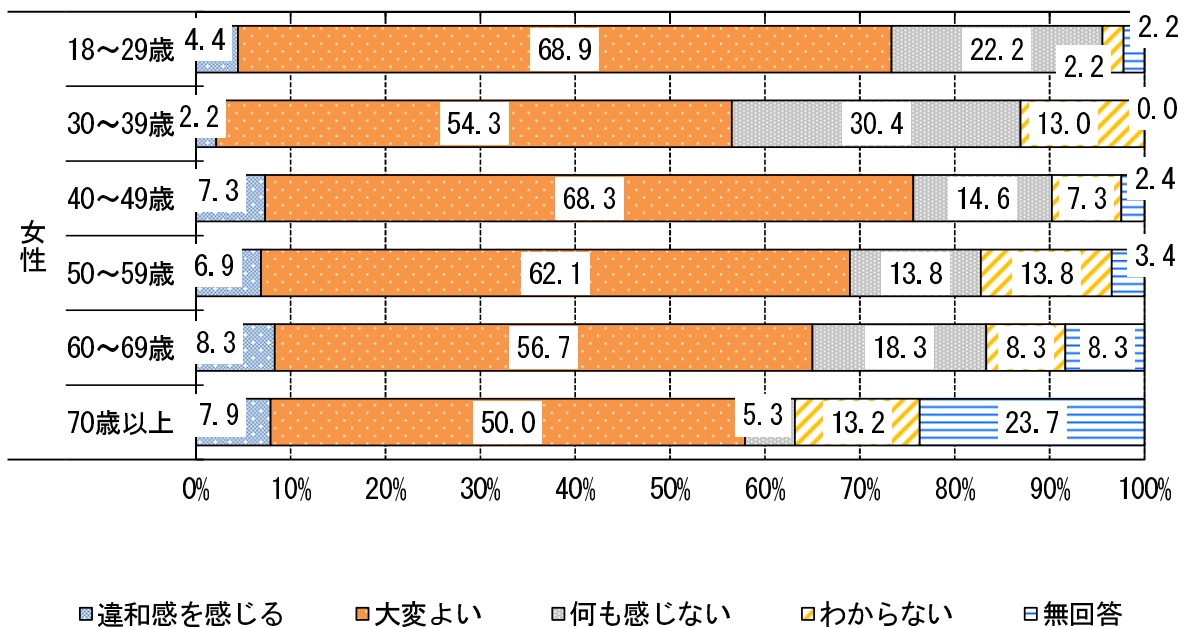


性別では、「違和感を感じる」は、男性が9.2%、女性が6.5%と男性のほうが高い。「大変よい」は、男性が47.5%、女性が59.7%と女性のほうが高い。男性のほうが女性より、育児休暇取得に違和感を感じている。

男性の育児休暇



男性の育児休暇

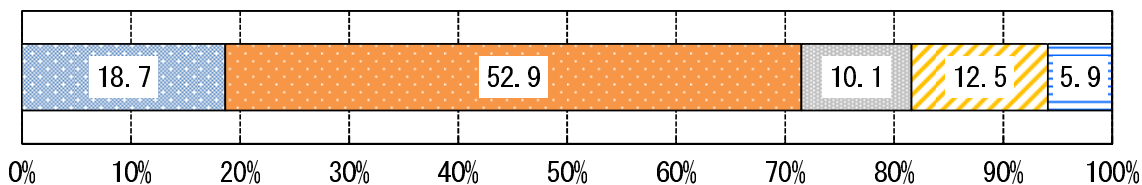


性別、年齢別では、「違和感を感じる」が男性の49歳以下と比べて、男性の50～69歳で高くなり、加えて、「大変よい」が男性の39歳以下と比べて、男性の40歳以上で低くなり、年齢間で育児休暇に対する認識に差がある。女性は、全体を通じて、「大変よい」が半数以上となるが、「違和感を感じる」は39歳以下と比べて、40歳以上で高くなり、認識に差がある。

問13 次の項目について、あなたのお考えに最も近いと思うものはどれですか。(各項目、1つだけ選び、○をしてください)

1. 女性の方が、子育て・介護に向いている

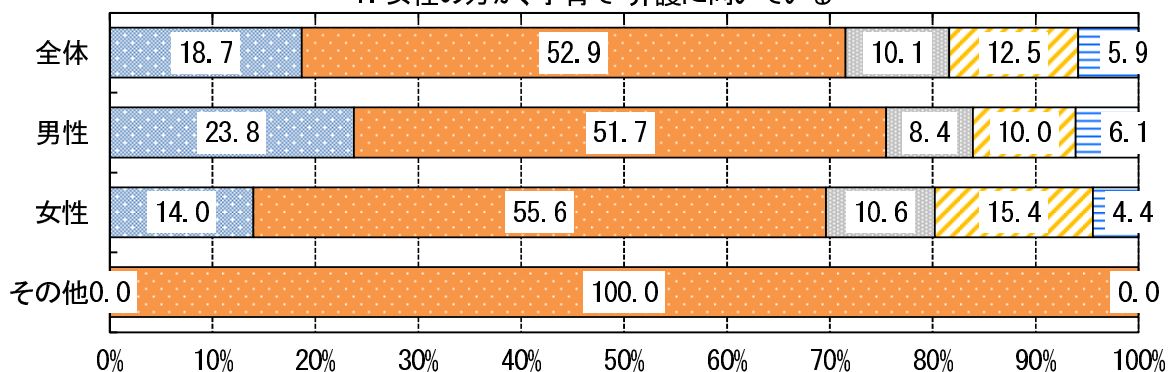
回答数：734



■そう思う ■どちらかといえばそう思う □どちらかといえばそう思わない □そう思わない □無回答

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると、71.6%となり、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた22.6%を大きく上回る。

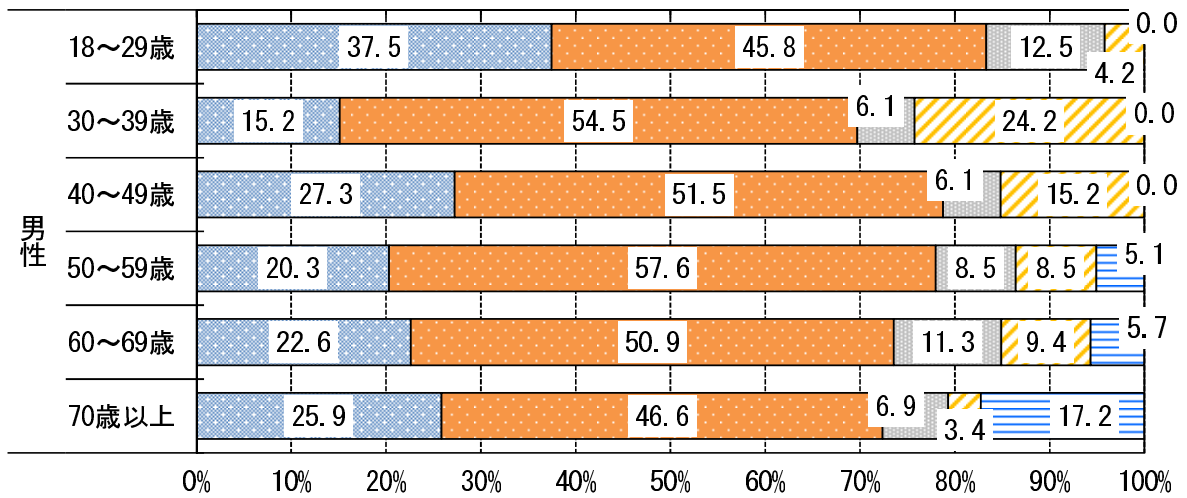
1. 女性の方が、子育て・介護に向いている



■そう思う ■どちらかといえばそう思う □どちらかといえばそう思わない □そう思わない □無回答

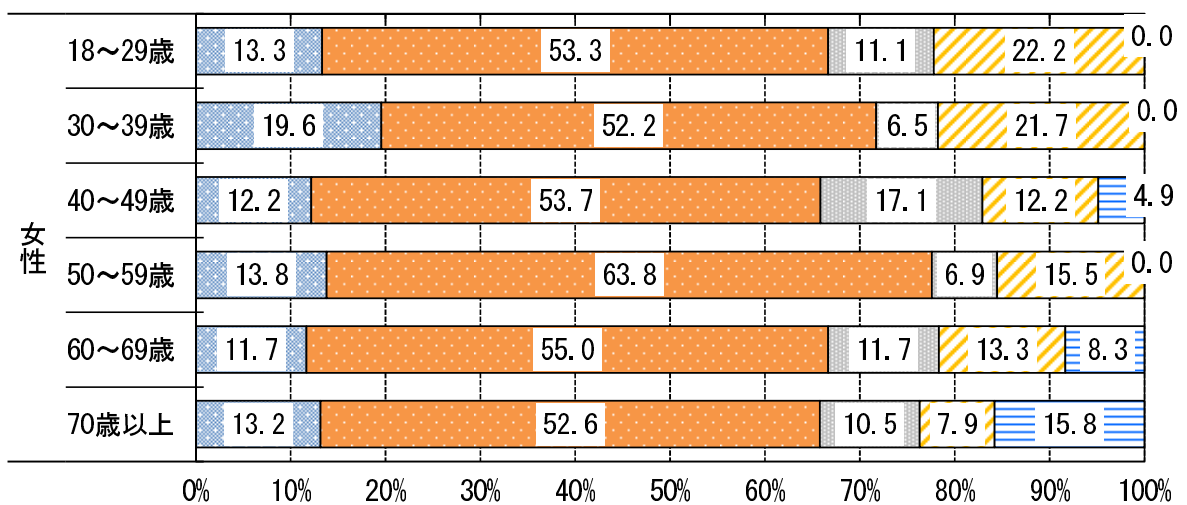
性別では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると、男性は75.5%、女性は69.6%と男性のほうが女性より高い。

1. 女性の方が、子育て・介護に向いている



■そう思う ■どちらかといえばそう思う □どちらかといえばそう思わない □そう思わない □無回答

1. 女性の方が、子育て・介護に向いている

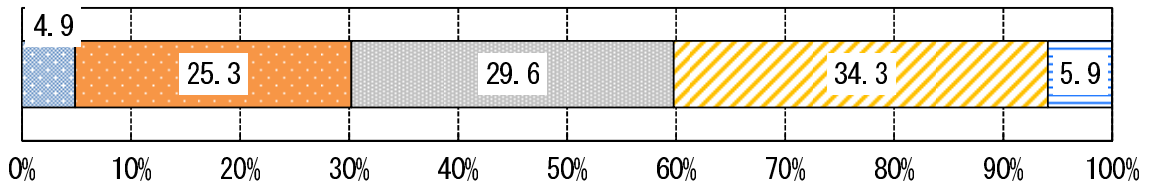


■そう思う ■どちらかといえばそう思う □どちらかといえばそう思わない □そう思わない □無回答

性別、年齢別では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると、男性は18～29歳が最も高く、女性は50～59歳が最も高い。18～29歳では男性が83.3%、女性が66.6%と他の年齢に比べて差が大きい。

2. 家庭で介護、看護が必要になった時、女性が仕事を辞める（休む）べきだ

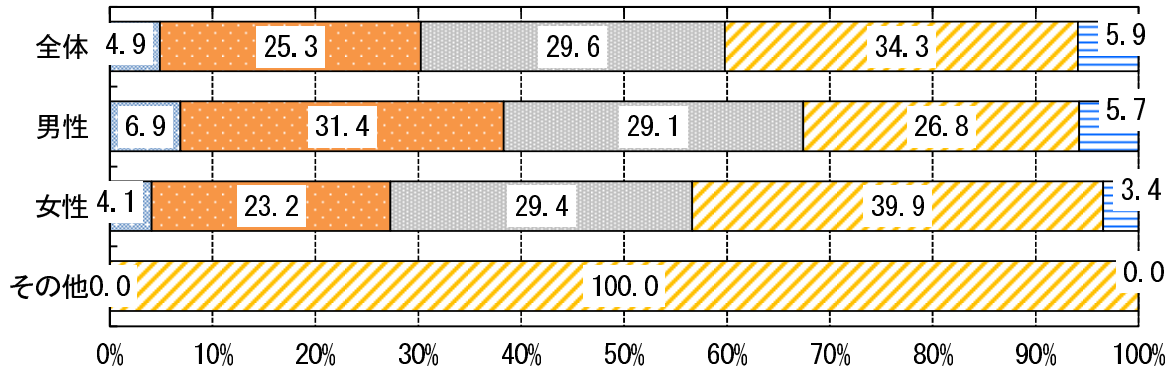
回答数：734



□そう思う □どちらかといえばそう思う □どちらかといえばそう思わない □そう思わない □無回答

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると、30.2%となり、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた63.9%を大きく下回る。

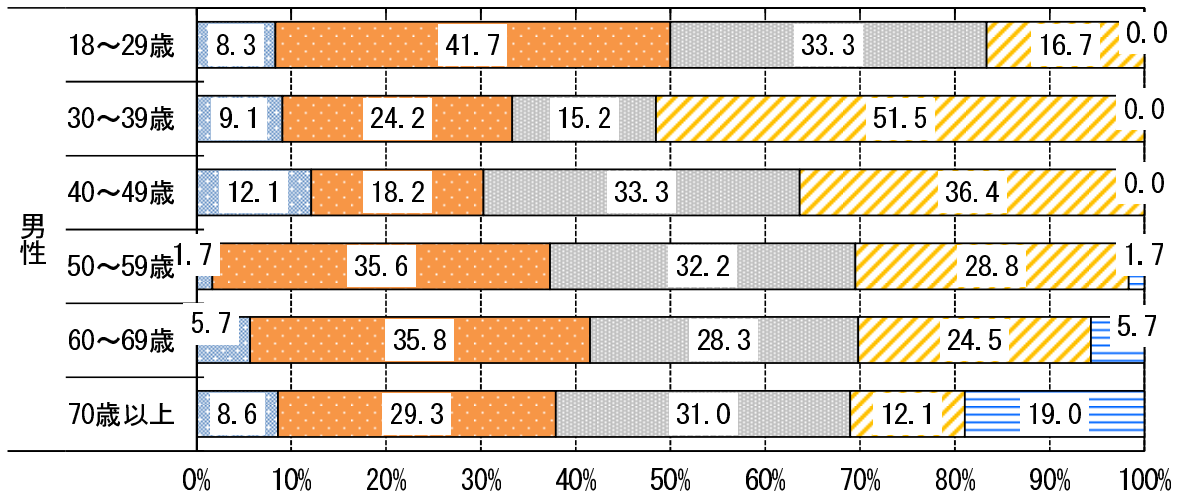
2. 家庭で介護、看護が必要になった時、女性が仕事を辞める（休む）べきだ



□そう思う □どちらかといえばそう思う □どちらかといえばそう思わない □そう思わない □無回答

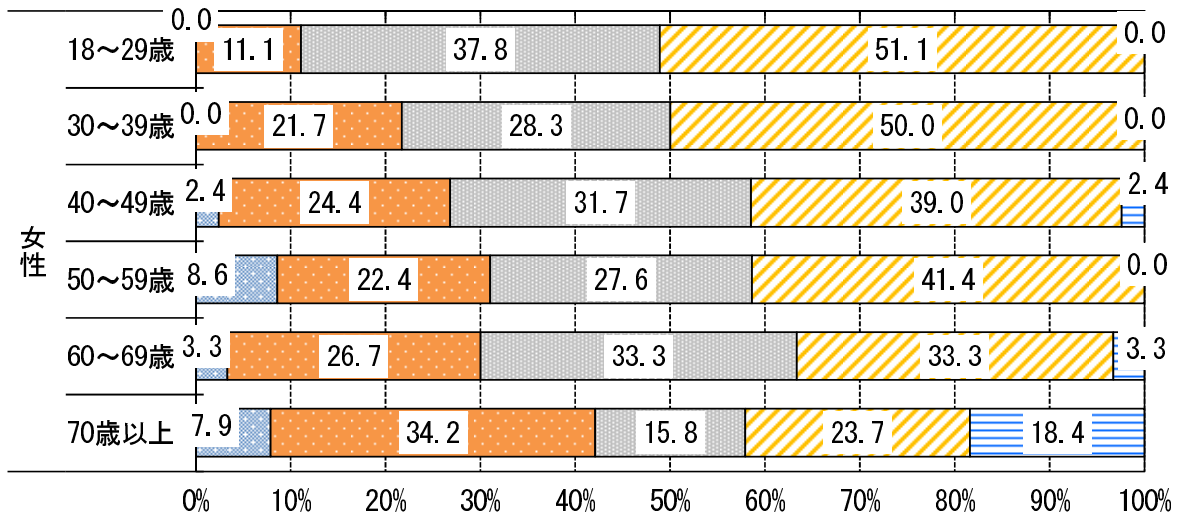
性別では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると、男性は38.3%、女性は27.3%となり、男性のほうが女性より高い。

2. 家庭で介護、看護が必要になった時、女性が仕事を辞める(休む)べきだ



□そう思う □どちらかといえばそう思う □どちらかといえばそう思わない □そう思わない □無回答

2. 家庭で介護、看護が必要になった時、女性が仕事を辞める(休む)べきだ

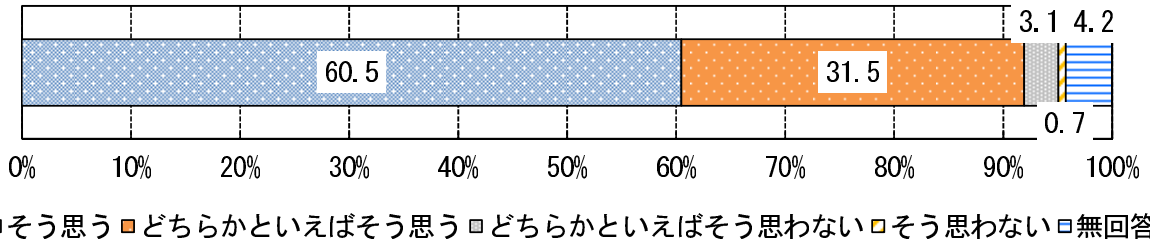


□そう思う □どちらかといえばそう思う □どちらかといえばそう思わない □そう思わない □無回答

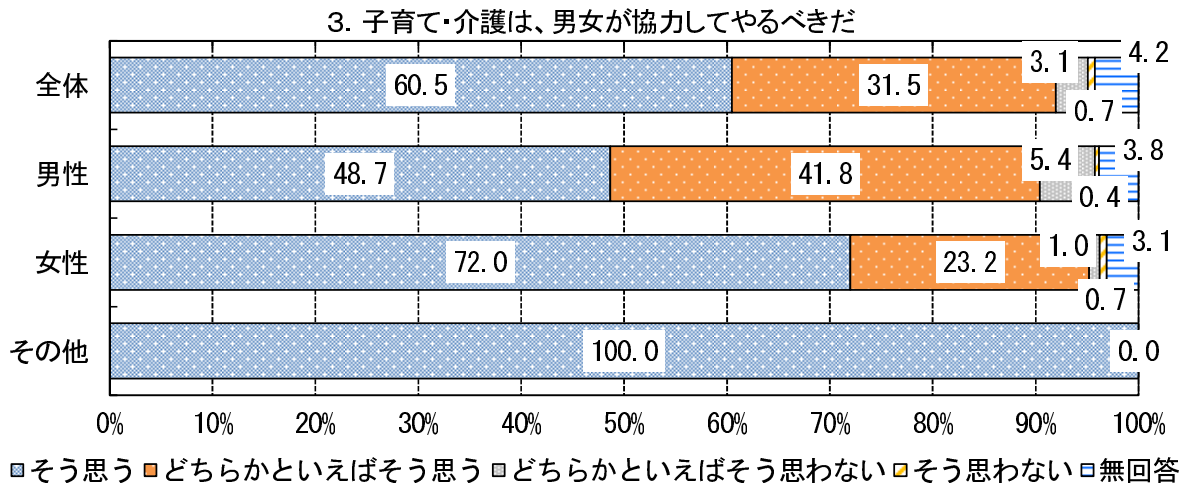
性別、年齢別では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると、男性は18~29歳が最も高く、女性は70歳以上が最も高い。18~29歳では男性が50.0%、女性が11.1%と他の年齢に比べて差が大きい。

3. 子育て・介護は、男女が協力してやるべきだ

回答数：734

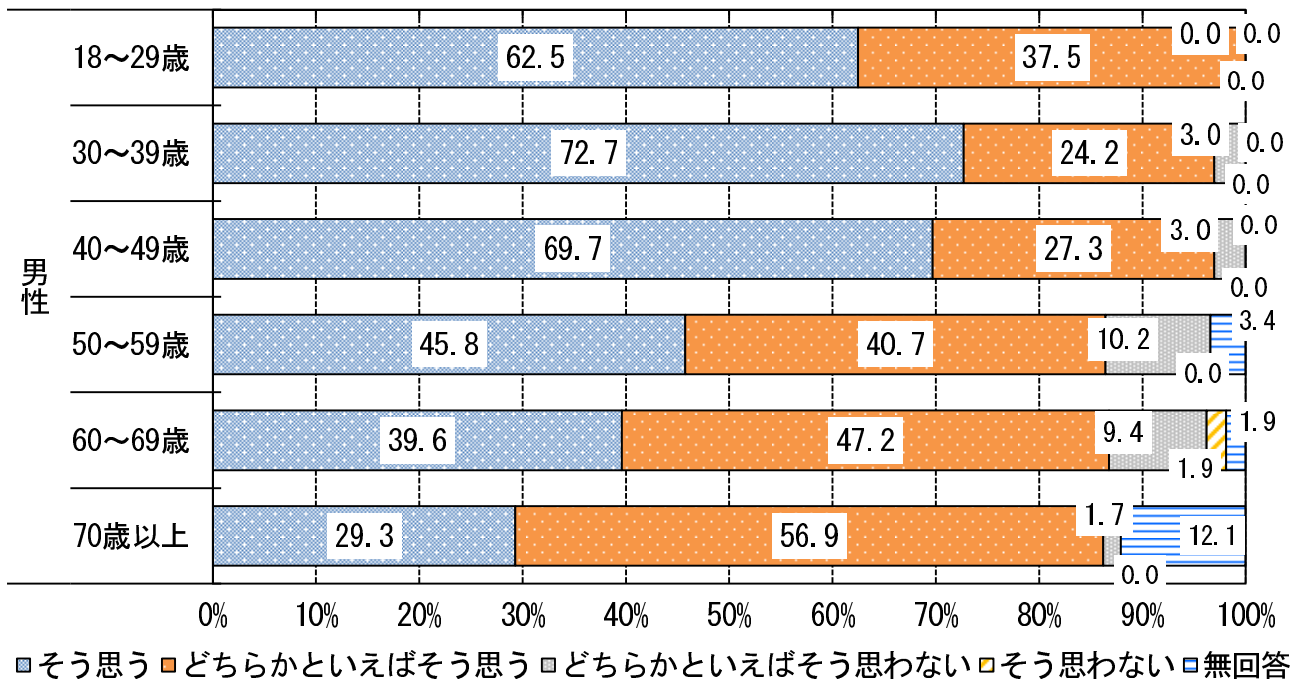


「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると、92.0%となり、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた3.8%を大きく上回る。

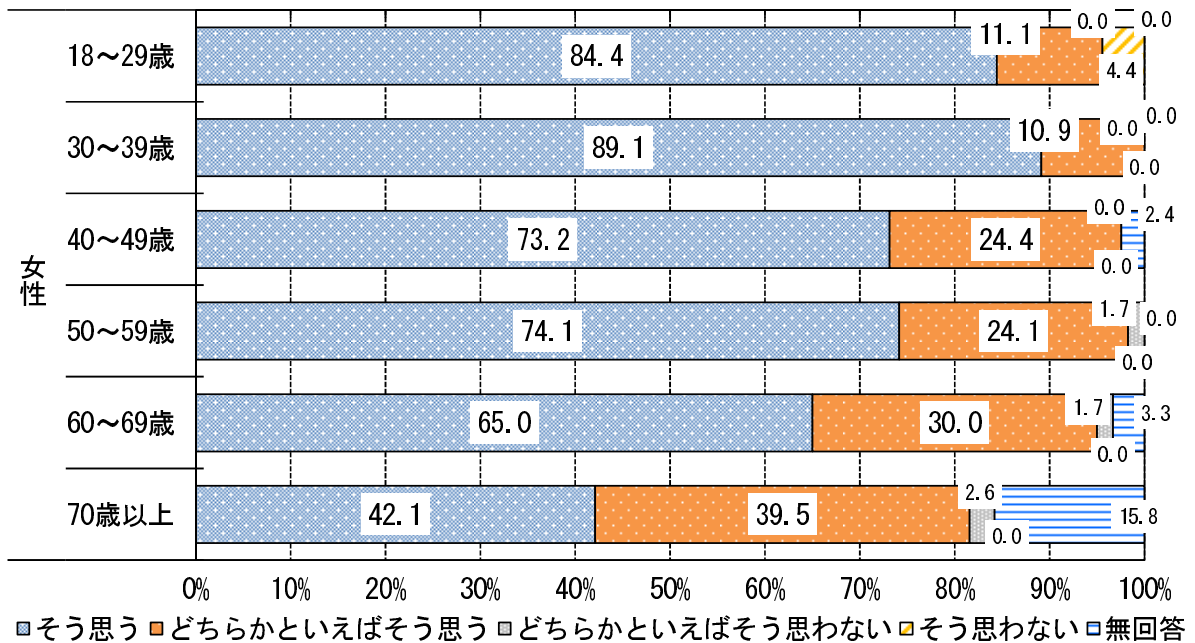


性別では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると、男性は90.5%、女性は95.2%と女性のほうが男性より高い。

3. 子育て・介護は、男女が協力してやるべきだ



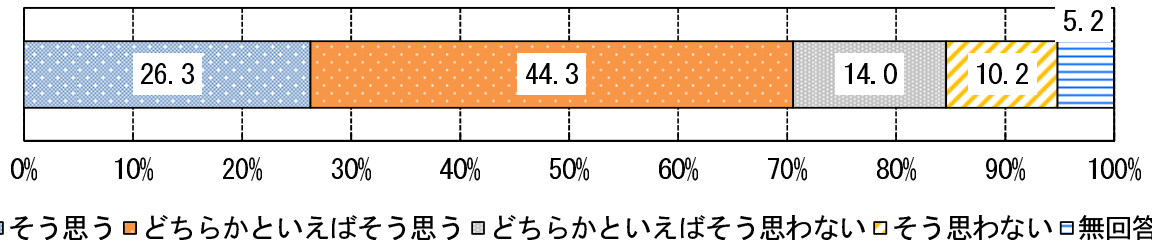
3. 子育て・介護は、男女が協力してやるべきだ



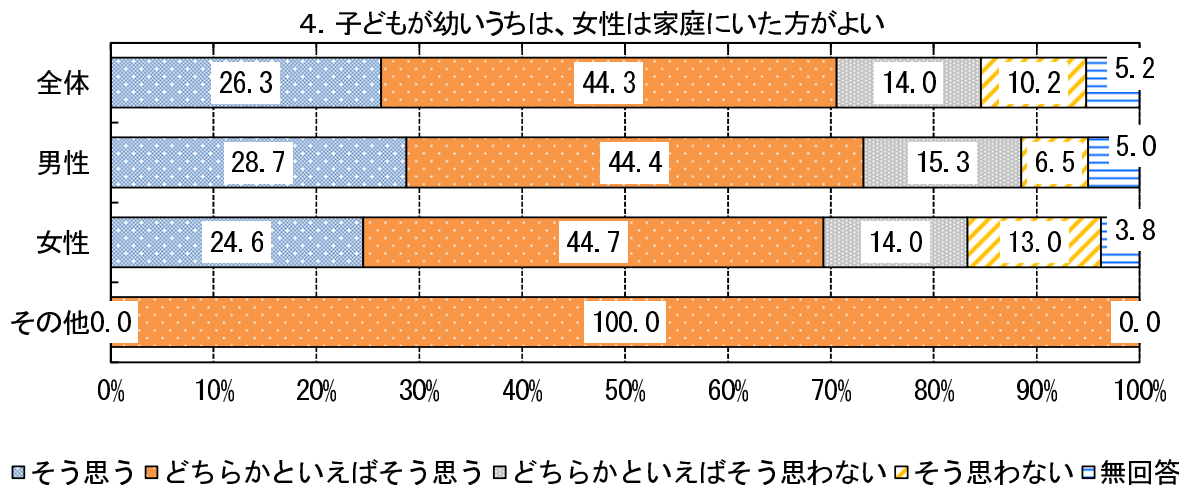
性別、年齢別では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると、男女ともに年齢が低いほうが「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が高い傾向がある。

4. 子どもが幼いうちは、女性は家庭にいた方がよい

回答数：734

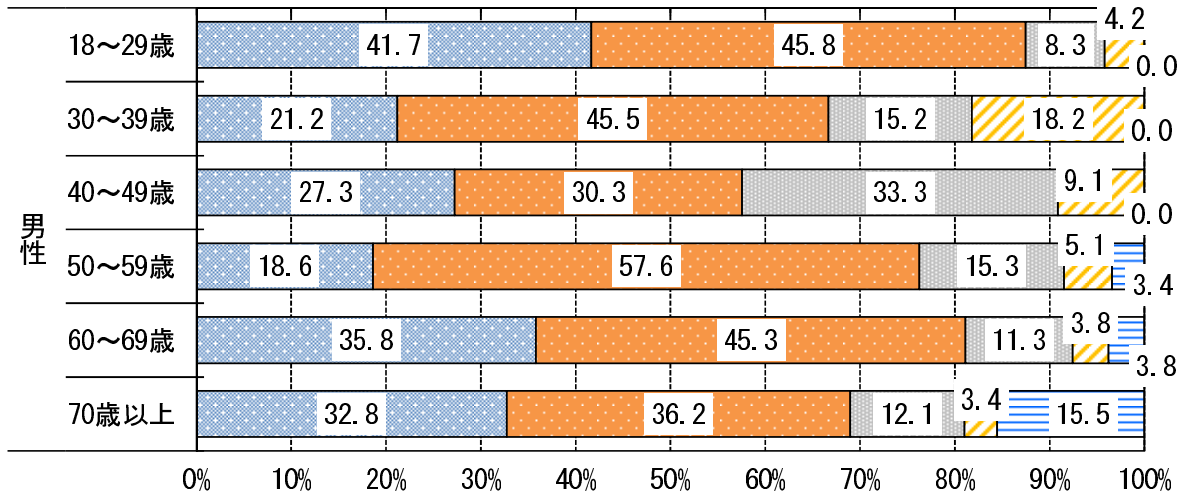


「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると、70.6%となり、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた24.2%を大きく上回る。



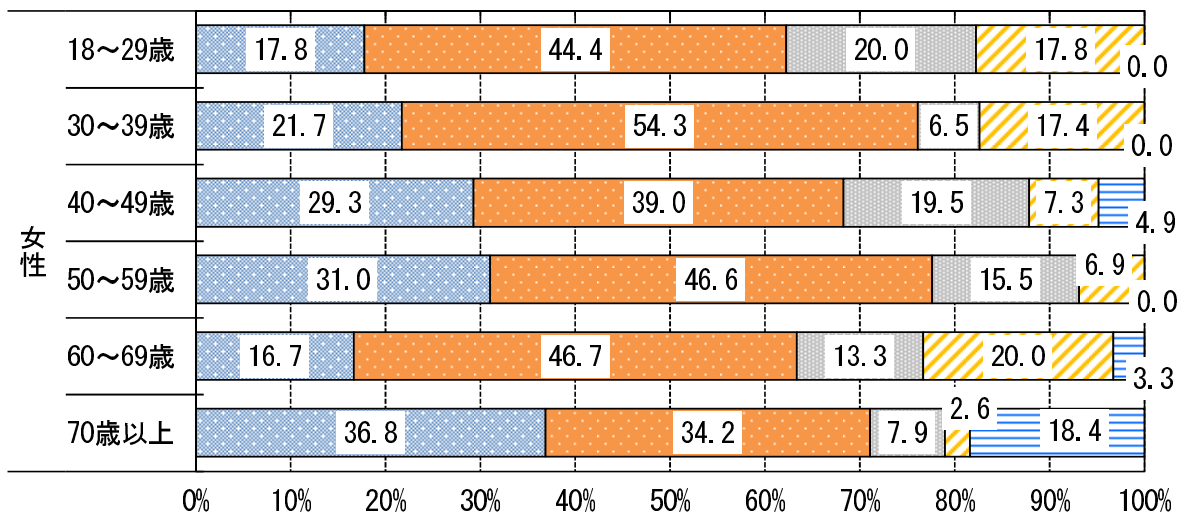
性別では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると、男性は73.1%、女性は69.3%と70%程度となり、男性のほうが女性より高い。

4. 子どもが幼いうちは、女性は家庭にいた方がよい



■そう思う ■どちらかといえばそう思う □どちらかといえばそう思わない □そう思わない □無回答

4. 子どもが幼いうちは、女性は家庭にいた方がよい



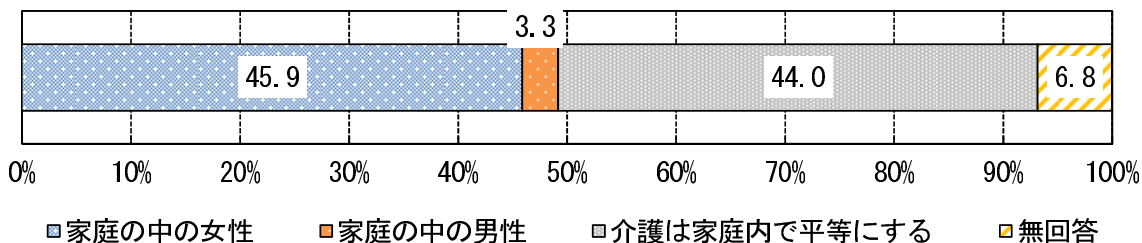
■そう思う ■どちらかといえばそう思う □どちらかといえばそう思わない □そう思わない □無回答

性別、年齢別では、「そう思う」「どちらかとそう思う」を合わせると、男性は18~29歳が最も高く、女性は50~59歳が最も高い。18~29歳では男性が87.5%、女性が62.2%と他の年齢に比べて差が大きい。また、「そう思う」「どちらかとそう思う」を合わせると、男性は40~49歳で、女性は60~69歳で最も低い。

問14 あなたの家庭で介護を必要とする人がいたとして、主に介護をする人は誰ですか。(1つだけ選び、○をしてください)

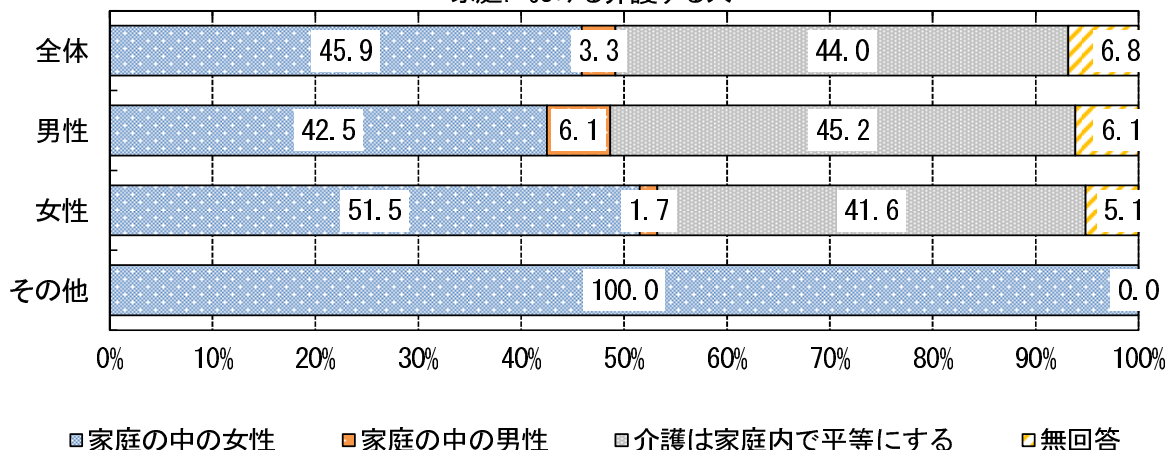
家庭における介護する人

回答数：734



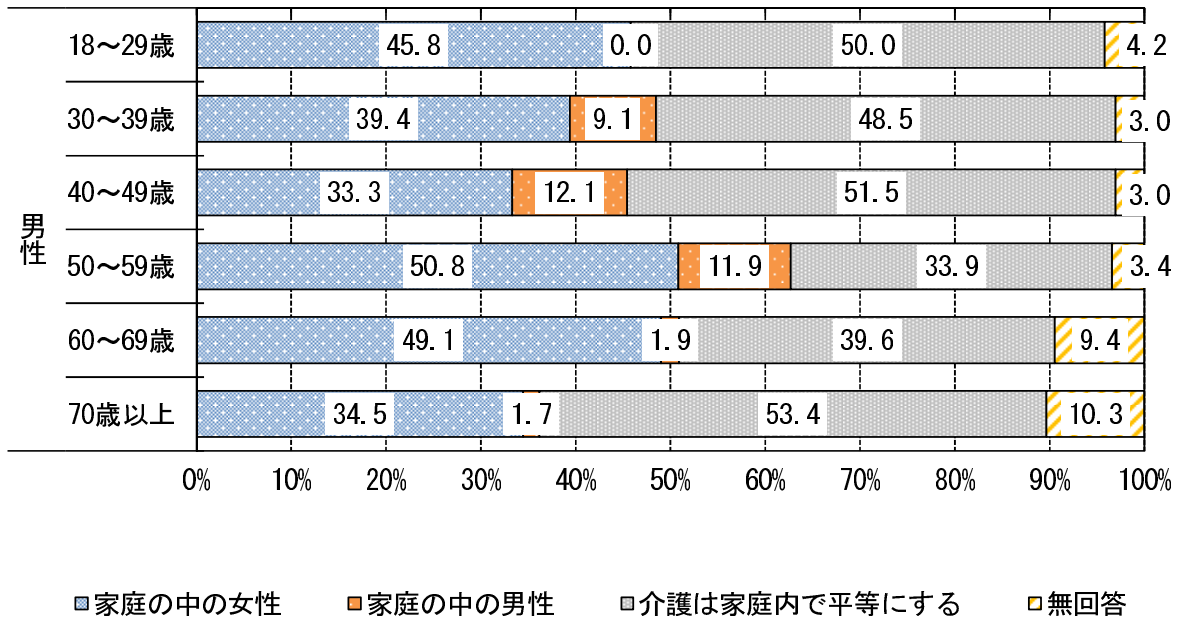
「家庭の中の女性」が45.9%、「家庭の中の男性」が3.3%、「介護は家庭内で平等にする」が44.0%となる。女性もしくは家族で介護を行う家庭が多い。

家庭における介護する人

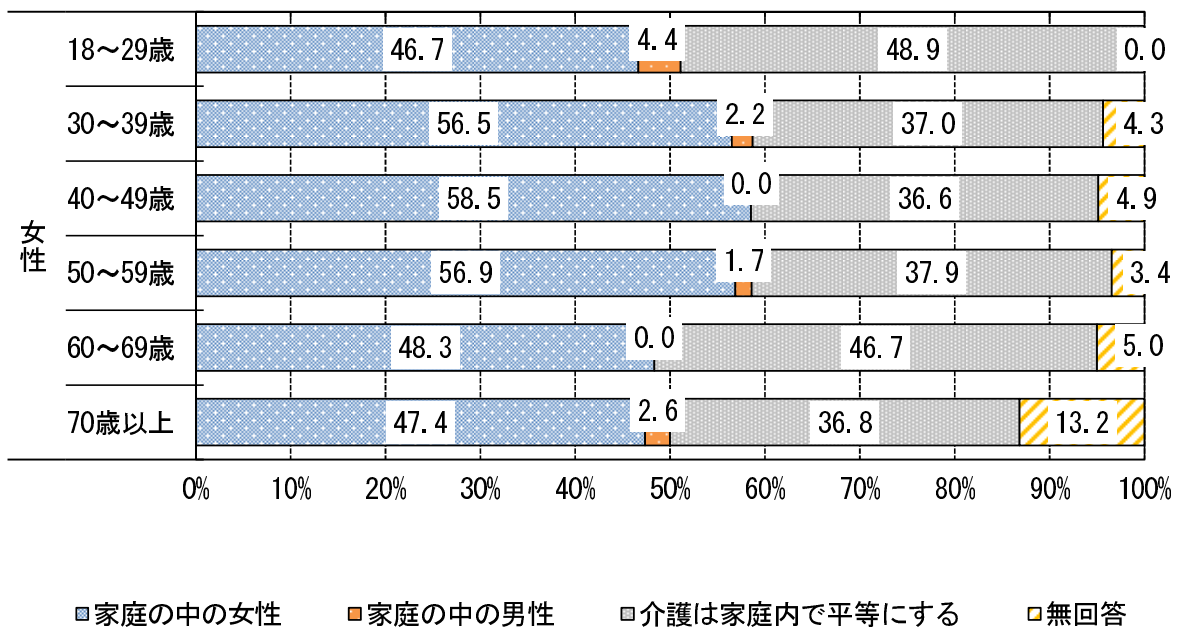


性別では、「家庭の中の女性」は、男性が42.5%、女性が51.5%となり、女性が男性より高い。「家庭の中の男性」は、男性が6.1%、女性が1.7%となり、男性が女性より高い。「介護は家庭内で平等にする」は、男性が45.2%、女性が41.6%となり、男性が女性より高い。

家庭における介護する人



家庭における介護する人



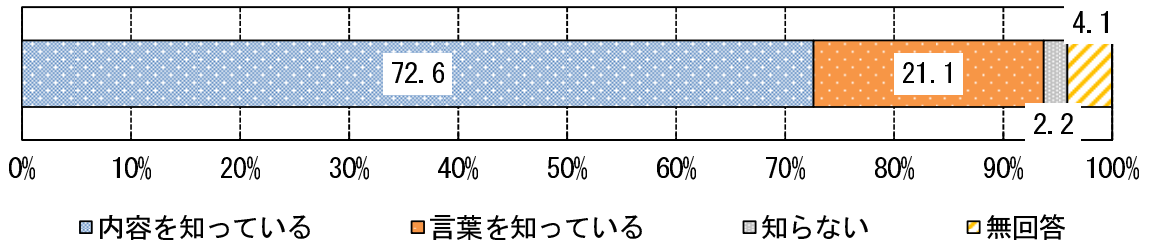
性別、年齢別では、30~49歳で「家庭の中の女性」の割合が他の年齢に比べて、男女の差が大きい。これは、男性が働いているため、女性が介護をしているためと考えられる。

男女の人権問題について

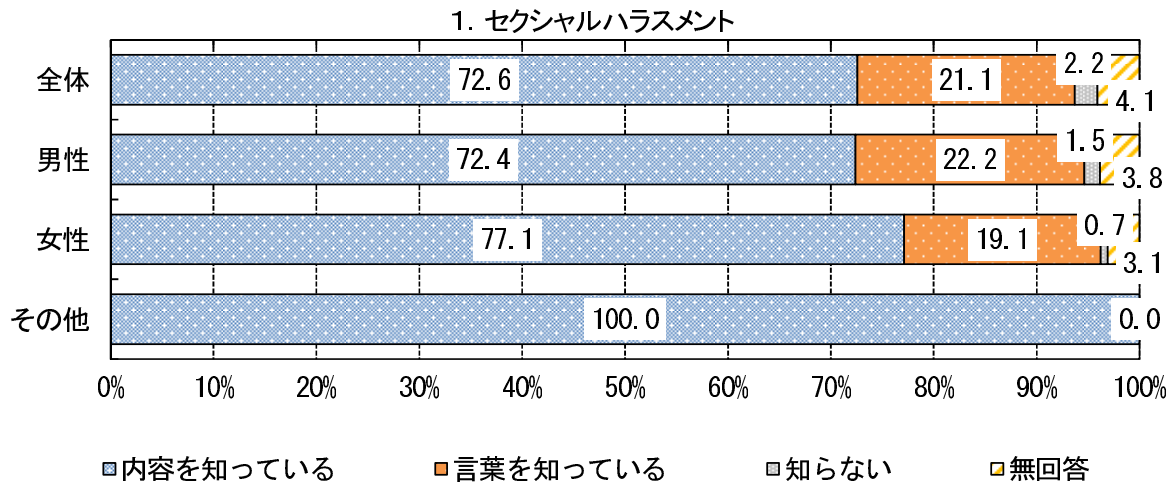
問15 あなたは、以下の言葉をご存知ですか。(各項目、1つだけ選び、○をしてください)

1. セクシャルハラスメント

回答数：734

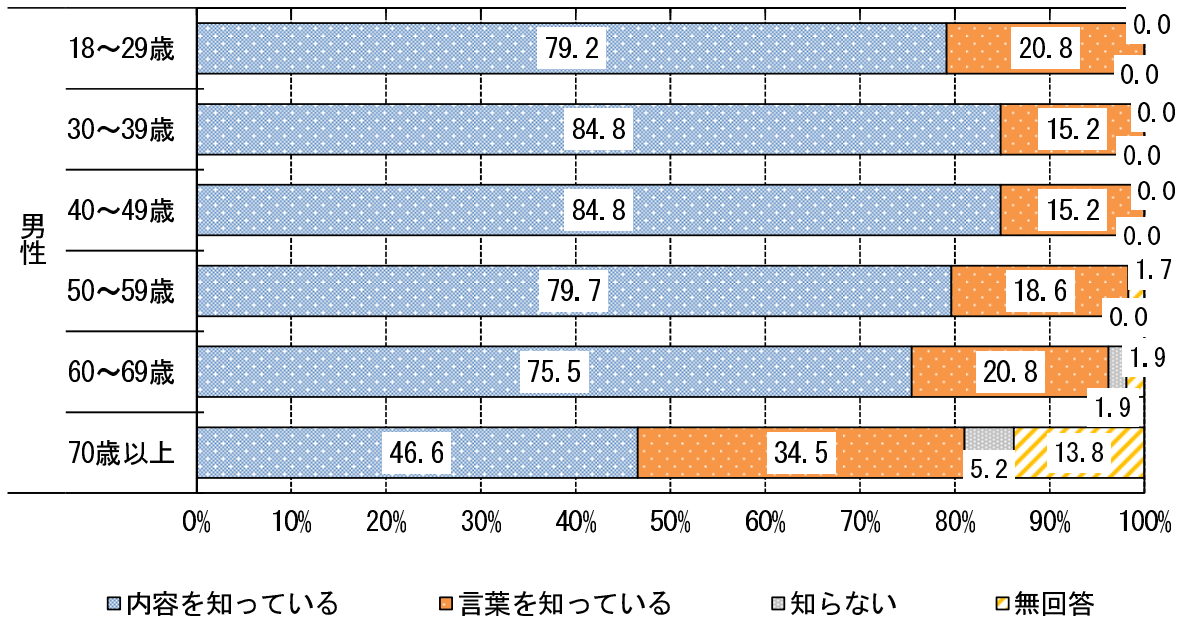


「内容は知っている」と「言葉を知っている」を合わせた認知度は、93.7%と高い。また、「内容は知っている」も72.6%と高く、内容まで含めた認知度も高い。

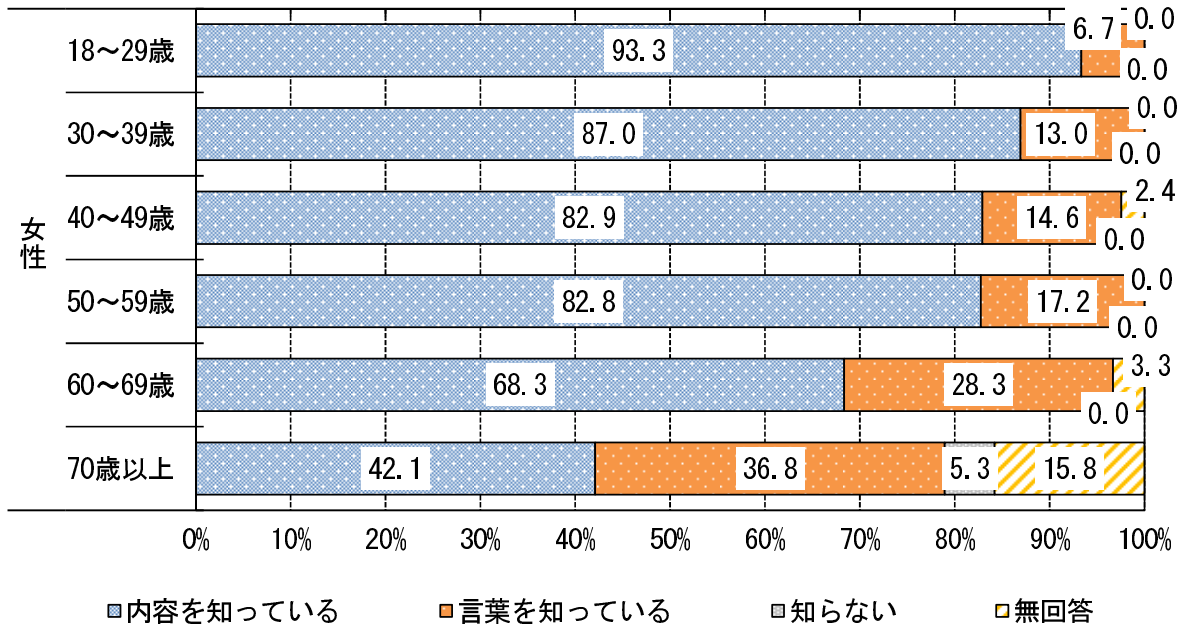


性別では、「内容は知っている」と「言葉を知っている」を合わせた認知度は、男性が94.6%、女性が96.2%と高い。

1. セクシャルハラスメント



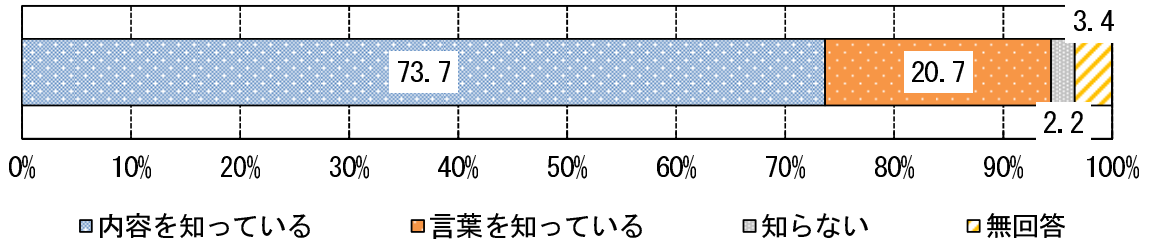
1. セクシャルハラスメント



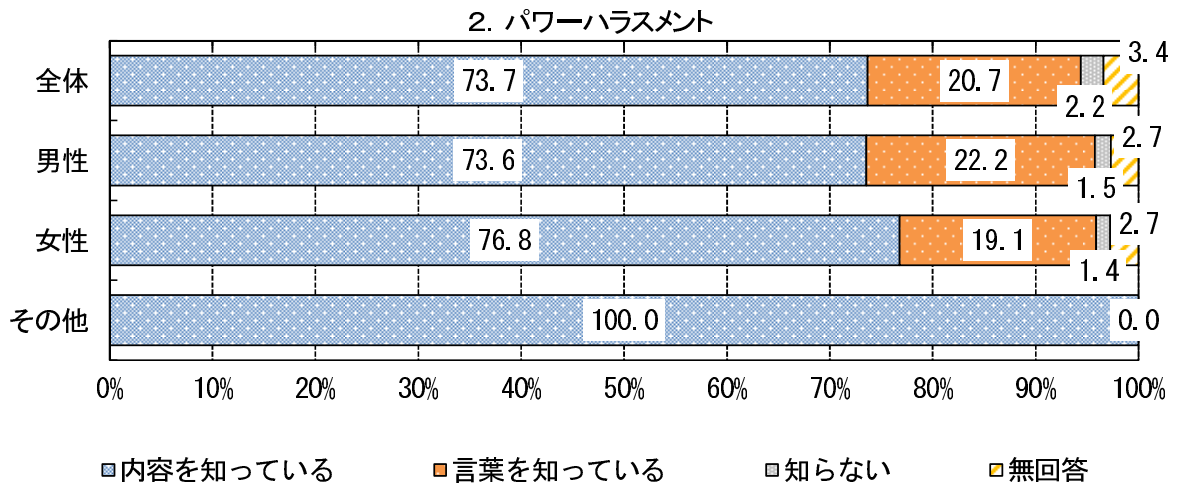
性別、年齢別では、70歳以上で男女ともに、80%程度となり、他の年齢と比べて低い。男女ともに、年齢が高くなると認知度が低くなる傾向がある。

2. パワーハラスメント

回答数：734

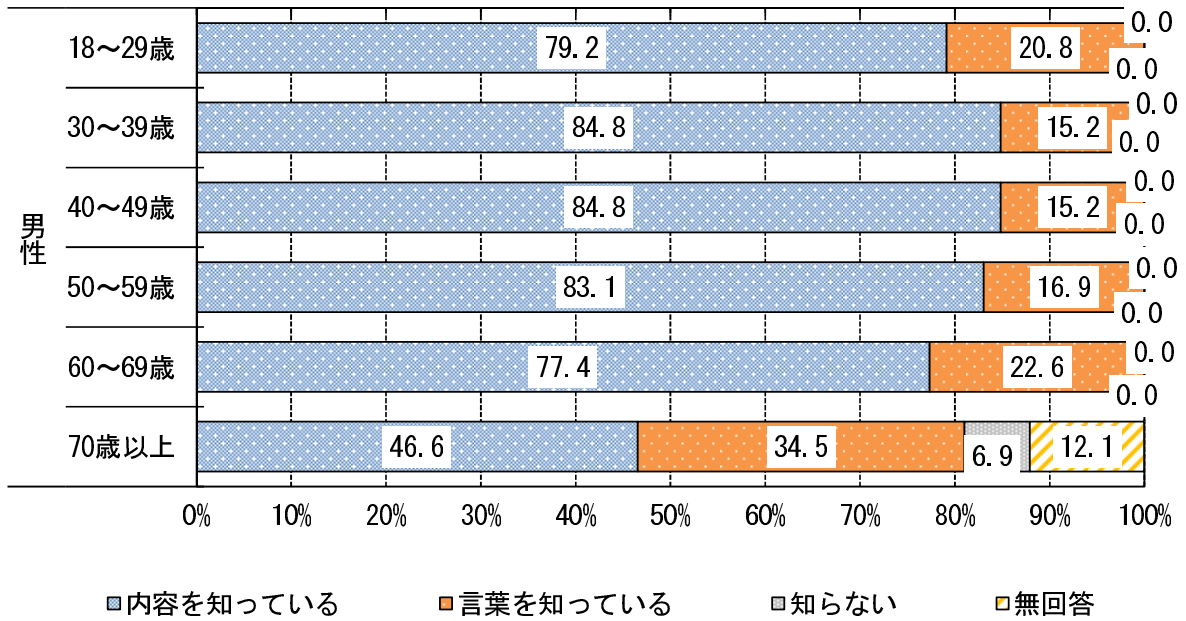


「内容は知っている」と「言葉を知っている」を合わせた認知度は、94.4%と高い。また、「内容は知っている」も73.7%と高く、内容まで含めた認知度も高い。

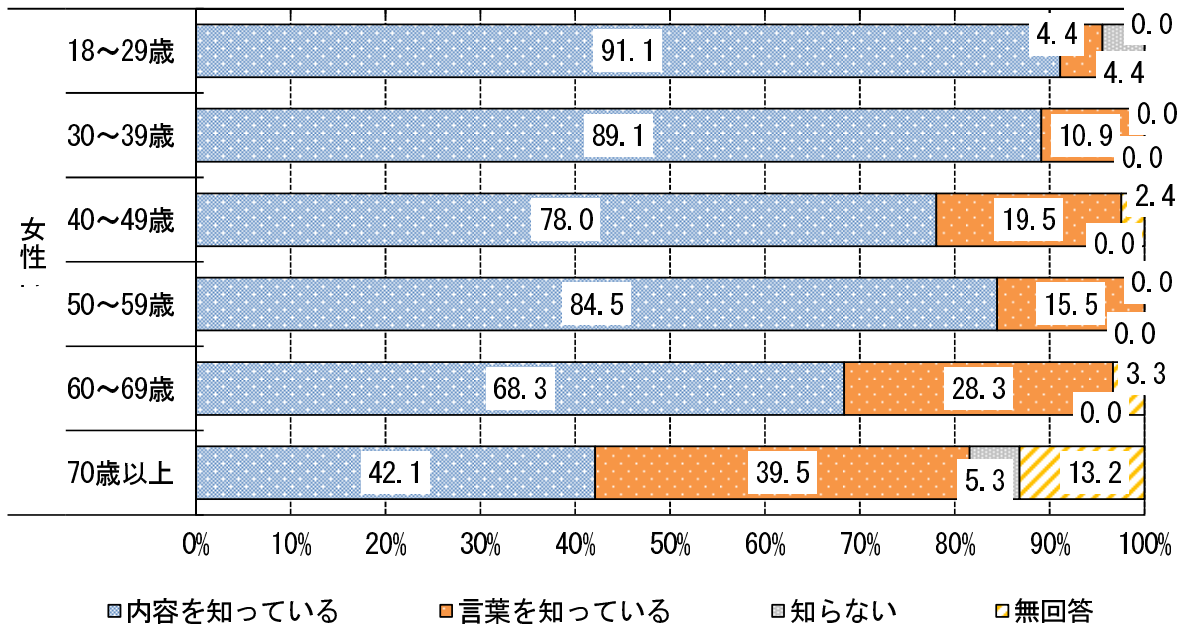


性別では、「内容は知っている」と「言葉を知っている」を合わせた認知度は、男性が95.8%、女性が95.9%と高い。

2. パワーハラスメント



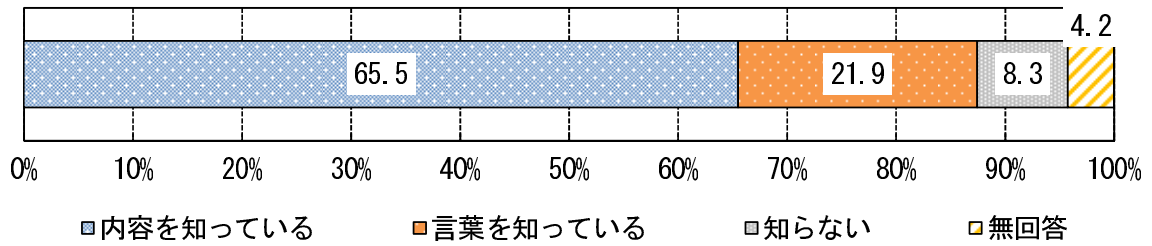
2. パワーハラスメント



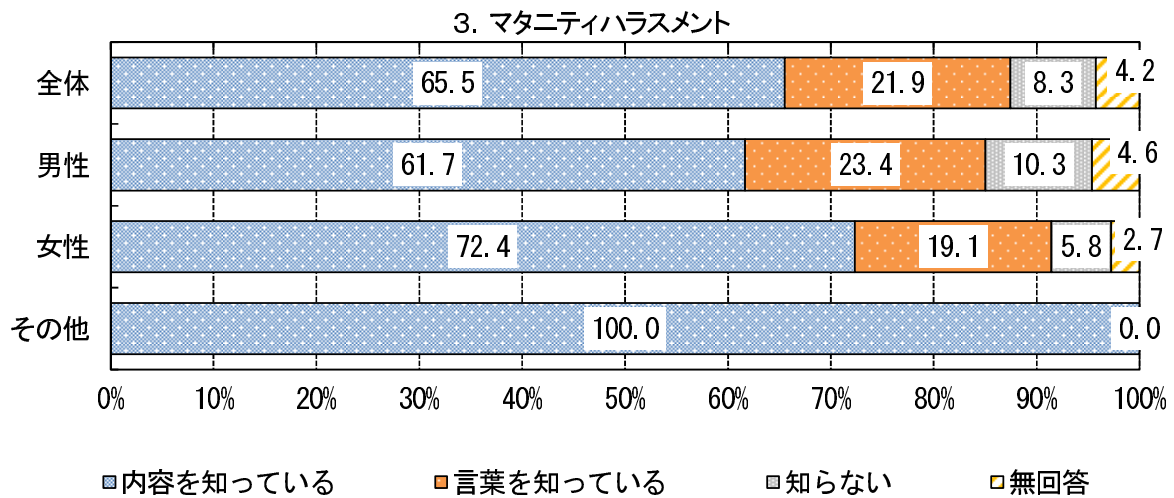
性別、年齢別では、70歳以上で男女ともに、80%程度となり、他の年齢と比べて低い。

3. マタニティハラスメント

回答数：734

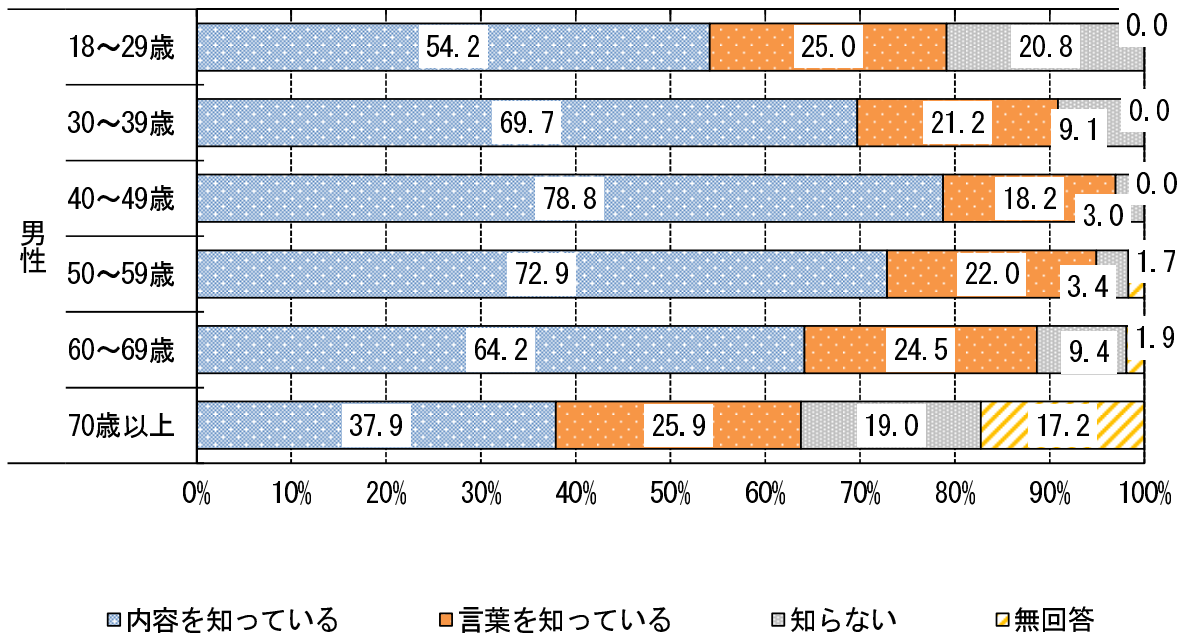


「内容は知っている」と「言葉を知っている」を合わせた認知度は、87.4%と高い。また、「内容は知っている」も65.5%となる。

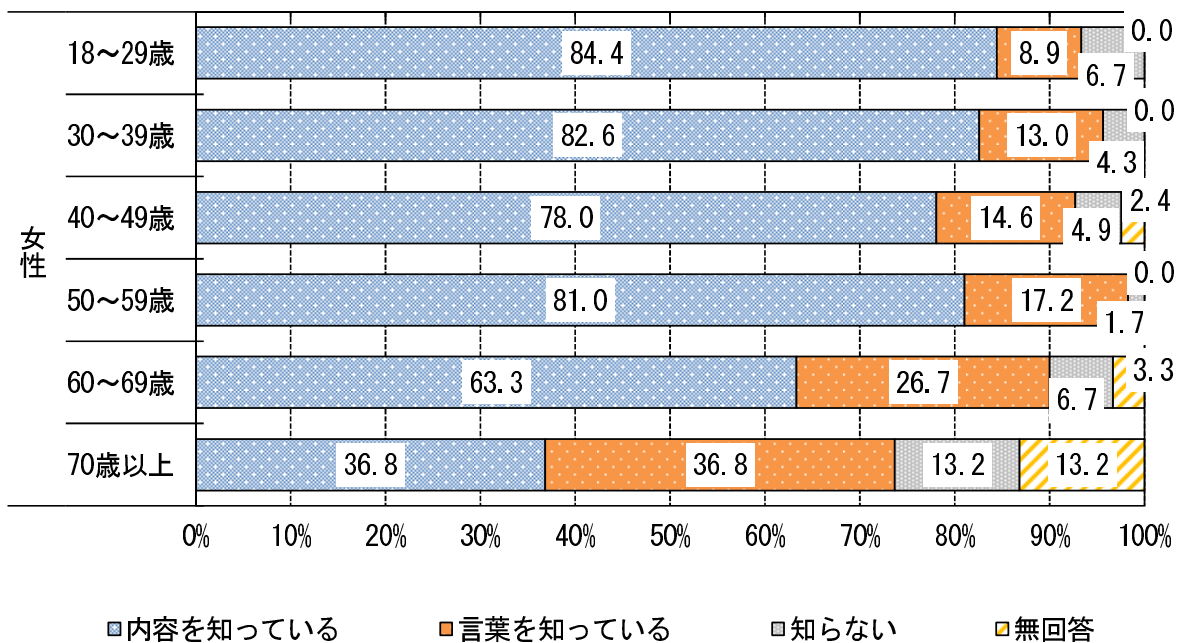


性別では、「内容は知っている」と「言葉を知っている」を合わせた認知度は、男性が85.1%、女性が91.5%と高い。

3. マタニティハラスメント

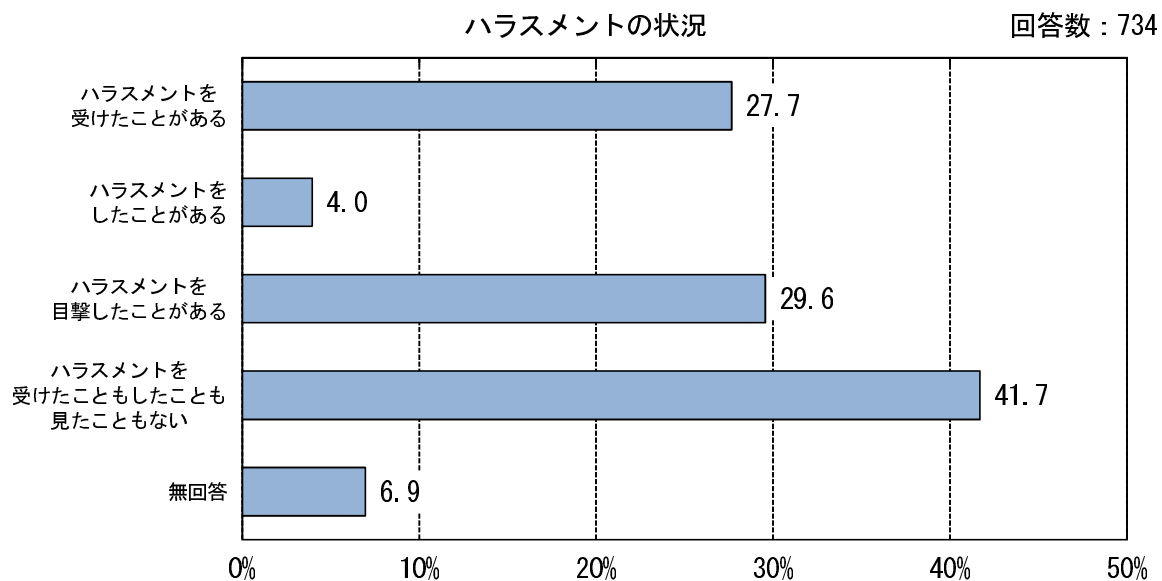


3. マタニティハラスメント



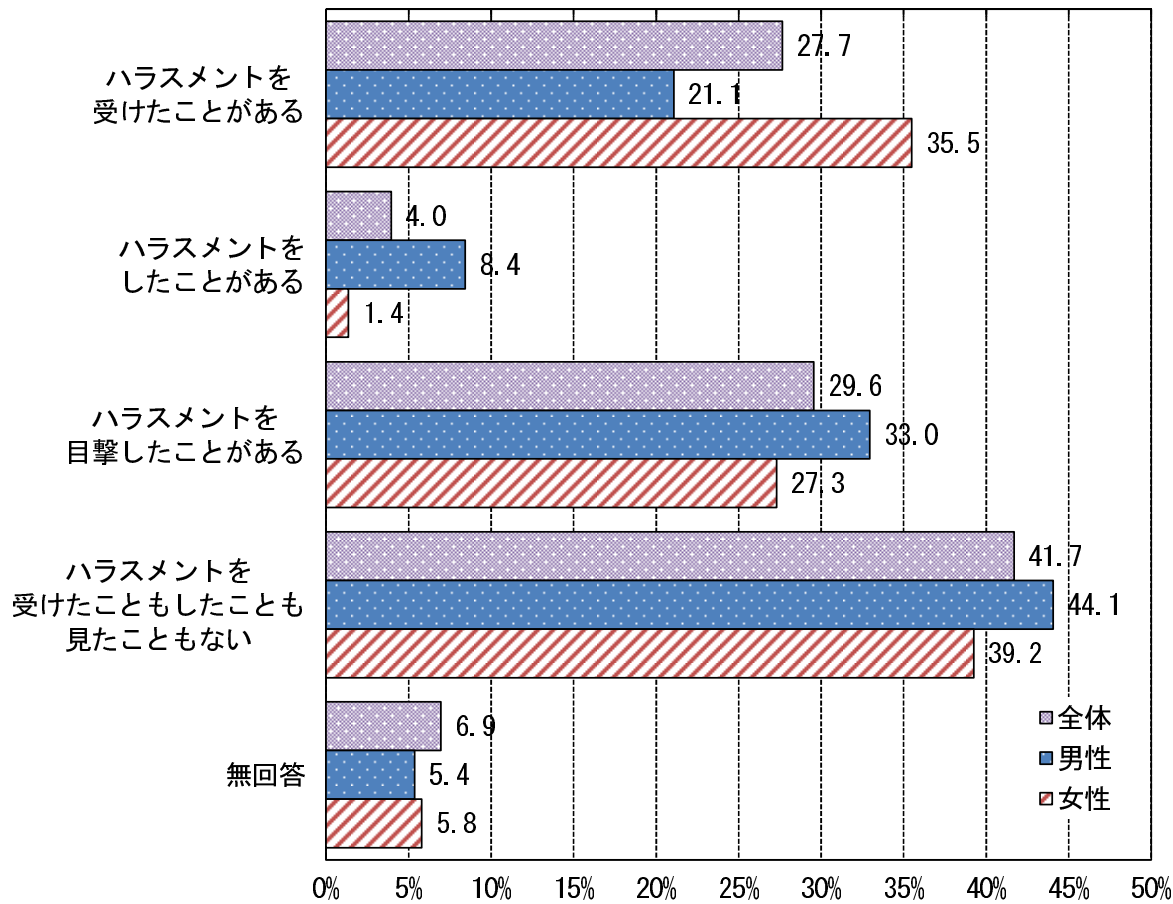
性別、年齢別では、70歳以上で男女ともに、70%程度となり、他の年齢と比べて低い。また、男性の18～29歳の認知度は79.2%と女性の18～29歳の93.3%と比べて低く、認識に差がある。

問16 問15のハラスメントについて、あなたの状況を教えてください。(あてはまるものすべてに、○をしてください)

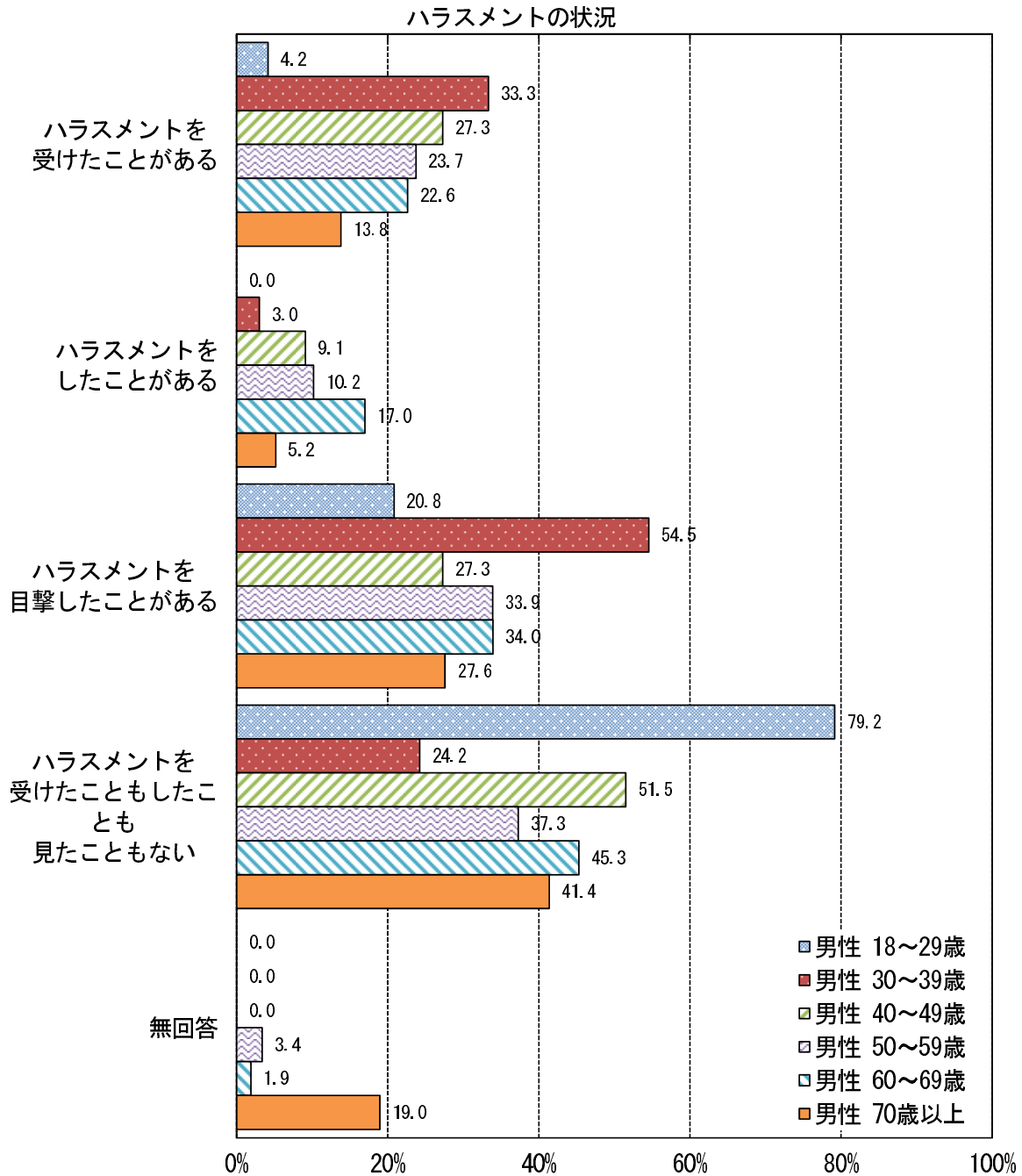


「ハラスメントを受けたことがある」が27.7%、「ハラスメントをしたことがある」が4.0%、「ハラスメントを目撃したことがある」が29.6%、「ハラスメントを受けたこともしたことも見たこともない」が41.7%となる。約半数が何らかのハラスメントを受けた、した、もしくは見たことがある。

ハラスメントの状況

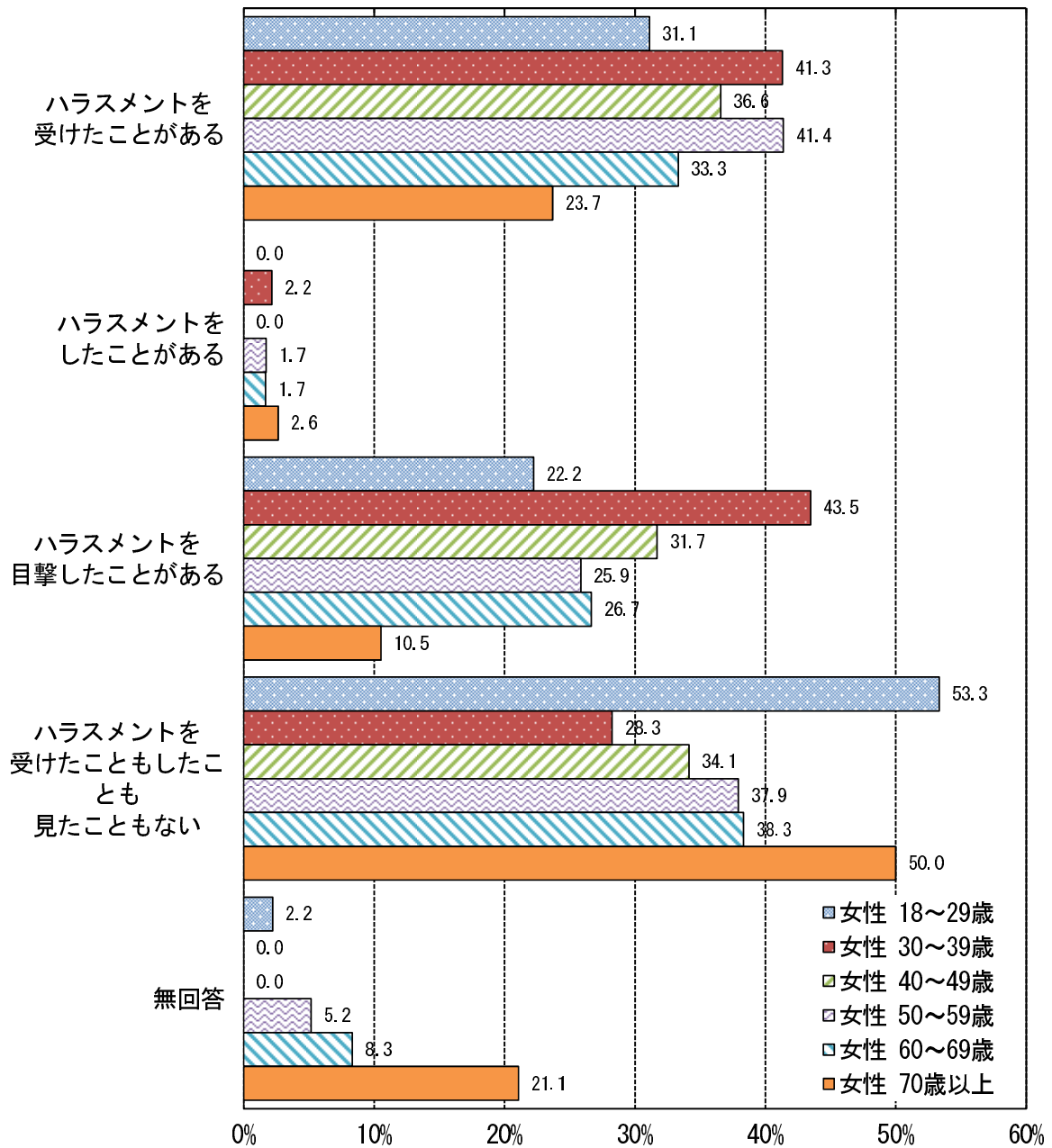


性別では、「ハラスメントを受けたことがある」は、男性が21.1%、女性が35.5%となり、女性のほうが男性よりハラスメントの被害を受けたことが多い。一方、「ハラスメントをしたことがある」は、男性が8.4%、女性が1.4%となり、男性のほうが女性よりハラスメントをした経験が多い。



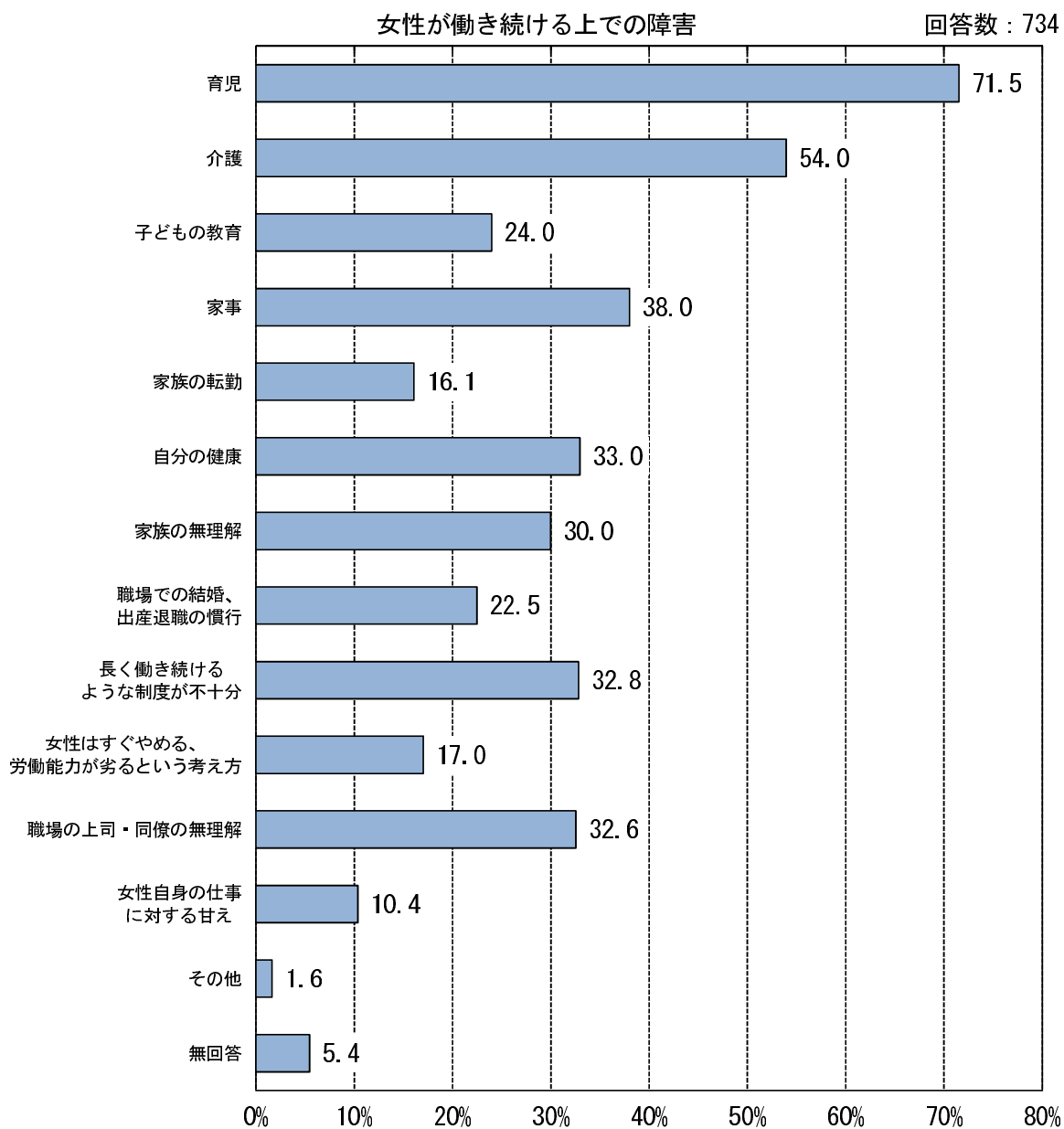
性別、年齢別の男性では、「ハラスメントを受けたことがある」が30～69歳で高い。「ハラスメントをしたことがある」は60～69歳で多く、職場の年長者が年下に対してハラスメントをしていると考えられる。「ハラスメントを目撃したことがある」は30～49歳で高く、被害とともに目撃も多く、ハラスメント被害にあいやすい年齢と考えられる。

ハラスメントの状況



性別、年齢別の女性では、「ハラスメントを受けたことがある」が18～69歳で高く、幅広い年齢でハラスメントの被害を受けている。「ハラスメントを目撃したことがある」は30～49歳で高い。「ハラスメントを受けたこともしたことも見たこともない」が18～29歳、70歳以上で高いことから、働き始めてからハラスメントの被害や目撃が多くなると考えられる。

問17 女性が長く働き続けるうえで、どんなことが障害になると考えられますか。(5つまで選び、○をしてください)

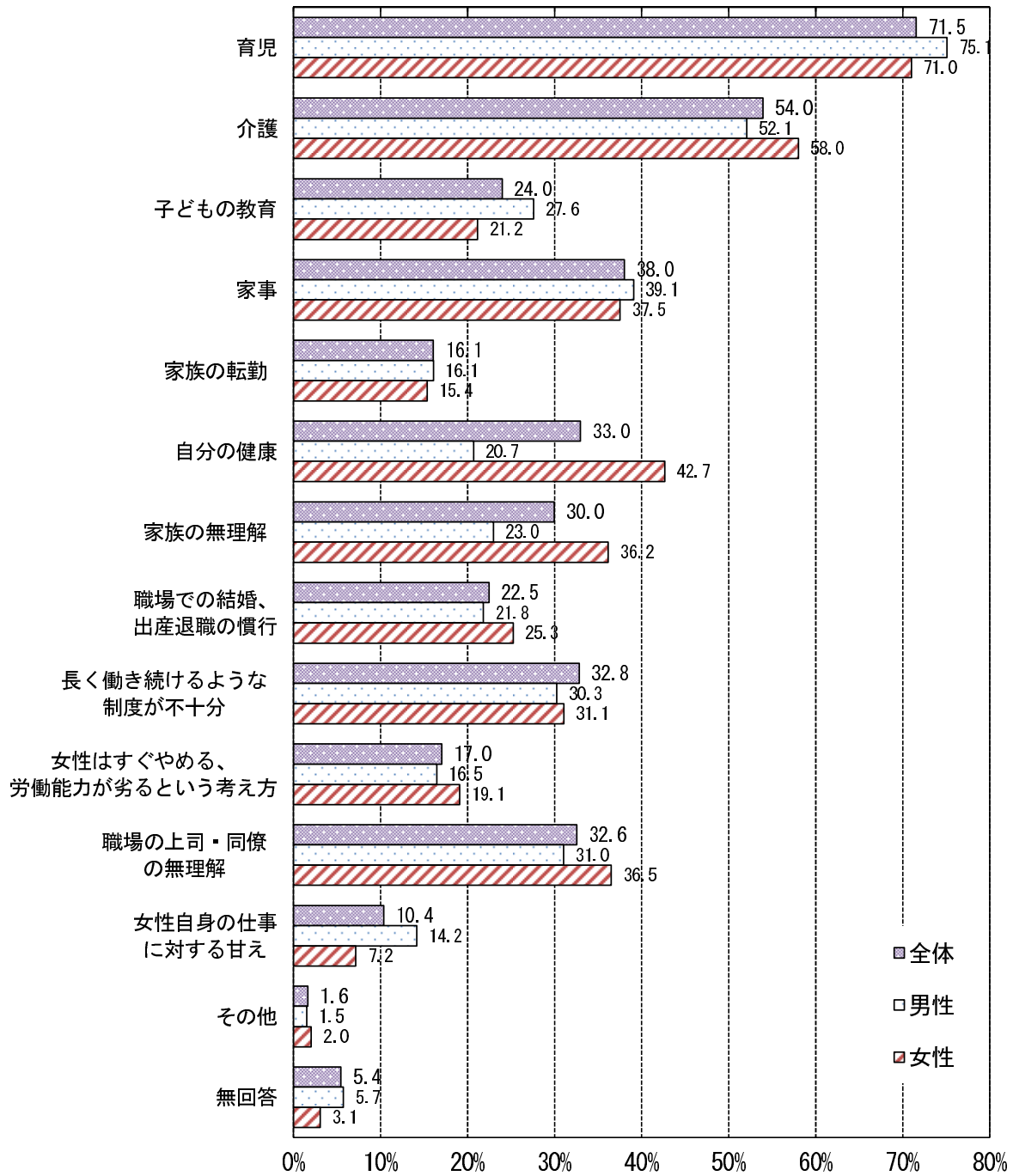


「育児」が71.5%と最も高く、次いで、「介護」が54.0%、「家事」が38.0%、「自分の健康」が33.0%、「長く働き続けるような制度が不十分」が32.8%、「職場の上司・同僚の無理解」が32.6%となる。家庭の事情が障害となっている。

【女性が長く働き続けるうえでの障害「その他」の記述内容（一覧）】

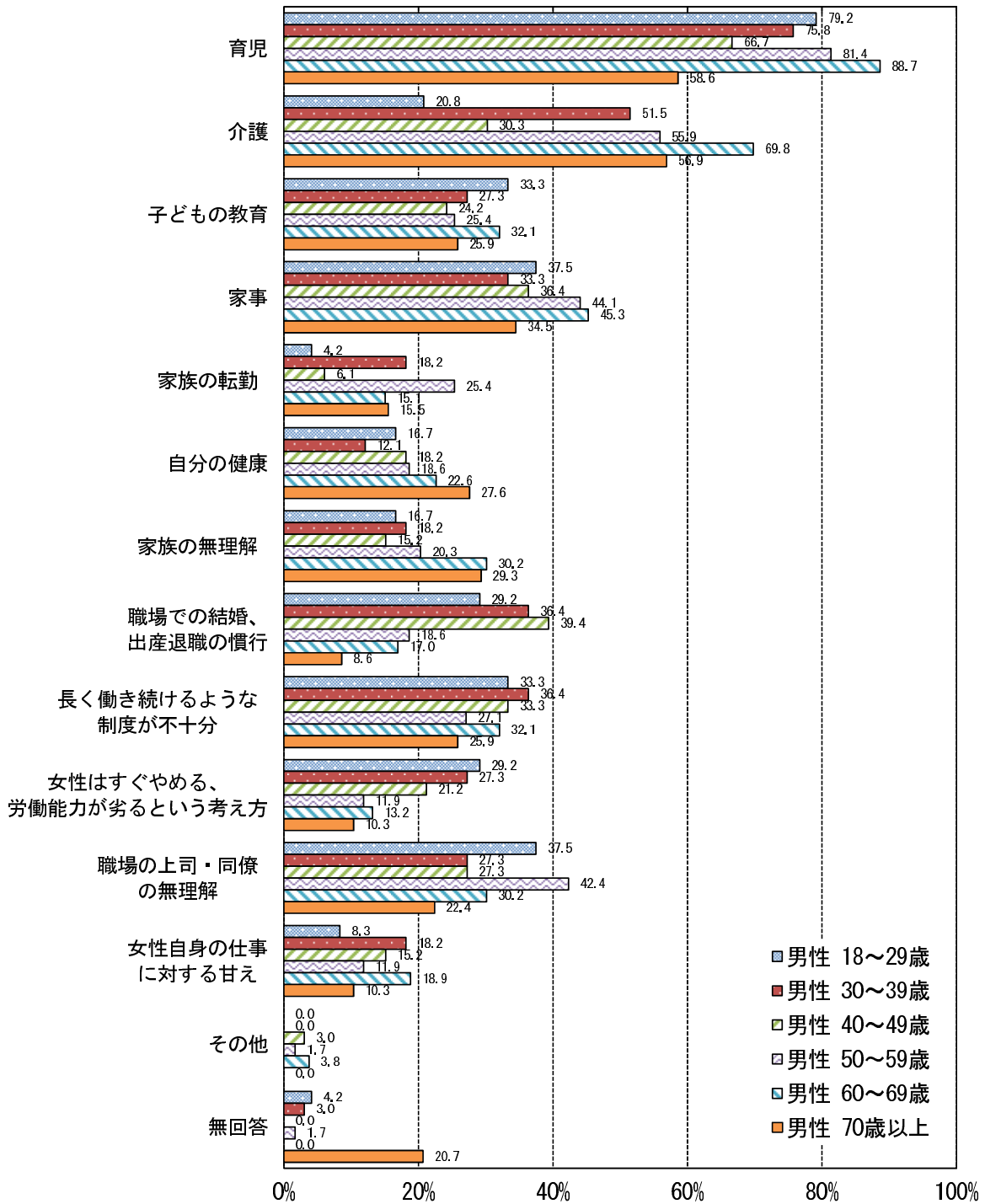
- 保育料(女性／18～29 歳／会社員／中野)
- 仕事内容と家庭との両立ができるかどうか(女性／18～29 歳／公務員／中野)
- そもそも長く働きたい職があるかどうか(女性／30～39 歳／農林業／平野)
- 職場の女性関係が維持できるか(女性／50～59 歳／会社員／中野)
- 特に障害は感じない(女性／50～59 歳／会社員／日野)
- 障害という強い言葉ではどれも感じない(女性／50～59 歳／公務員／平岡)
- 男性も女性もダメな人は居るので個人の問題(男性／40～49 歳／会社員／中野)
- 本人の健康(男性／50～59 歳／会社員／日野)
- 働き続けるには、障害を克服するしかないでしょう。(男性／60～69 歳／自営業／中野)
- 国、社会における理解と法整備(男性／60～69 歳／無職／中野)
- 育児・介護家事は、女性がやるという社会の考え方 そう考える人が多い(無回答／40～49 歳／家事
専業／平野)

女性が働き続ける上での障害



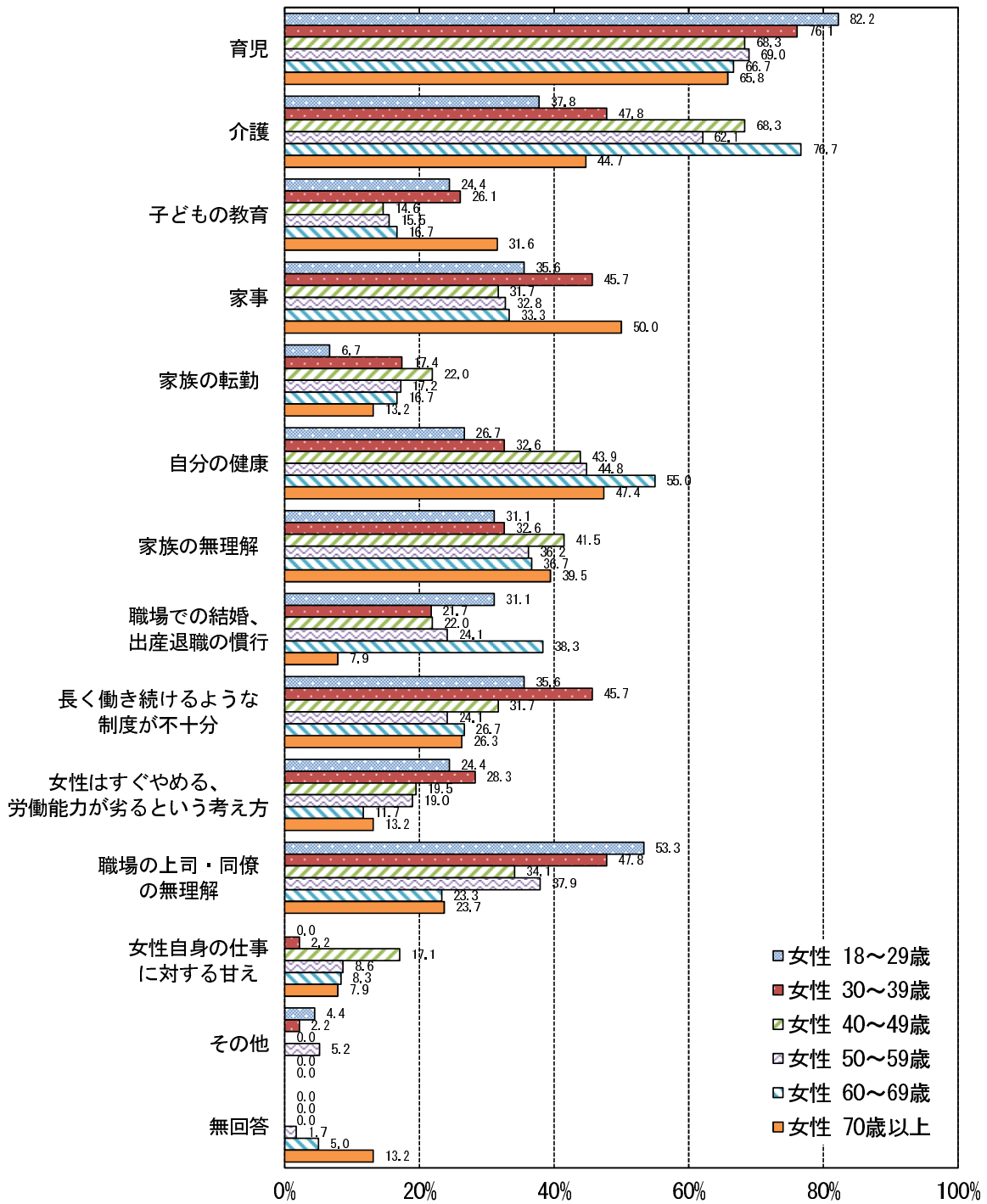
性別では、女性のほうが男性と全体に比べて、「介護」「自分の健康」「家族の無理解」「職場での結婚、出産退職の慣行」「女性はすぐやめる、労働能力が劣るという考え方」「職場の上司・同僚の無理解」が高い。

女性が働き続ける上での障害



性別、年齢別の男性では、60~69歳で、「育児」「介護」の割合が、18~29歳、50~59歳で、「職場の上司・同僚の無理解」が、18~49歳で「職場での結婚、出産退職の慣行」が他の年齢に比べて比較的高い。

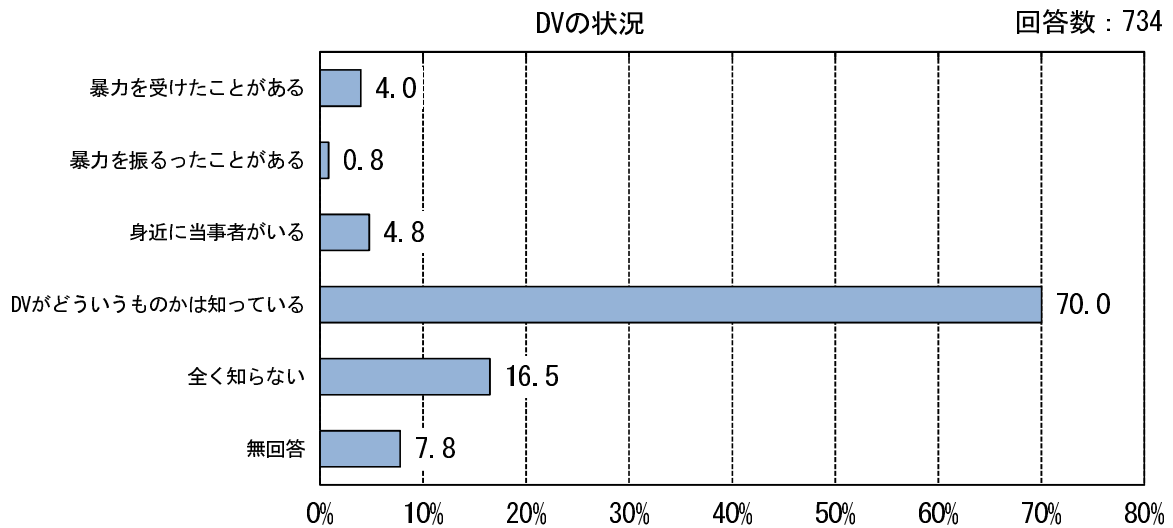
女性が働き続ける上での障害



性別、年齢別の女性では、18～39歳で、「育児」「職場の上司・同僚の無理解」の割合が、60～69歳で、「介護」「自分の健康」「職場での結婚、出産退職の慣行」が他の年齢に比べて比較的高い。

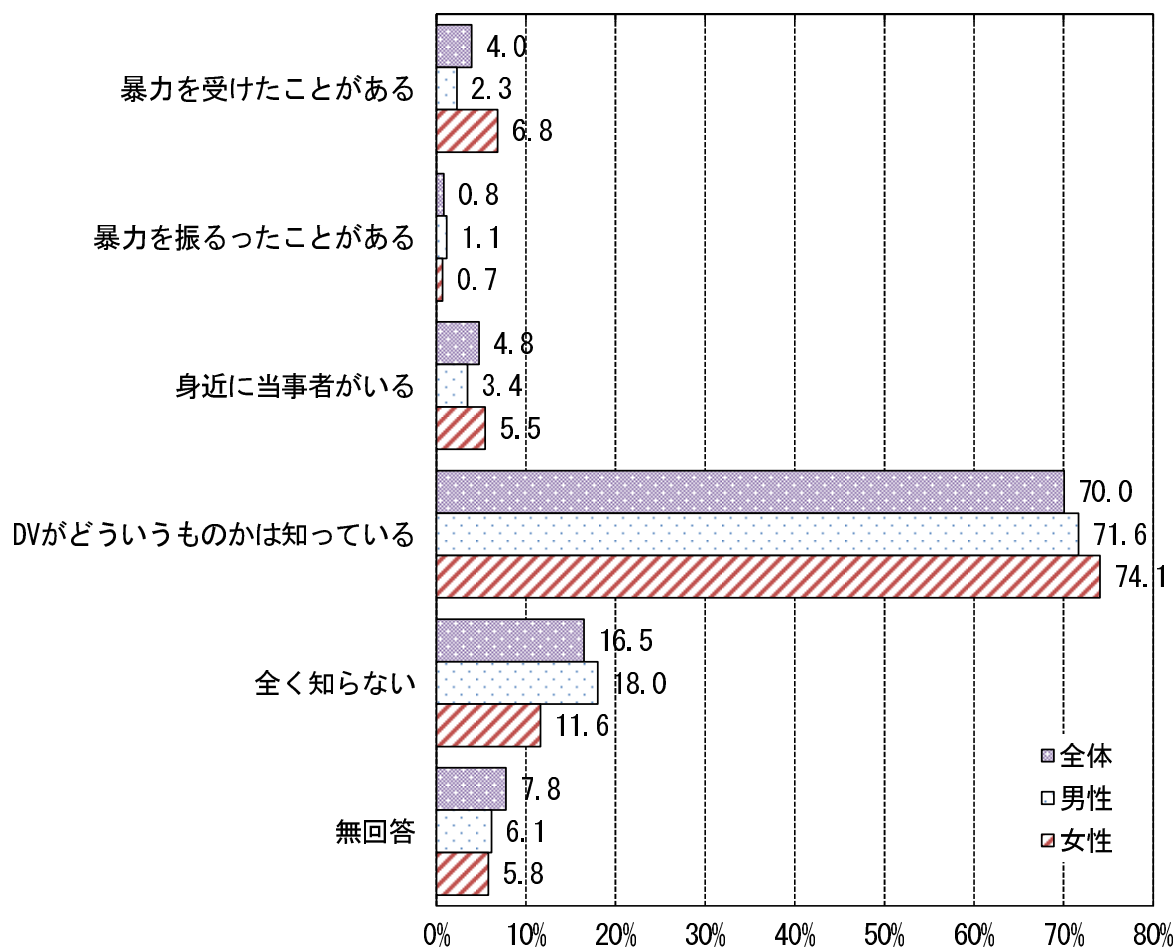
男女の人権問題について

問18 いま、身近な人（夫・妻・恋人）からの暴力が、DV（ドメスティック・バイオレンス、配偶者等に身体的又は精神的な苦痛を与える暴力的行為）として問題になっています。DVについて、あなたの状況を教えてください。（あてはまるものすべてに、○をしてください）



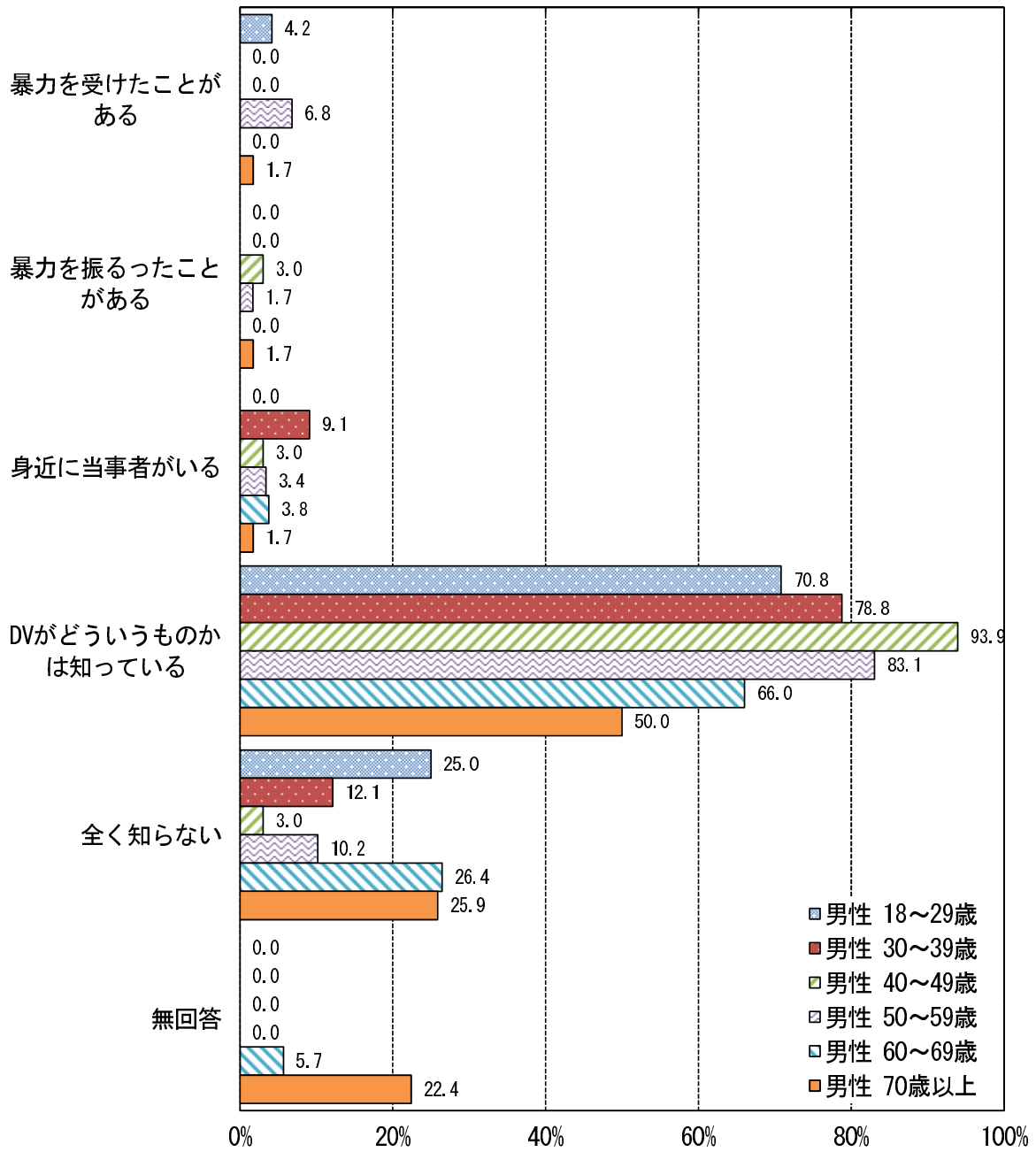
「暴力を受けたことがある」が4.0%、「暴力を振るったことがある」が0.8%、「身近に当事者がいる」が4.8%、「DVがどういうものかは知っている」70.0%となっている。これらの項目を合わせたDVの認知度は79.6%と高い。

DVの状況



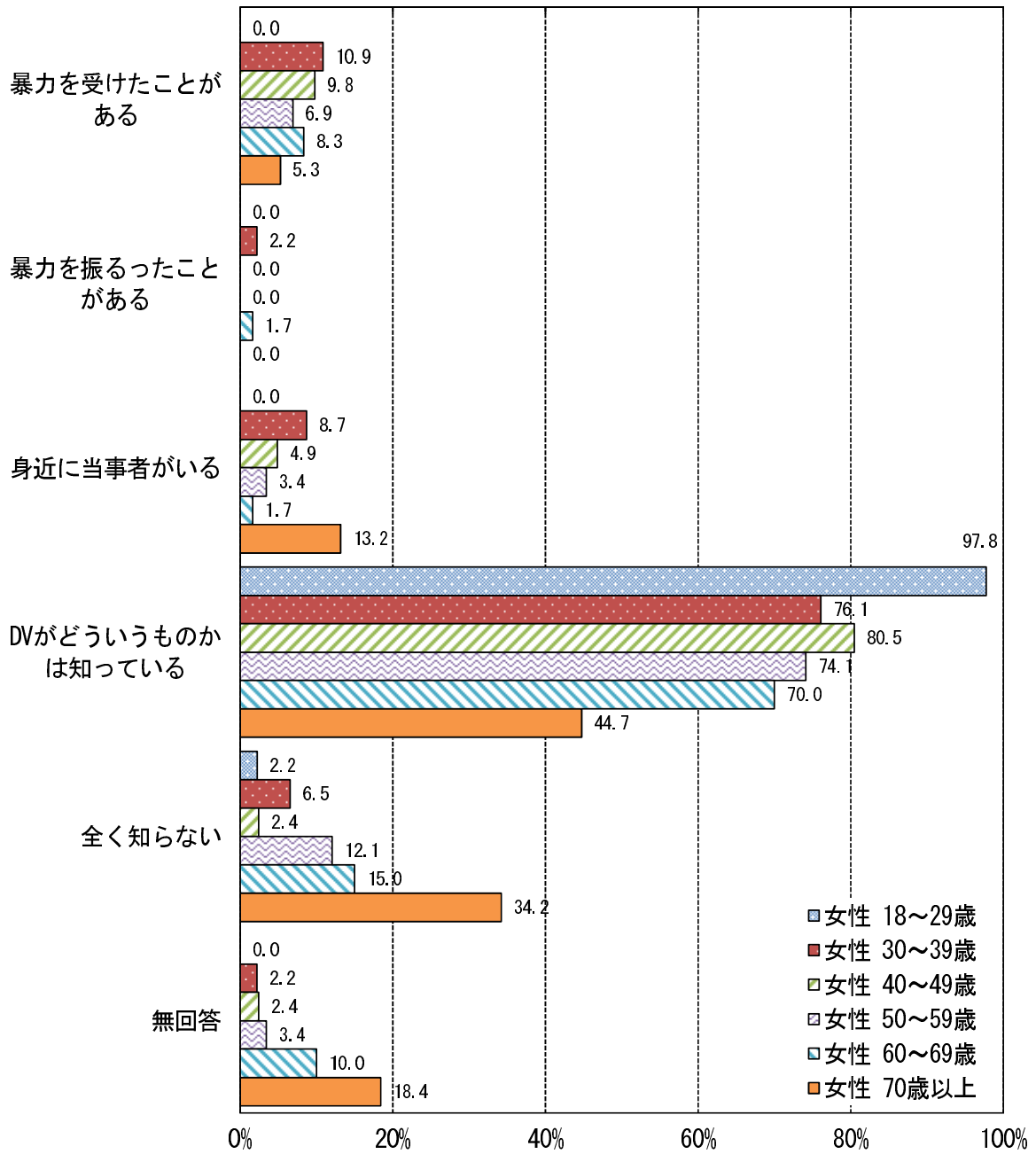
性別では、男性より女性のほうが、「暴力を受けたことがある」「身近に当事者がいる」が多く、被害者になりやすいと考えられる。また、認知度も女性のほうが高い。

DVの状況



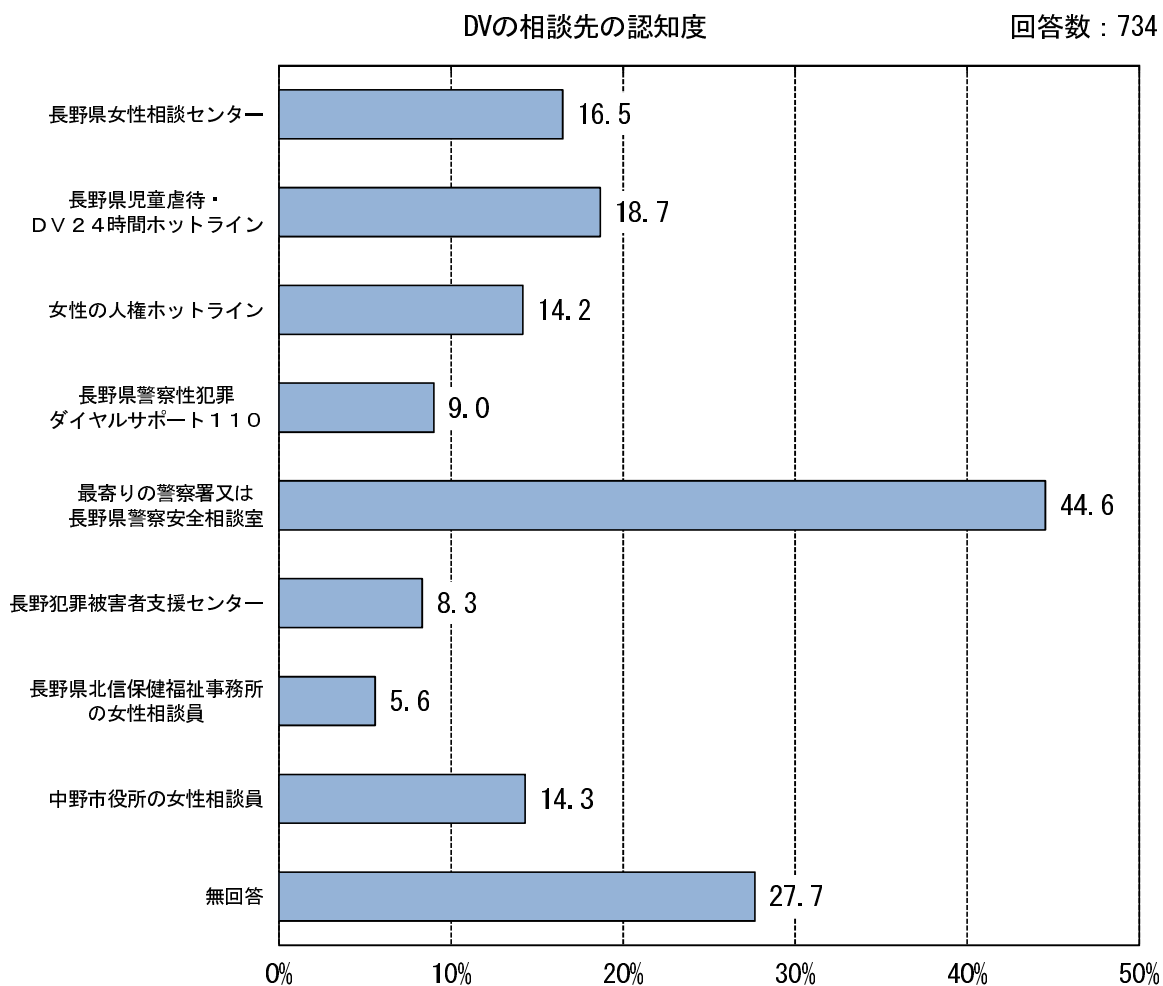
性別、年齢別の男性では、18～29歳、60歳以上が他の年齢と比べて「全く知らない」が高い。

DVの状況



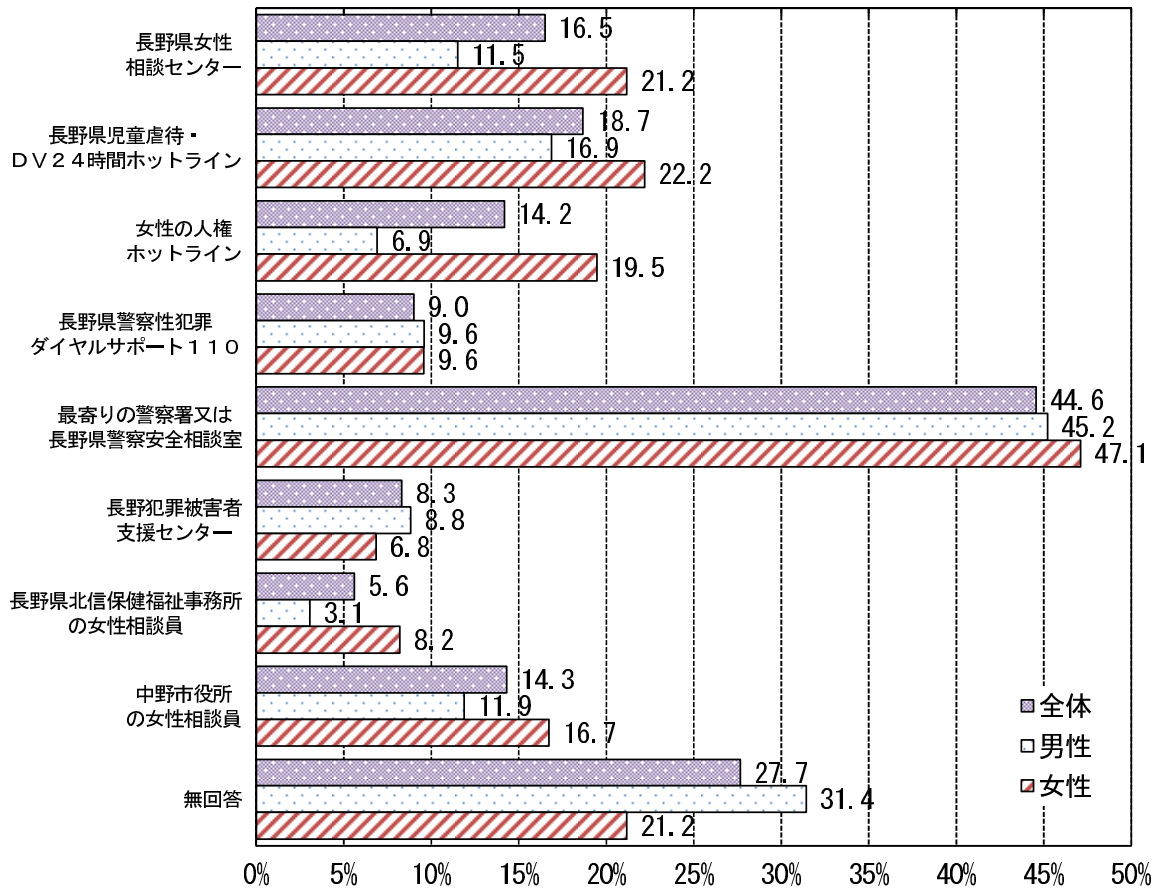
性別、年齢別の女性では、30歳以上で「暴力を受けたことがある」が5～10%程度あり、被害者が見られる。70歳以上を除いて、DVの認知度が高い。

問19 あなたがDV（ドメスティック・バイオレンス）にあったとき、相談するところをご存知ですか。（あてはまるものすべてに、○をしてください）



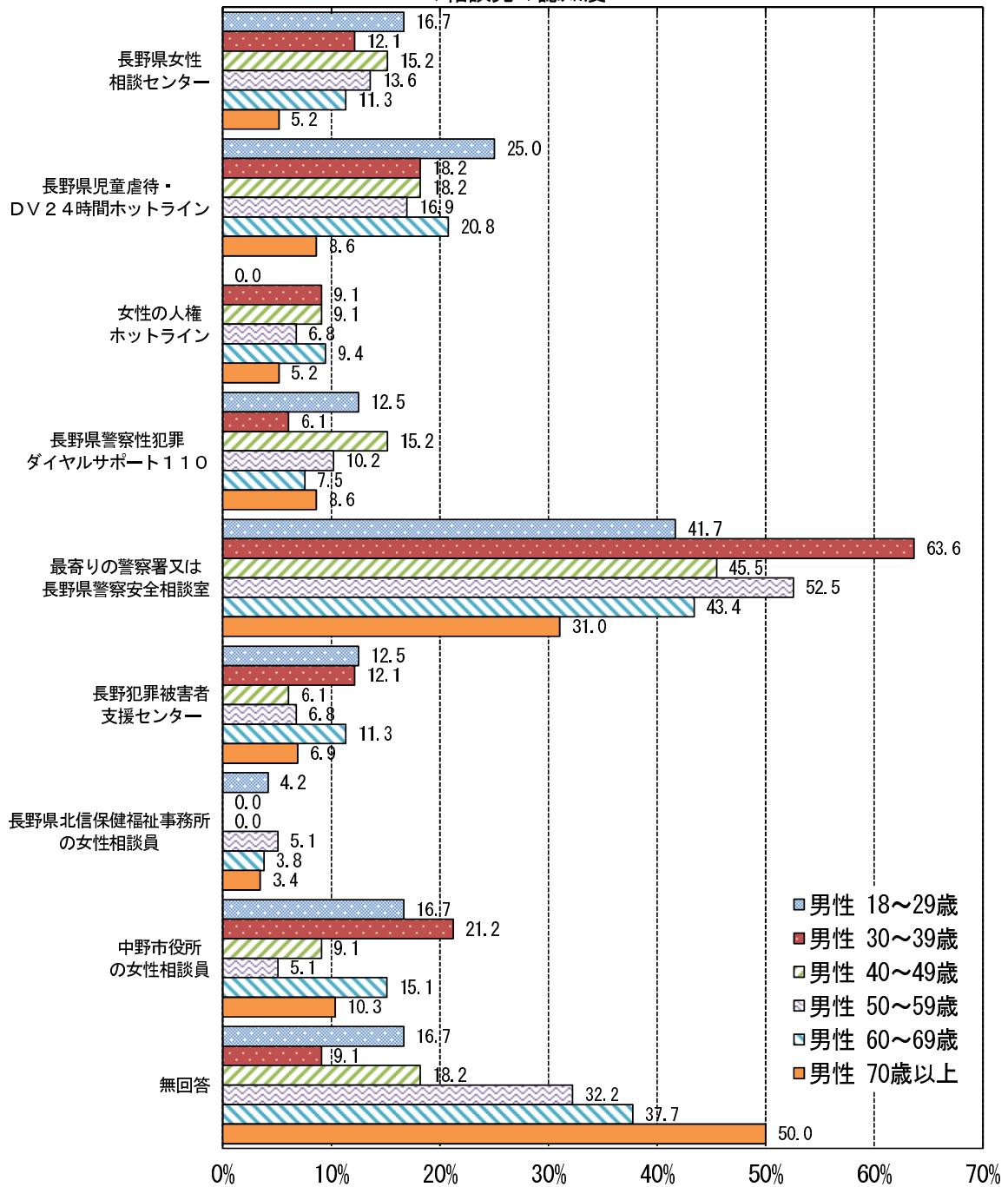
「最寄りの警察署又は長野県警察安全相談室」が44.6%と最も高く、無回答を除くと、次いで、「長野県児童虐待・DV 24時間ホットライン」が18.7%、「長野県女性相談センター」が16.5%と高い。

DVの相談先の認知度



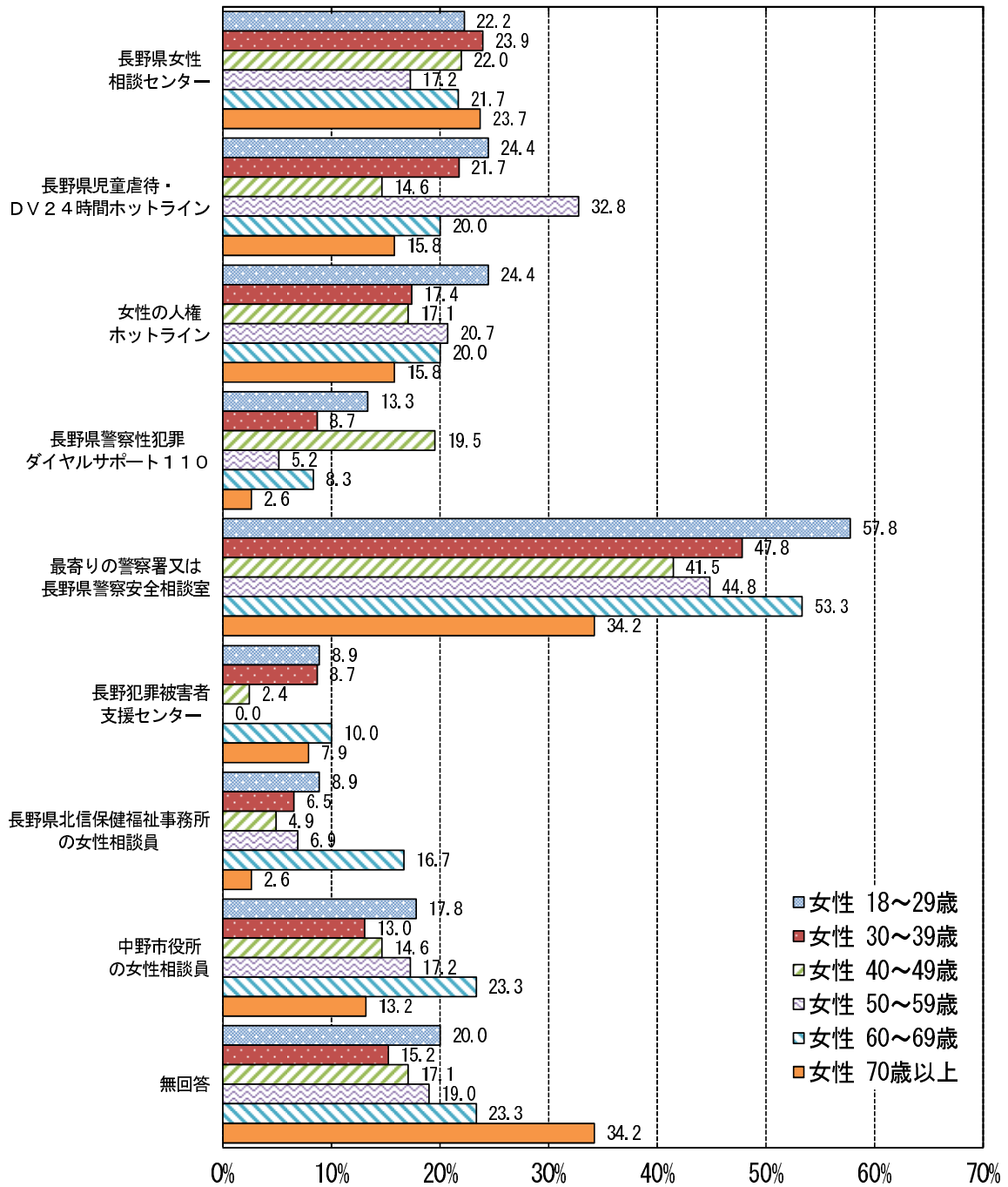
性別では、男性は、「最寄りの警察署又は長野県警察安全相談室」が45.2%と最も高く、無回答を除くと、「長野県児童虐待・DV 24時間ホットライン」が16.9%、「中野市役所の女性相談員」が11.9%と高い。女性は、「最寄りの警察署又は長野県警察安全相談室」が47.1%と最も高く、無回答を除くと、「長野県児童虐待・DV 24時間ホットライン」が22.2%、「長野県女性相談センター」が21.2%と高い。

DVの相談先の認知度



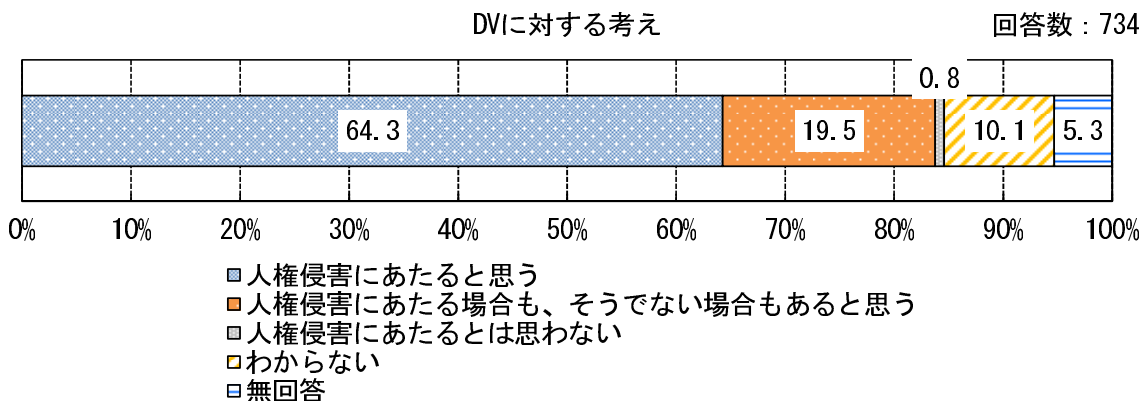
性別、年齢別では、男性は全体を通じて、「最寄りの警察署又は長野県警察安全相談室」が高い。一方、70歳以上では、「無回答」が50%と高いが、これは、高齢者のDVの認知度によるものと考えられる。

DVの相談先の認知度

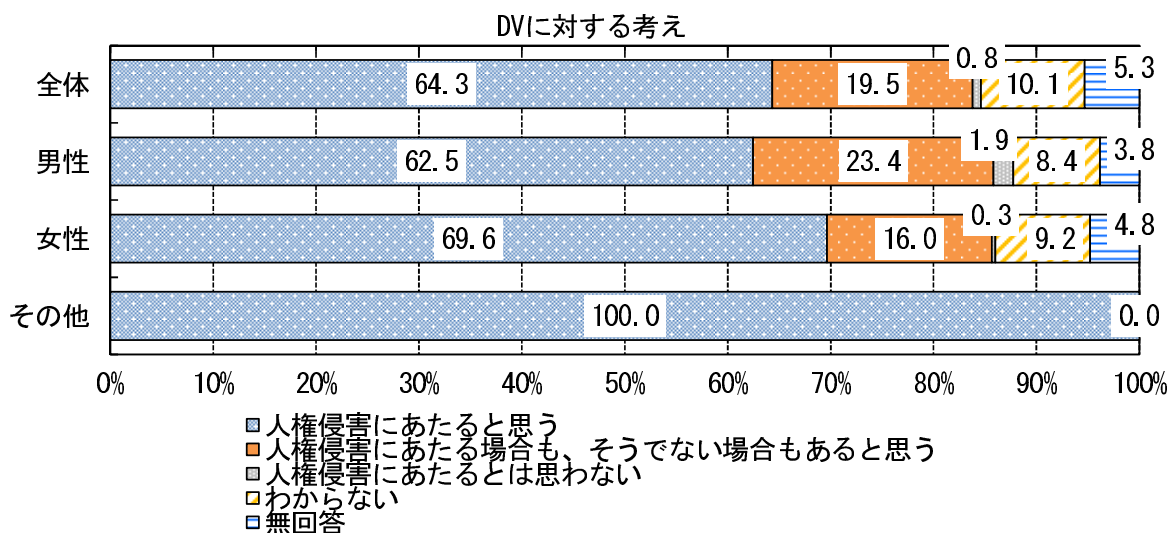


性別、年齢別では、女性は全体を通じて、「最寄りの警察署又は長野県警察安全相談室」が高い。一方、70歳以上では、「無回答」が34.2%と高いが、これは、高齢者のDVの認知度によるものと考えられる。

問20 DV（ドメスティック・バイオレンス）について、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。（1つだけ選び、○をしてください）

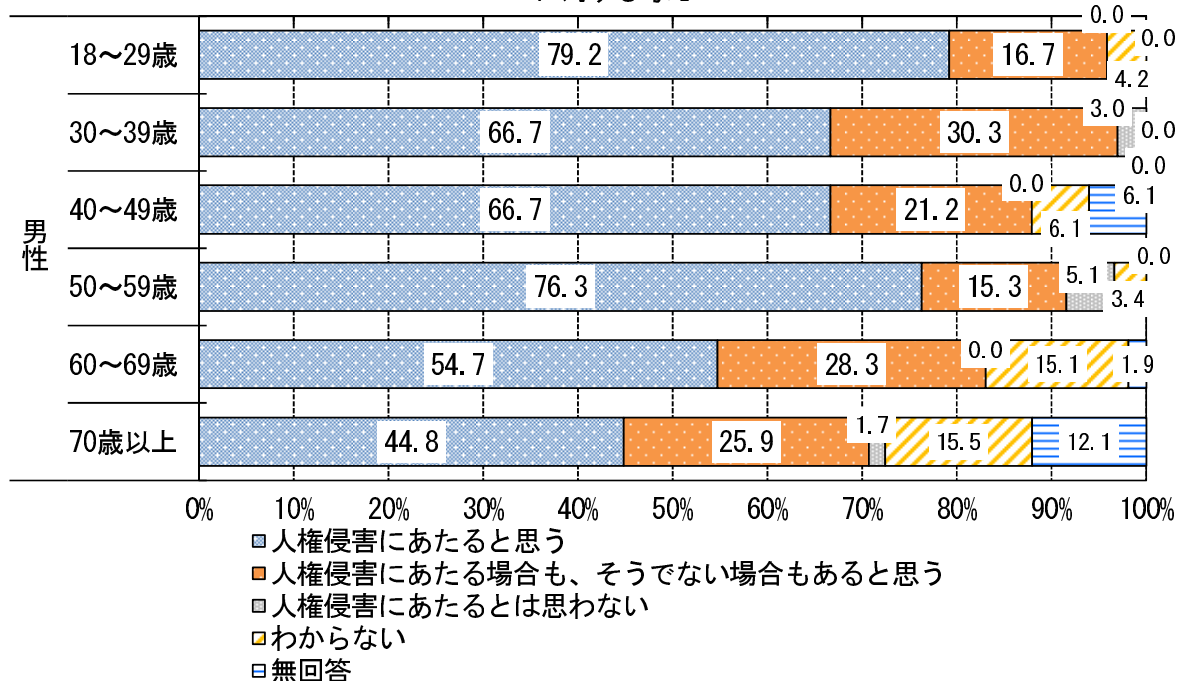


「人権侵害にあたると思う」が64.3%、「人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が19.5%となる。

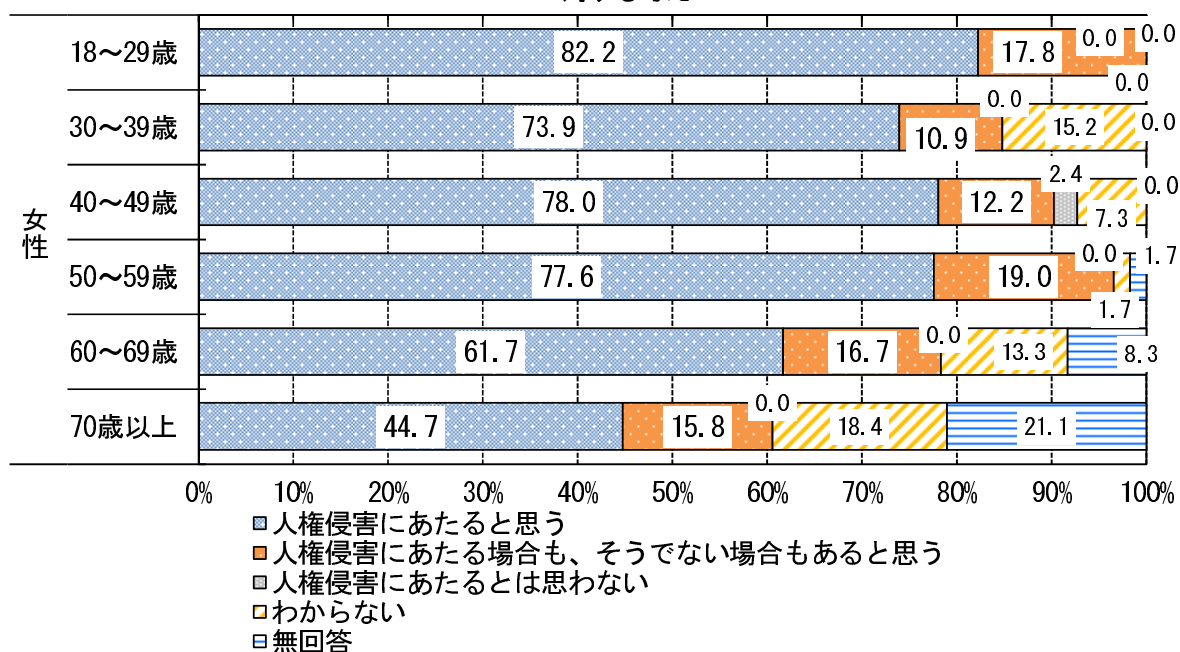


「人権侵害にあたると思う」は、男性が62.5%、女性が69.6%と女性のほうが高い。「人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は男性が23.4%、女性が16.0%と男性のほうが高い。

DVIに対する考え



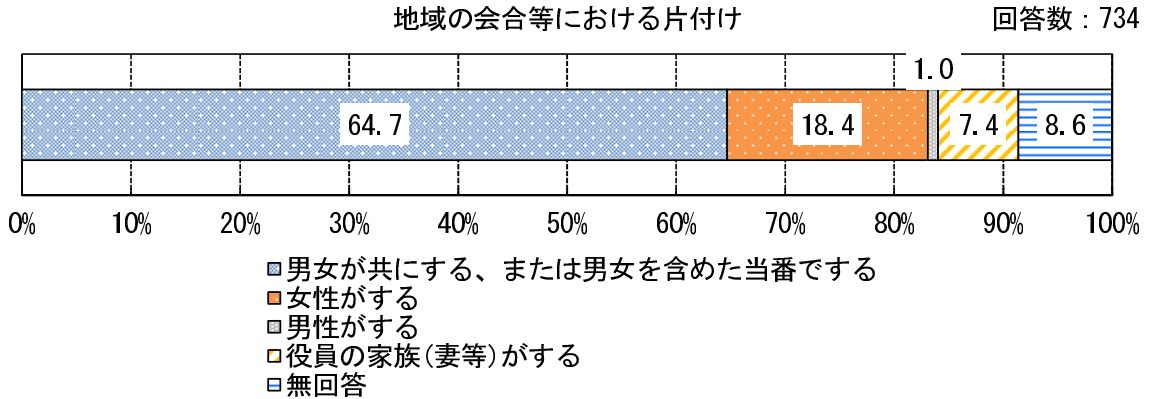
DVIに対する考え



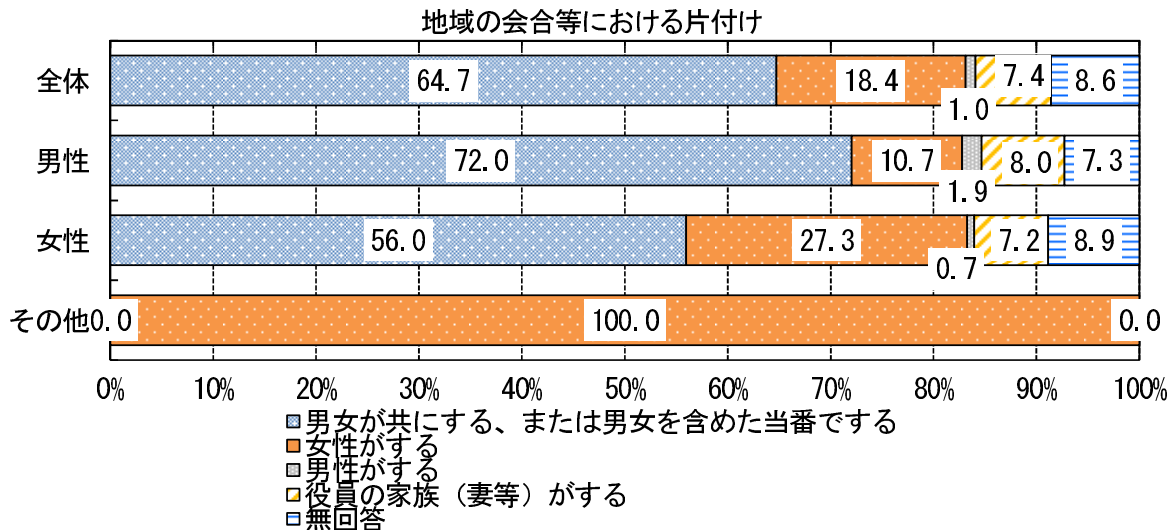
性別、年齢別にみると、男女ともに年齢が高いほうが「人権侵害にあたると思う」が低くなる傾向がある。また、全体を通じて、男性のほうが女性より「人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が高い。

地域社会について

問 2 1 地域の会合や行事などで、湯茶等の準備や片付けは誰がしますか。(1つだけ選び、○をしてください)

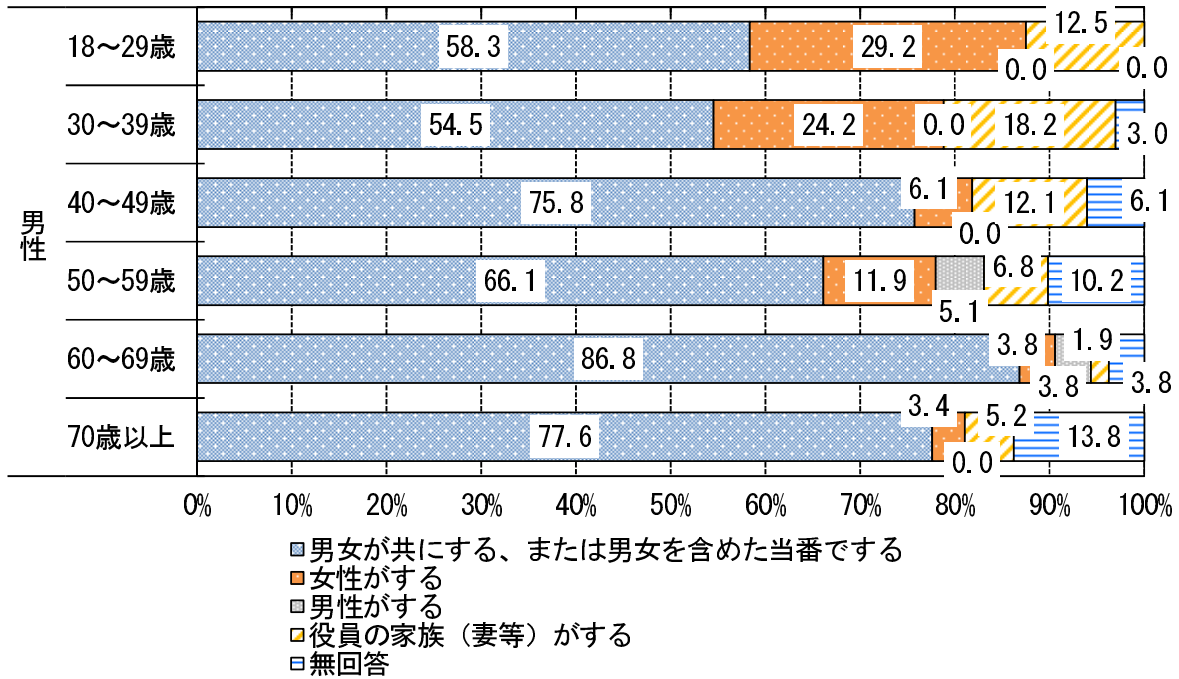


「男女が共にする、または男女を含めた当番です」が64.7%、「女性がする」18.4%となる。

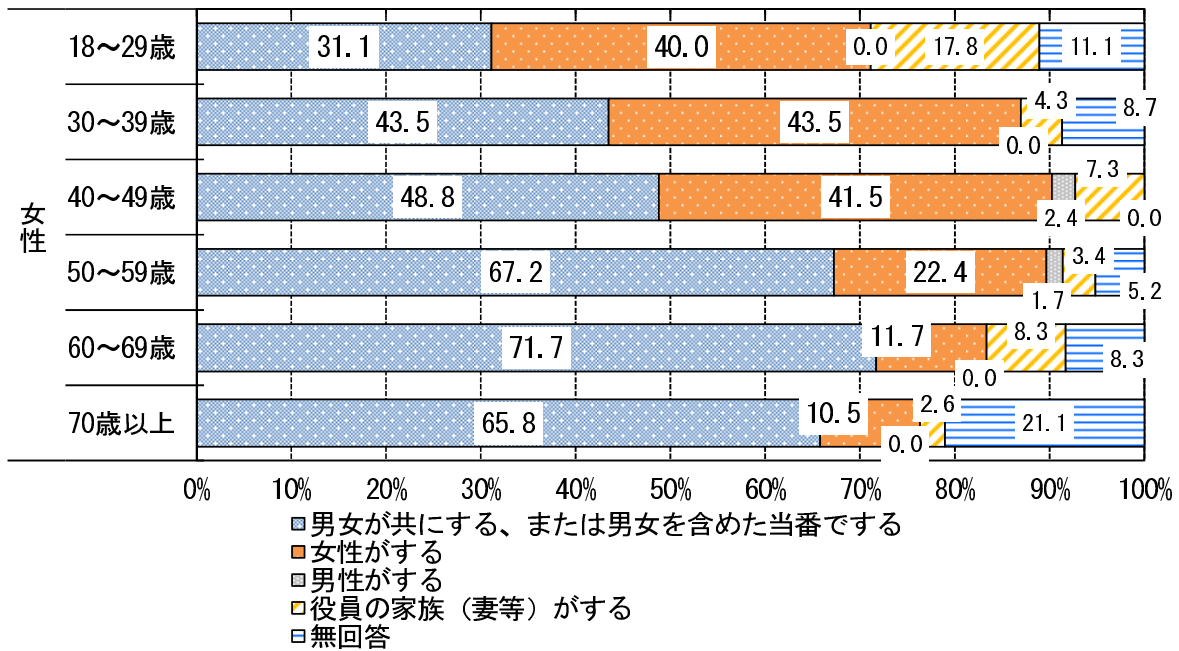


性別では、「男女が共にする、または男女を含めた当番です」は、男性が72.0%、女性が56.0%と男性が高い。「女性がする」は、男性が10.7%、女性が27.3%で女性が高い。女性のほうが男性より、片付けをしていると感じている割合が高い。

地域の会合等における片付け



地域の会合等における片付け

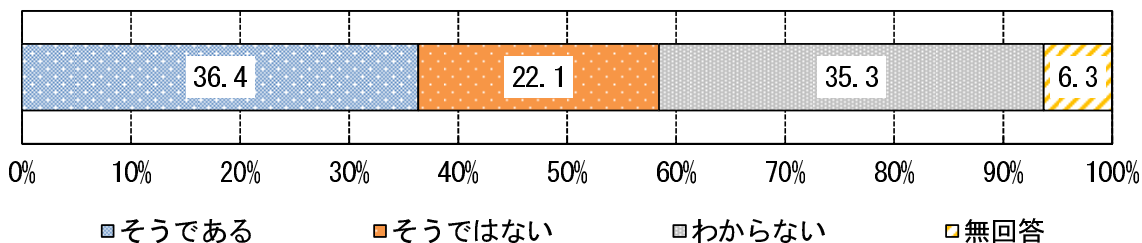


性別、年齢別では、男性の18～39歳、女性の18～49歳で「男女が共にする、または男女を含めた当番です」が他の年齢に比べて低く、年齢が低いほど女性が片付けをしている可能性がある。

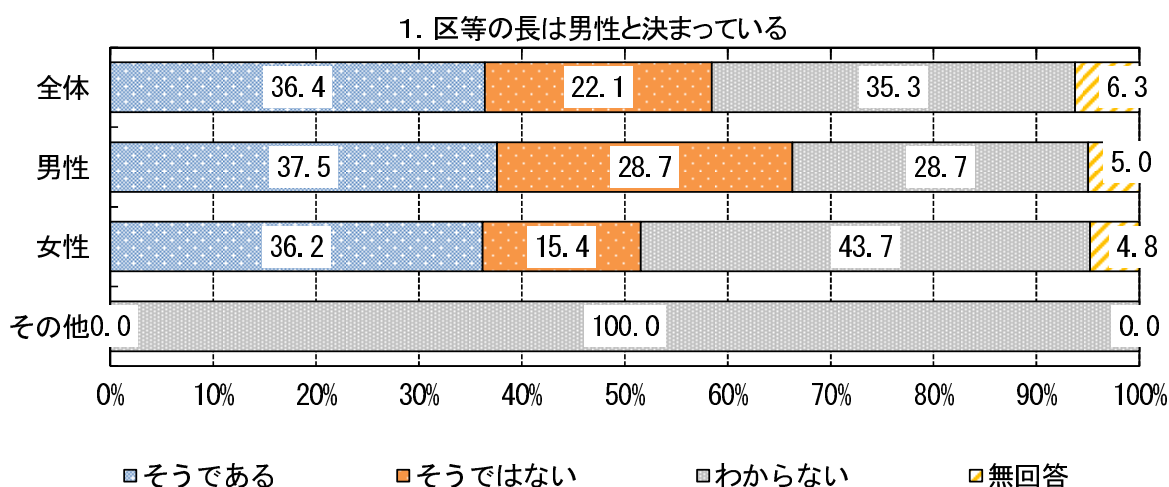
問22 あなたが住んでいる地域では、区等の地域での活動において、次のような事が見られますか。(各項目、1つだけ選び、○をしてください)

1. 区等の長は男性と決まっている

回答数：734

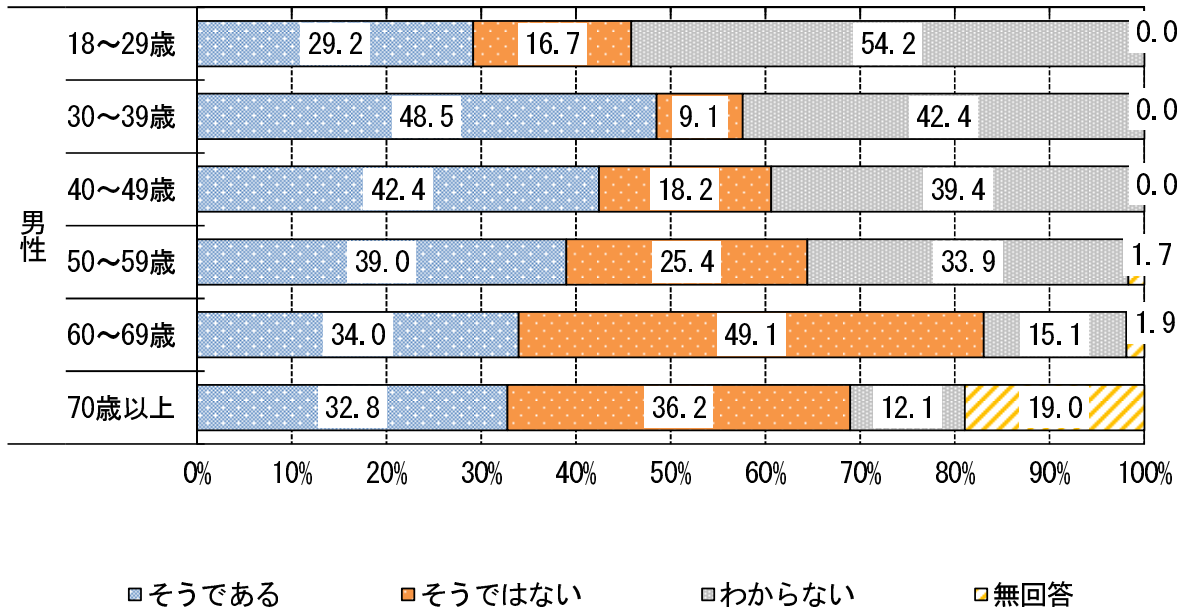


「そうである」が36.4%、「そうではない」が22.1%、「わからない」が35.3%となる。

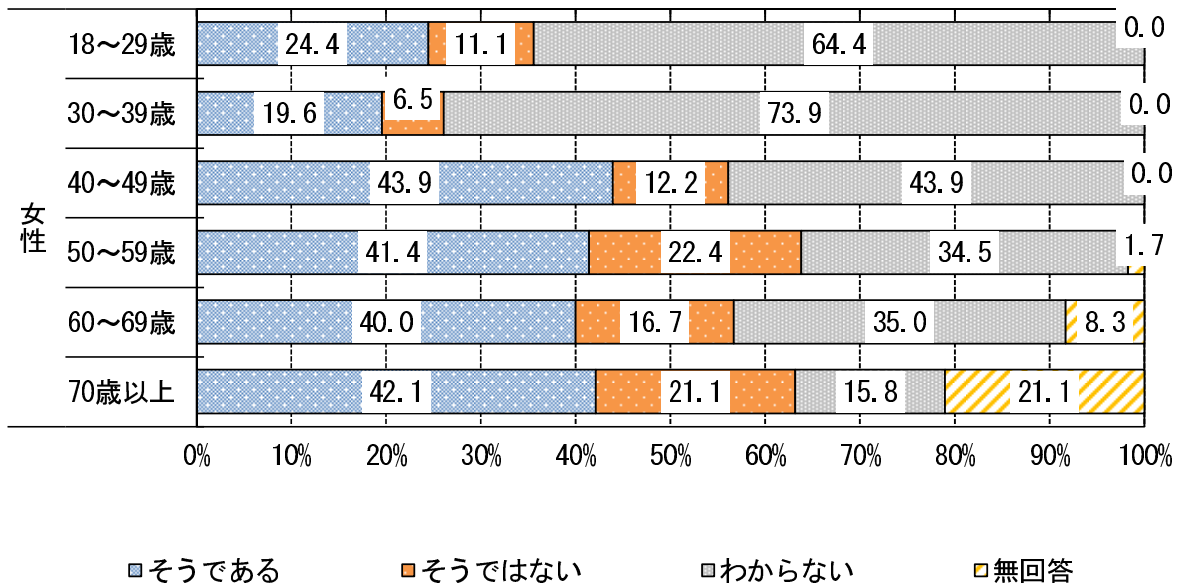


「そうである」は男性が37.5%、女性が36.2%となる。「そうではない」は男性が28.7%、女性が15.4%となり、男性のほうが高い。「わからない」は男性が28.7%、女性が43.7%と女性のほうが高い。

1. 区等の長は男性と決まっている



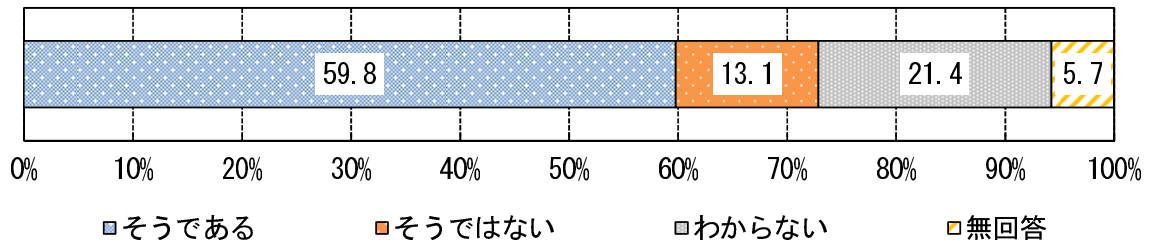
1. 区等の長は男性と決まっている



性別、年齢別では、男性は年齢が高いほうが、「そうではない」の割合が高く、「そうである」が低くなる傾向がある。一方女性の40歳以上は「そうである」が40%程度となり、性別の認識に差がある。

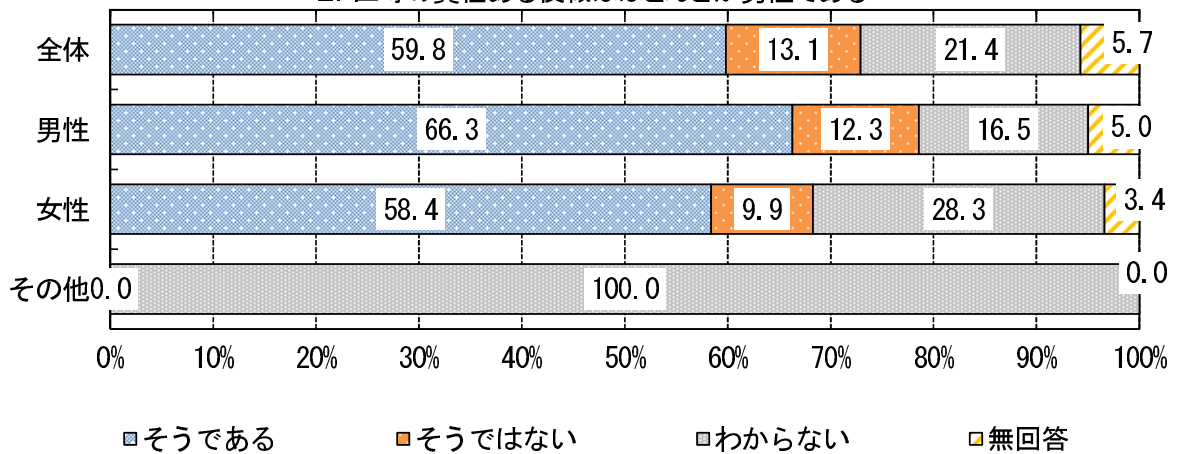
2. 区等の責任ある役職はほとんどが男性である

回答数：734



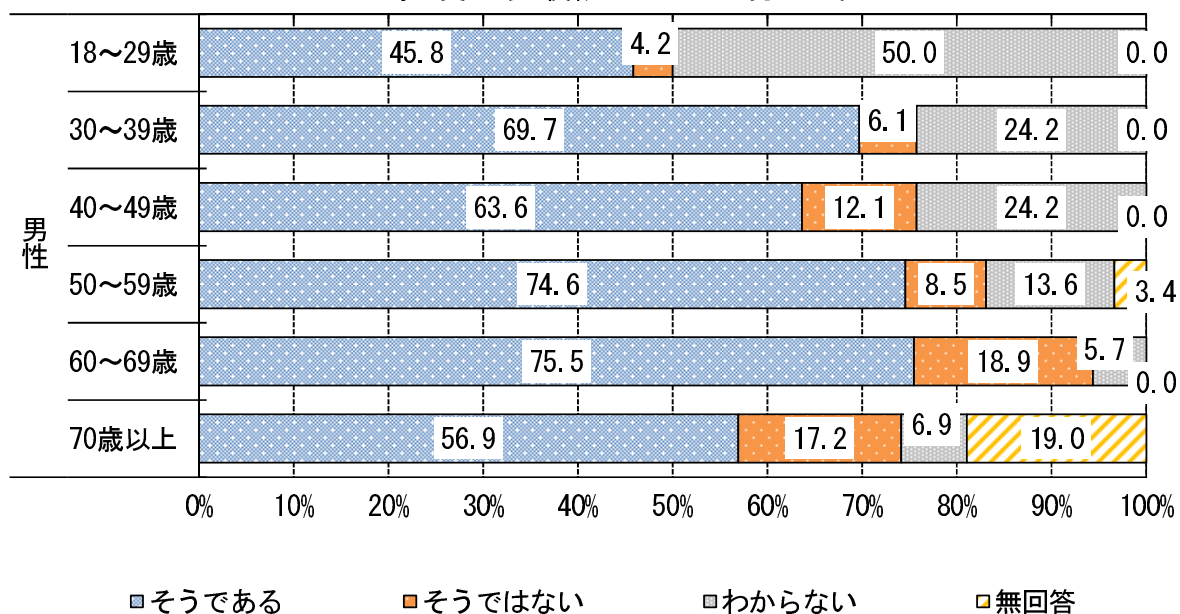
「そうである」が59.8%、「そうではない」が13.1%、「わからない」が21.4%となる。60%程度が役職は男性であると感じている。

2. 区等の責任ある役職はほとんどが男性である

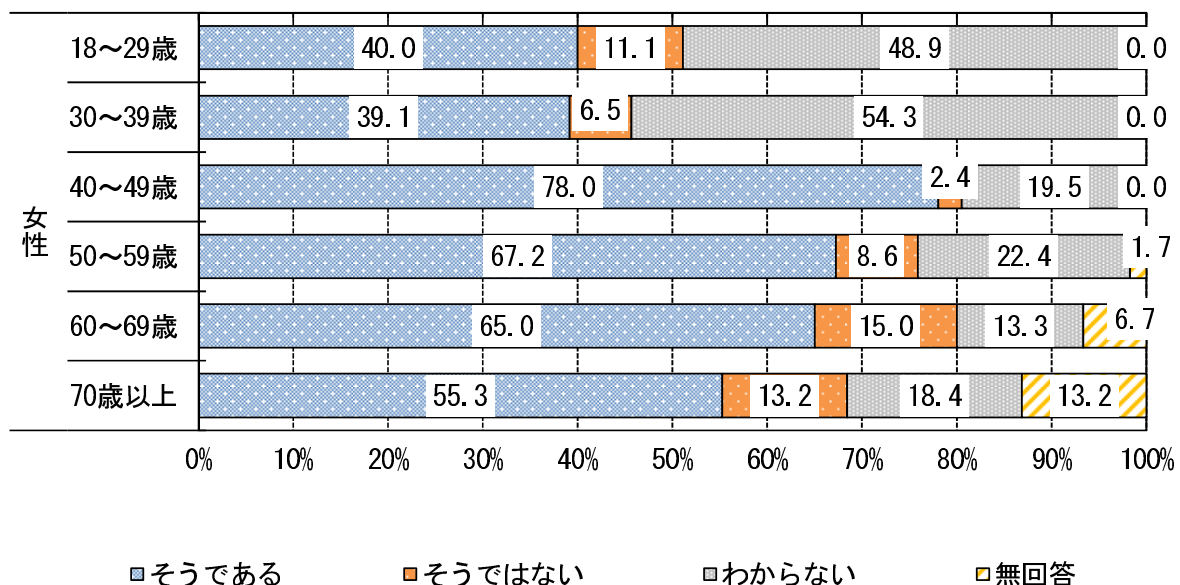


性別では、「そうである」は、男性が66.3%、女性が58.4%と男性が高く、「そうではない」は、男性が12.3%、女性が9.9%と男性が高い。男性は女性に比べて役職に対する考えがはっきりしている。

2. 区等の責任ある役職はほとんどが男性である



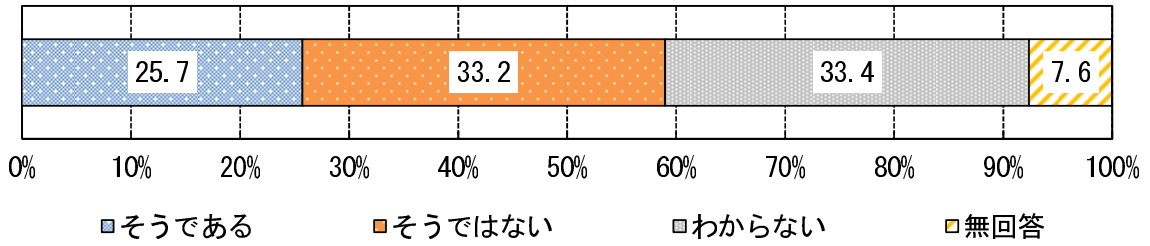
2. 区等の責任ある役職はほとんどが男性である



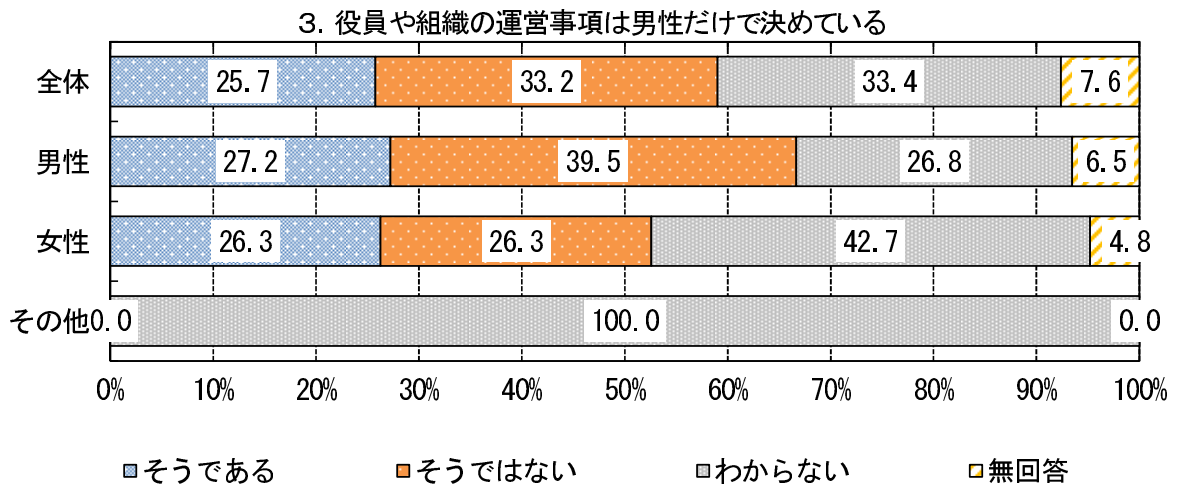
性別、年齢別では、男性の18～29歳、女性の18～39歳で、他の年齢に比べて「わからない」の割合が高いが、これは、地区の活動への参加が他の年齢に比べて少ないためと考えられる。それ以外の年齢では「そうである」の割合が高い。

3. 役員や組織の運営事項は男性だけで決めている

回答数：734

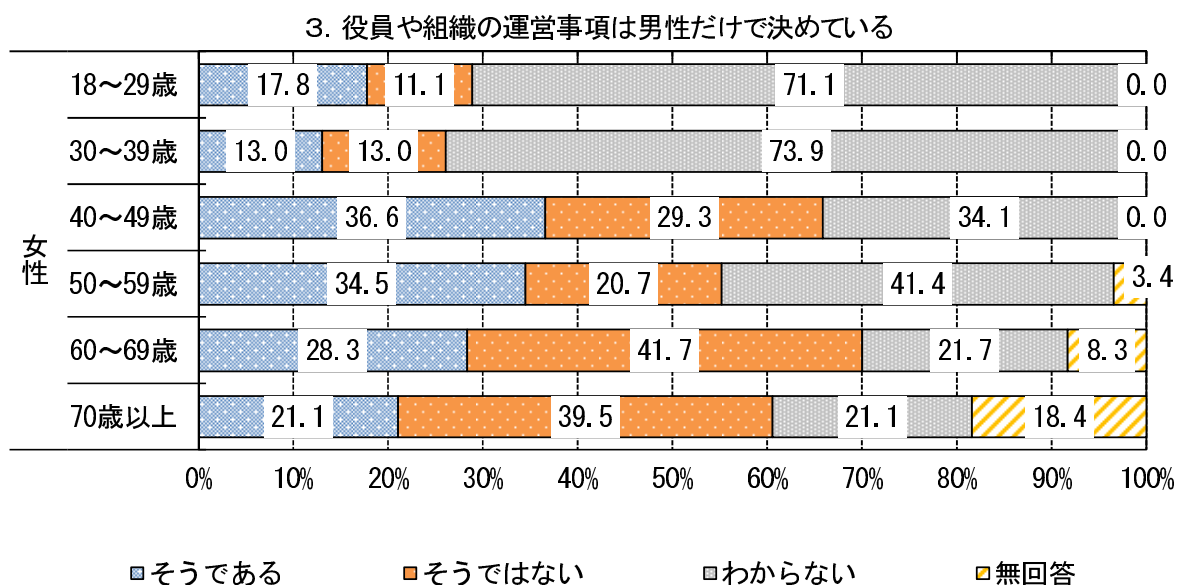
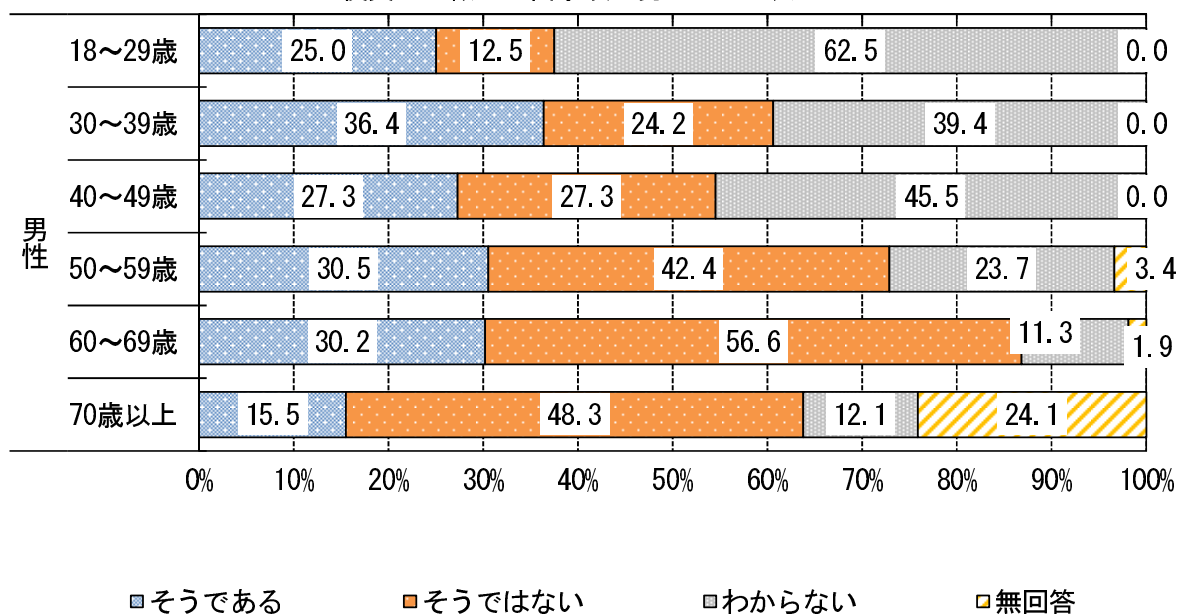


「そうである」が25.7%、「そうではない」が33.2%、「わからない」が33.4%となる。



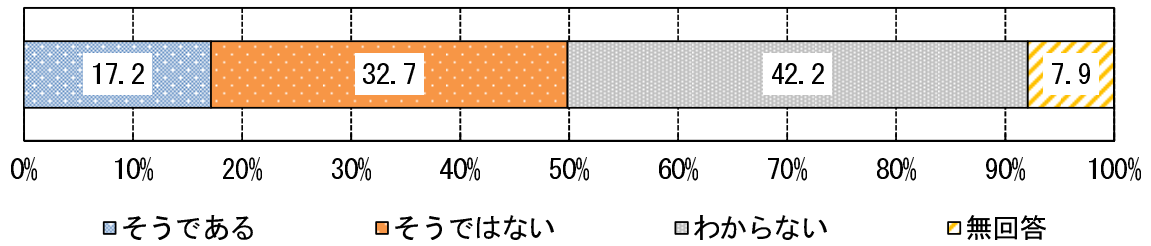
「そうである」は男性が27.2%、女性が26.3%となる。「そうではない」は男性が39.5%、女性が26.3%となり、男性の割合が高い。「わからない」は男性が26.8%、女性が42.7%と女性の割合が高い。

3. 役員や組織の運営事項は男性だけで決めている

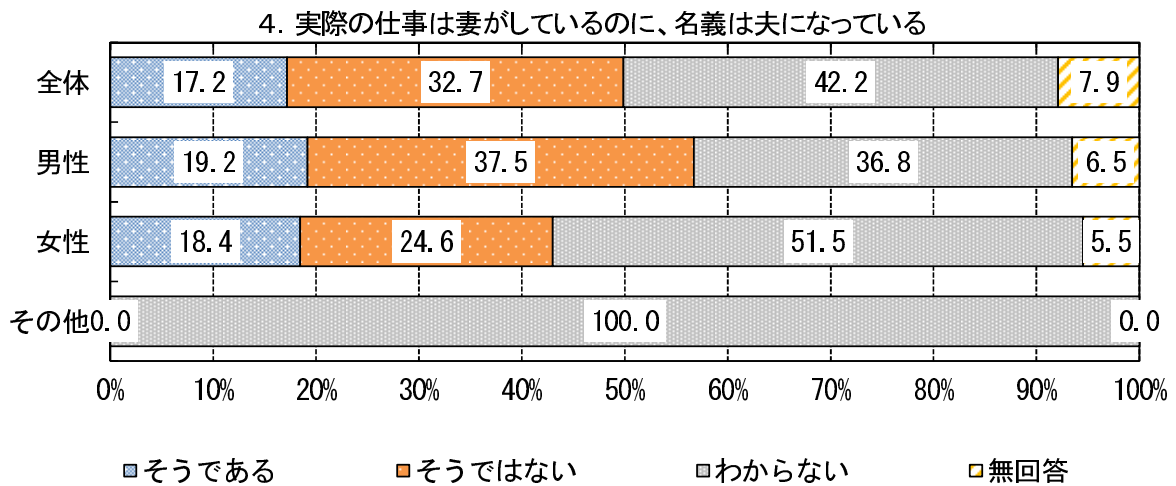


性別、年齢別では、男性の18～29歳、女性の18～39歳で、他の年齢に比べて「わからない」の割合が高いが、これは、地区の活動への参加が他の年齢に比べて少ないためと考えられる。

4. 実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている 回答数：734

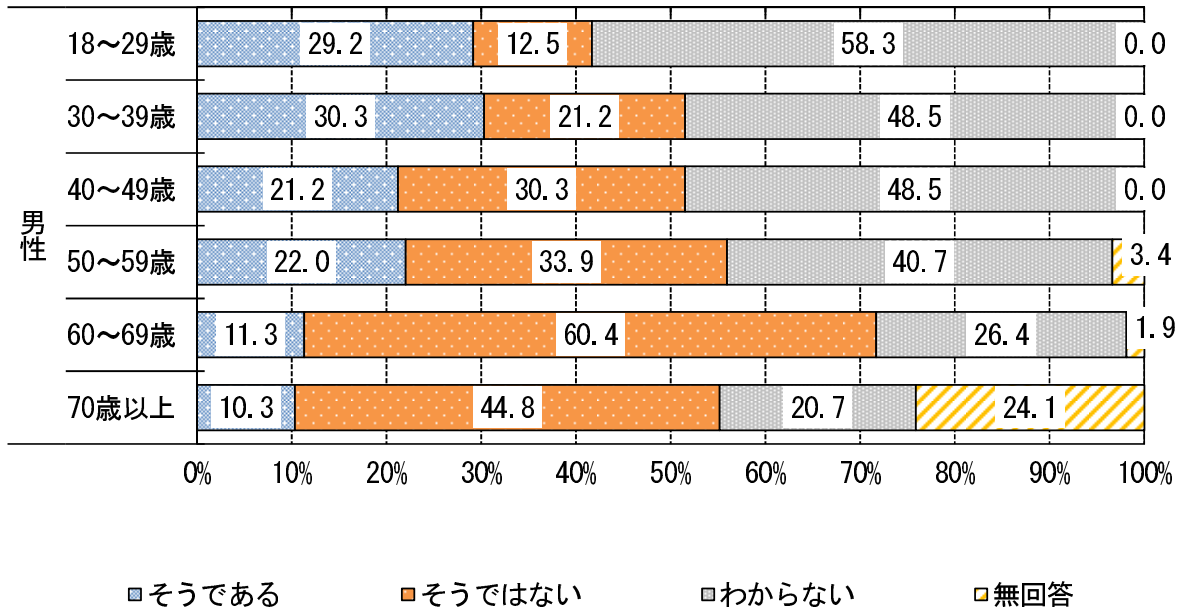


「そうである」が17.2%、「そうではない」が32.7%、「わからない」が42.2%となる。

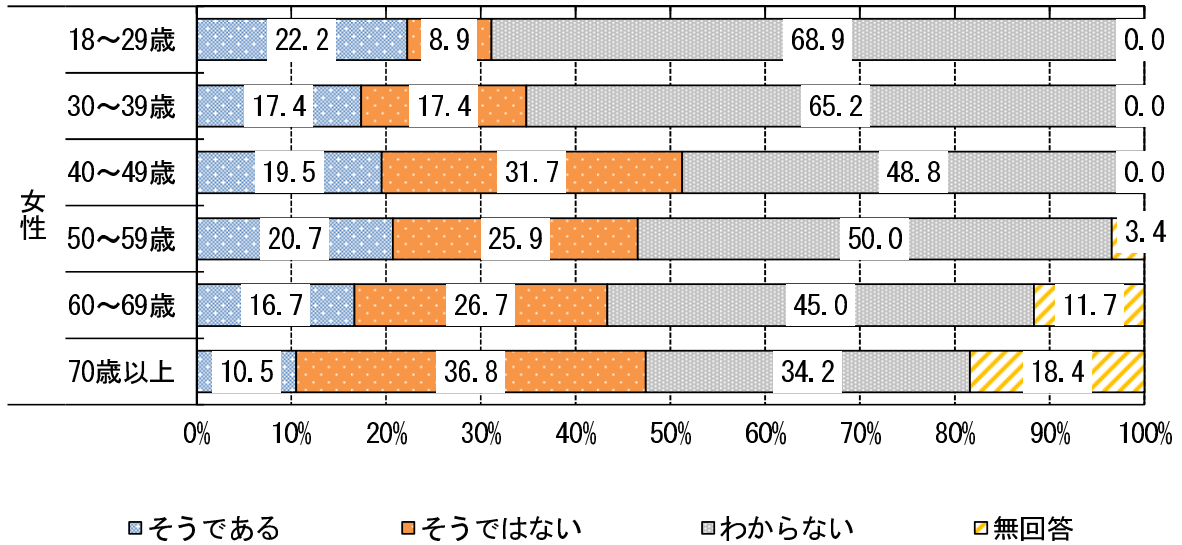


「そうである」は男性が19.2%、女性が18.4%となる。「そうではない」は男性が37.5%、女性が24.6%となり、男性のほうが高い。「わからない」は男性が36.8%、女性が51.5%と女性のほうが高い。

4. 実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている



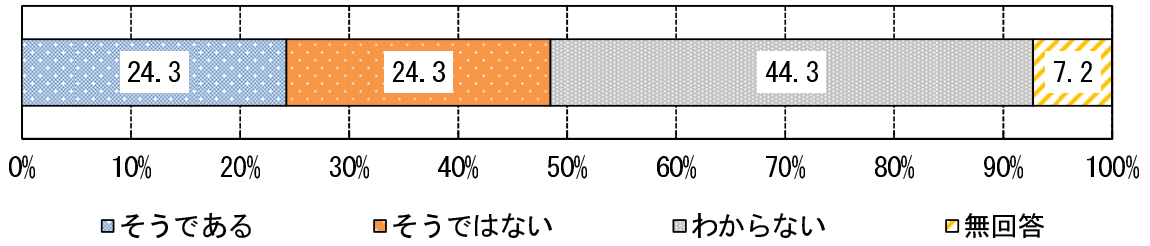
4. 実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている



性別、年齢別では、男女ともに年齢が高いほうが、「わからない」が低くなり、「そうではない」が高くなる傾向がある。また、男性は年齢が高いほうが「そうである」が低くなる。

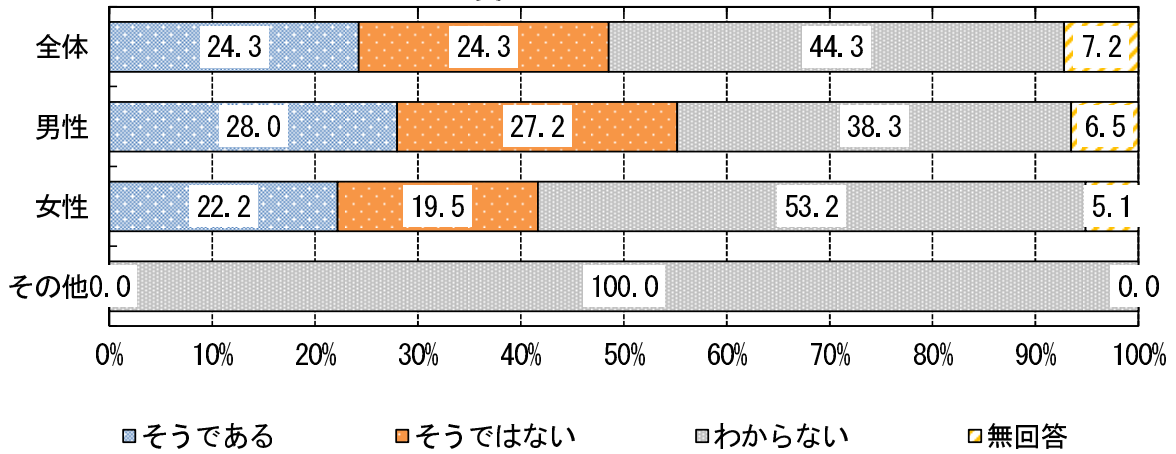
5. 女性自身が責任ある役職に就くのを避けている

回答数：734



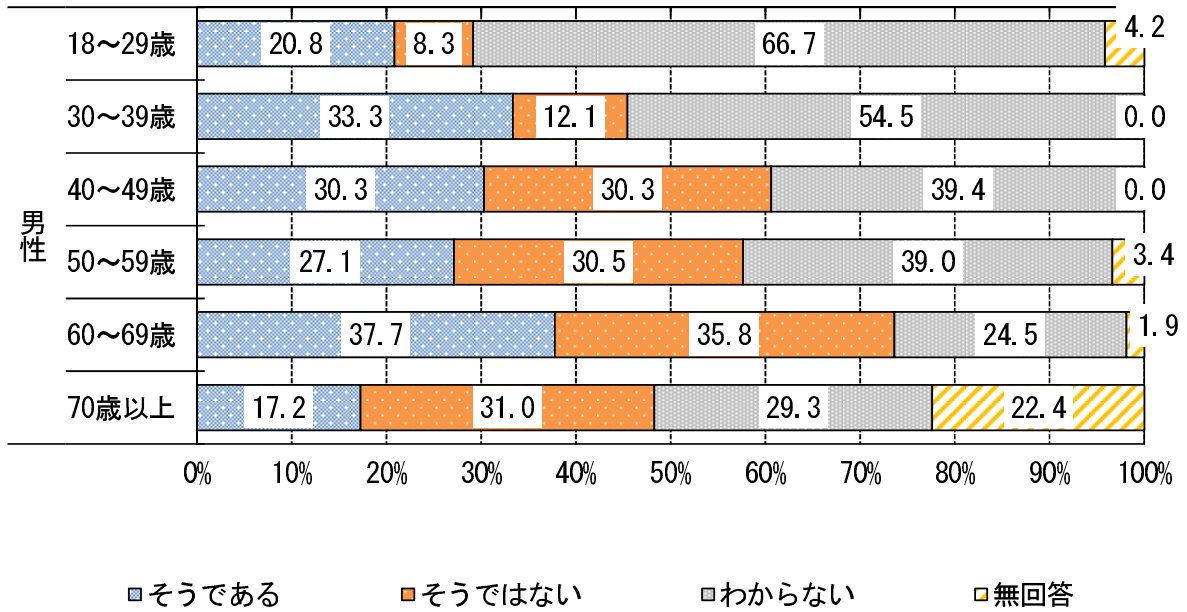
「そうである」が24.3%、「そうではない」が24.3%、「わからない」が44.3%となる。

5. 女性自身が責任ある役職に就くのを避けている

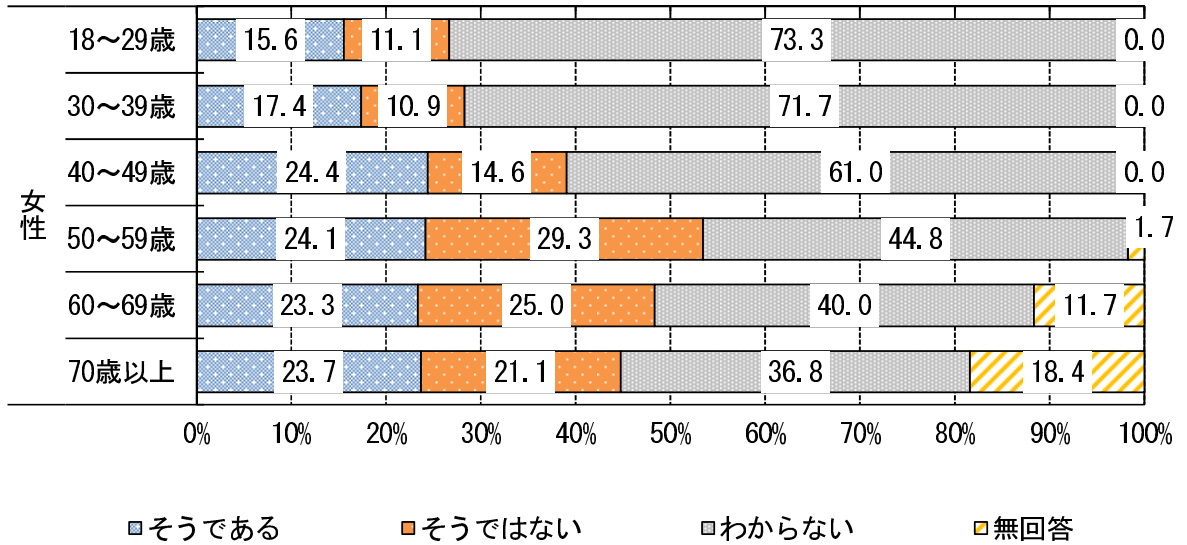


「そうである」は男性が28.0%、女性が22.2%となる。「そうではない」は男性が27.2%、女性が19.5%となる。「わからない」は男性が38.3%、女性が53.2%と女性のほうが高い。

5. 女性自身が責任ある役職に就くのを避けている



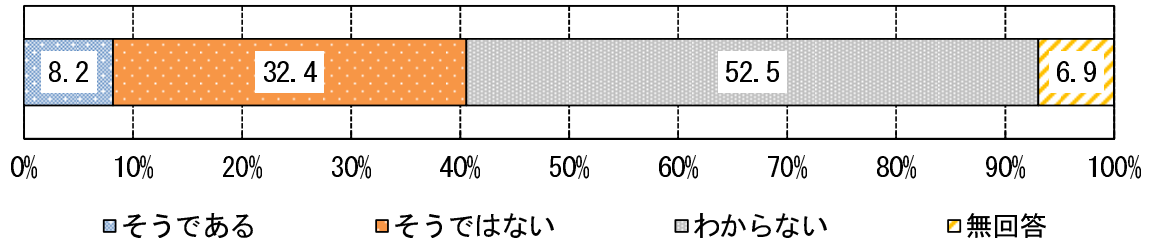
5. 女性自身が責任ある役職に就くのを避けている



性別、年齢別では、男女ともに年齢が高いほうが、「わからない」が低くなり、「そうではない」が高くなる傾向がある。「そうである」は、70歳以上を除くと、男性のほうが女性より高い傾向がある。

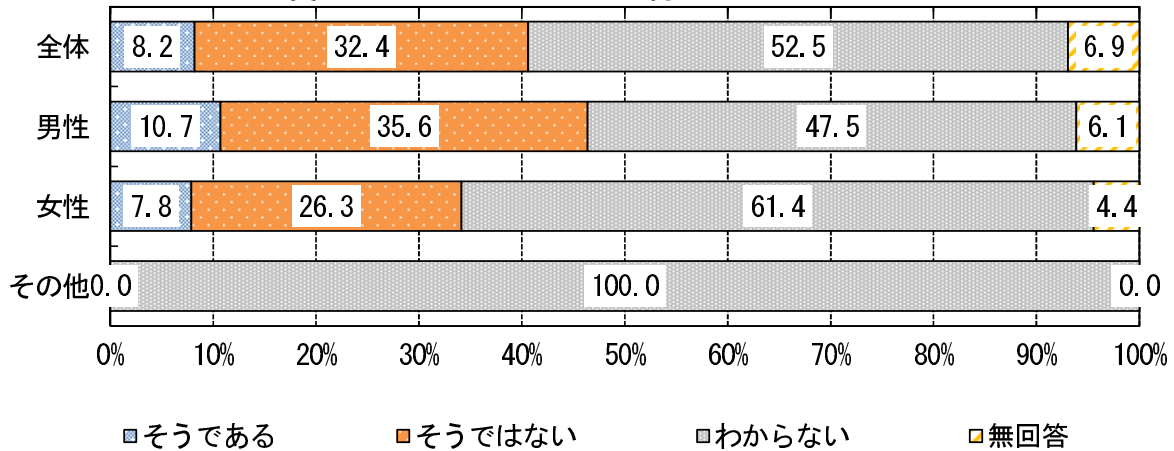
6. 女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される

回答数：734



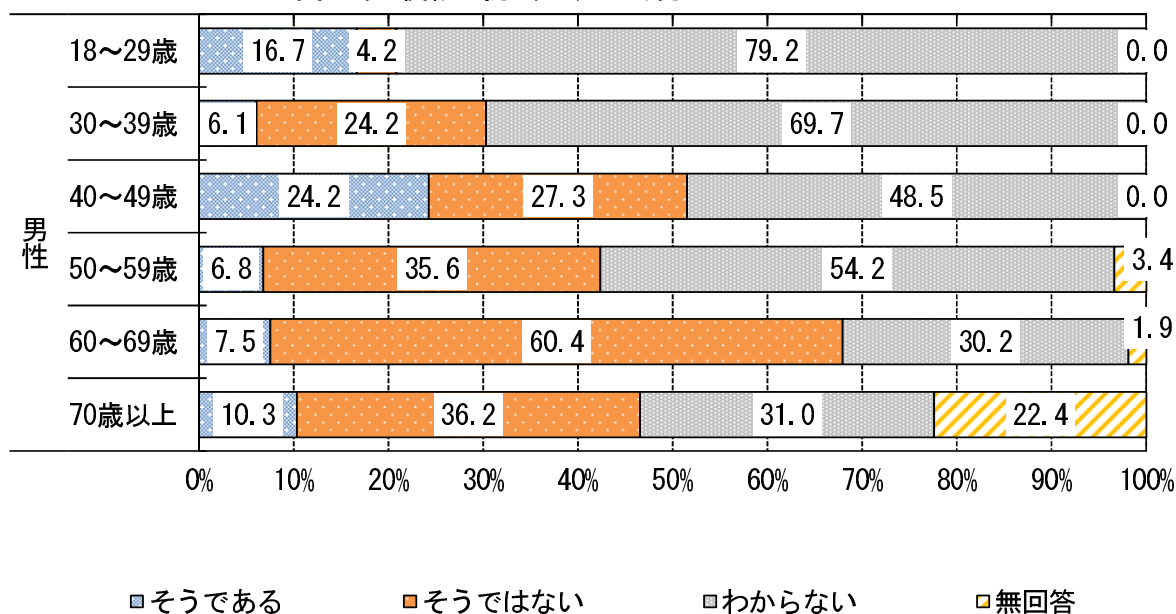
「そうである」が8.2%、「そうではない」が32.4%、「わからない」が52.5%となる。他の項目に比べて、「わからない」が高い。

6. 女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される

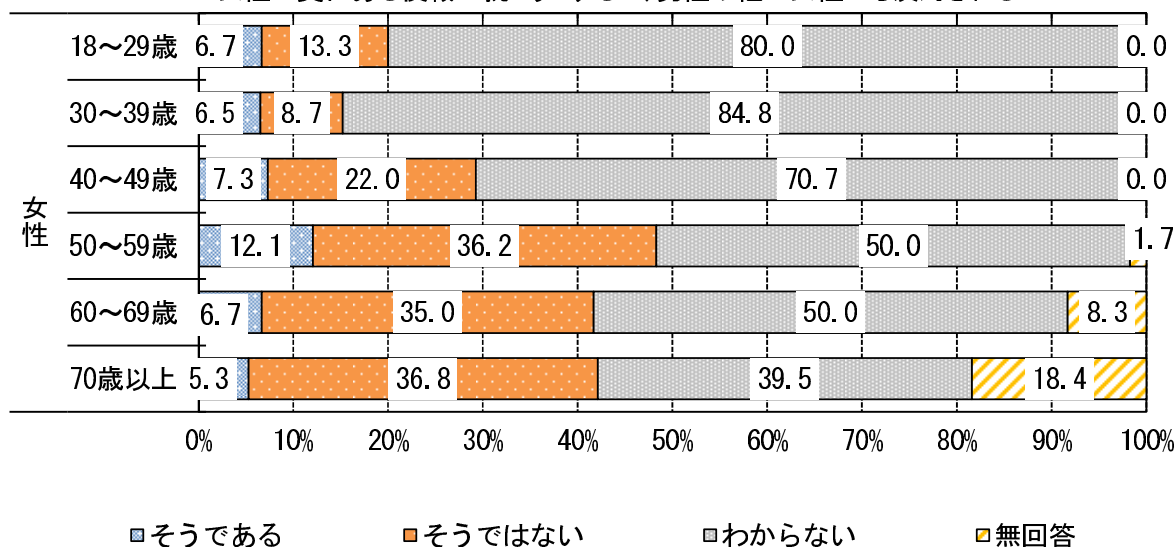


「そうである」は男性が10.7%、女性が7.8%となる。「そうではない」は男性が35.6%、女性が26.3%となる。「わからない」は男性が47.5%、女性が61.4%と女性の割合が高く、他の項目に比べて男女ともに高い。

6. 女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される



6. 女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される

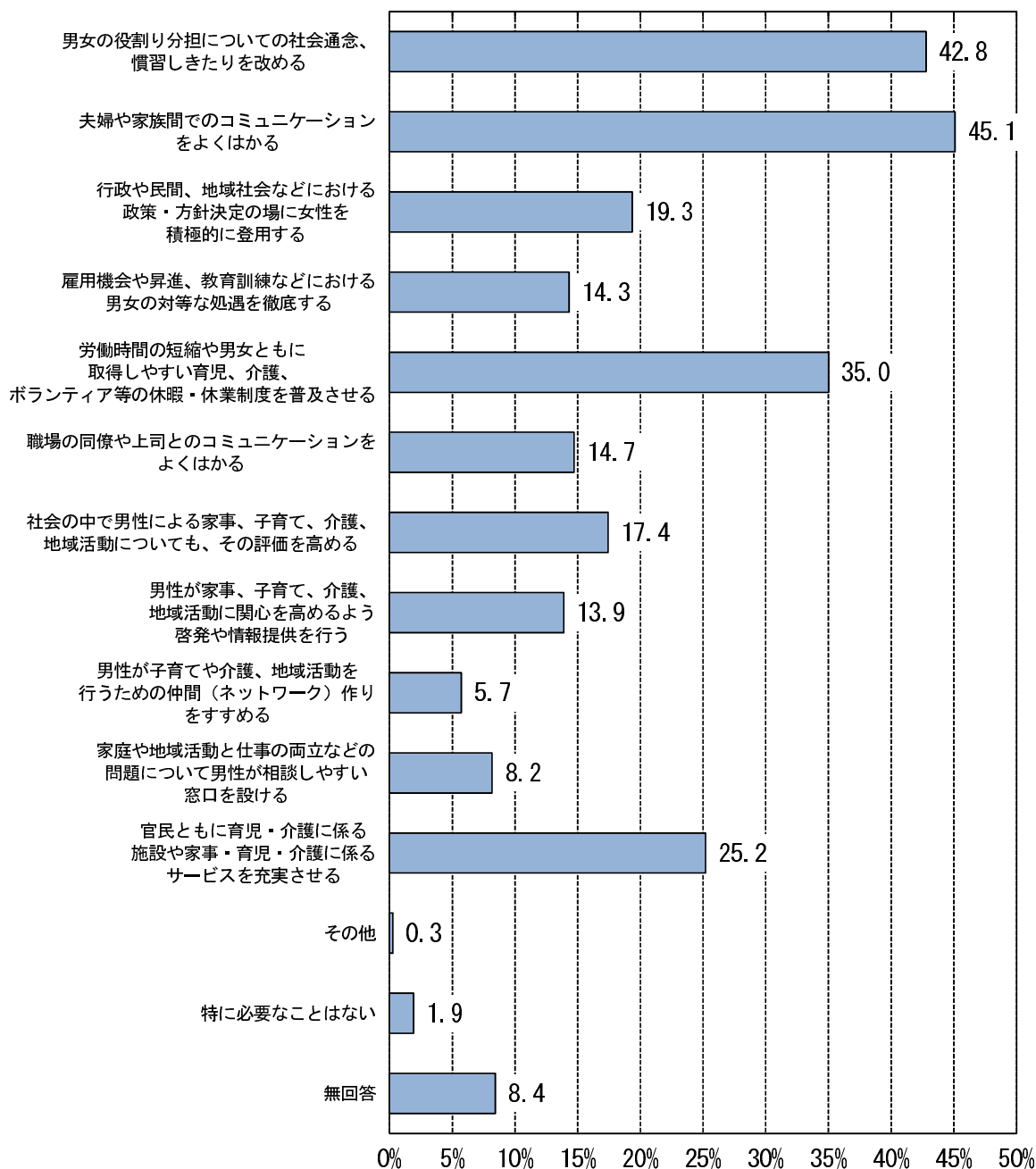


性別、年齢別では、男女ともに年齢が高いほうが、「わからない」が低くなり、「そうではない」が高くなる傾向がある。

問 2 3 今後、女性と男性がともに仕事、家庭、子育て、介護、地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。（3つまで選び、○をしてください）

女性の社会参加に重要な事

回答数：734

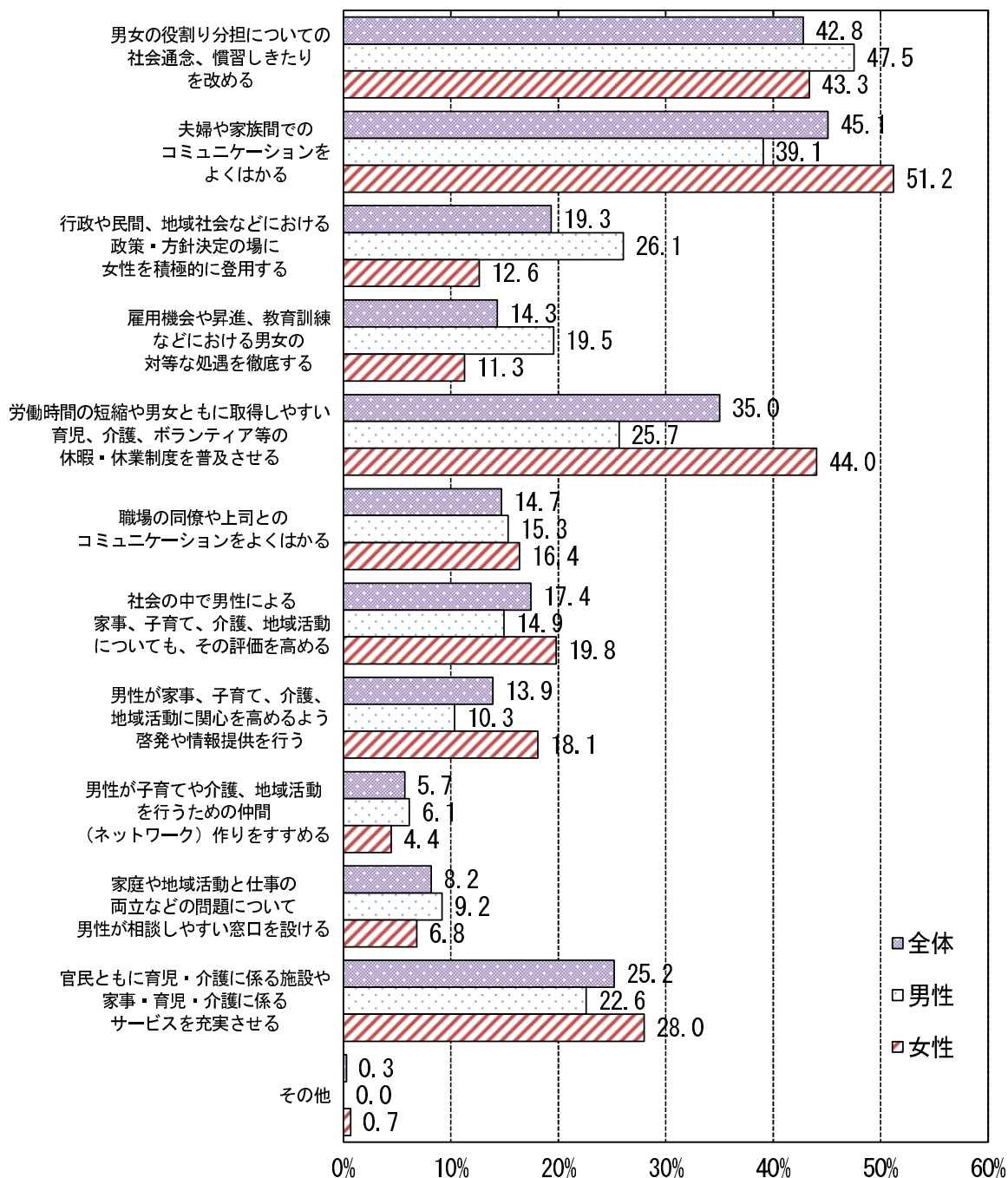


「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が45.1%と最も高く、次いで、「男女の役割り分担についての社会通念、慣習しきたりを改める」が42.8%、「労働時間の短縮や男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」が35.0%と高い。

【女性の社会参加に重要な事「その他」の記述内容（一覧）】

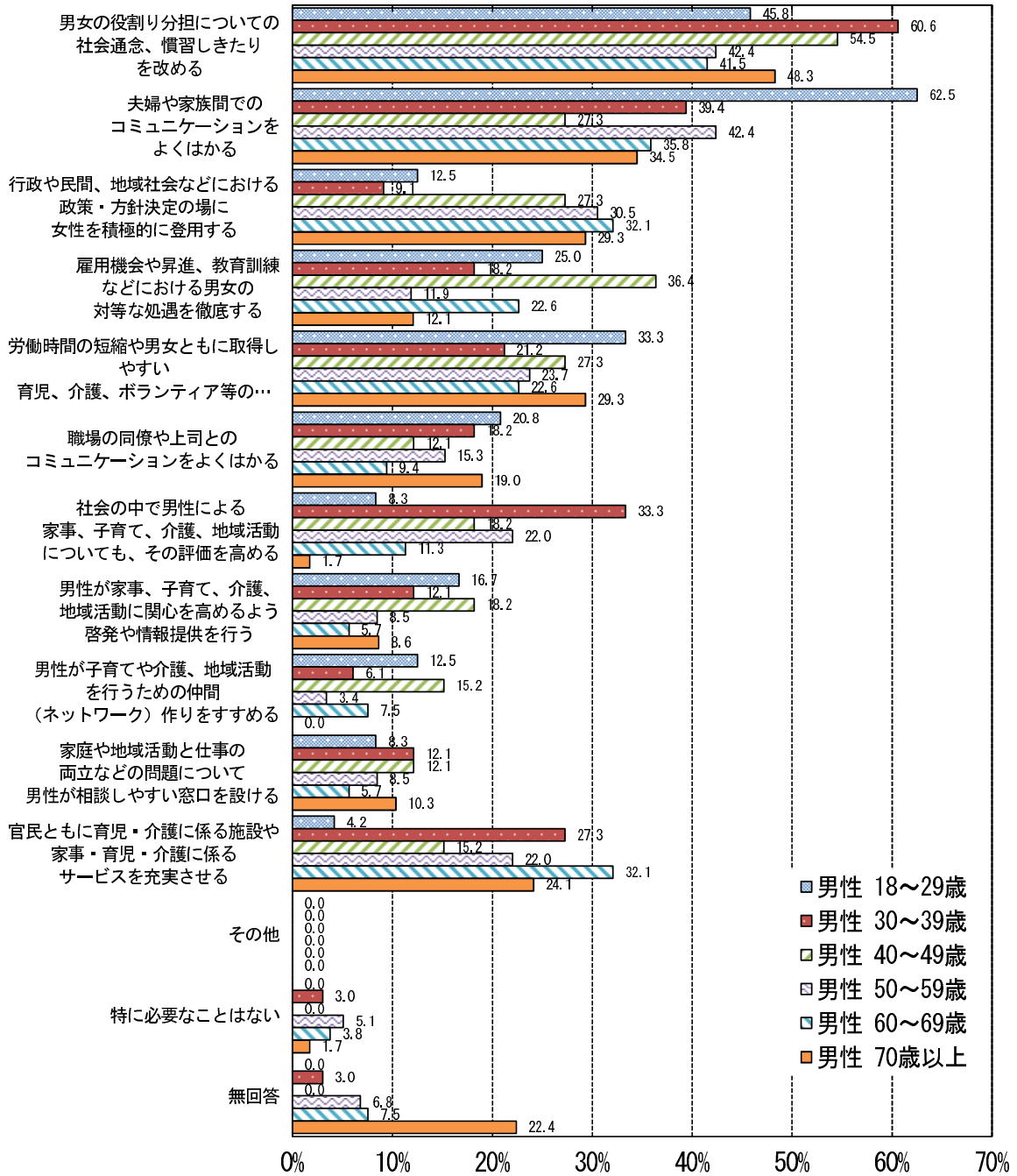
- 7番おかしくないですか？男だと評価高めてもらえるんですね。（女性／18～29歳／会社員／中野）

女性の社会参加に重要な事



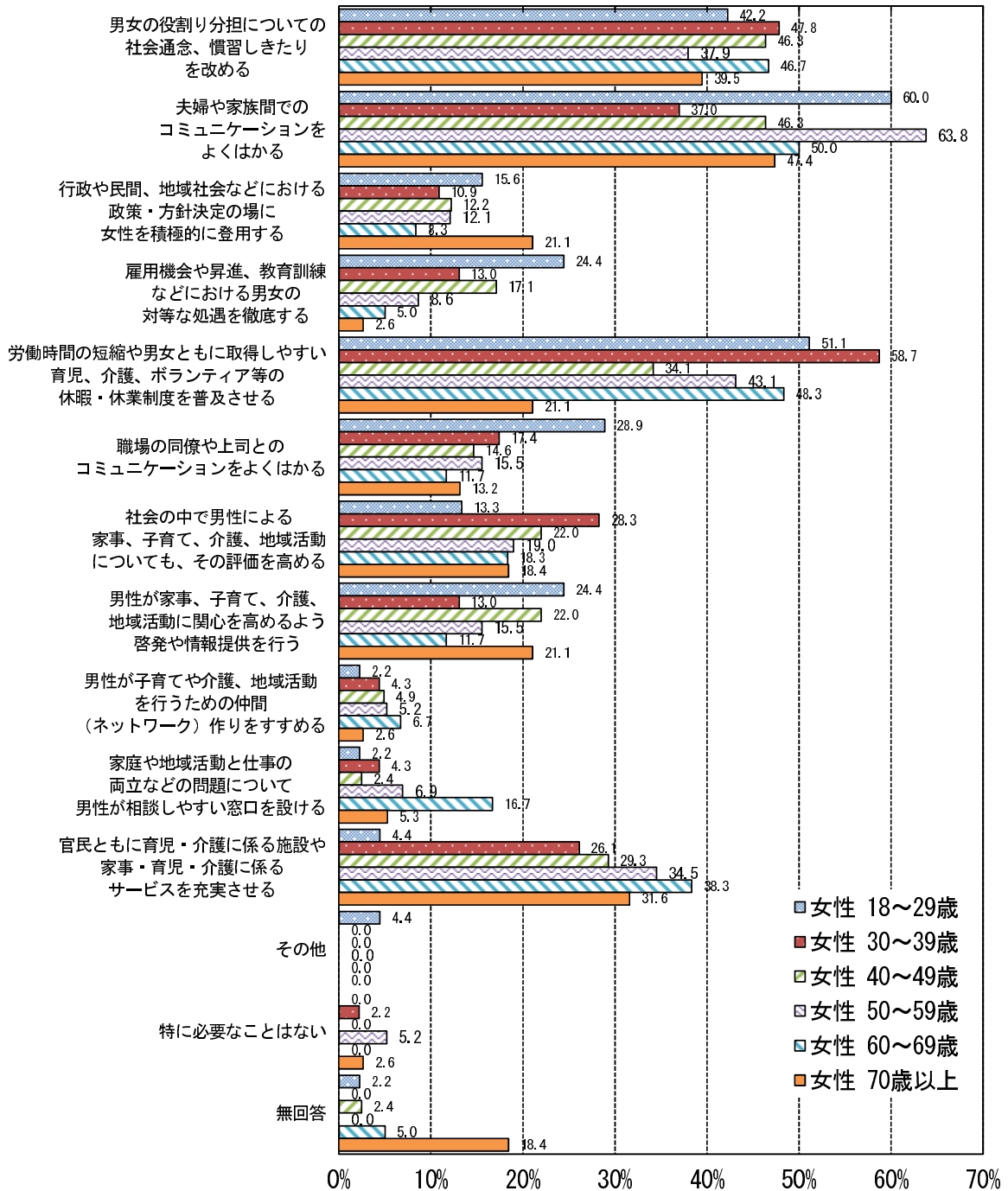
性別では、男性は、「男女の役割り分担についての社会通念、慣習しきたりを改める」が最も高く、次いで、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が高い。女性は、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が最も高く、次いで、「労働時間の短縮や男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」が高い。また、「労働時間の短縮や男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」は男性が25.7%、女性が44.0%と差が大きい。女性のほうが、制度等に対する要望が多いが、これは、実際に子育て等の際に、制度等による障害を経験したためと考えられる。

女性の社会参加に重要な事



性別、年齢別では、男性は、18～29歳を除いて、「男女の役割り分担についての社会通念、慣習しきたりを改める」が最も高い。18～29歳は「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が最も高い。

女性の社会参加に重要な事

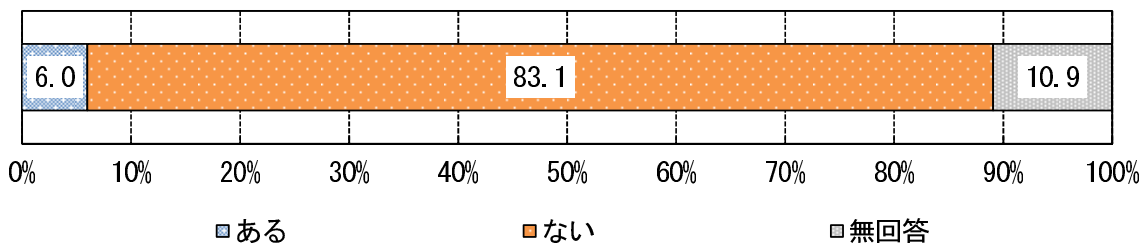


性別、年齢別では、女性は、30~39歳を除いて、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が最も高い。なお、男女ともに、18~29歳は「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が最も高い。育児がある年齢と考えられる18~39歳は他の年齢と比べて、「労働時間の短縮や男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」が高く、制度による支援を必要としていると考えられる。

問24-1 あなたは、男女共同参画を意識して実行していることがありますか。(1つだけ選び、○をしてください)

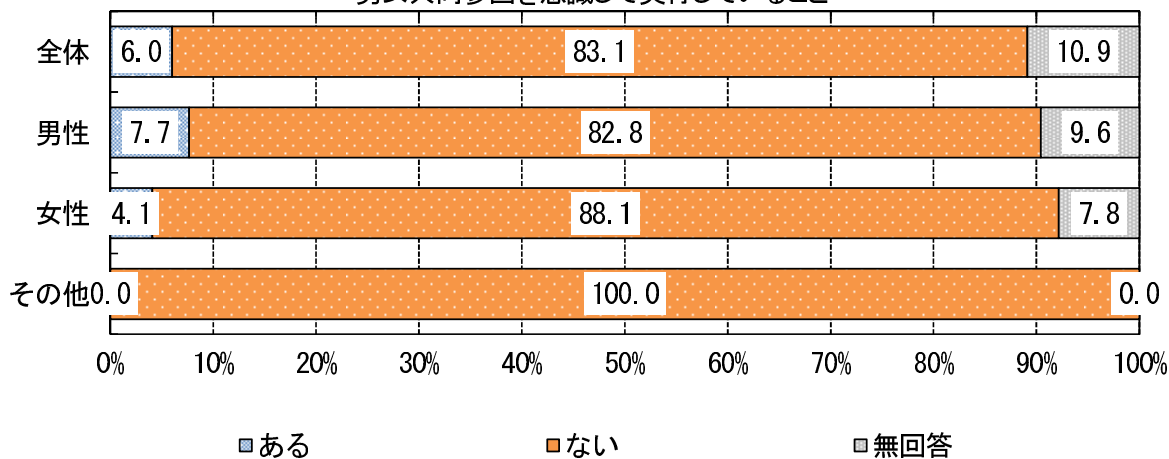
男女共同参画を意識して実行していること

回答数：734

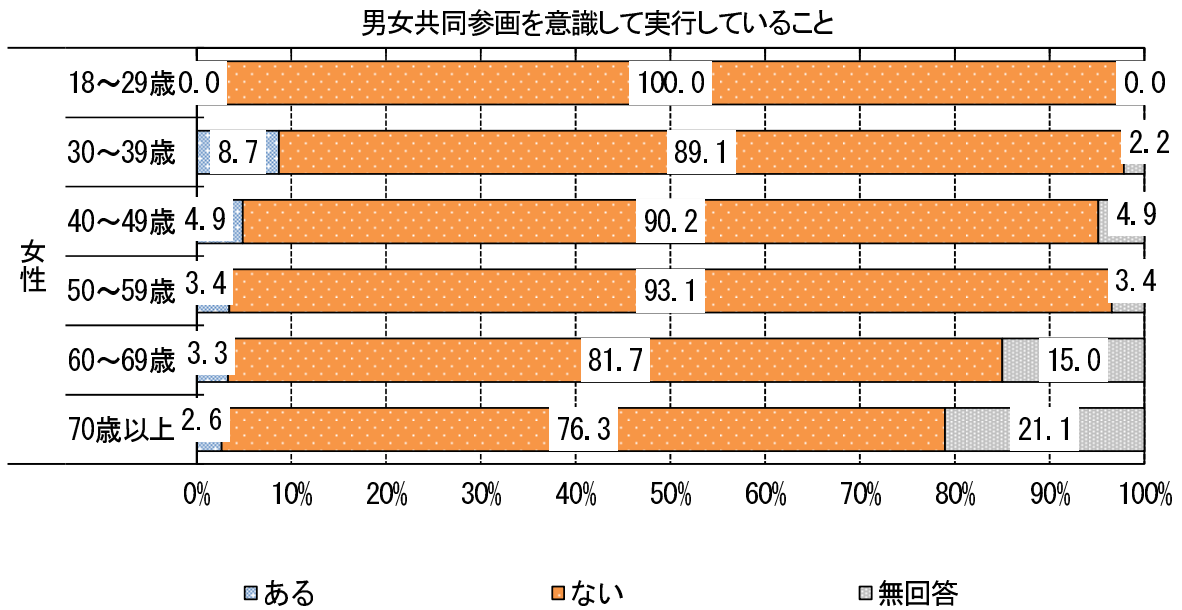
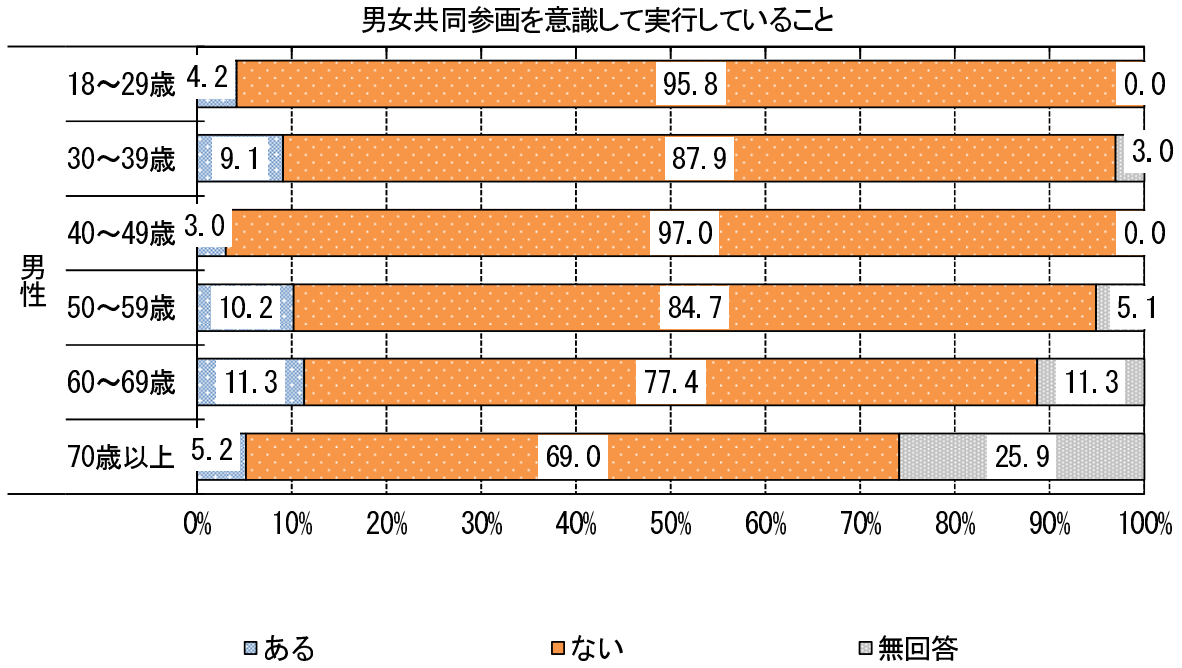


「ある」が6.0%と低い一方、「ない」が83.1%と高い。

男女共同参画を意識して実行していること



性別では、「ある」は男性が7.7%、女性が4.1%と男性の方が高い。



性別、年齢別では、男性の30~39歳、50~69歳が高く、女性は30~39歳が高い。男女ともに70歳以上は「わからない」が高い。

問24-2 問24-1で、1を選んだ方に伺います。男女共同参画を意識して実行していることはどのようなことですか。(自由記述)

【男女共同参画を意識して実行していることの内容】

- 話し合う
- 性的な差異を認めたとえでの得手不得手に応じた柔軟な役割分担での協力
- 女性だからという固定観念をもたず、できる限り分担している

【男女共同参画を意識して実行していることの記述内容（一覧）】

- 地域での集りには、以前は全て夫に出席して頂いていましたが、夫の代理で出た際あまりに知らないが多すぎたため（夫からの集り後の報告等も全くなかった事も原因）、もっと地域の事に積極的に関わり、”地域に我が家を知って頂き、我が家も地域を知る”という相互関係を強く結ぶことができるよう、また、親がそうすることで、子どもたちも地域と強く結ばれるよう、会議や行事には積極的に参加しています。(女性/30~39歳/パート・アルバイト/科野)
- 家事・育児・介護は女性がやるものと思わないようにする(女性/30~39歳/パート・アルバイト/中野)
- 子供の参観日などの行事は夫と話し合っただけで半分ずつになるようにしている(女性/30~39歳/会社員/中野)
- 家庭内での常識や、しきたりを気にしないで、暮らしています！(女性/30~39歳/農林業/平岡)
- 子育てや介護に男性も参加する(女性/40~49歳/公務員/高丘)
- 共働きであり、家のこと、学校の行事も、お互いに参加している。(女性/40~49歳/公務員/中野)
- 食事は共同(女性/50~59歳/会社員/平野)
- 仕事でも地域活動でも役がきたら断らないようにしたり会合で意見をいうようにしている(女性/50~59歳/農林業/中野)
- 男女共同参画の意味がよくわからないのだが、男の人ができそうなことは、頼んでやってもらっている。(女性/60~69歳/パート・アルバイト/豊井)
- 夫婦共何事も相談協力して生活してる(女性/70歳以上/家事専業/平岡)
- 人権配慮(男性/18~29歳/公務員/平岡)
- 常に男女平等には気を付けている(男性/30~39歳/会社員/平岡)
- 考えや行動で常にそのように行動しようとする。(男性/30~39歳/会社員/平野)
- 家事の両立(男性/30~39歳/農林業/中野)
- 出来る限り、家事、育児は分担(男性/40~49歳/会社員/平野)
- 職場でのお茶出しや清掃の分担。(男性/50~59歳/パート・アルバイト/中野)
- 仕事の人員配置やリーダー選定の際は、男性・女性は関係なく、人力・力量で考える(男性/50~59歳/会社員/中野)
- 社会的、固定的なジェンダーではなく、自分のパートナーの個性や得手不得手に応じた柔軟な役割分担で協力しあっている(男性/50~59歳/公務員/平野)
- 家事をおこなう。性的差違にあつた（認めた上での）分業と協業(男性/50~59歳/公務員/倭)
- 推進委員の経験あり(男性/50~59歳/自営業/平岡)

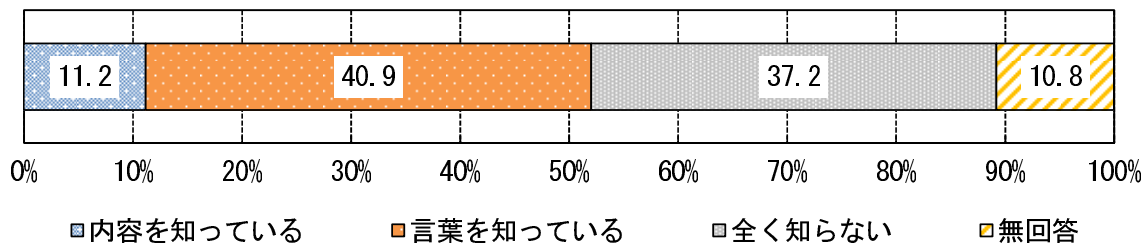
- 先ずは家庭内からと思い、妻と視線を合わせることに気を付けています(男性/60~69歳/パート・アルバイト/平野)
- 勤務先での人事考課(男性/60~69歳/会社員/平岡)
- 意識しなくてもできる事をお互いにやる。そんなのあたりまえ(男性/60~69歳/自営業/中野)
- 適材適所(男性/60~69歳/農林業/延徳)
- 自分で出来る事は自分です。思いやりの気持ちだと思う(男性/60~69歳/無職/中野)
- それぞれの考え(男性/70歳以上/農林業/中野)
- 地区の事業等で行う仕事は男女一緒に行ふ(男性/70歳以上/無職/平野)
- 二人(夫婦)で何でも話しあって決める(無回答/50~59歳/公務員/中野)
- 家事を年寄りがなくなってから主人は少しずつ行っている(無回答/60~69歳/家事専業/延徳)
- 常に男女平等を意識し実行している(家事全般)(無回答/60~69歳/家事専業/長丘)
- 文学作品を読む会を作る。私は、人生小学校 ●●●研究で教科作り15年。学校が終わり県の社教へ老人福祉事業で全県●●では、写経を●●、今年25年目。生徒の皆さんと楽しんでいます。県の福祉に全県を歩き全県と老人福祉長野老人社会福祉事業推進を進めた。全国大会も出席し、受賞まで●し経った。今93歳(無回答/その他/平野)
- 先日「仏教め 超超と実在」本を求め感想として原稿紙32枚書き、写経を役員・知っているお寺へ送りました。市内はこれからです。(無回答/70歳以上/その他/平野)
- 年金は自由に使う。趣味や交際に口出ししない。(無回答/70歳以上/農林業/中野)
- 民生児童委員選出に当り、男女関係なく適任者をお願いしている(無回答/70歳以上/農林業/豊井)
- 社会奉仕 その他(無回答/70歳以上/無職/中野)
- 家事(無回答/70歳以上/無職/中野)
- とにかく平等という意識は高く持っていきたいです。(無回答/無回答/無回答/無回答)
- 例として食事の用意の時など「手伝って」ではなく「あなたの出番ありヨ」と声をかけていると、だんだんに出番が多くなり日々「今日はおれの出番あるのか」と問うようになってきました。作業ばかりでなく味見の出も作りだんだんとかいだんを一步ずつ上ってくれているように思う(無回答/無回答/無回答/無回答)
- 夫婦間でよく話し合い、行動を評価し、認め合っている。夫(妻)に負担になることはできるだけ避けて共に支え合う。(無回答/無回答/無回答/無回答)

施策等について

問25 男女共同参画社会に関する次のことがらをご存知ですか。(各項目、1つだけ選び、○をしてください)

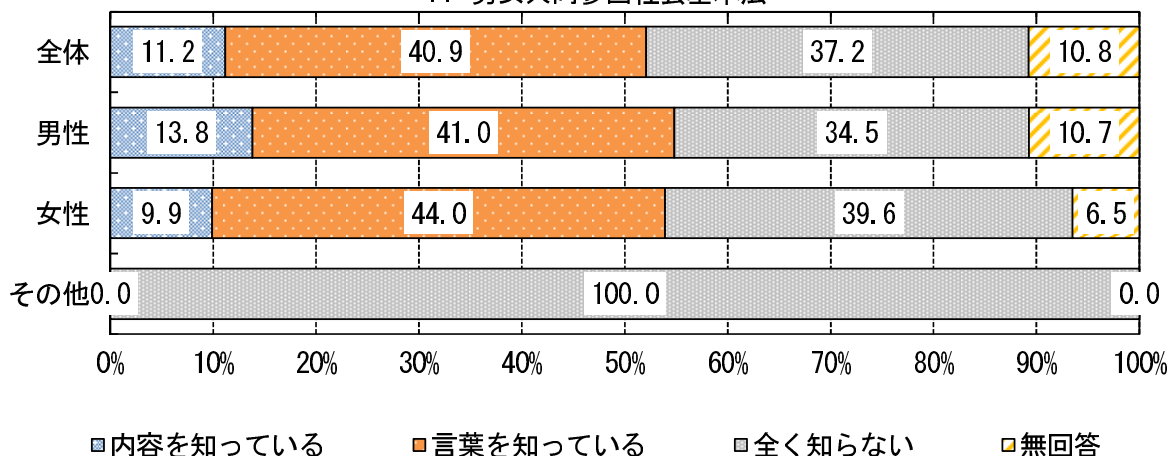
1. 男女共同参画社会基本法

回答数：734



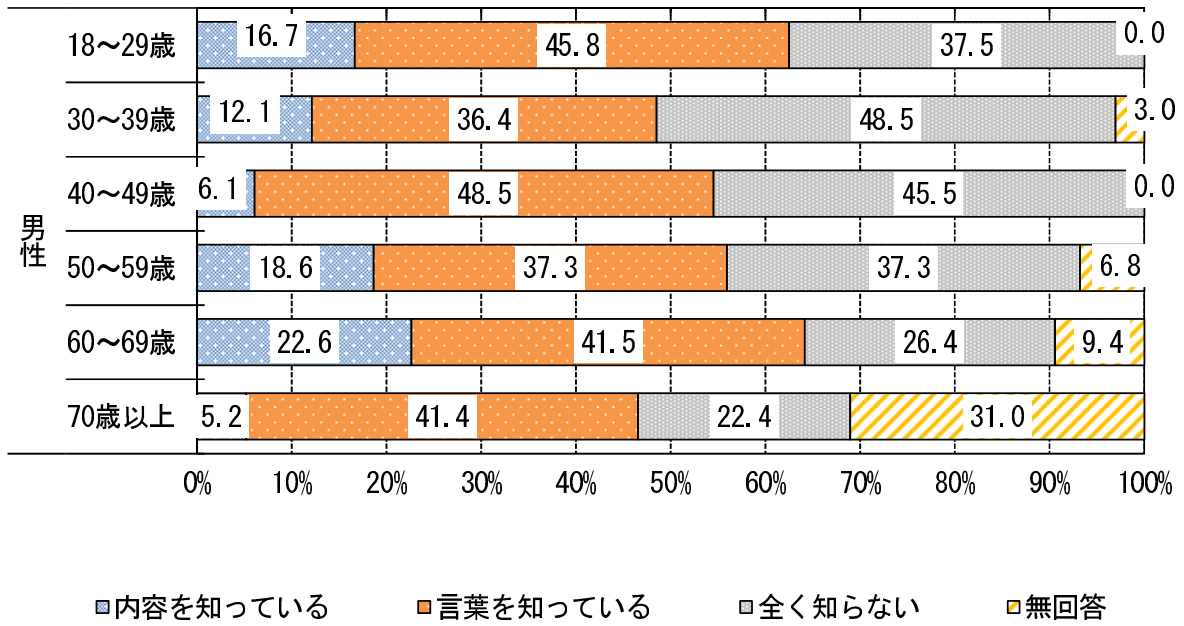
「内容を知らない」が11.2%、「言葉を知っている」が40.9%となり、合わせた認知度は52.1%と半数程度となる。一方、「全く知らない」は37.2%となる。

1. 男女共同参画社会基本法

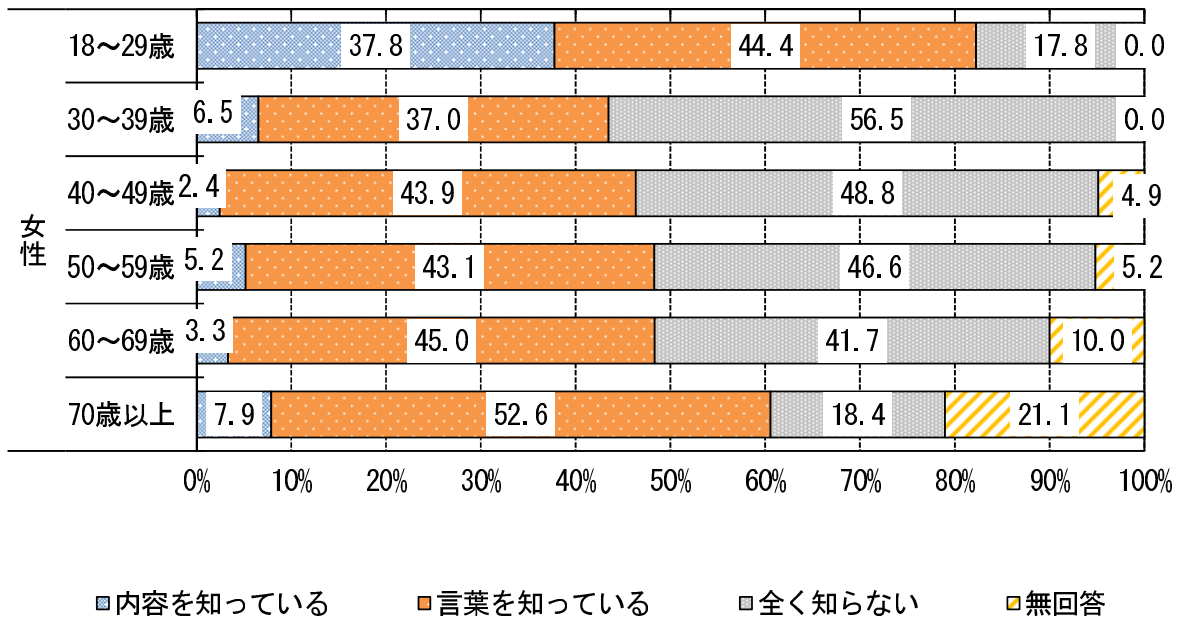


性別では、「内容を知らない」は男性が13.8%、女性が9.9%、「言葉を知っている」は男性が41.0%、女性が44.0%となり、合わせた認知度は男女同程度となる。

1. 男女共同参画社会基本法



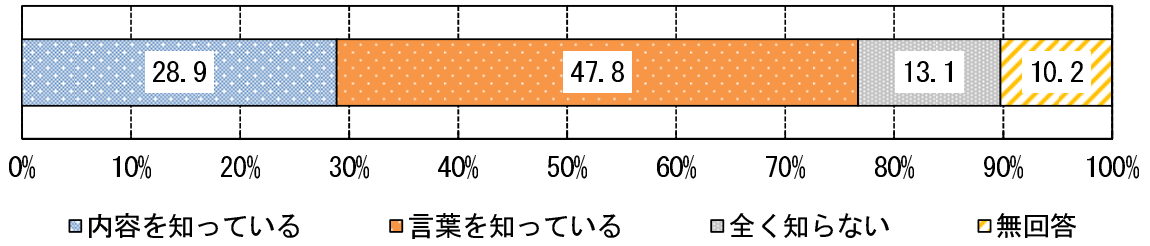
1. 男女共同参画社会基本法



性別、年齢別では、認知度は、男性は60~69歳が64.1%と最も高く、女性は18~29歳が82.2%と最も高い。男性の30~49歳、女性の30~69歳は「全く知らない」が40%を超え、全体と比べて高い。

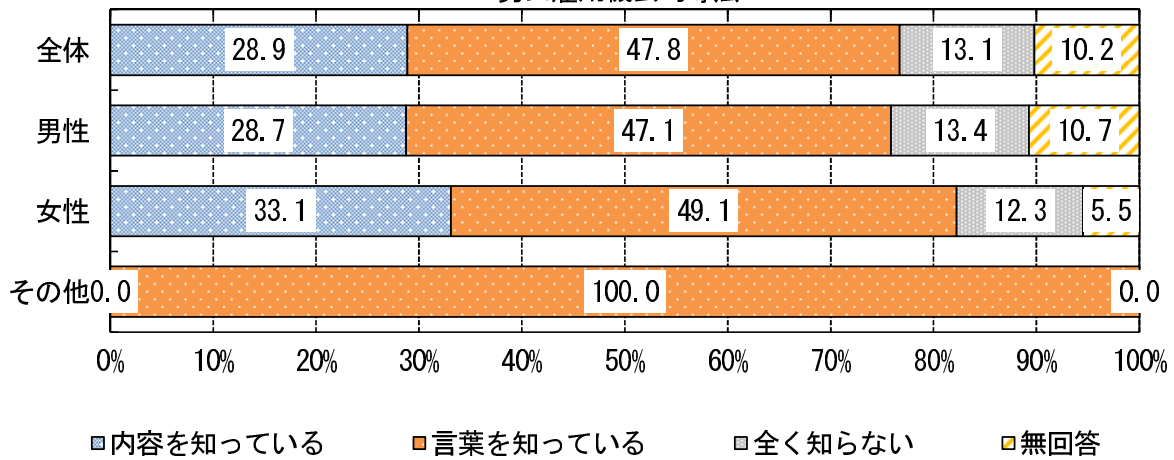
2. 男女雇用機会均等法

回答数：734



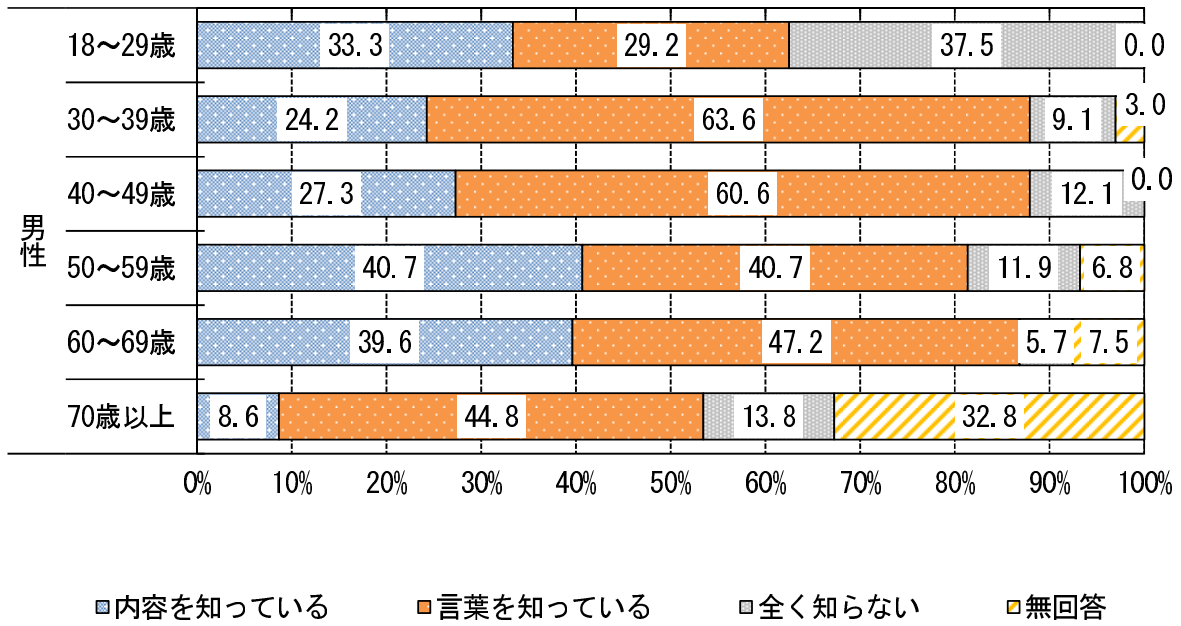
「内容を知っている」が28.9%、「言葉を知っている」が47.8%となり、合わせた認知度は76.7%と高い。一方、「全く知らない」は13.1%となる。

2. 男女雇用機会均等法

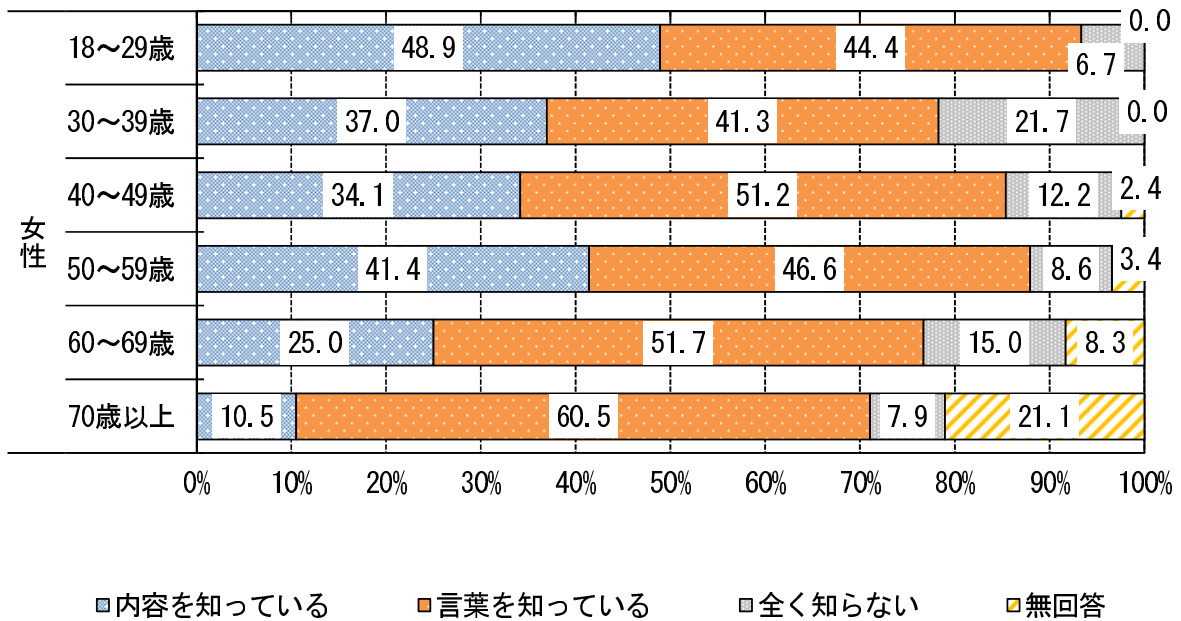


性別では、「内容を知っている」は男性が28.7%、女性が33.1%、「言葉を知っている」は男性が47.1%、女性が49.1%となり、合わせた認知度は女性の方が男性より高い。

2. 男女雇用機会均等法



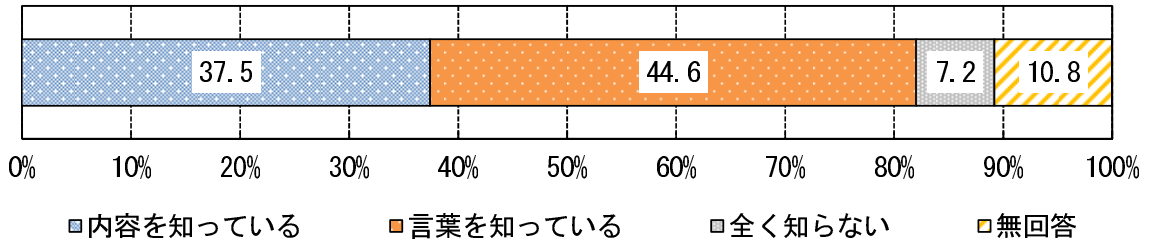
2. 男女雇用機会均等法



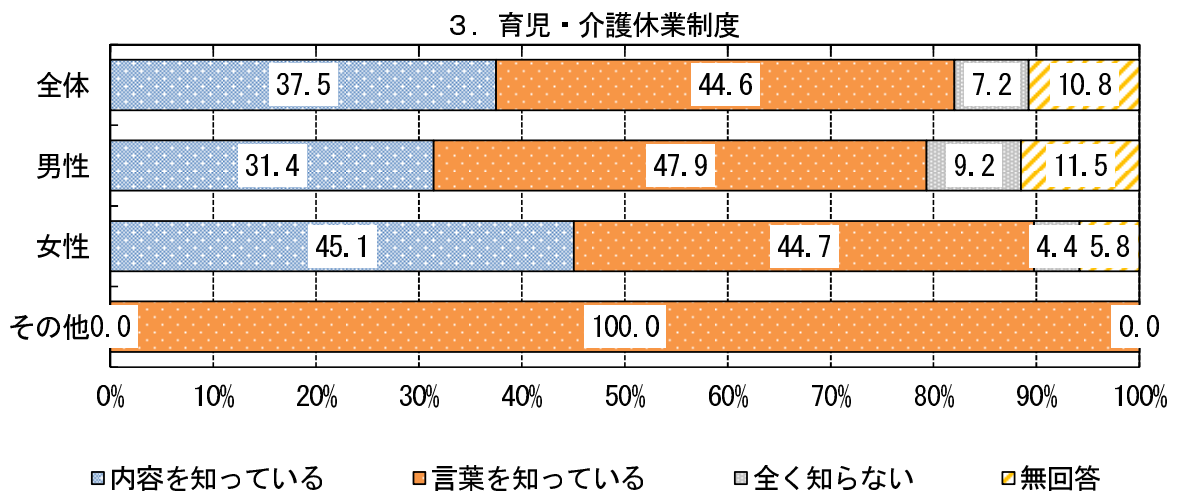
性別、年齢別では、認知度は、男性は30～39歳が87.8%と最も高く、女性は18～29歳が93.3%と最も高い。男女ともに、70歳以上の認知度が最も低い。

3. 育児・介護休業制度

回答数：734

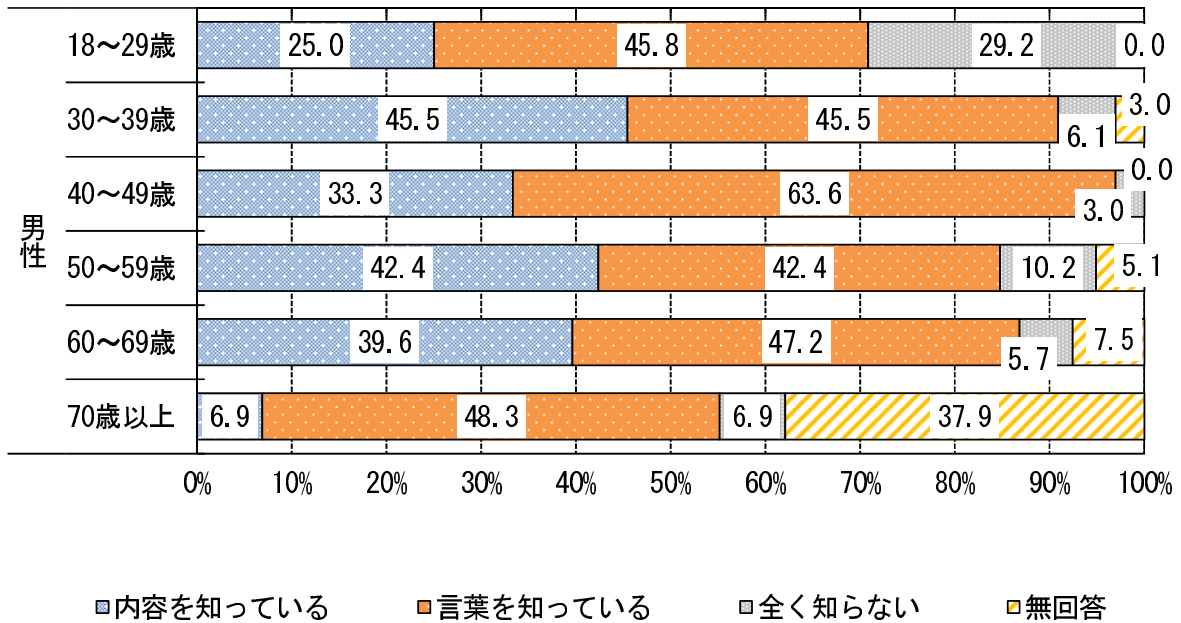


「内容を知っている」が37.5%、「言葉を知っている」が44.6%となり、合わせた認知度は82.1%と高い。一方、「全く知らない」は7.2%となる。

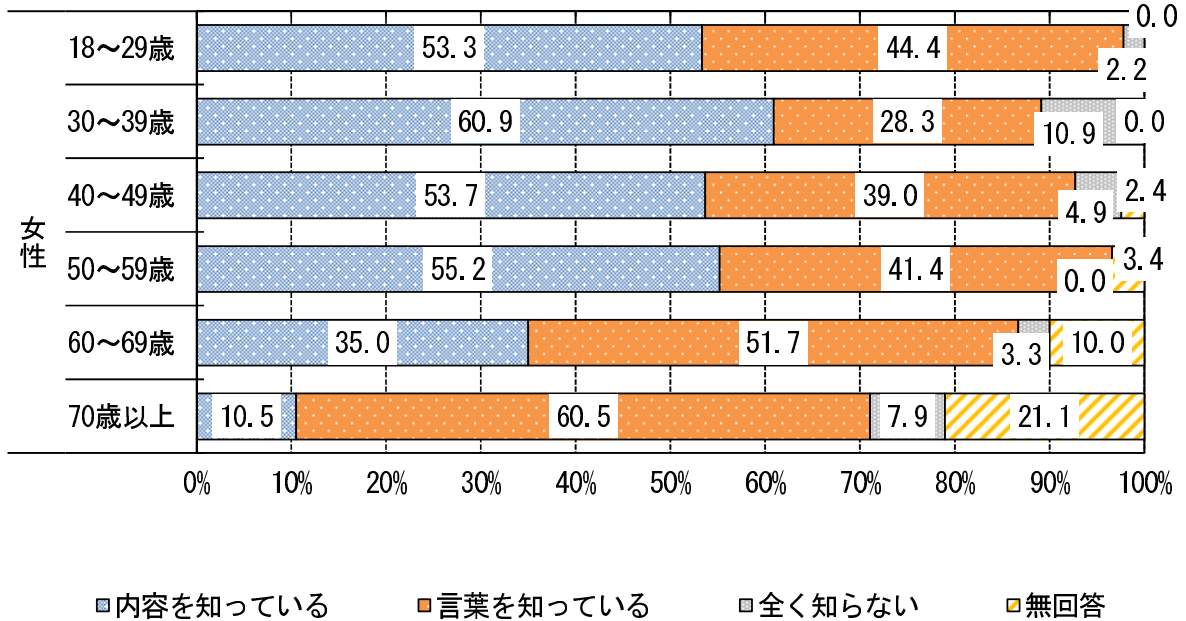


性別では、「内容を知っている」は男性が31.4%、女性が45.1%、「言葉を知っている」は男性が47.9%、女性が44.7%となり、合わせた認知度は女性の方が男性より高い。

3. 育児・介護休業制度

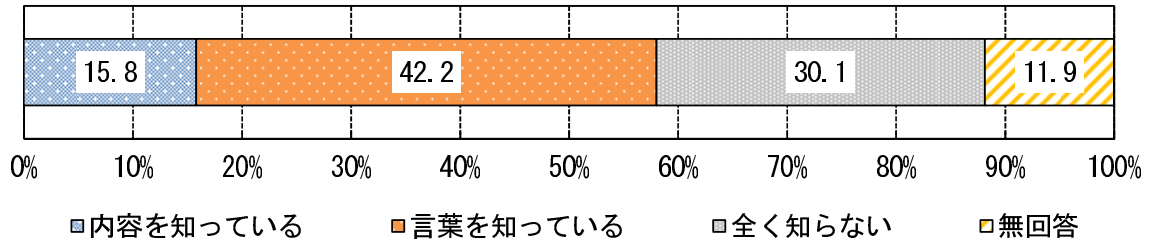


3. 育児・介護休業制度

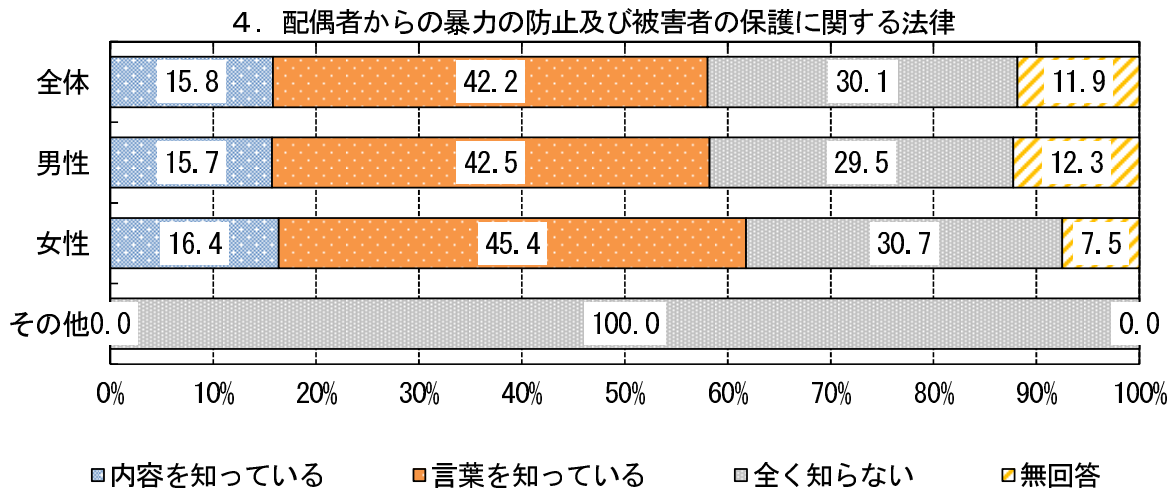


性別、年齢別では、認知度は、男性は40～49歳が96.9%と最も高く、女性は18～29歳が97.7%と最も高い。男女ともに、70歳以上の認知度が最も低く、男性は18～29歳も低い。

4. 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律 回答数：734

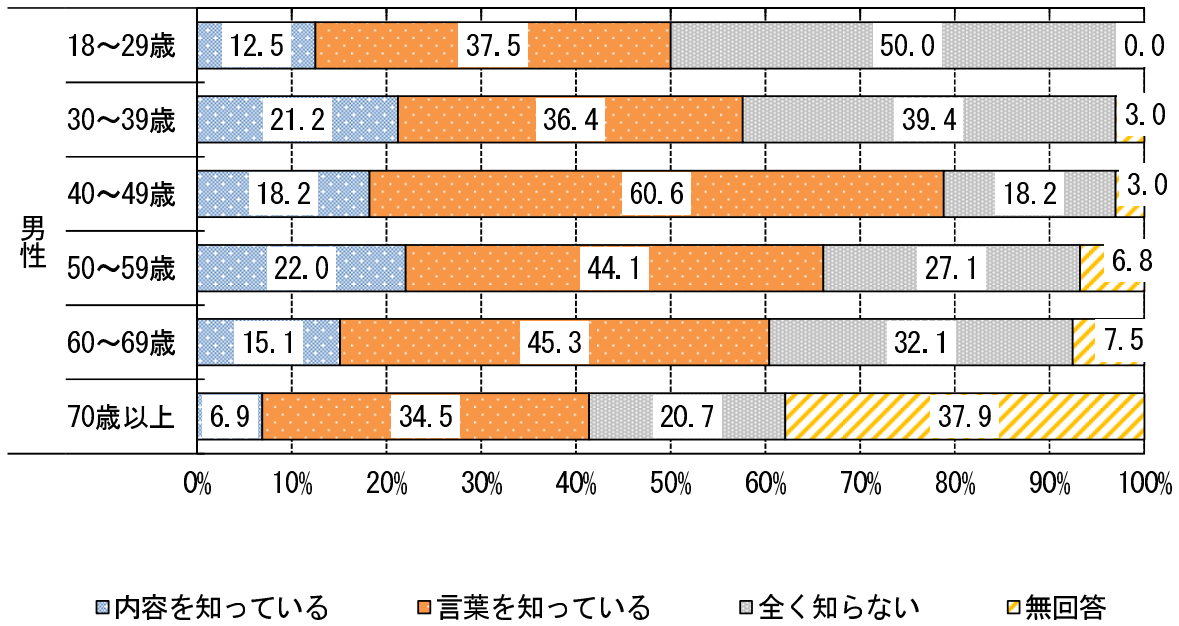


「内容を知っている」が15.8%、「言葉を知っている」が42.2%となり、合わせた認知度は58.0%となる。一方、「全く知らない」は30.1%となる。

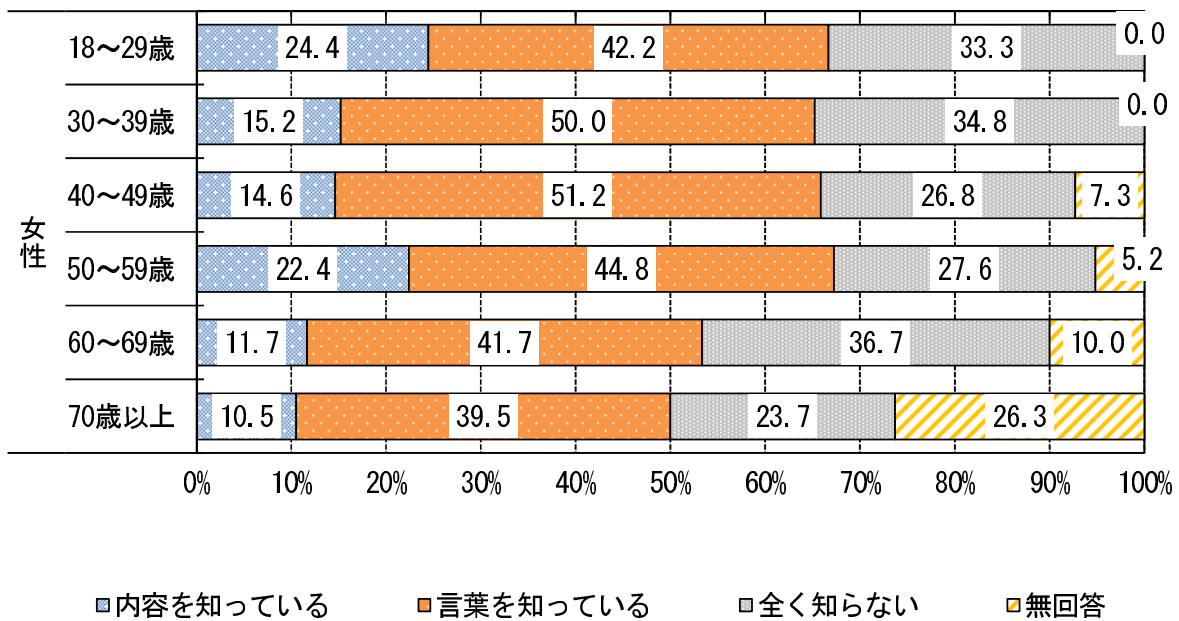


性別では、「内容を知っている」は男性が15.7%、女性が16.4%、「言葉を知っている」は男性が42.5%、女性が45.4%となり、合わせた認知度は女性の方が男性より高い。

4. 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律



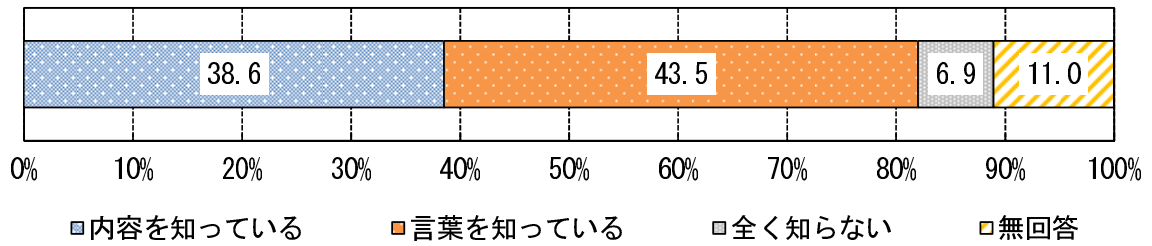
4. 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律



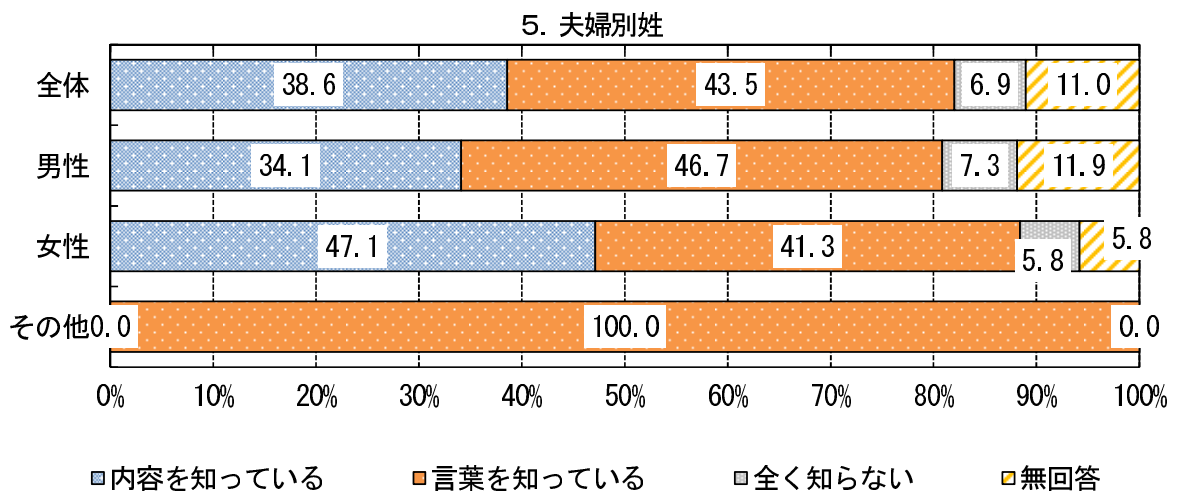
性別、年齢別では、認知度は、男性は40~49歳が78.8%と最も高く、女性は50~59歳が67.2%と最も高い。男女ともに、70歳以上の認知度が最も低く、男性は18~39歳も低い。

5. 夫婦別姓

回答数：734

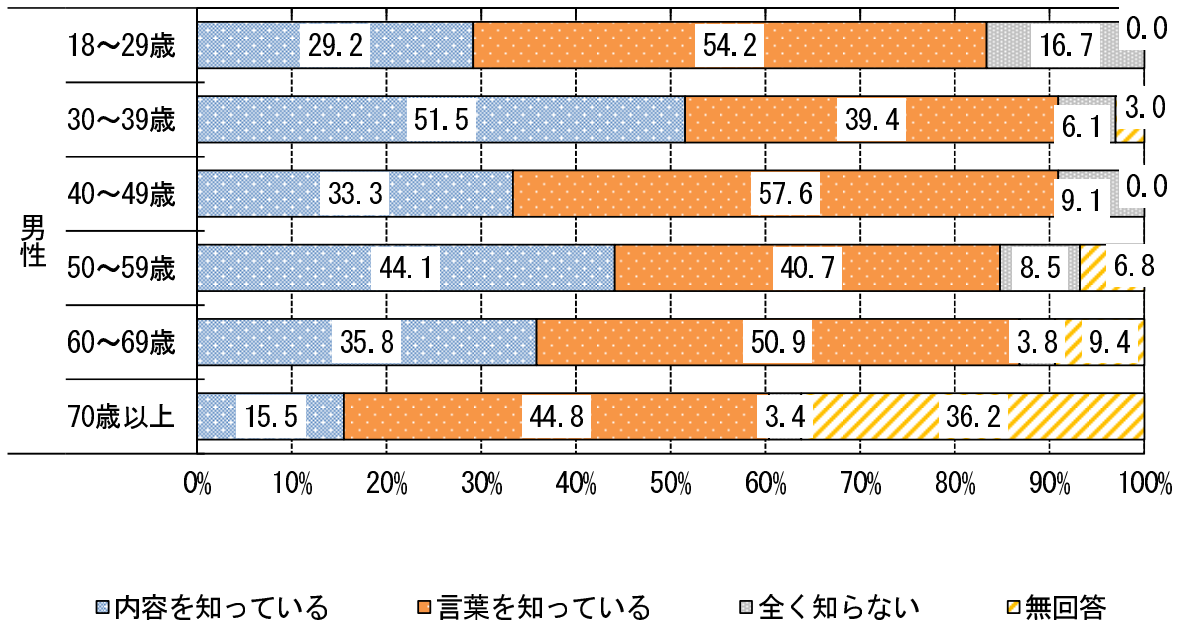


「内容を知っている」が38.6%、「言葉を知っている」が43.5%となり、合わせた認知度は82.1%と高い。一方、「全く知らない」は6.9%となる。

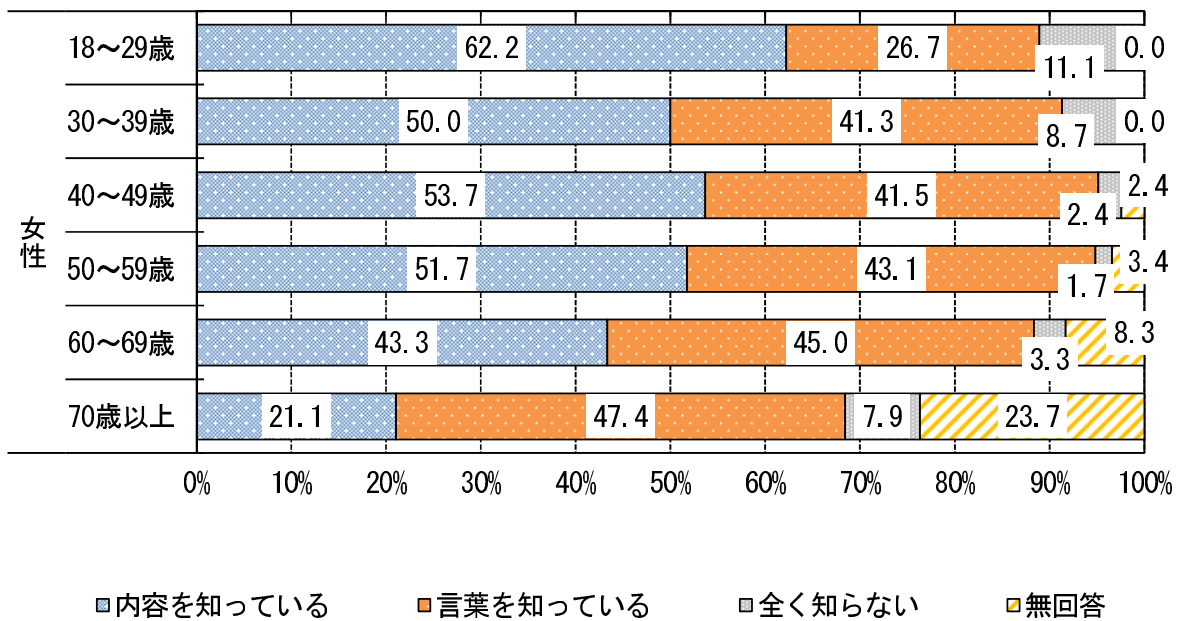


性別では、「内容を知っている」は男性が34.1%、女性が47.1%、「言葉を知っている」は男性が46.7%、女性が41.3%となり、合わせた認知度は女性の方が男性より高い。

5. 夫婦別姓



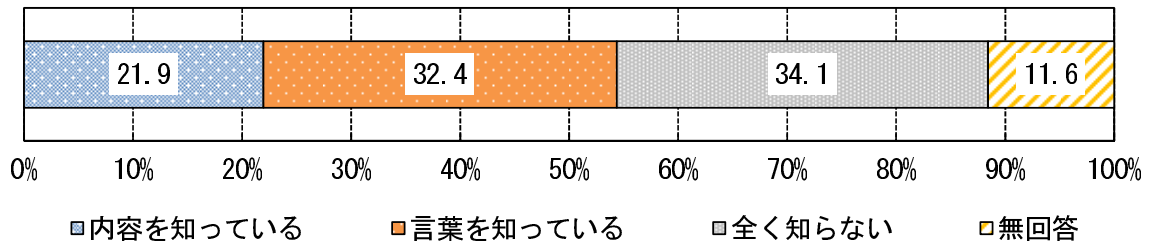
5. 夫婦別姓



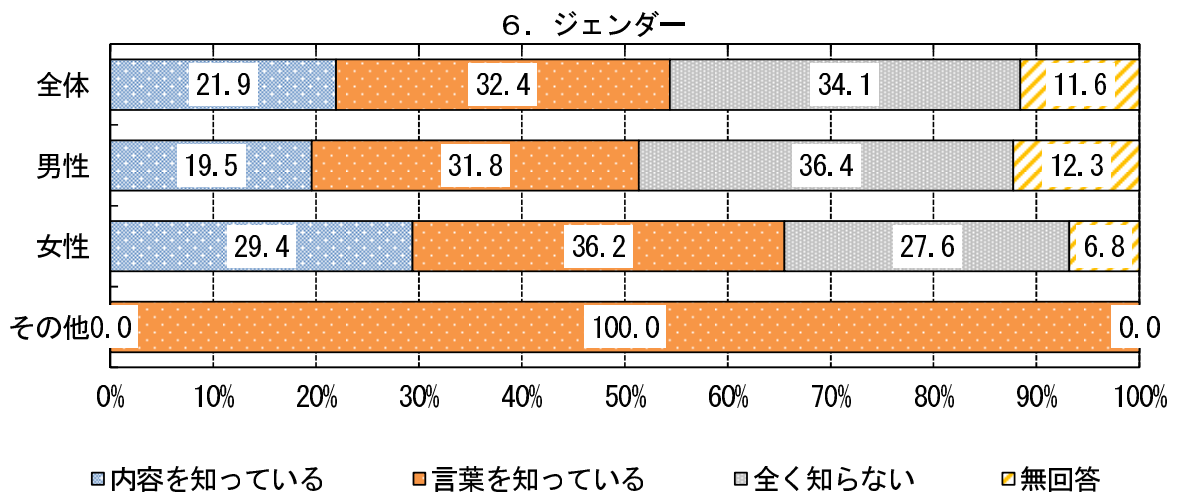
性別、年齢別では、認知度は、男性は30~49歳が90.9%と最も高く、女性は40~49歳が95.2%と最も高い。男女ともに、70歳以上の認知度が最も低い。

6. ジェンダー

回答数：734

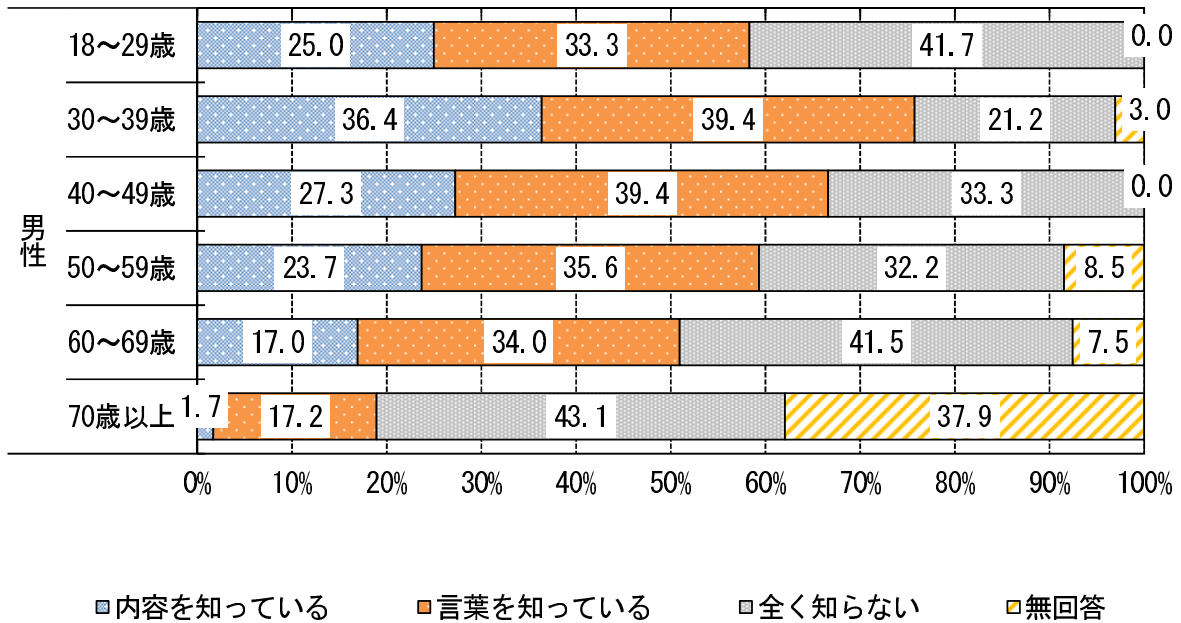


「内容を知っている」が21.9%、「言葉を知っている」が32.4%となり、合わせた認知度は54.3%となる。一方、「全く知らない」は34.1%となる。

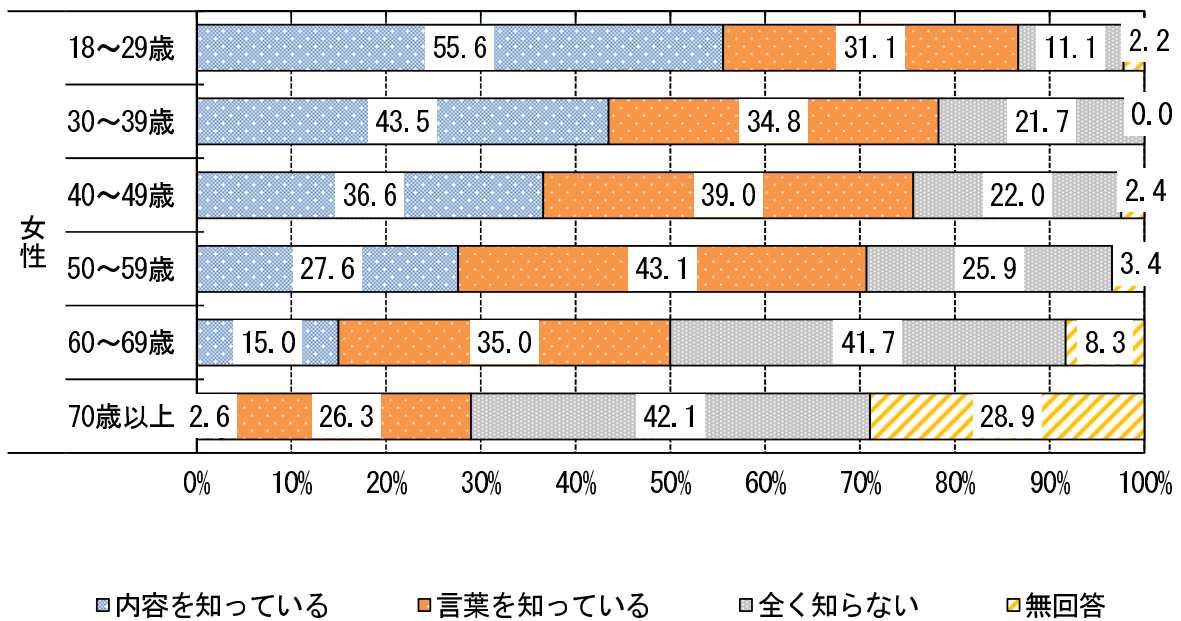


性別では、「内容を知っている」は男性が19.5%、女性が29.4%、「言葉を知っている」は男性が31.8%、女性が36.2%となり、合わせた認知度は女性の方が男性より高い。

6. ジェンダー



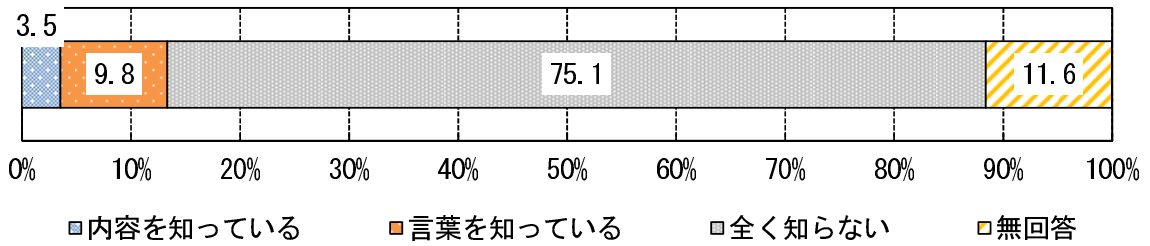
6. ジェンダー



性別、年齢別では、認知度は、男性は30～39歳が75.8%と最も高く、女性は18～29歳が86.7%と最も高い。男女ともに、70歳以上の認知度が最も低く、年齢が高い方が認知度が低くなる。

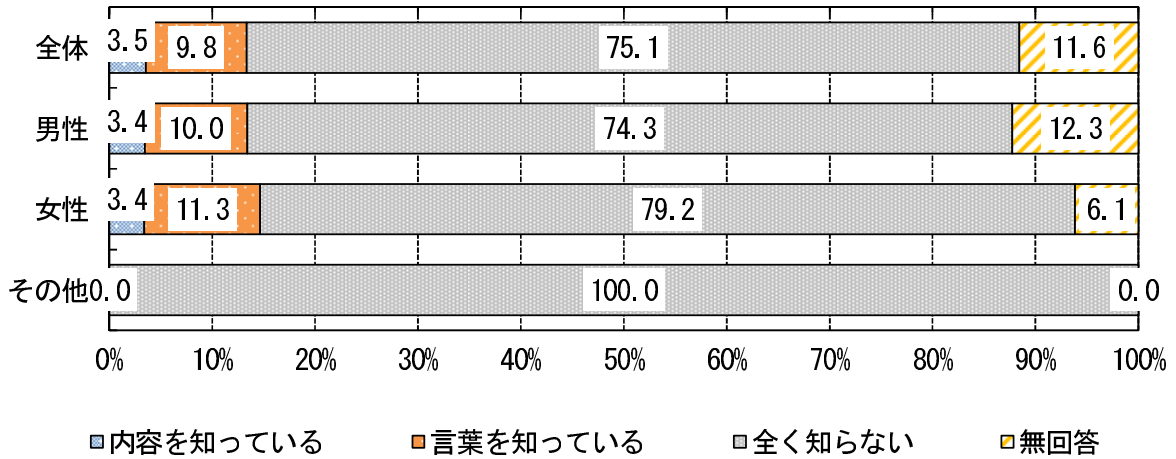
7. アンペイド・ワーク

回答数：734



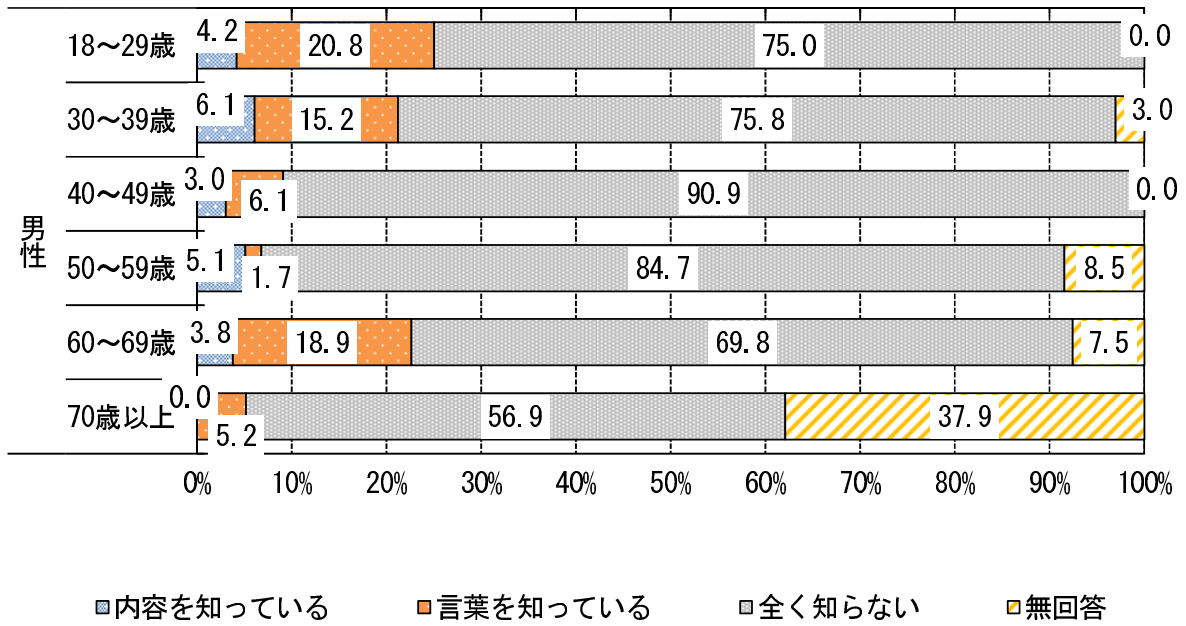
「内容を知っている」が3.5%、「言葉を知っている」が9.8%となり、合わせた認知度は13.3%と低い。一方、「全く知らない」は75.1%と高い。

7. アンペイド・ワーク

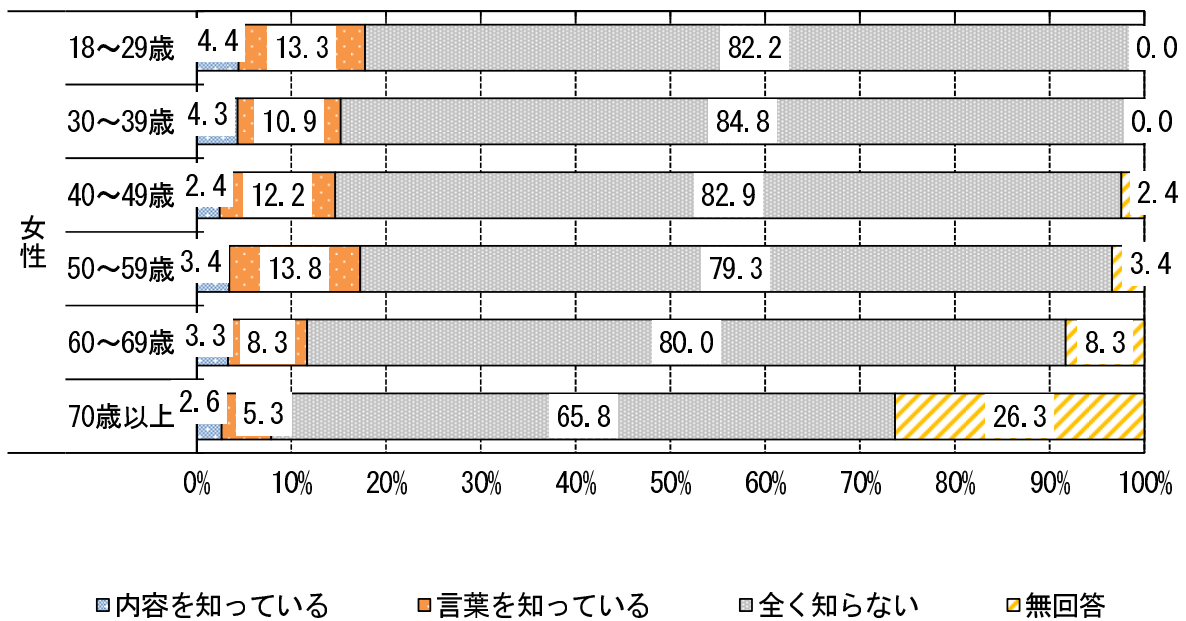


性別では、男女ともに認知度は15%程度となり低く、「全く知らない」は80%弱程度と高い。

7. アンペイド・ワーク



7. アンペイド・ワーク

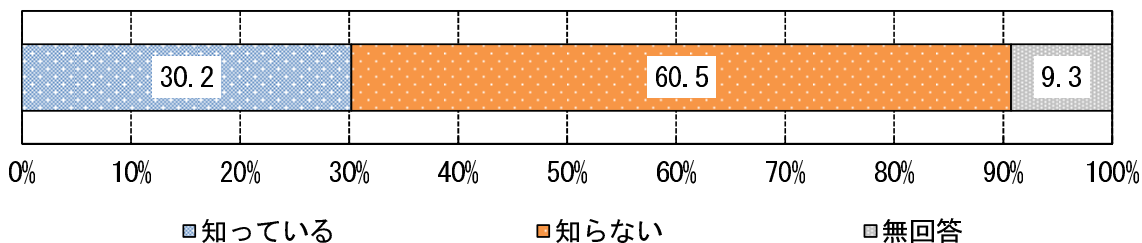


性別、年齢別では、男性は、18~39歳、60~69歳を除いて、認知度が低い。女性は、18~59歳まで認知度が20%となるが、60歳以上は認知度が低くなる。

問26 次の中野市の男女共同参画に関する施策についてご存知ですか。(各項目、1つだけ選び、○をしてください)

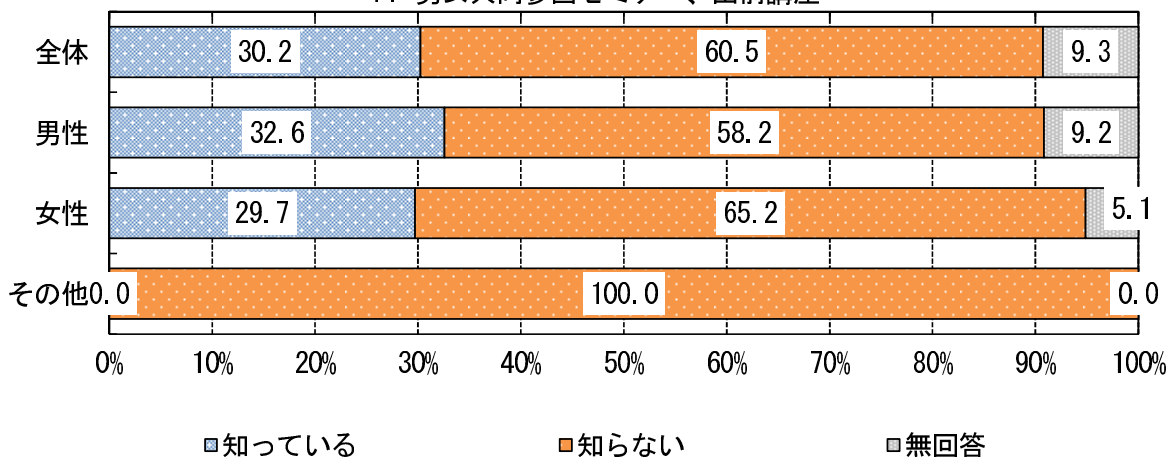
1. 男女共同参画セミナー、出前講座

回答数：734



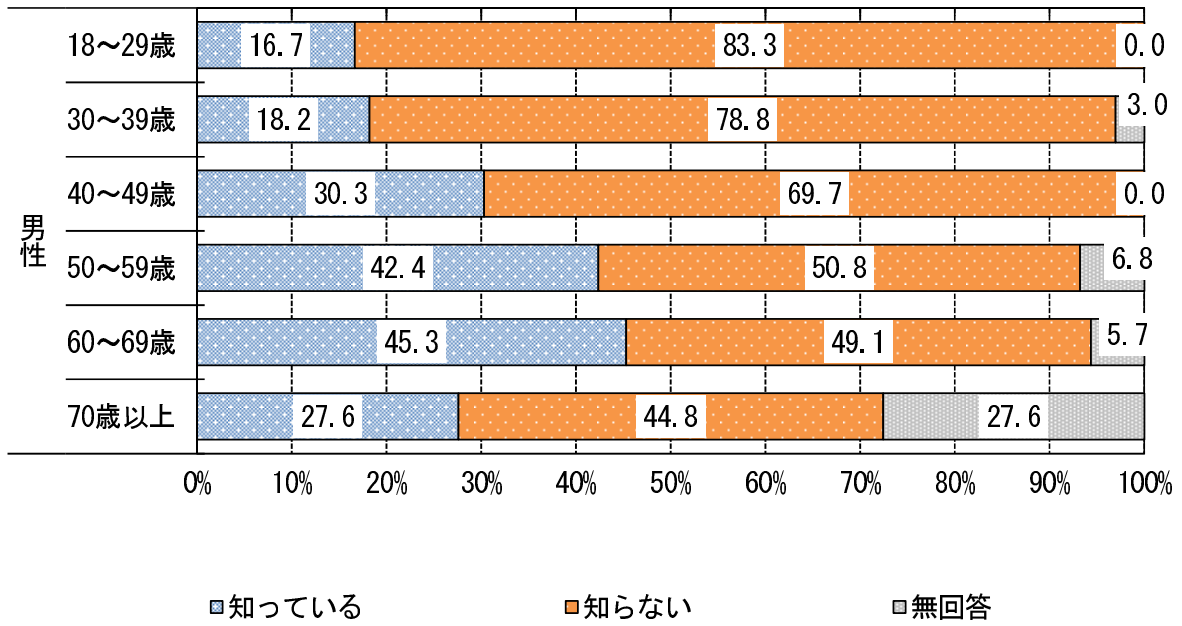
「知っている」が30.2%、「知らない」が60.5%となる。

1. 男女共同参画セミナー、出前講座

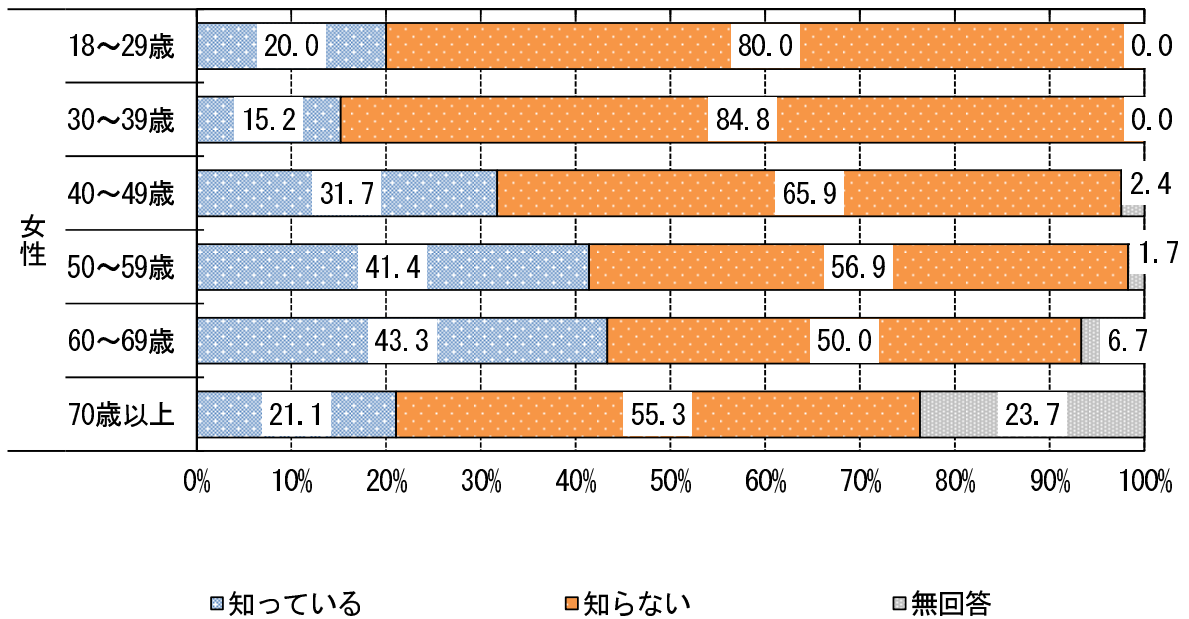


性別では、「知っている」は、男性が32.6%、女性が29.7%と同程度である。また、「知らない」は、男性が58.2%、女性が65.2%となり、女性の方が男性より高い。

1. 男女共同参画セミナー、出前講座



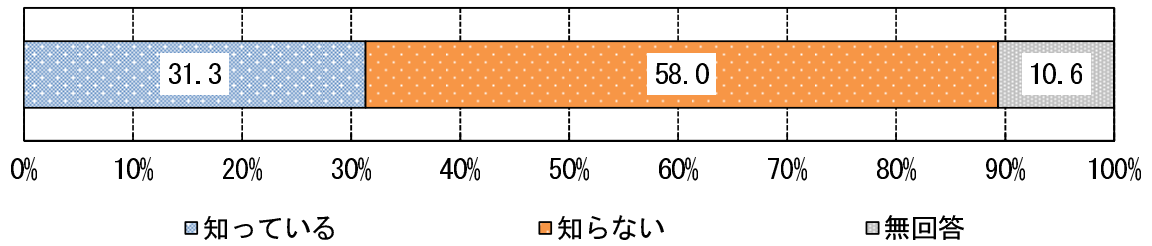
1. 男女共同参画セミナー、出前講座



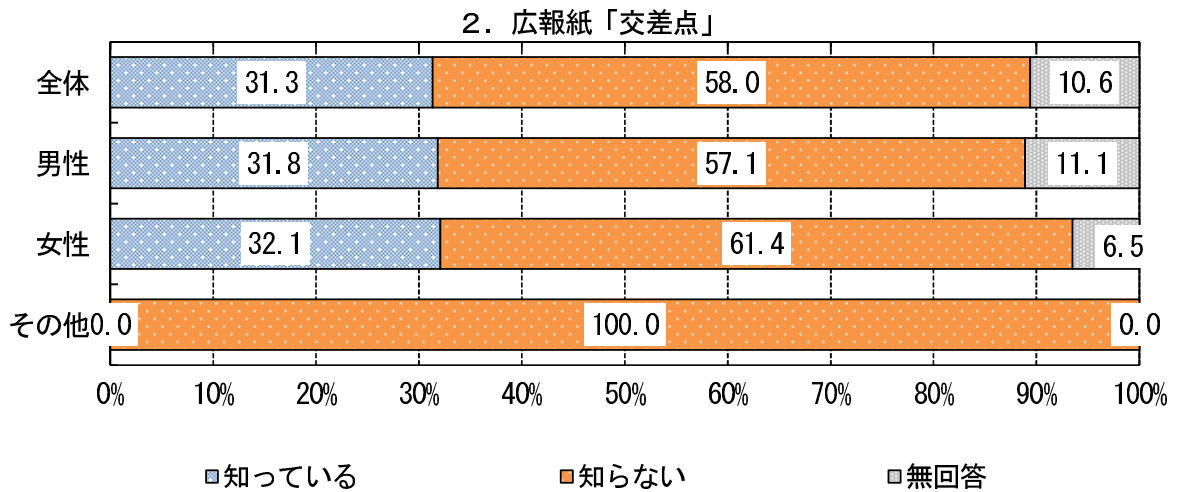
性別、年齢別では、男女ともに18~39歳と70歳以上では「知っている」が低くなる。

2. 広報紙「交差点」

回答数：734

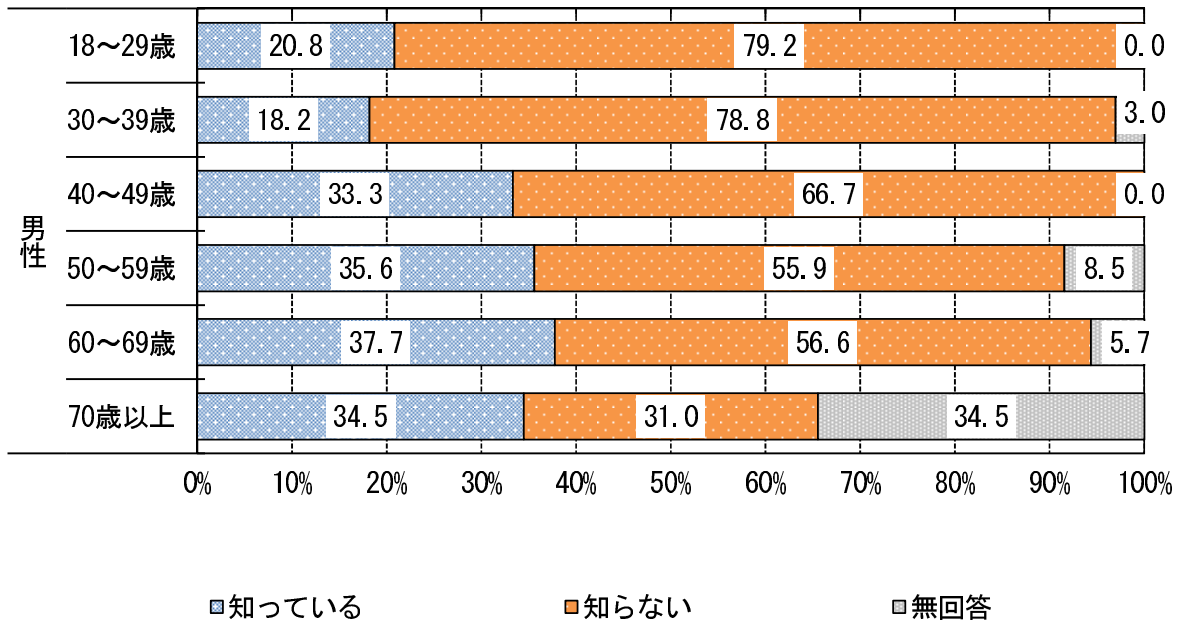


「知っている」が31.3%、「知らない」が58.0%となる。

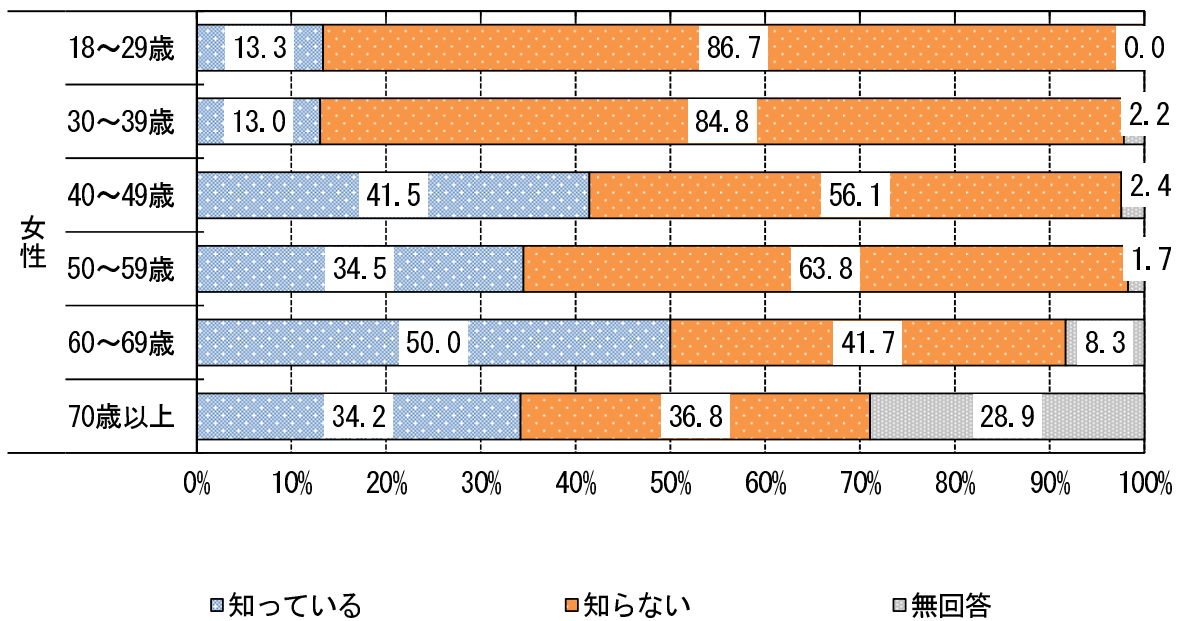


性別では、「知っている」は、男性が31.8%、女性が32.1%と同程度である。また、「知らない」は、男性が57.1%、女性が61.4%となり、女性の方が男性より高い。

2. 広報紙「交差点」



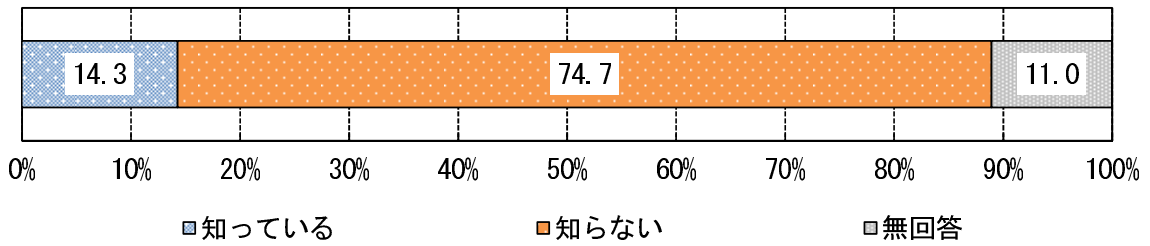
2. 広報紙「交差点」



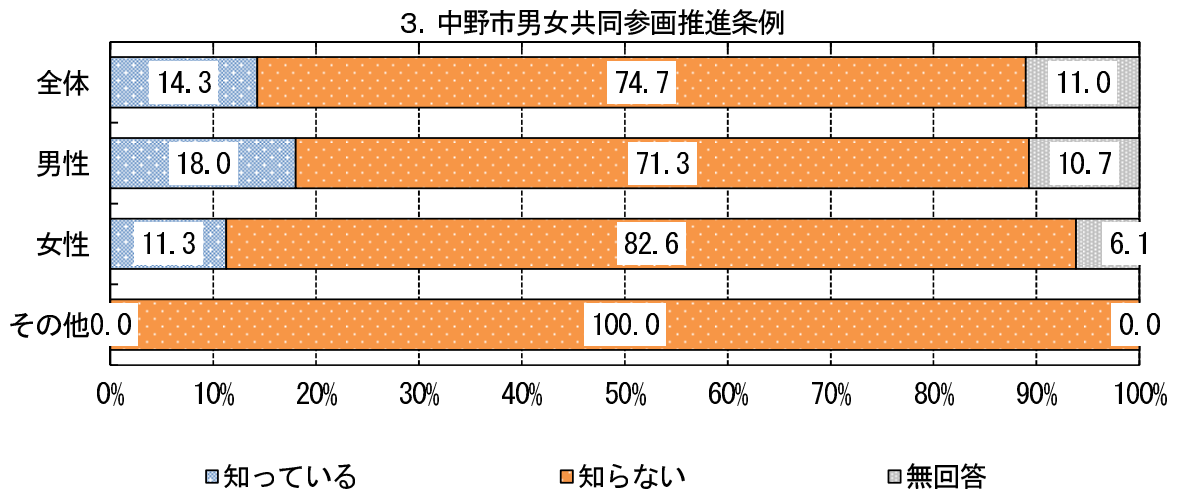
性別、年齢別では、男女ともに40歳以上で「知っている」が高い。一方、39歳以下で「知っている」が低い。

3. 中野市男女共同参画推進条例

回答数：734

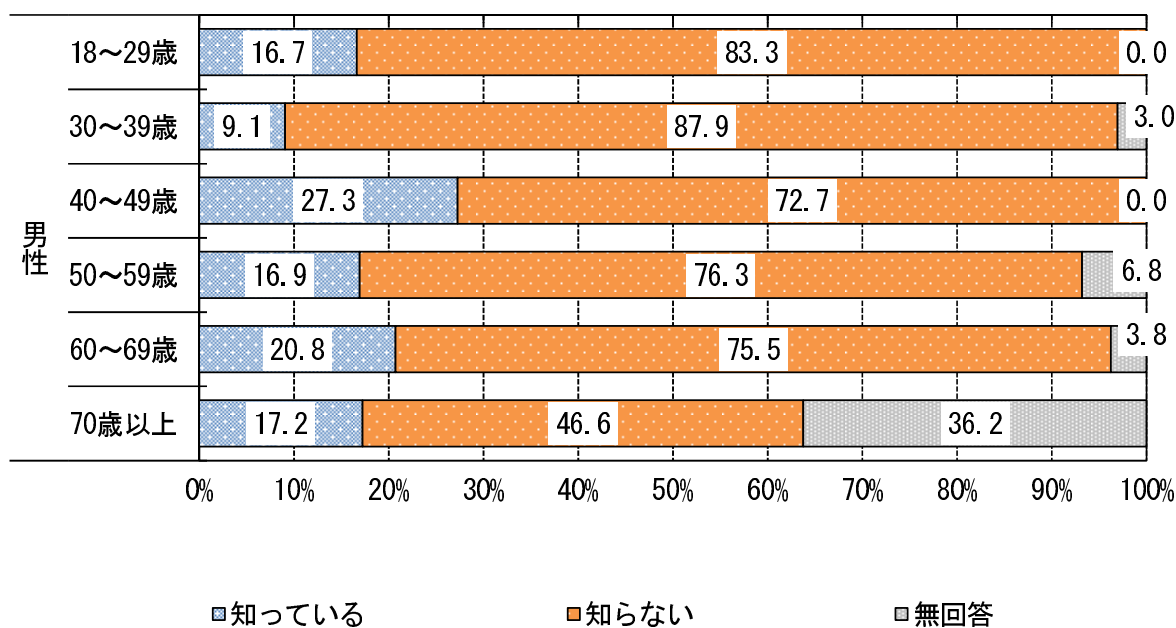


「知っている」が14.3%、「知らない」が74.7%と認知度が低い。

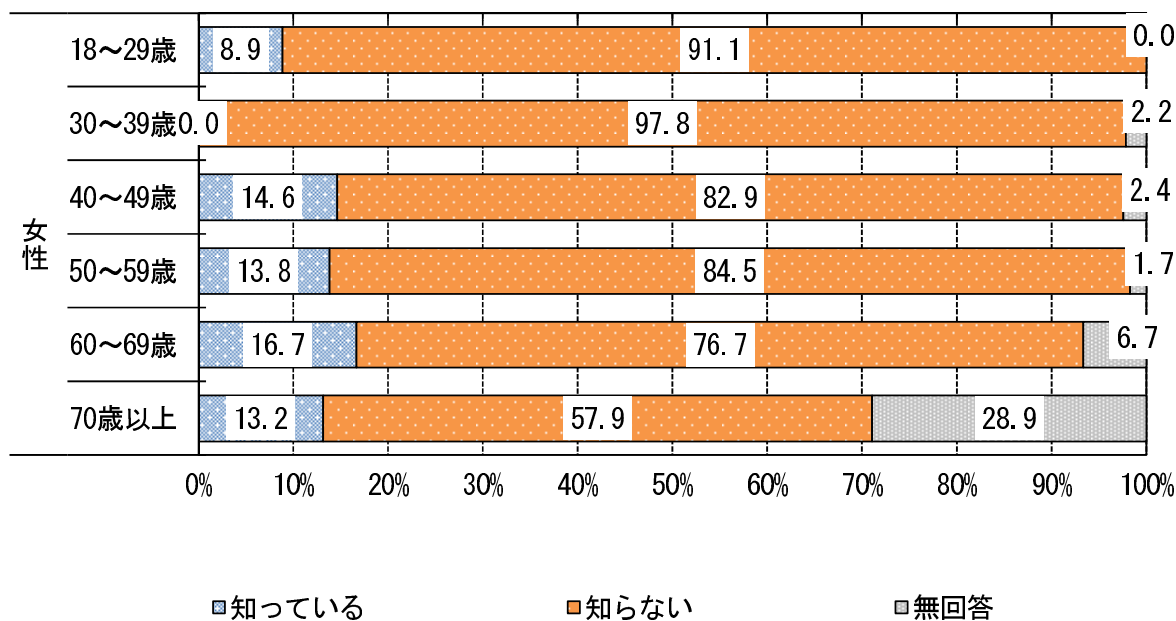


性別では、「知っている」は、男性が18.0%、女性が11.3%と男性の方が女性より高い。また、「知らない」は、男性が71.3%、女性が82.6%となり、女性の方が男性より高い。

3. 中野市男女共同参画推進条例

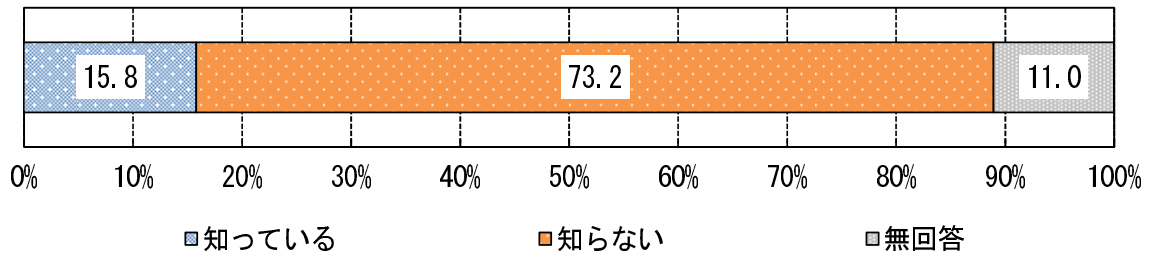


3. 中野市男女共同参画推進条例

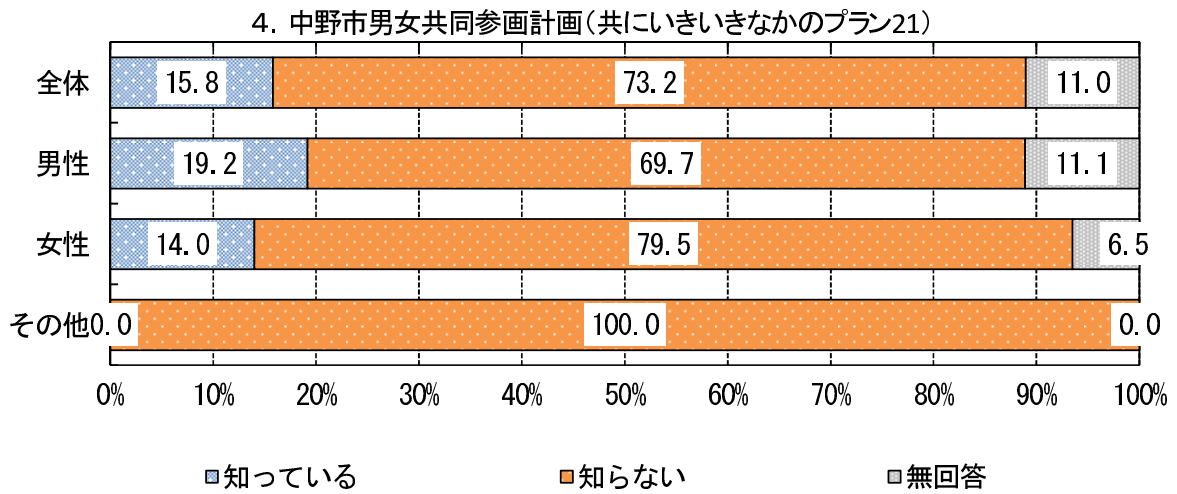


性別、年齢別では、男性は40～49歳、女性は60～69歳で「知っている」が高い。一方、男女ともに30～39歳で「知っている」が低い。

4. 中野市男女共同参画計画（共にいきいきなかのプラン21） 回答数：734

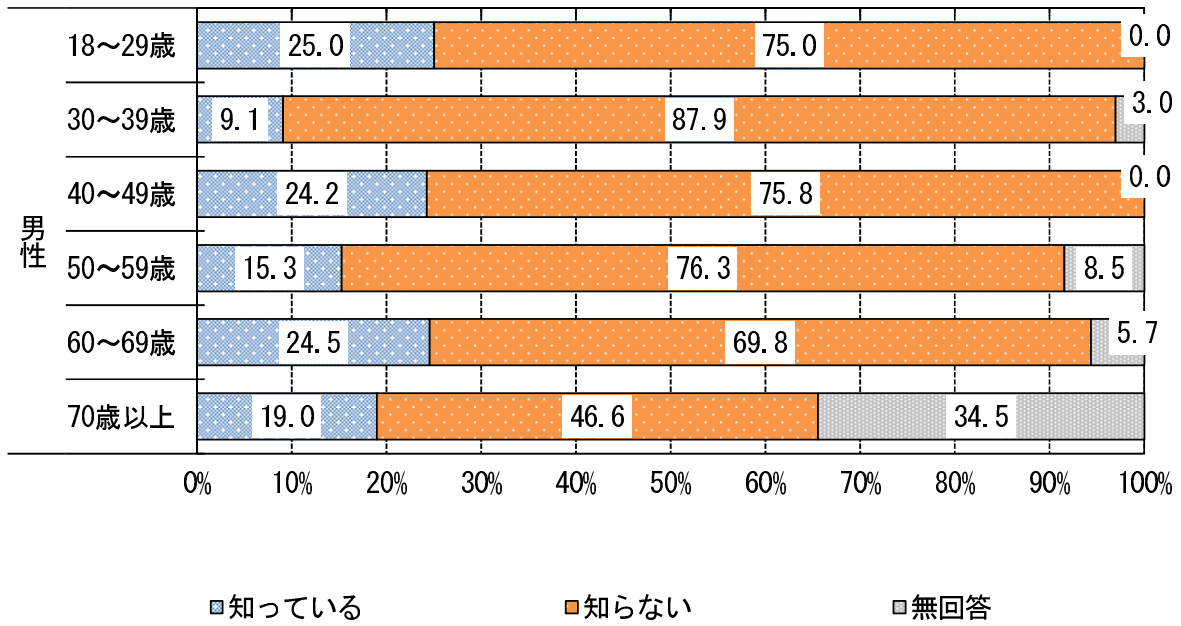


「知っている」が15.8%、「知らない」が73.2%と認知度が低い。

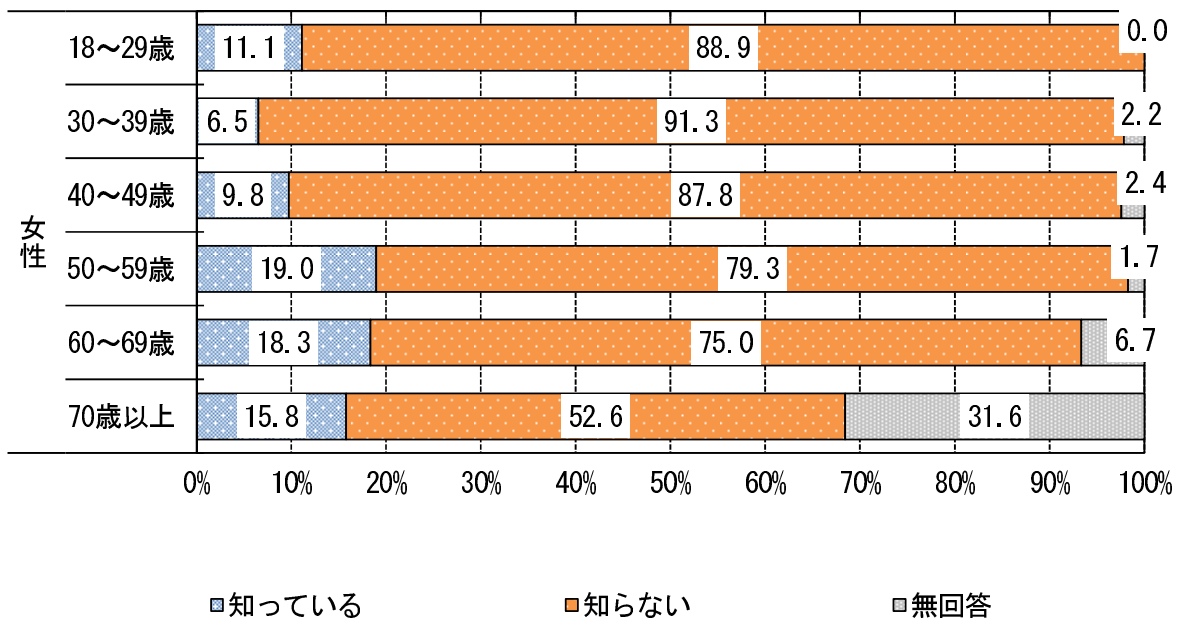


性別では、「知っている」は、男性が19.2%、女性が14.0%と男性の方が女性より高い。また、「知らない」は、男性が69.7%、女性が79.5%となり、女性の方が男性より高い。

4. 中野市男女共同参画計画(共にいきいきなかのプラン21)



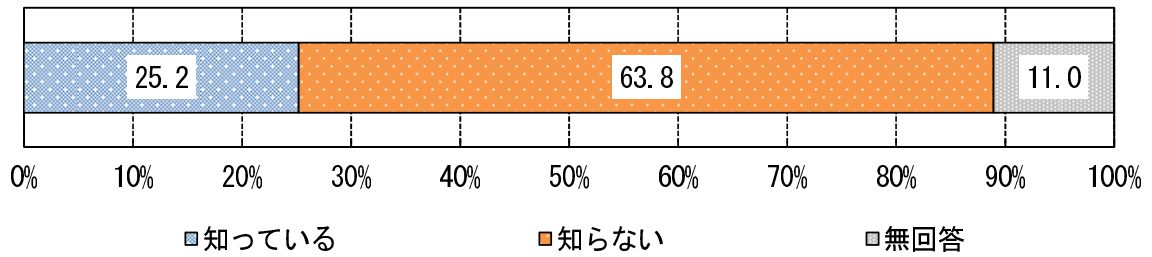
4. 中野市男女共同参画計画(共にいきいきなかのプラン21)



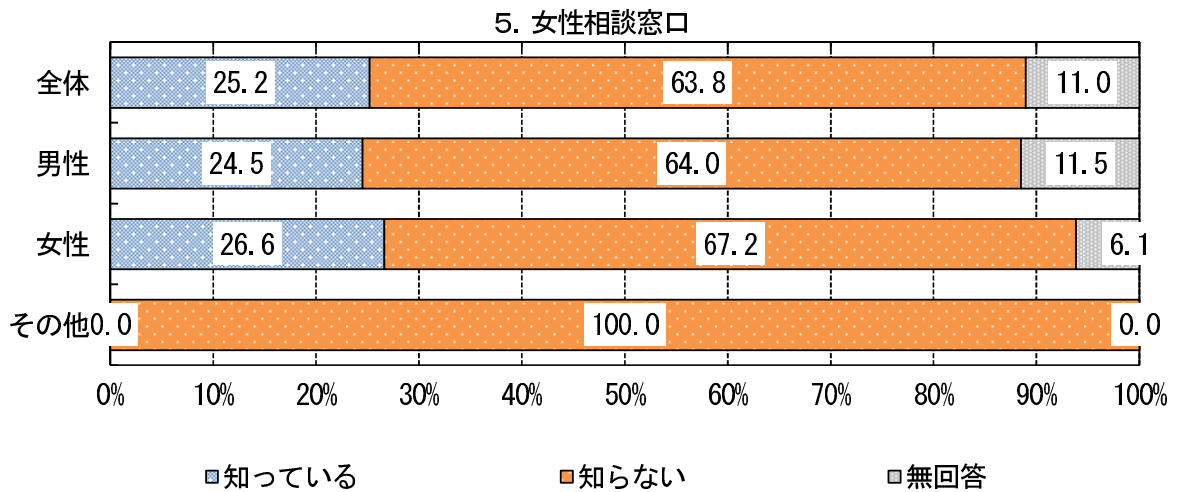
性別、年齢別では、男性は18~29歳、40~49歳、60~69歳で、女性は50~59歳で「知っている」が高い。一方、男女ともに30~39歳で「知っている」が低くなる。

5. 女性相談窓口

回答数：734

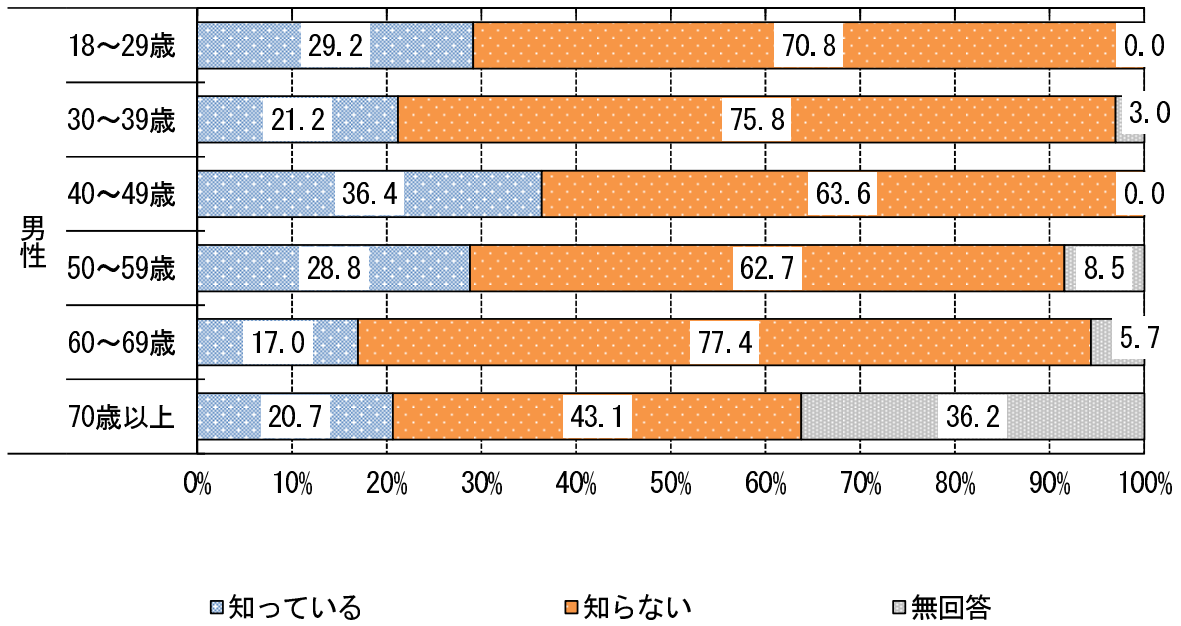


「知っている」が25.2%、「知らない」が63.8%となる。

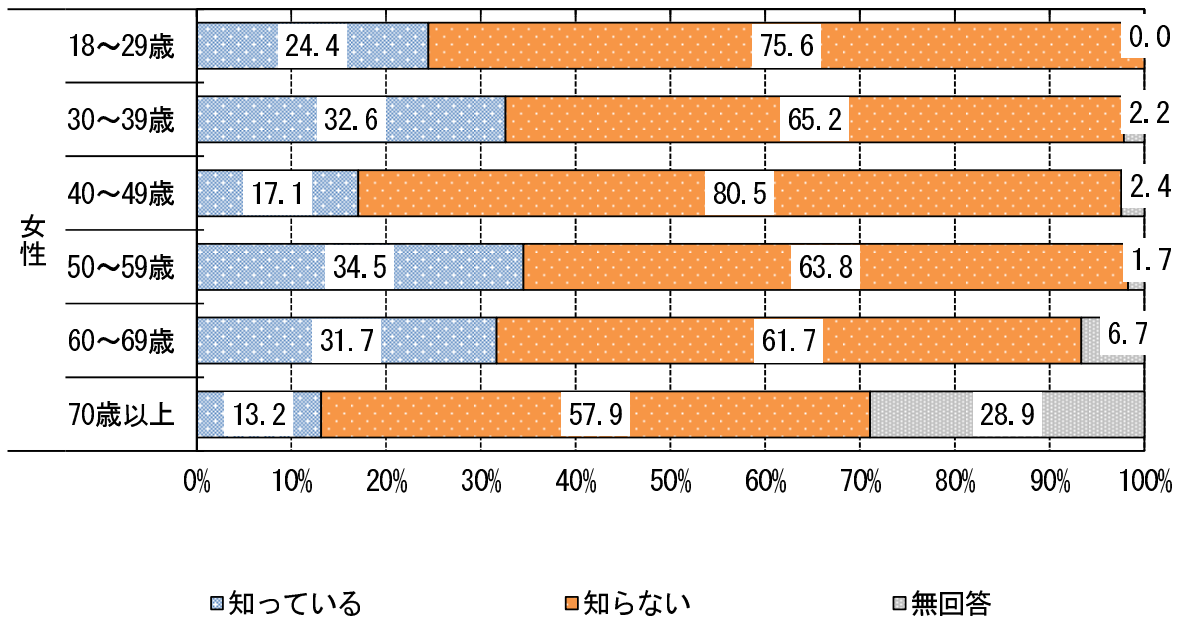


性別では、「知っている」は、男性が24.5%、女性が26.6%と同程度となる。また、「知らない」は、男性が64.0%、女性が67.2%と同程度となる。

5. 女性相談窓口

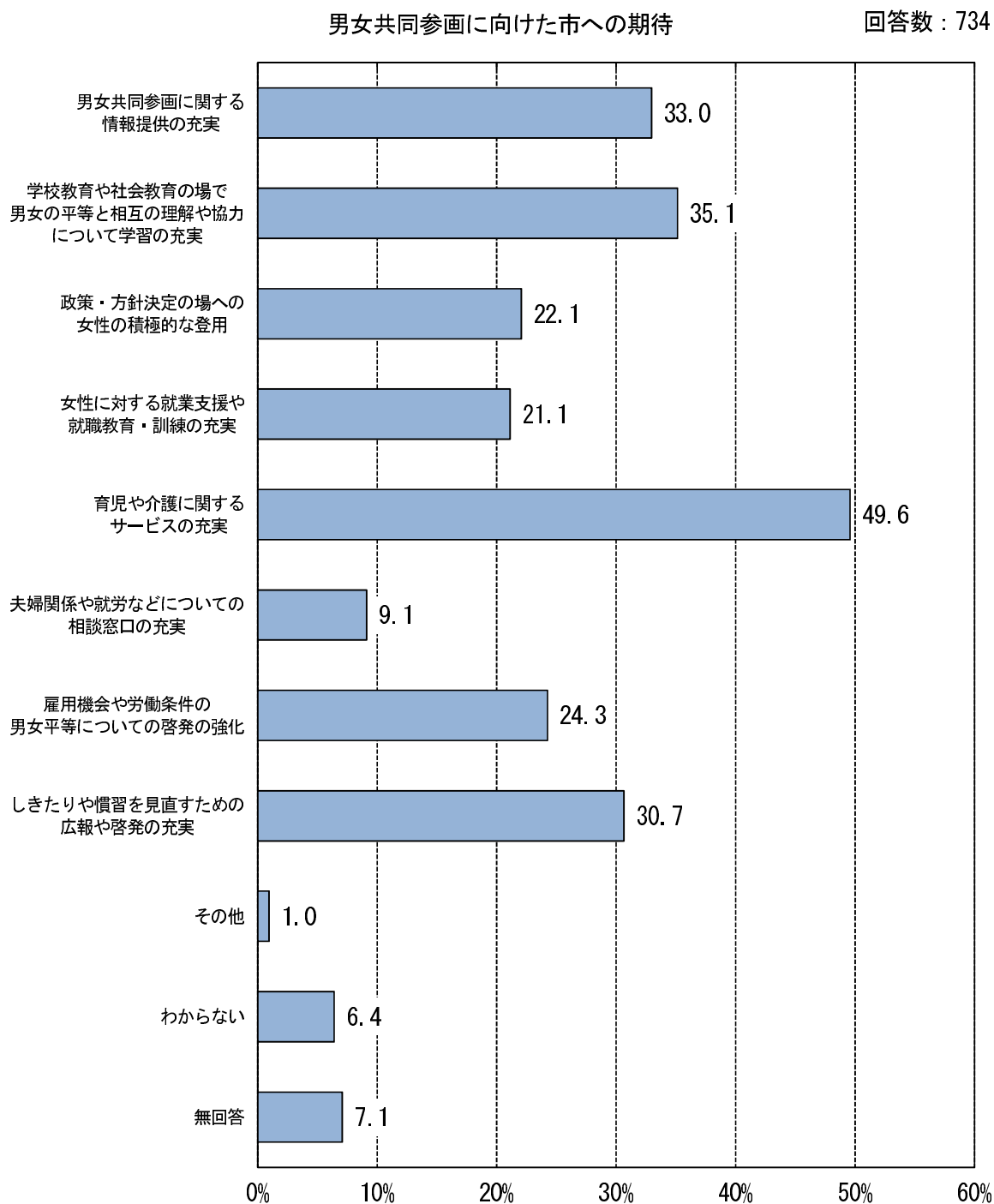


5. 女性相談窓口



性別、年齢別では、男性は40~49歳で、女性は50~59歳で「知っている」が最も高い。一方、男性は60~69歳で、女性70歳以上で「知っている」が低くなる。

問27 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、市に期待するのはどのようなことですか。(3つまで選び、○をしてください)

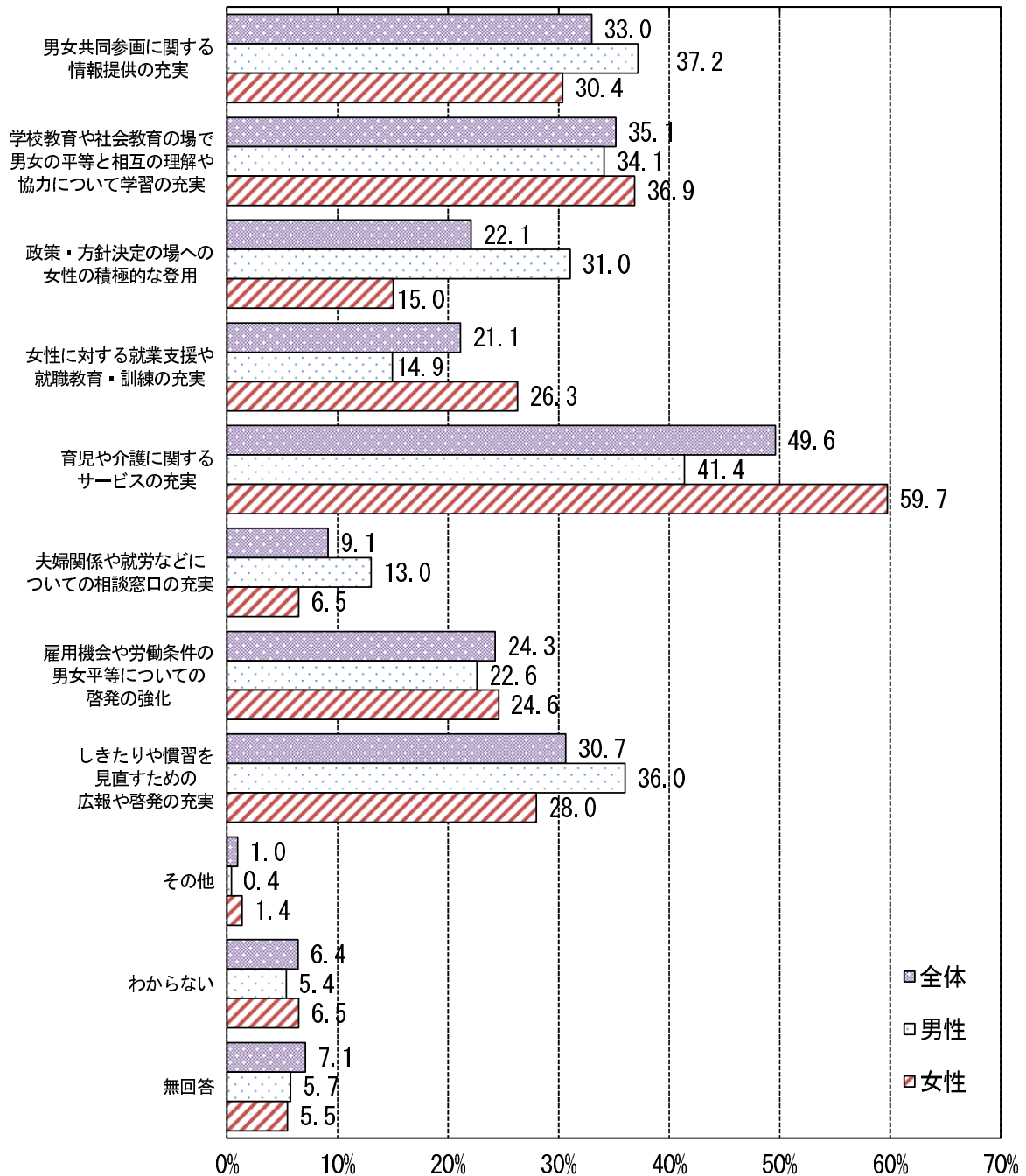


「育児や介護に関するサービスの充実」が49.6%と最も高く、次いで、「学校教育や社会教育の場で男女の平等と相互の理解や協力について学習の充実」が35.1%、「男女共同参画に関する情報提供の充実」が33.0%、「しきたりや慣習を見直すための広報や啓発の充実」が30.7%と高い。

【男女共同参加に向けた市への期待「その他」の記述内容（一覧）】

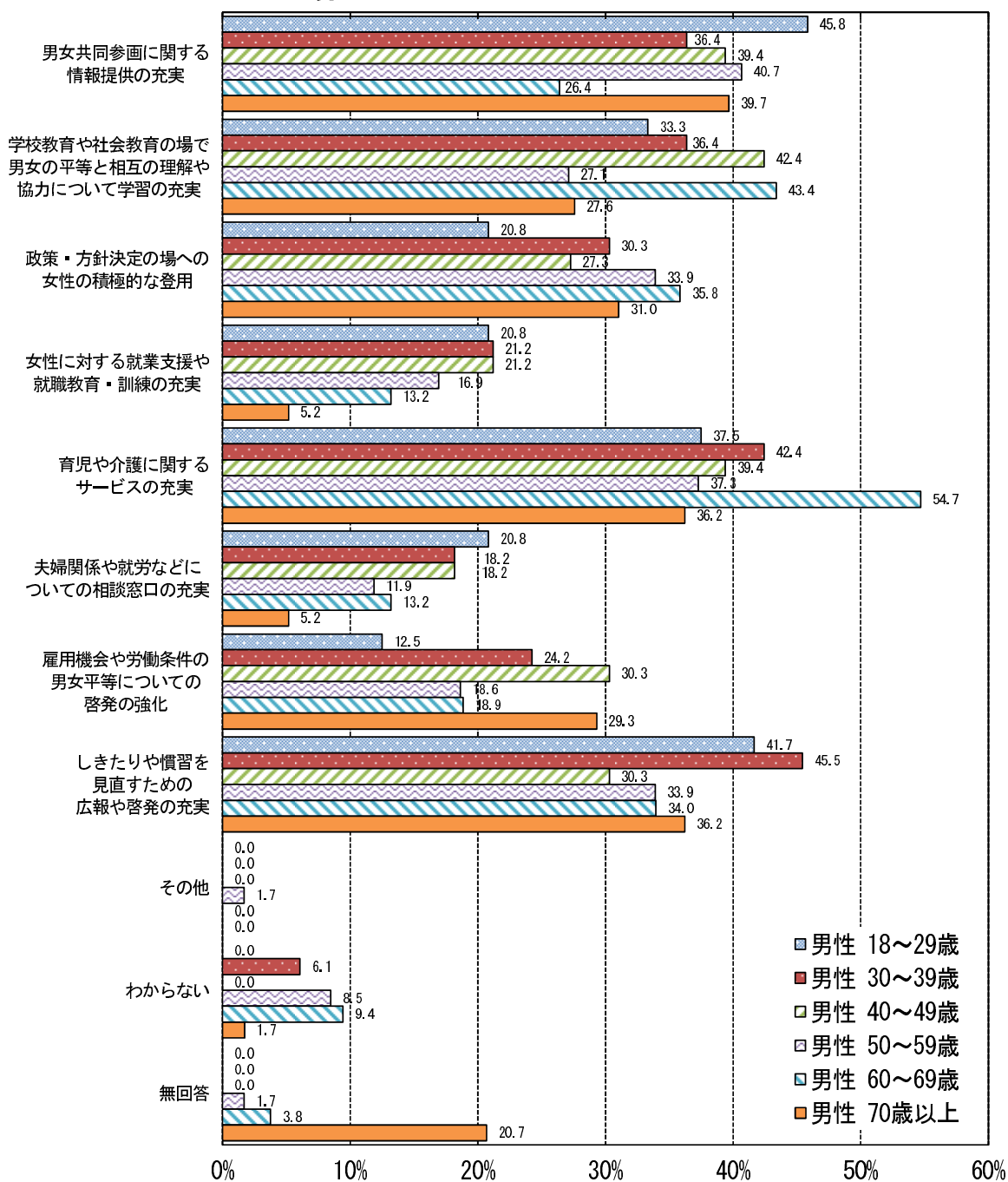
- やりたい人がやりたいことができる環境づくり(女性／30～39 歳／農林業／平野)
- 女性たちの意識が変わらなければ何をしても無駄だと思うので、小規模な（草の根的な）女性だけの勉強会を開くこと。(女性／60～69 歳／パート・アルバイト／平野)
- 主婦なので実感がないです(女性／70 歳以上／家事専業／日野)
- 特になし(男性／50～59 歳／公務員／日野)
- 若い世代ほど理解が進んでいる。会社のセミナー等で発信し理解を深めると良い。(無回答／30～39 歳／無職／中野)
- コミュニティーの場を増やす(無回答／30～39 歳／無職／平野)

男女共同参画社会に向けた市への期待



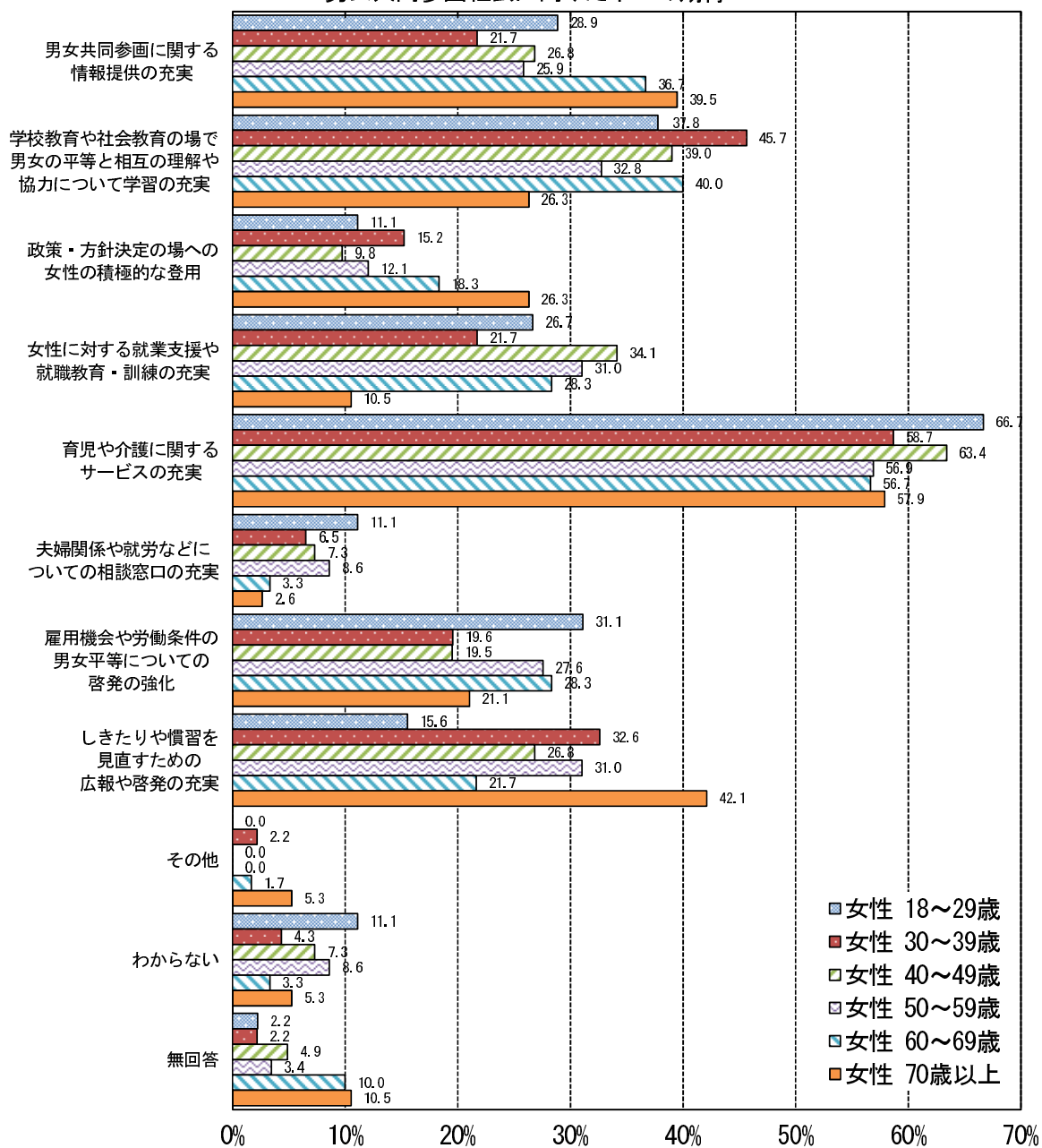
性別では、男女ともに「育児や介護に関するサービスの充実」が最も高いが、女性の方が18.3%高い。次いで、男性は、「男女共同参画に関する情報提供の充実」が高く、女性は「学校教育や社会教育の場で男女の平等と相互の理解や協力について学習の充実」が高い。女性の方が、育児や介護の経験が多いと考えられるため、それらに対するサービスへの期待が強い。

男女共同参画社会に向けた市への期待



性別、年齢別では、18~29歳と50~59歳と70歳以上は「男女共同参画に関する情報提供の充実」、30~39歳は「しきたりや慣習を見直すための広報や啓発の充実」、40~49歳は「学校教育や社会教育の場で男女の平等と相互の理解や協力について学習の充実」、60~69歳は「育児や介護に関するサービスの充実」が最も高く、年齢ごとに差がある。

男女共同参画社会に向けた市への期待



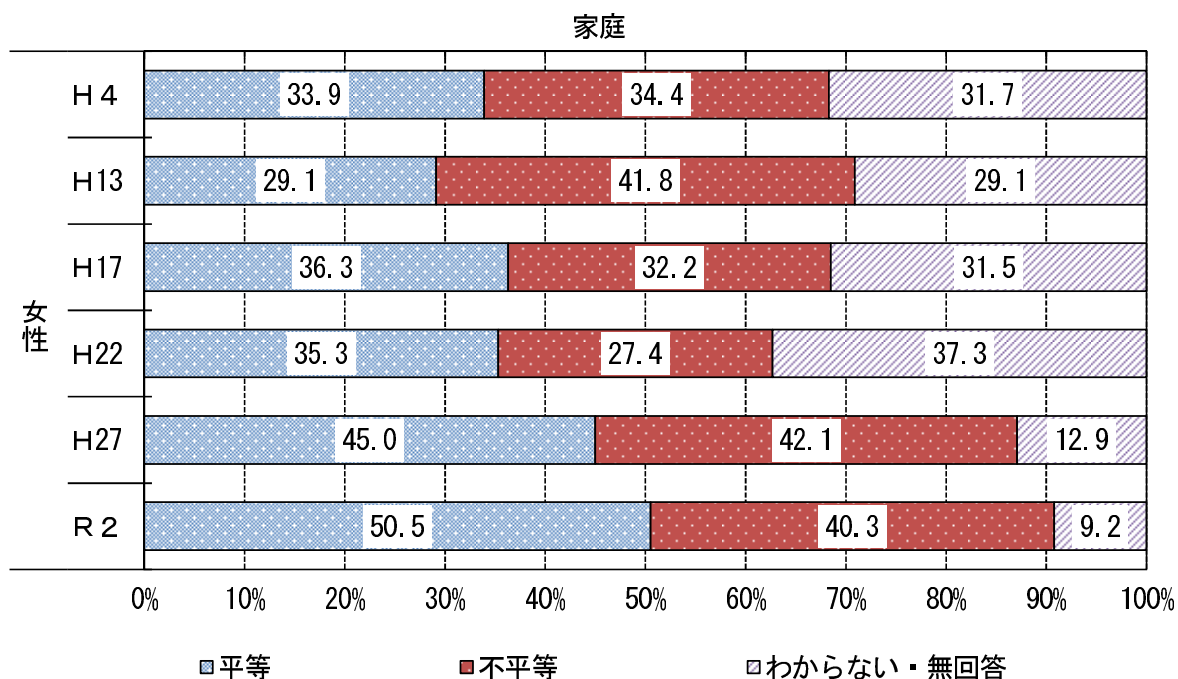
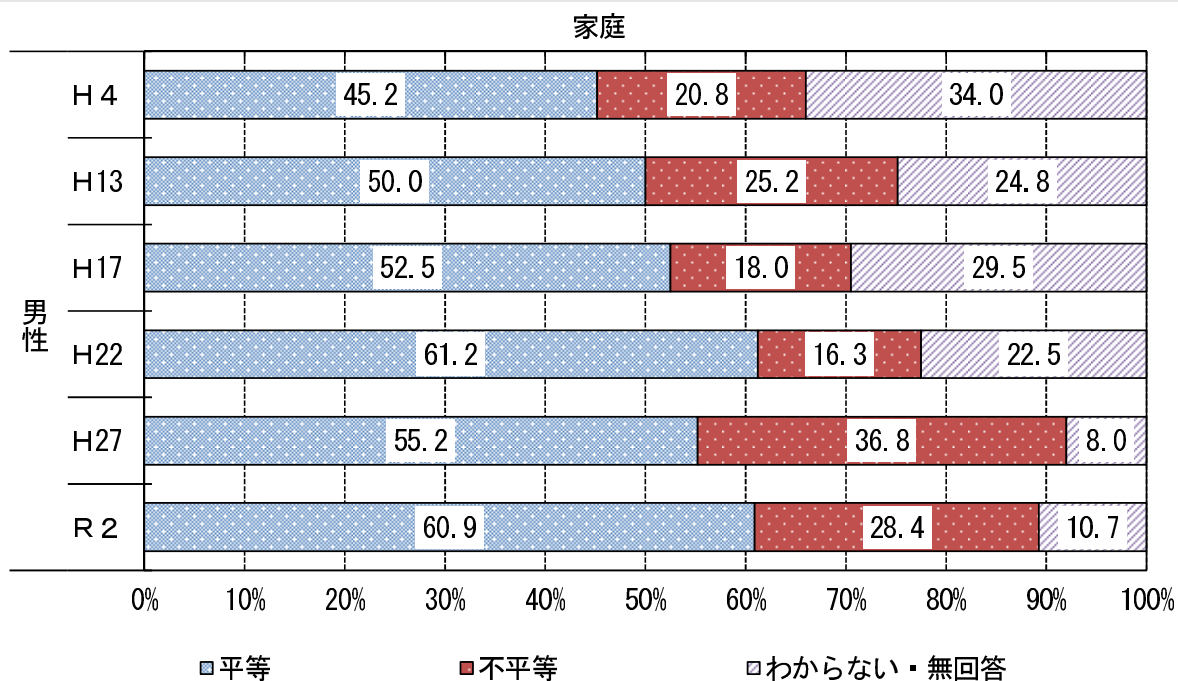
性別と年齢別では、女性はすべての年齢で、「育児や介護に関するサービスの充実」が最も高い。

問28 その他、男女共同参画推進に関してご意見、ご要望がありましたら、お聞かせください。
(自由記述)

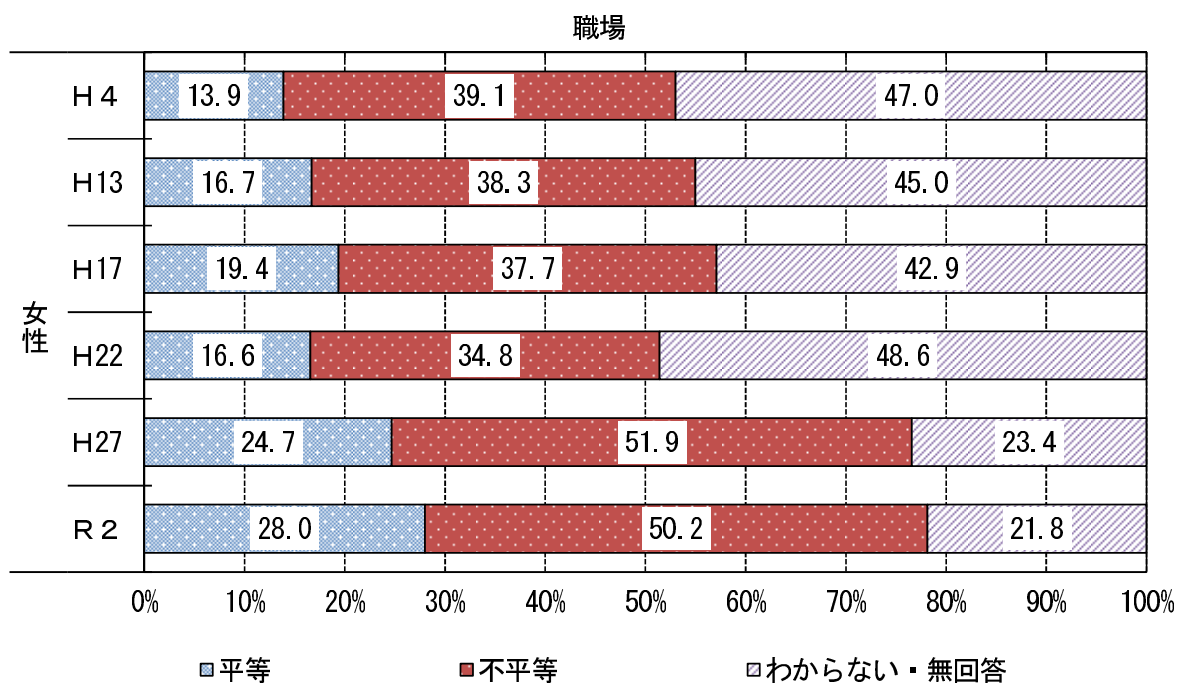
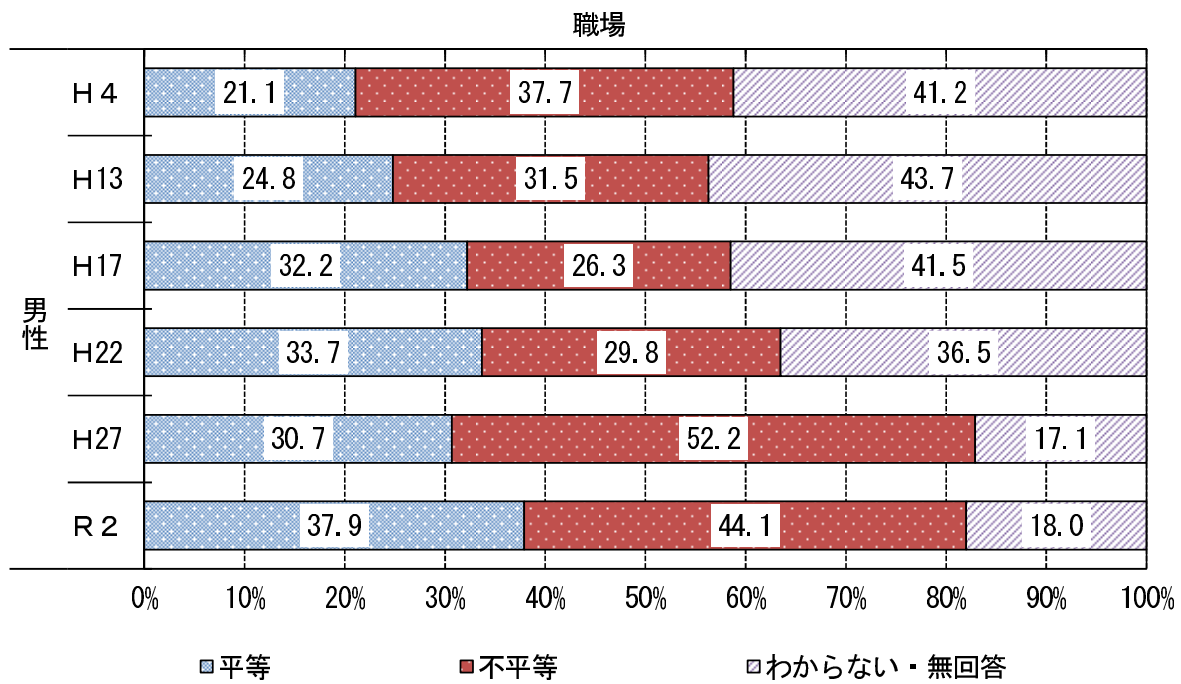
別冊3に記載。

過去との比較

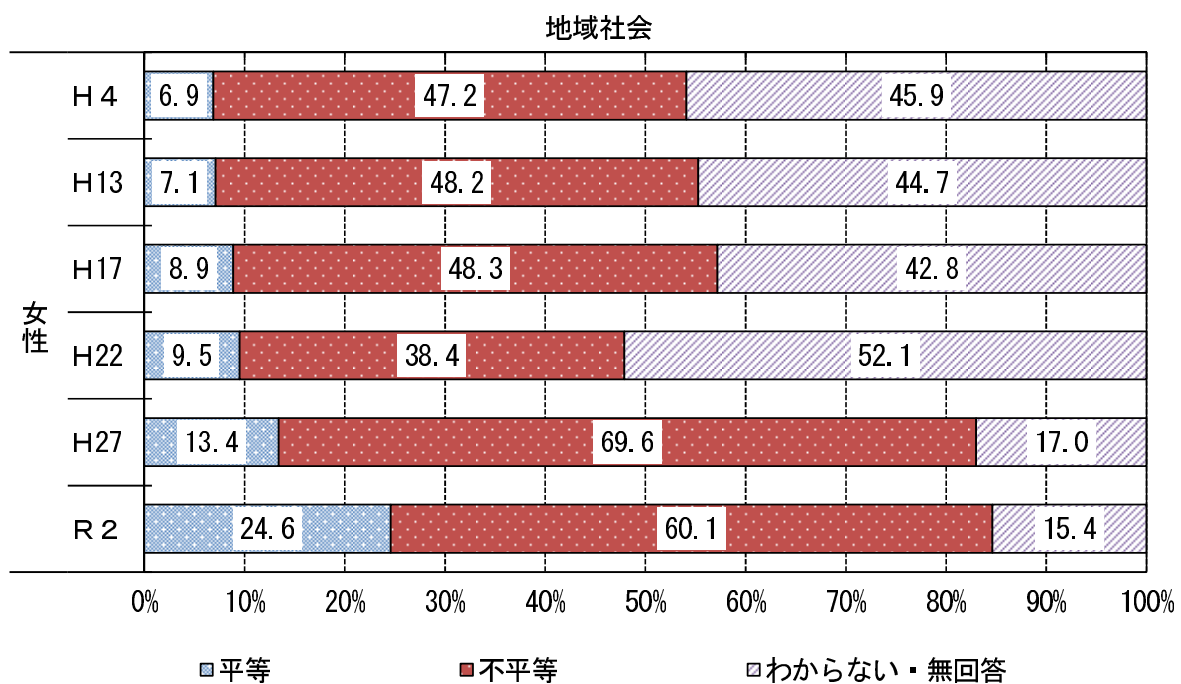
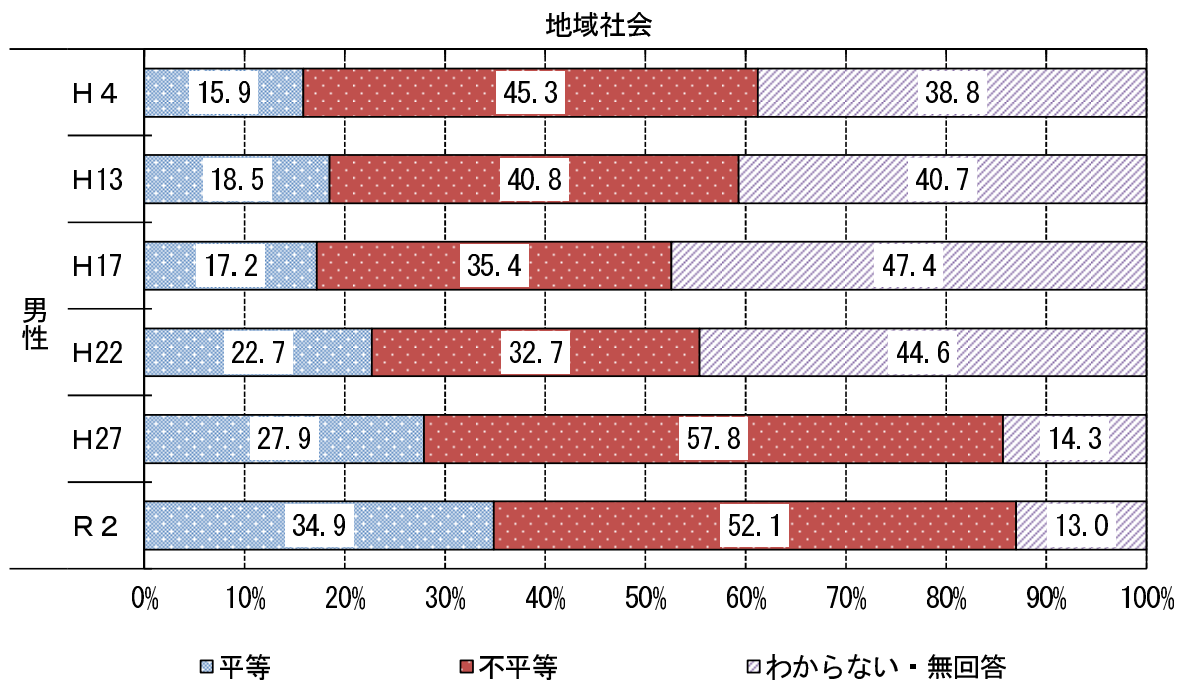
男女の平等感



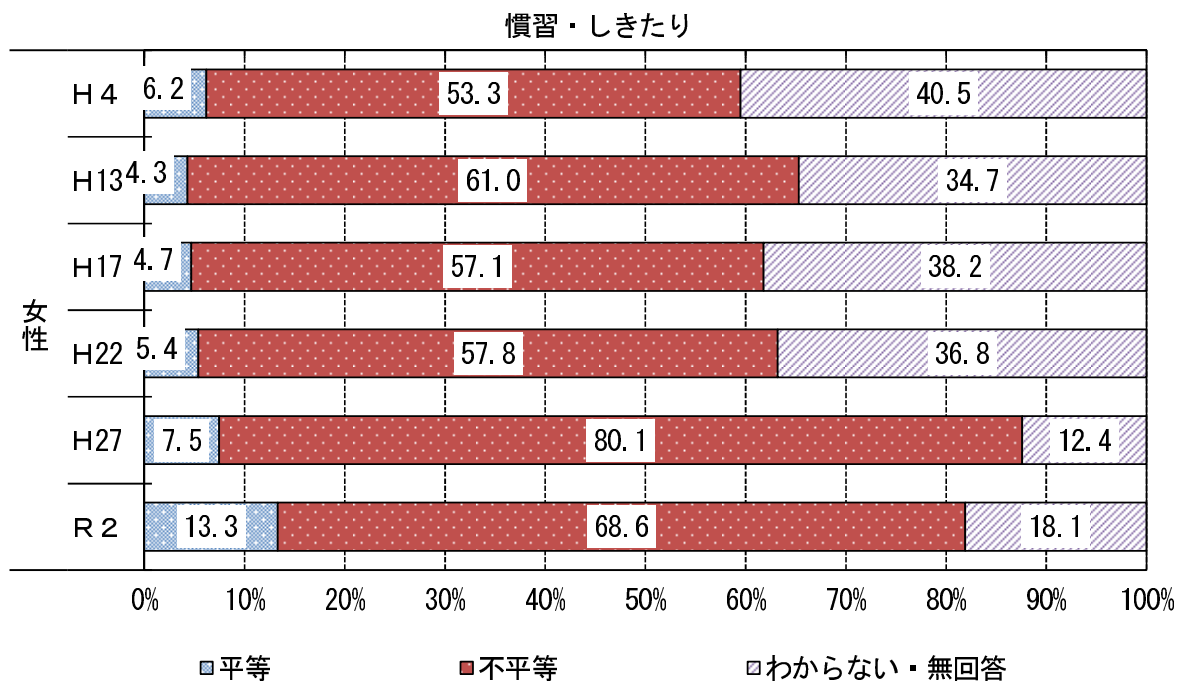
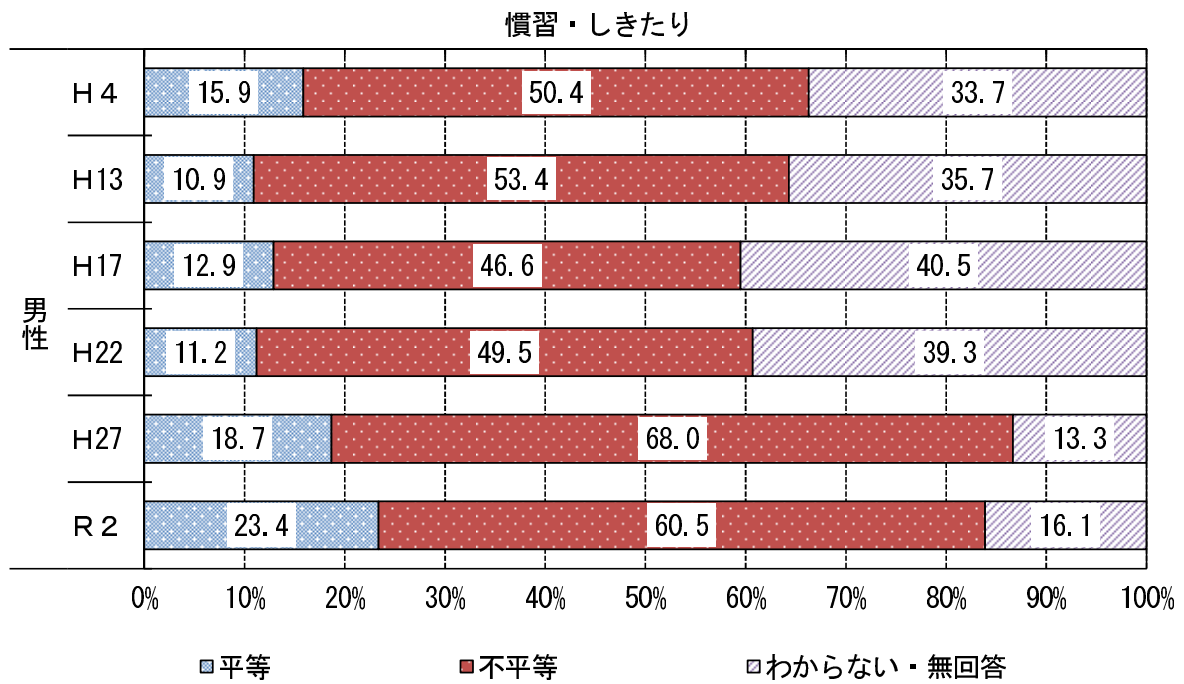
男女ともに、H27と比較して「平等」が増加、「不平等」が減少した。また、女性は、これまでの調査の中で「平等」が最も高くなっている。



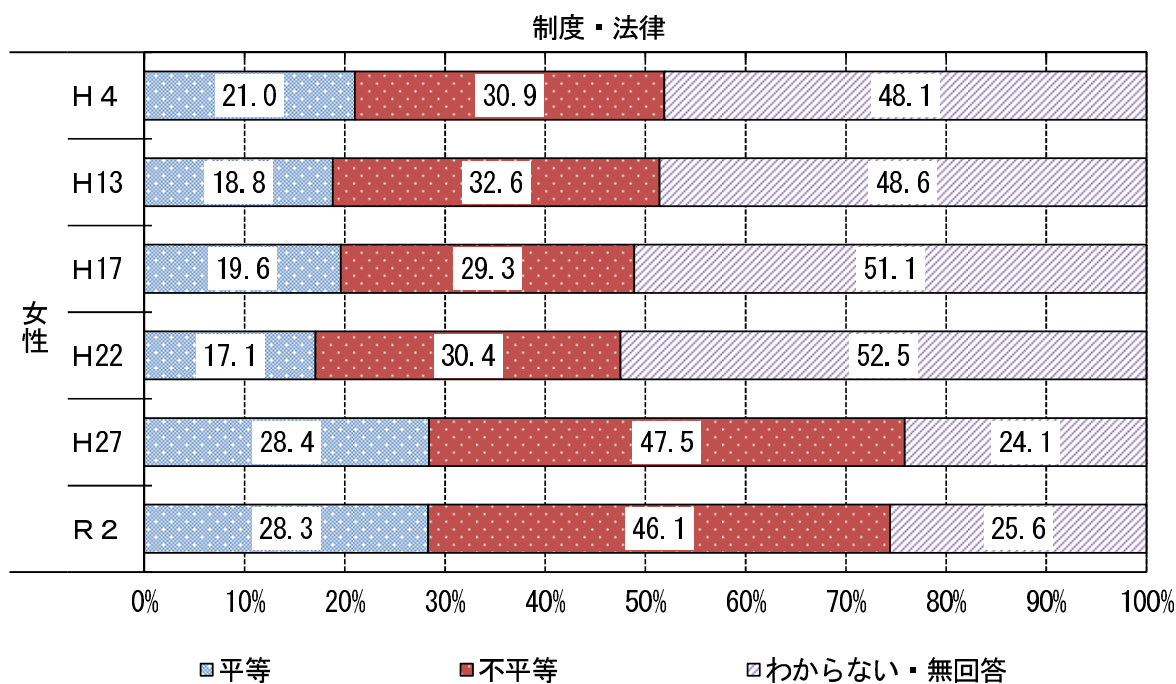
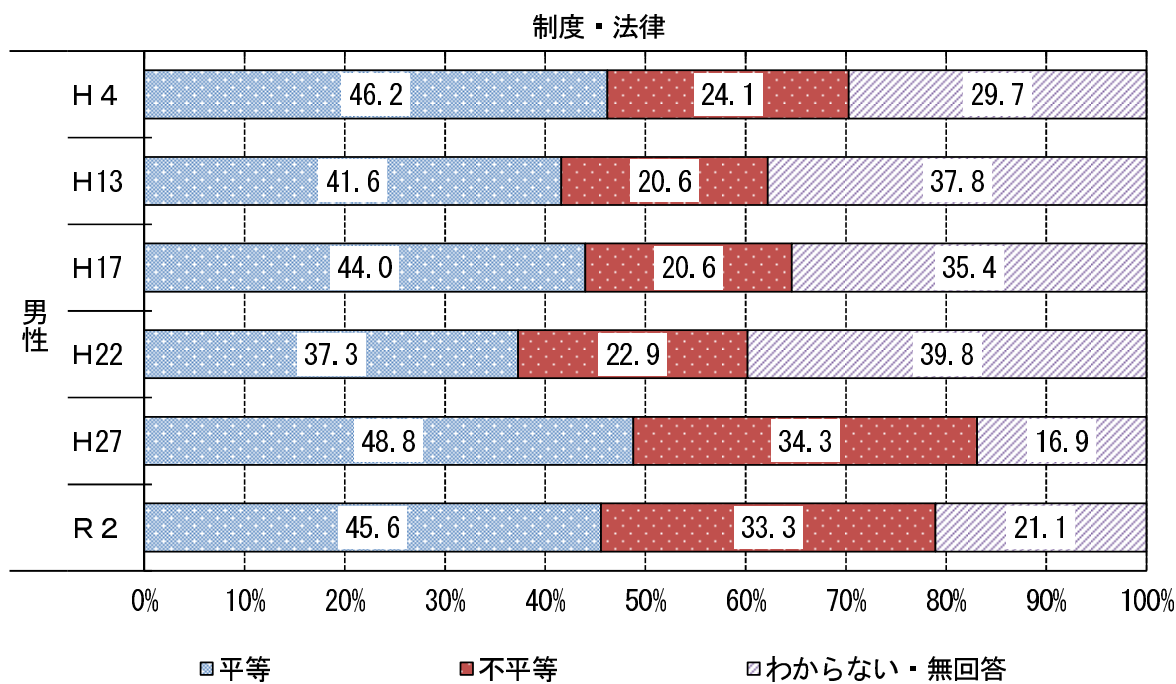
男女ともに、H27と比較して「平等」が増加、「不平等」が減少した。また、男女ともに、これまでの調査の中で「平等」が最も高くなっている。



男女ともに、H27と比較して「平等」が増加、「不平等」が減少した。また、これまでの調査の中で「平等」が最も高くなっている。

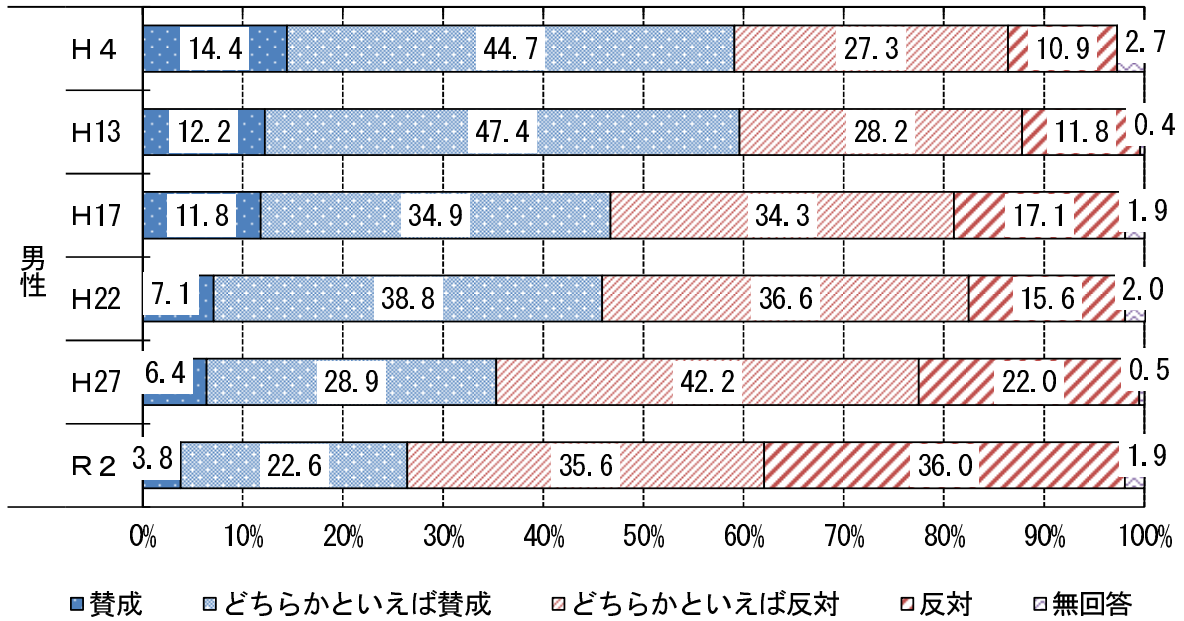


男女ともに、H27と比較して「平等」が増加、「不平等」が減少した。また、これまでの調査の中で「平等」が高くなっている。

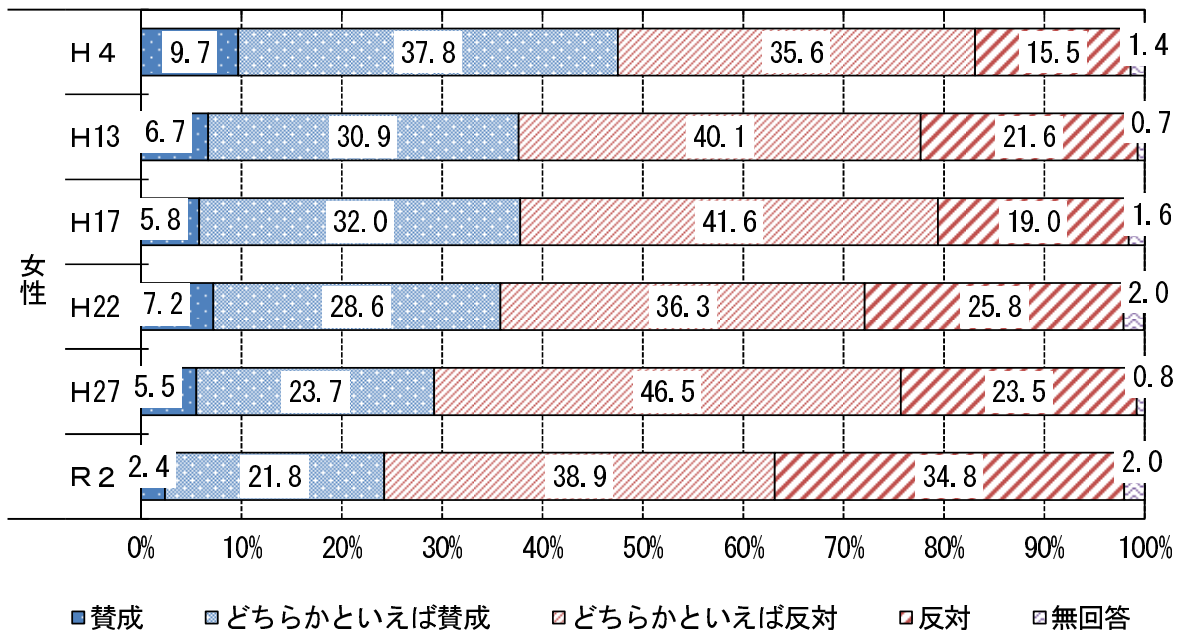


男女ともに、H27と比較して「平等」と「不平等」が減少、「わからない・無回答」が増加した。ただしその差は小さい。

性別によって役割を固定する考え方について

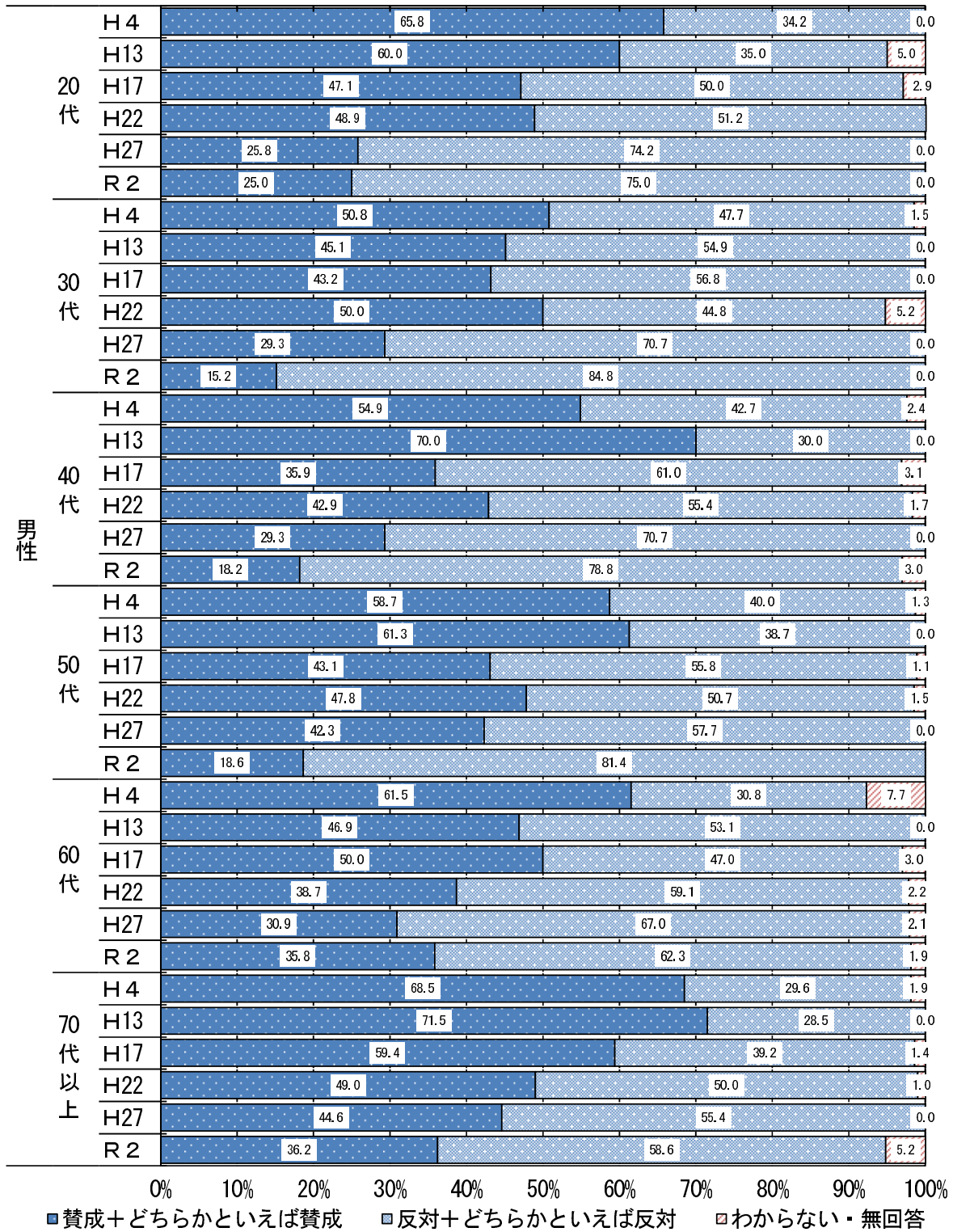


性別によって役割を固定する考え方について



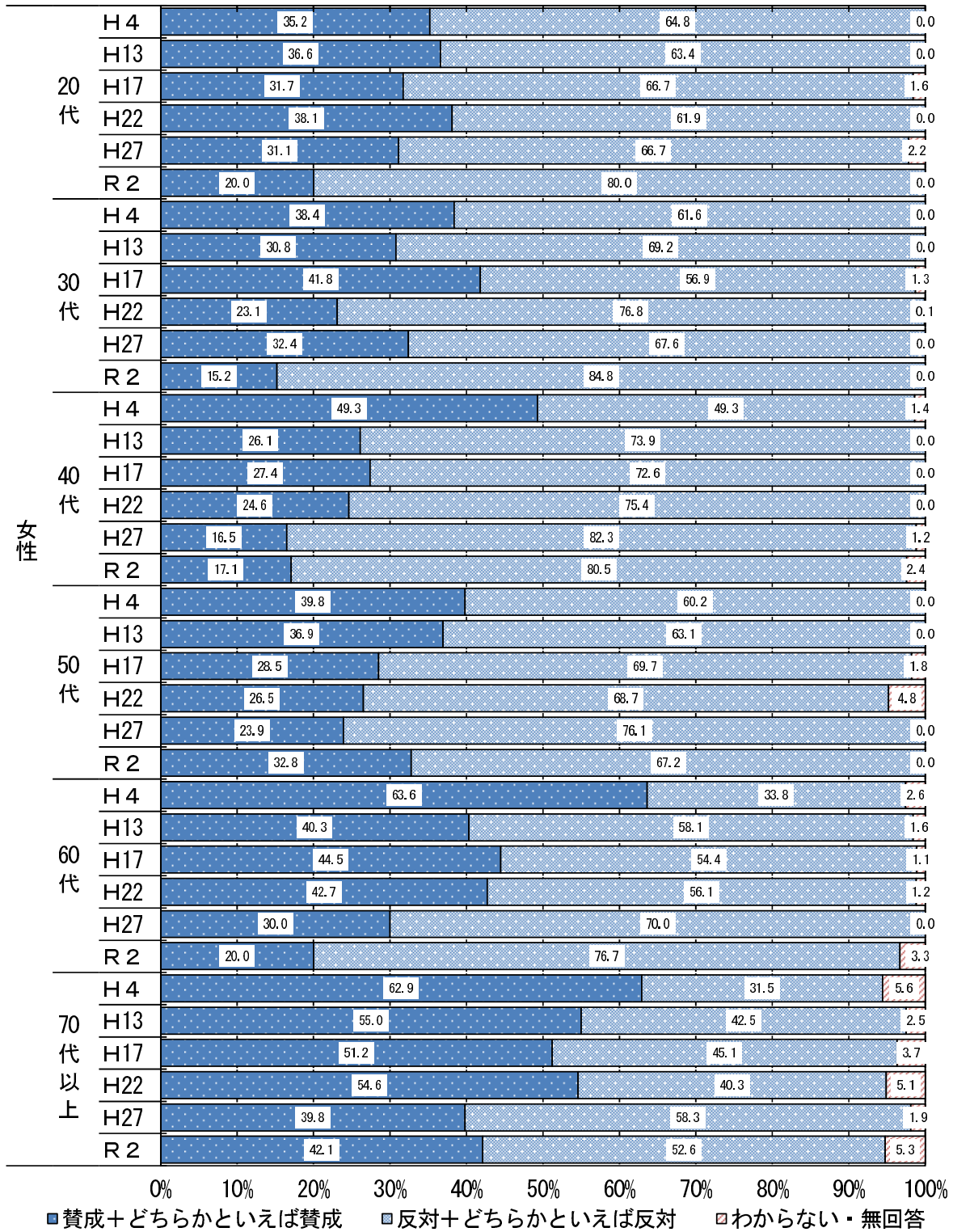
男女ともに「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせると、その割合は減少を続け、今回調査が最も低い。また、今回調査が、最も「反対」が高く、性別による役割の固定は受け入れられなくなってきたと考えられる。

性別によって役割を固定する考え方について



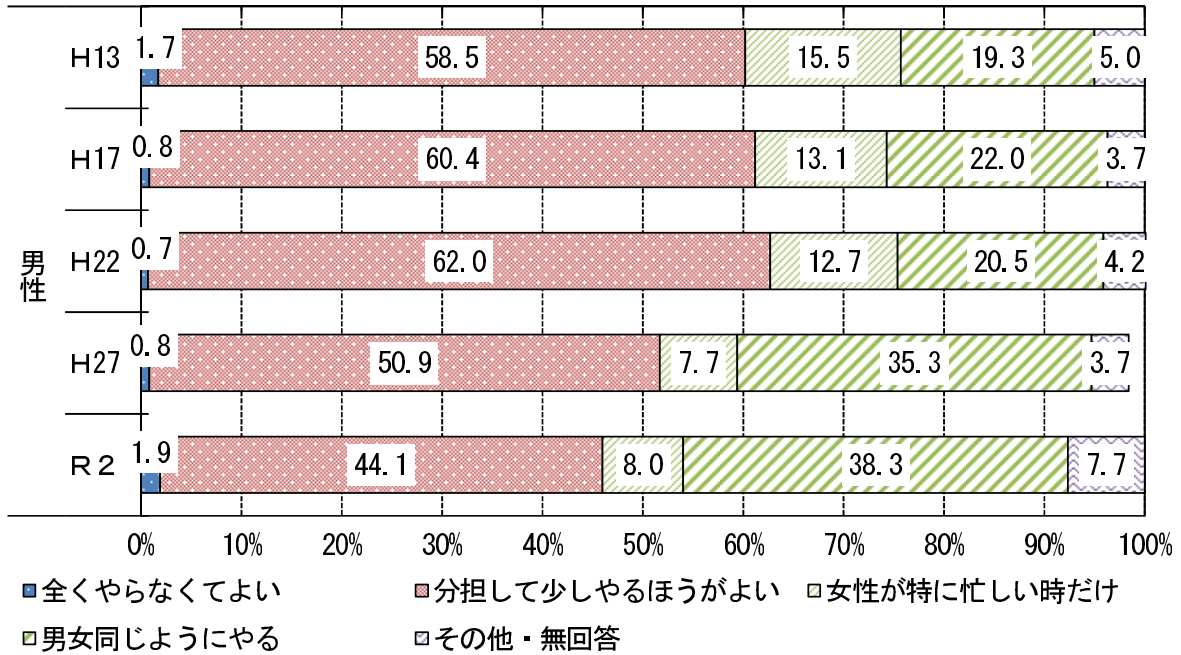
性別、年齢別では、男性は、全体を通じて、調査を重ねるごとに「賛成+どちらかといえば賛成」が低くなる傾向がある。役割の固定意識は小さくなってきている。

性別によって役割を固定する考え方について

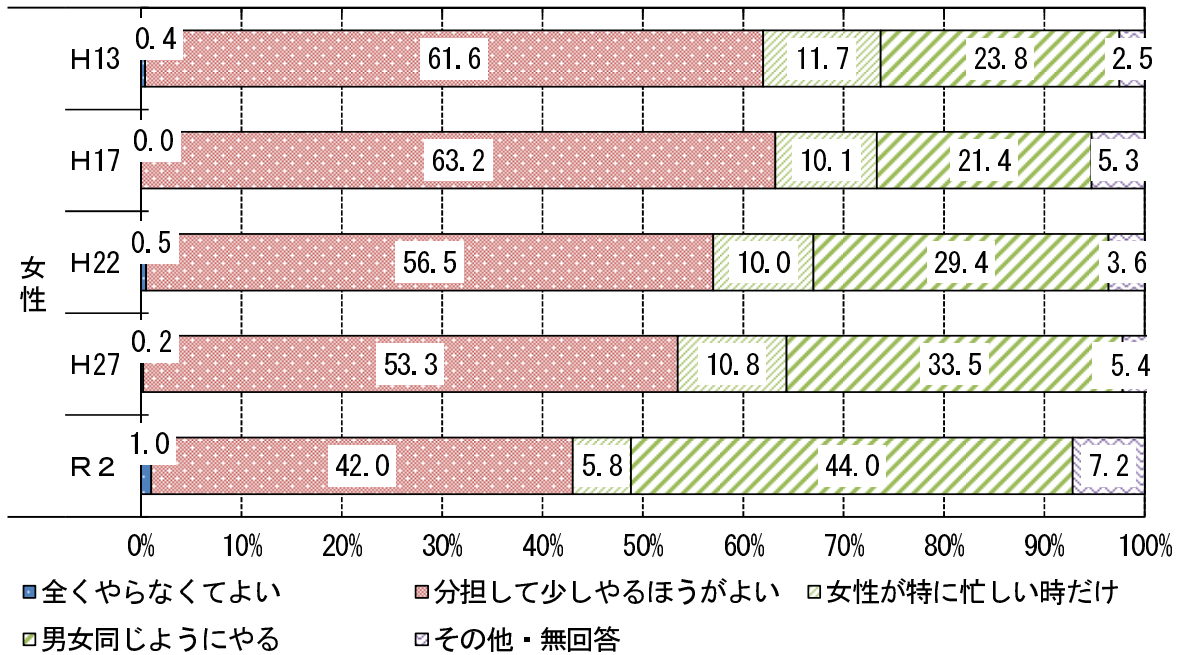


性別、年齢別の女性では、若いほうが「賛成+どちらかといえば賛成」低くなる傾向がある。60代以上は、調査を重ねるごとに「賛成+どちらかといえば賛成」が低くなる傾向がある。若い世代で性別による役割の固定は以前からも少なくなってきたが、高齢者においても少なくなってきた。

家事育児を男性がやることについて

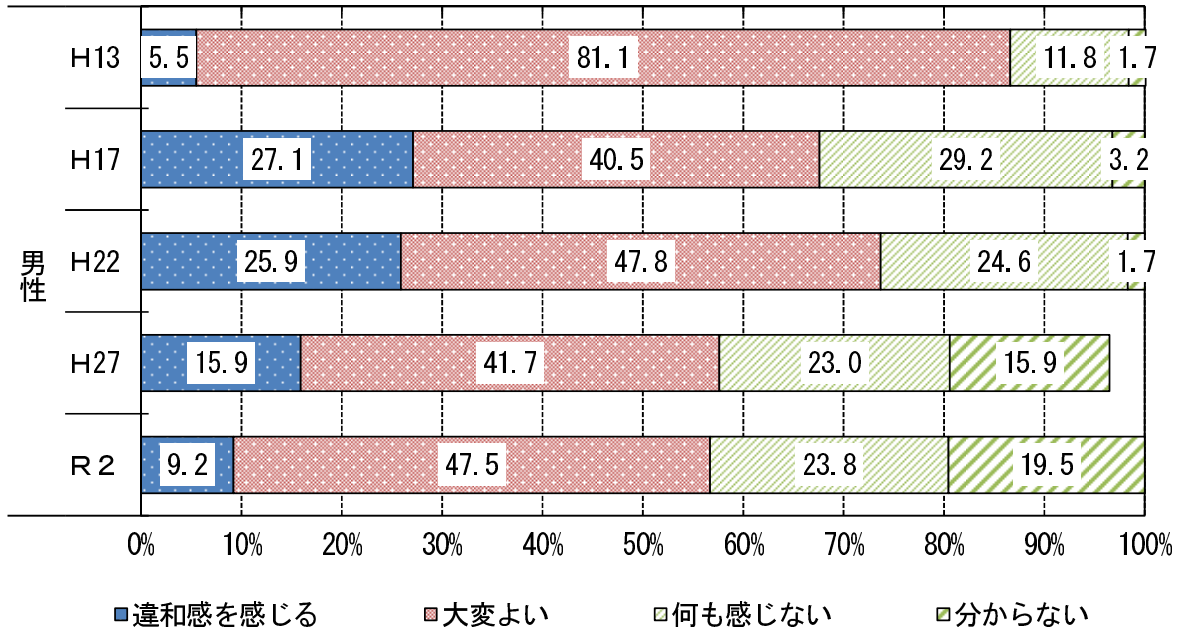


家事育児を男性がやることについて

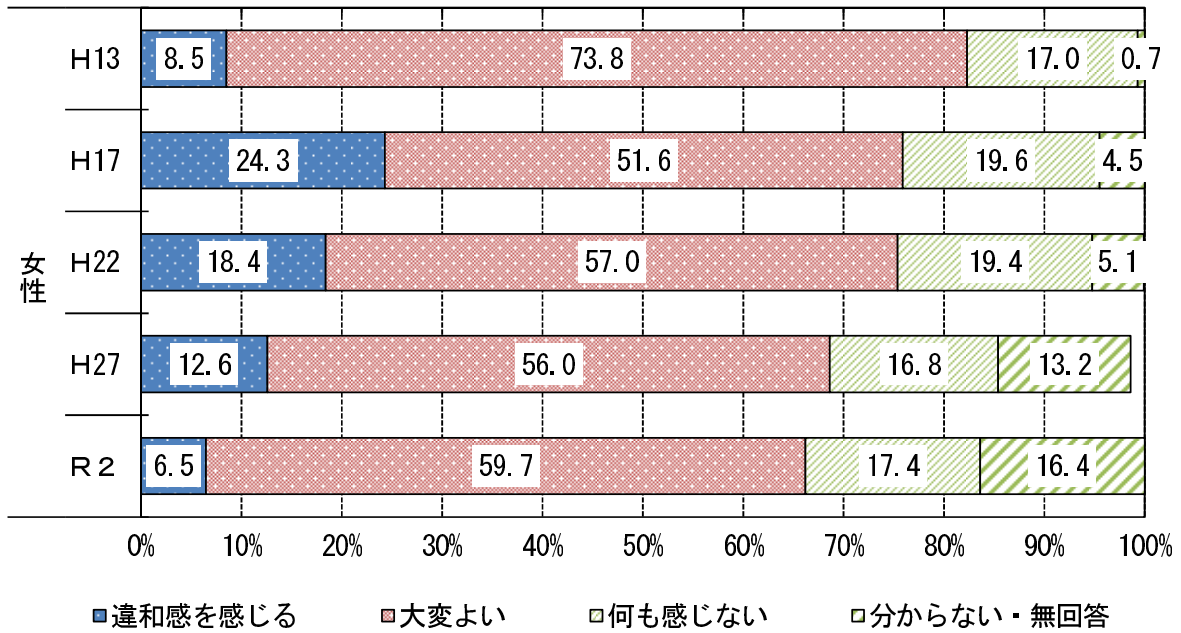


「全くやらなくてよい」はすべての調査を通じて低い。男女ともに、調査を重ねると、「分担して少しやるほうがよい」「女性が特に忙しい時だけ」が低くなる傾向があり、「男女同じようにやる」が高くなる。家事育児は男女がやるという考え方が増加していると考えられる。

育児休業を取って育児をしている男性について



育児休業を取って育児をしている男性について



「違和感を感じる」はH17より調査を重ねると、低くなる傾向があり、育児休業を男性が取りやすくなる傾向が進んでいると考えられる。また、前回調査に比べて「大変よい」が増加した。